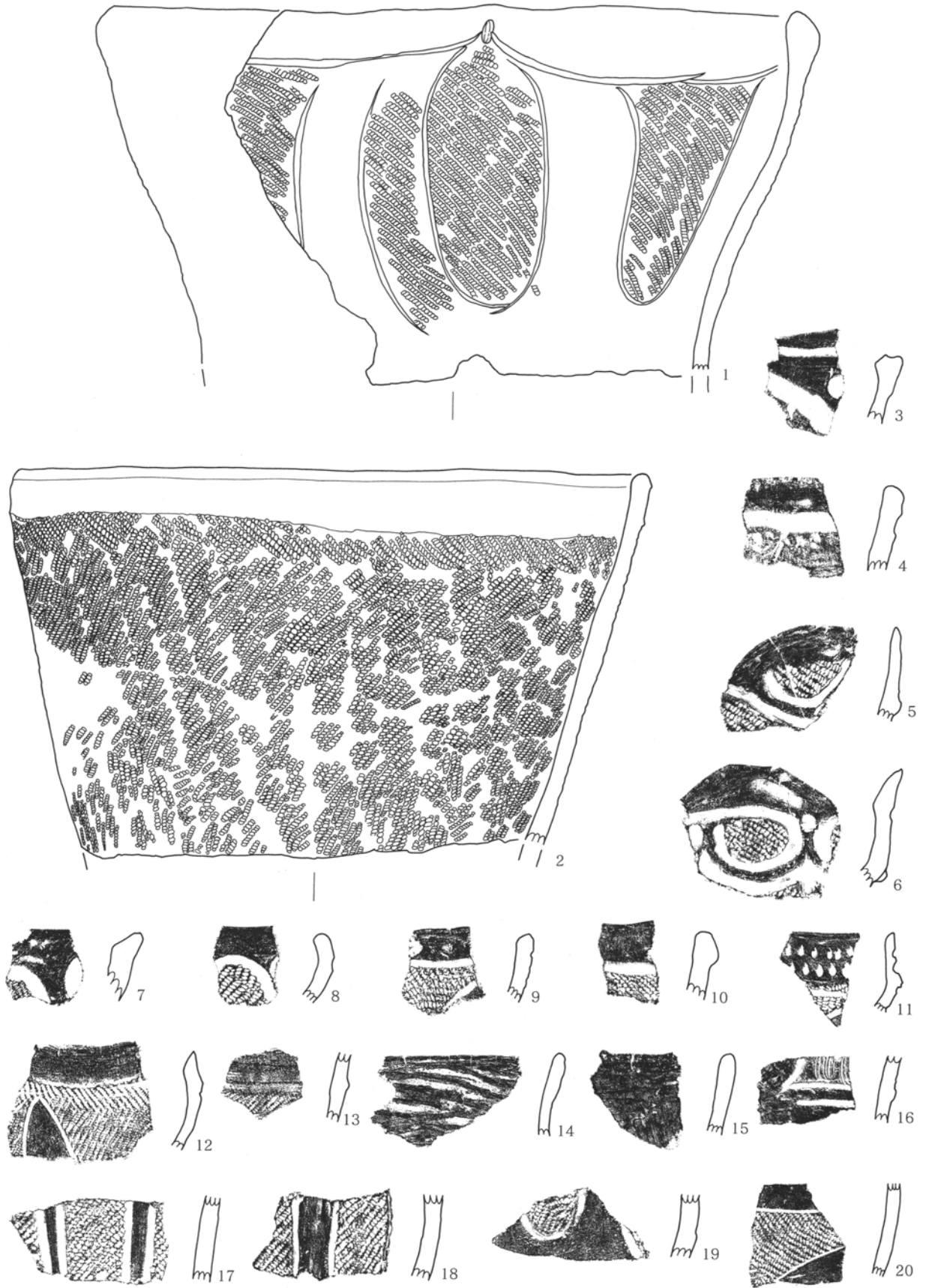


J-52出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部太さ5ミリの沈線による横位楕円区画。	

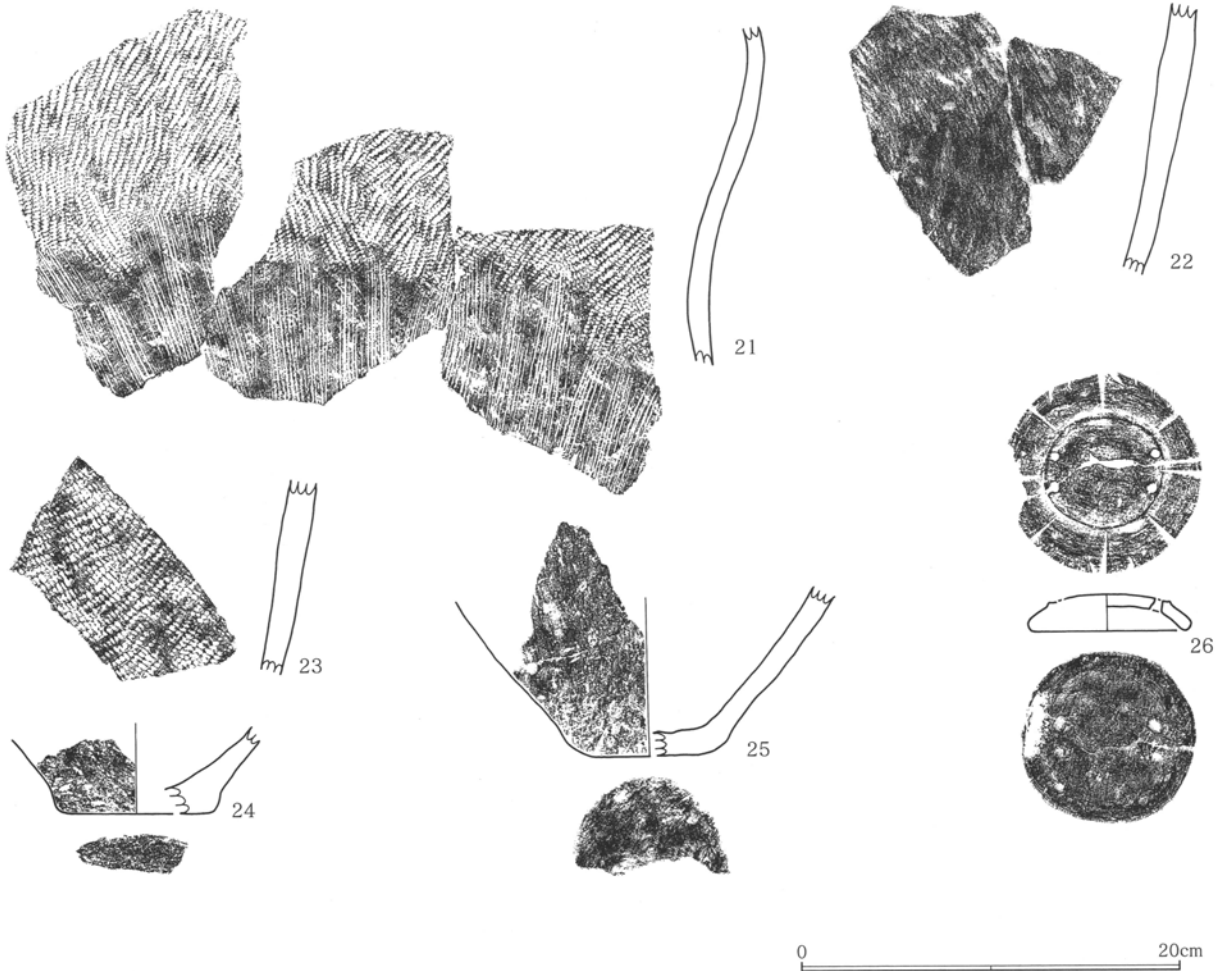
J-53出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1～2ミリの小石、白色粒多い	良	LR	縦	VI群1類	太さ2～3ミリの沈線を弧状に引き口縁部を無文帯と区画する。弧線の連結部には縦長の粘土瘤を貼り付け突起とする。胴部は、曲線による楕円区画。区画間には磨り消し縄文による無文帯。	
2	深鉢	口縁～胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1～3ミリの小石多い	良	RL	縦	VI群3類	口縁部に太さ3ミリの断面三角になる隆線が巡り、無文帯。隆線下には、縄文が方向を変え施文され羽状縄文を構成する。胴部には、縦位方向に帯状縄文が施文。	
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	良			加曾利E	波状口縁。口唇部浅い沈線を巡らす。頂部外傾し円形の刺突を加える。太さ12ミリの沈線による区画を施す。	
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。頸部に太さ10ミリの沈線を横位に巡らす。	
5	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	口縁部波状になる。太さ6ミリの2条の沈線とその間の隆線による弧条の区画。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群1類	波状口縁。太さ7ミリの2条の沈線とその間の太さ8ミリの隆線による横位渦巻文様。隆線上面にφ10ミリの刺突が施文される。	
7	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅲ群	波状口縁。太さ8ミリの沈線と隆線により弧状区画を作る。	
8	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL		VI群	口縁部やや内傾し、太さ6ミリの沈線により「∩」状の区画をする。	
9	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR		加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。頸部に太さ5ミリの沈線により横位区画。胴部は、同じ沈線により弧状区画。縄文0段多条。	
10	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	口縁部無文帯。頸部太さ7ミリの沈線により横位区画。	
11	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	斜横	V群2類	波状口縁。ベン先状工具により2列の刺突列を施文。頸部太さ6ミリの隆線を横位に巡らす。胴部太さ4ミリの沈線により磨り消し縄文帯を区画する。	
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	VI群	波状口縁。頸部は隆起線を巡らした後、縄文施文。	
13	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	VI群	口縁部無文帯。頸部に太さ5ミリの隆線により横位区画。	
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。	
15	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。	
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		Ⅷ群4類	口縁部太さ4ミリの沈線とその間に沿う隆線による楕円区画。ヘラ状工具による幅広の刻み列。	



第144図 J-53出土土器(1)

0 20cm



第145図 J-53出土土器(2)

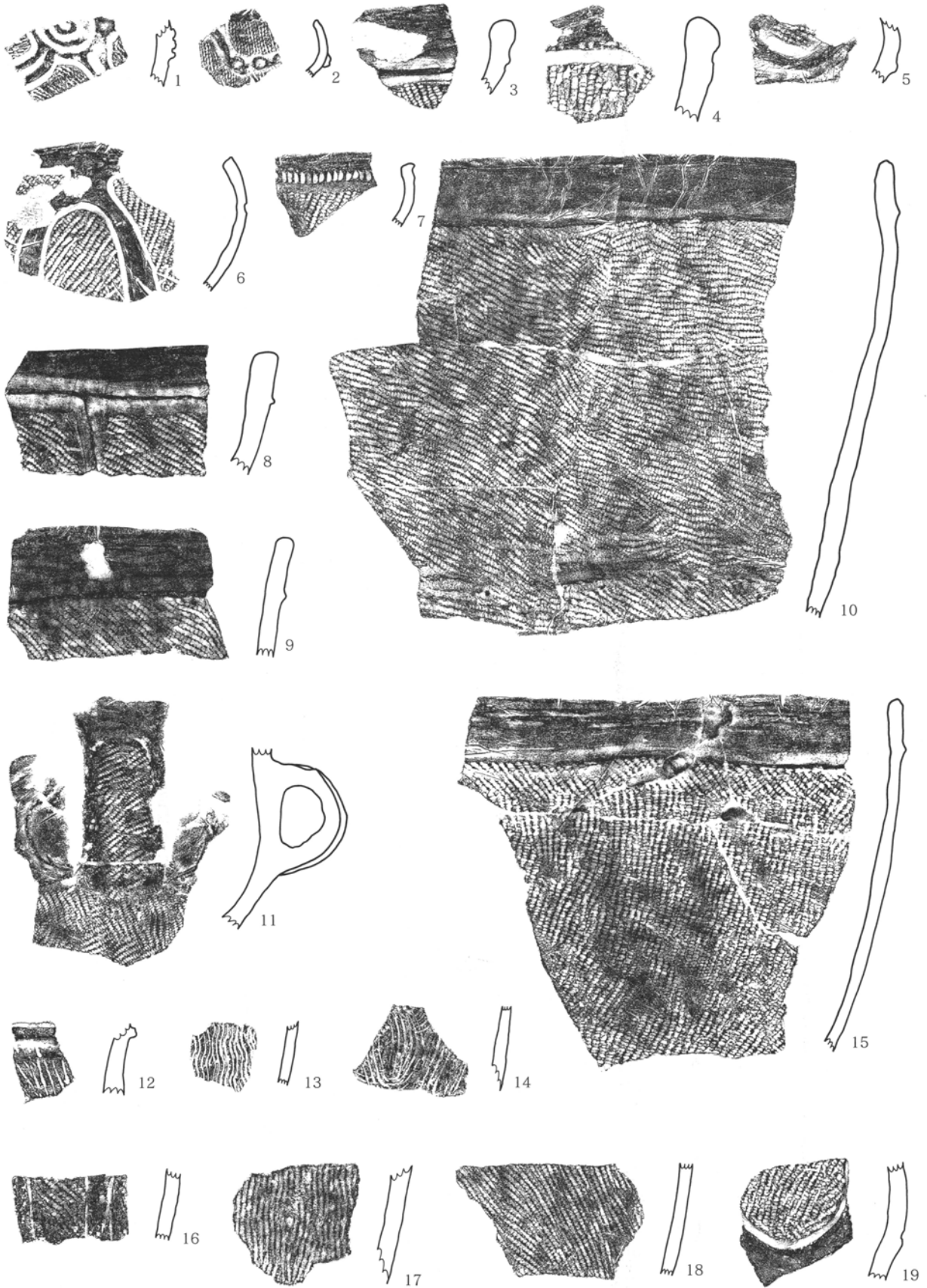
J-53出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。	
18	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの2条1組の沈線による縦位区画。	
19	深鉢	胴部	黒	10YR2/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	VI群	胴部太さ5ミリの沈線による波状区画を作る。	
20	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/4	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	VI群	胴部太さ2ミリの沈線により「U」「∩」状の文様区画。	
21	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	斜横	加曾利E	胴上半部は、縄文施文。胴下半部は、櫛状工具による条線施文。	
22	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	胴上半部は縄文施文。胴下半部は、縦位の整形。	
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	胴部に縄文施文。	
24	深鉢	底部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	-	-	加曾利E	底面整形。	
25	深鉢	胴部～底部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～2ミリの砂粒	不良	-	-	加曾利E	胴下部は、縦位の整形。	
26	蓋		黒褐	10YR3/1	細かい砂粒	普通	-	-	加曾利E	無文。横位の整形。内側に隆起線を作り段をなす。縁には、孔を2個対に持つ。	

第4章 出土遺物

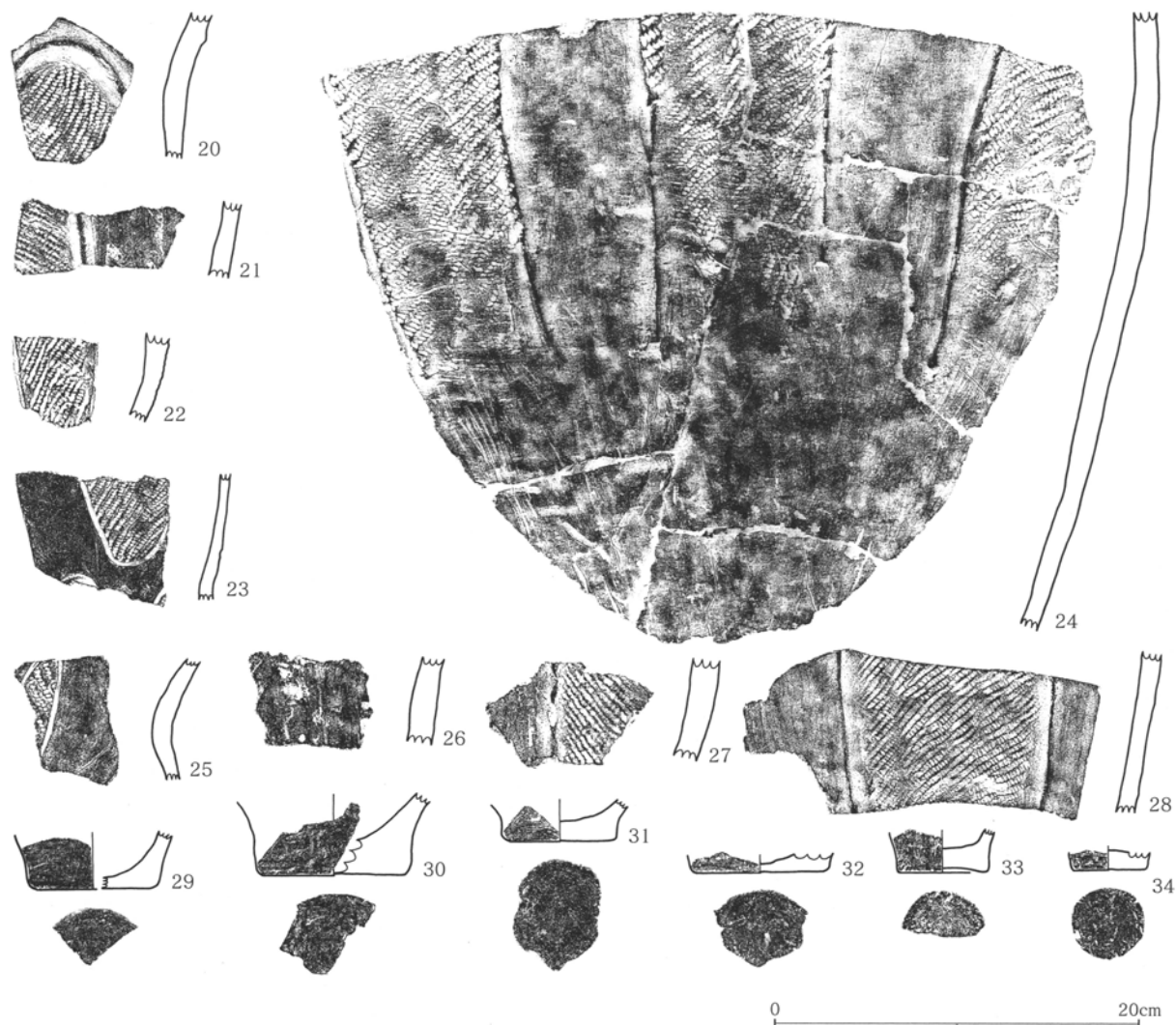
J-54出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	R	縦	I群	口縁部隆帯を貼り付け、上面に太 さ3ミリの沈線を引き、横位の連 続する渦巻文様を構成する。縄文 は、燃糸施文。	
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	I群	口縁部に燃糸文施文後太さ5ミリ の隆線を貼り付ける。その上面に 指頭圧痕を等間隔に施文。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦	加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。頸部 太さ4ミリの沈線による横位区画。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小 石、軽石粒	不良	RL	縦 斜	加曾利E	波状口縁。無文帯横位の整形。頸 部太さ7ミリの沈線による区画。	
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通			加曾利E	口縁部太さ8ミリの隆線による横 位楕円区画。	
6	深鉢	口縁~ 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦 横	VI群	口縁部無文帯。頸部から胴部に太 さ4ミリの沈線による弧状・楕円 区画。区画内は、磨り消し縄文。	
7	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽 石粒	良	RL	縦	V群	口縁部太さ7ミリの爪形の刻み列。 胴部は、弧状の文様区画。	
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	横	VI群3類	口縁部無文帯。太さ3ミリの隆起 線が巡り口縁部文様帯を区画。胴 部には縦位の区画線。	
9	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、角 閃石	普通	RL	横	VI群3類	口縁部平縁。太さ3ミリの微隆起 線が巡り口縁部無文帯を区画。	
10	深鉢	口縁~ 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	横 斜	VI群3類	口縁部平縁。微隆起線が巡り口縁 部無文帯を区画。	
11	両耳壺	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦 横	VII群2類	口縁部無文帯を持つ。頸部は、隆 起線による横位楕円区画。幅50 ミリの橋状把手。	橋状把手
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	R	縦	加曾利E	太さ9ミリの隆線による横位区画。 縄文は、燃糸文。	
13	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	不良	—		VIII群2類	櫛状工具による縦位の波状沈線。	
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、角 閃石	普通	—		加曾利E	太さ1ミリの集合沈線文。	
15	深鉢	口縁~ 胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦 斜	VI群3類	口縁部平縁。微隆起線が巡り口縁 部無文帯を区画。	
16	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位 区画。	
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、角 閃石	不良		斜	加曾利E	縄文施文が薄く原体不明。	
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒、角閃石	普通	RL	横	加曾利E	胴部に縄文施文。	
19	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦 横	VI群	胴部太さ3ミリの沈線による楕円 区画。区画の外は、磨り消し縄文。	
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	VI群	胴部太さ4ミリの隆線による楕円 区画。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	良	RL	横	VI群3類	胴部太さ4ミリの隆起線による縦 位区画。	
22	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	VI群3類	胴部沈線による縦位区画。縄文0 段多条。	
23	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	良	RL	縦	VI群1類	胴部太さ2ミリの沈線により波状、 「∩」状の文様区画。無文部磨り 消し縄文。	
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの小石	普通	LR	横	VI群3類	胴部太さ3ミリの隆起線による縦 位の区画。下部は、縦位の整形。	
25	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群1類	胴部太さ2ミリの沈線による「∩」 状文様。	
26	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、角 閃石	普通	—		VI群3類	胴下部横位の整形。	
27	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	VI群3類	胴部太さ4ミリの隆線による縦位 区画。無文部は、磨り消し縄文。	



第146圖 J-54出土土器(1)

0 20cm



第147図 J-54出土土器(2)

J-54出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
28	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群3類	胴部太さ2ミリの隆線による縦位区画。区画内は、磨り消し細文。	
29	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形痕が残る。	
30	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形痕が残る。	
31	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形痕が残る。	
32	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形痕が残る。	
33	深鉢	底部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形痕が残る。やや高台状の上げ底になる。	
34	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形痕が残る。胴部の立ち上がりの輪積みから剥離している。	

J-55出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	口縁部隆線により渦巻文様。	

J-56出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	LR	縦	Ⅳ群1類	口縁部波状を呈し、太さ5ミリの浅い沈線による渦巻文様を区画する。頸部太さ5ミリの隆線により弧線状の区画。その下部に縦位の整形。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅳ群	口縁部太さ7ミリの隆線とそれに沿う太さ10ミリの沈線により横位の渦巻状区画を作る。隆線状に円形の刺突。	
3	深鉢	口縁～胴部	黒褐	10YR3/1	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	口縁部内傾し、無文帯横位の整形。頸部太さ3ミリの隆線により横位区画。胴部は、同じ隆線を頸部より連続して垂下させ方形状の区画を構成する。	
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅶ群4類	口縁部緩やかな波状。沈線2条を横位に巡らす。胴部は、条線施文。	
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曽利E	口縁部山形を呈する。口唇部楕円状のモチーフを持つ突起。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅲ群1類	口縁部緩い波状を呈し、頂部から傾斜部にかけて楕円形の凹みを作る。頸部は、太さ11ミリの沈線による横位渦巻状区画。	
7	器台	脚	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曽利E	30×15ミリの楕円形の透かしが付けられる。	

J-57出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曽利E	胴部太さ5ミリの沈線2条を組にして縦位区画を作る。	

J-59出土土器観察表

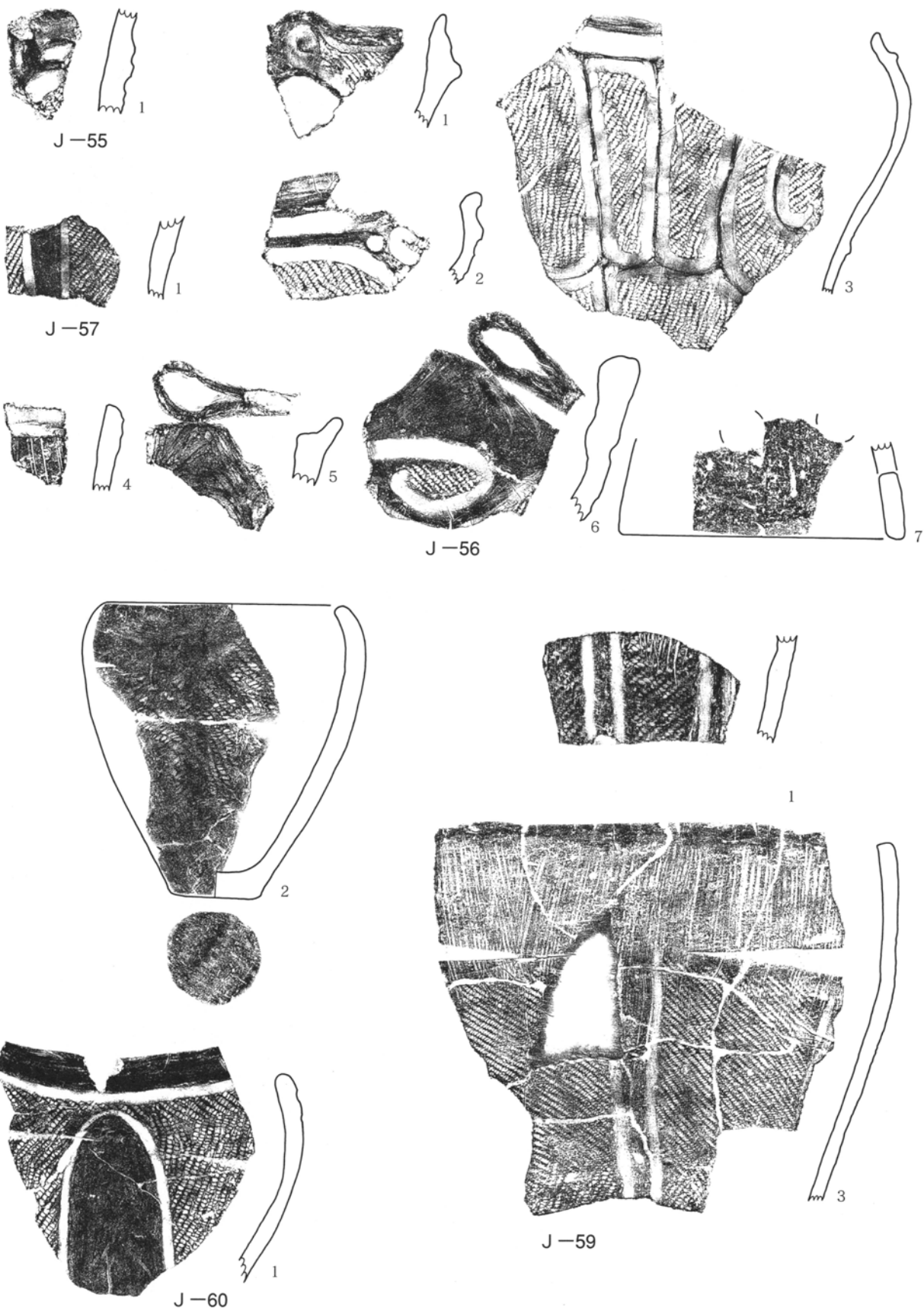
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曽利E	太さ6～8ミリの沈線を2条対にして縦位の区画を作る。上部に条線施文。	
2	深鉢	口縁～底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦	加曽利E	口縁部に無文帯を持つ。底部付近は、磨り消し縄文。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。上部は、細い沈線による条線。上端は、疑似口縁になり、磨かれている。	

J-60出土土器観察表

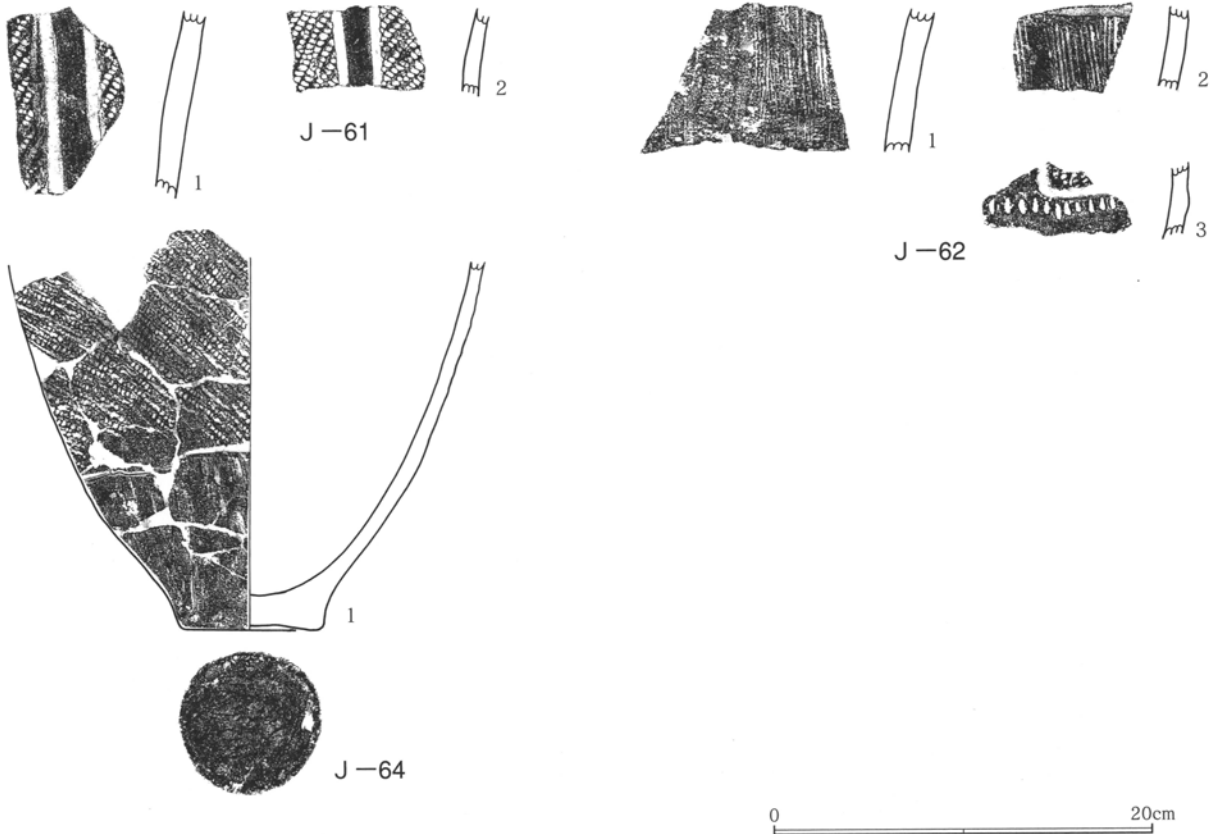
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁部には、太さ6～7ミリの沈線が巡り口縁部無文帯を区画する。胴部文様は「∩」状の磨り消し縄文による無文部を持つ。	

J-61出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。	
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。	



第148図 J-55~57・59・60出土土器



第149図 J-61・62・64出土土器

J-62出土土器観察表

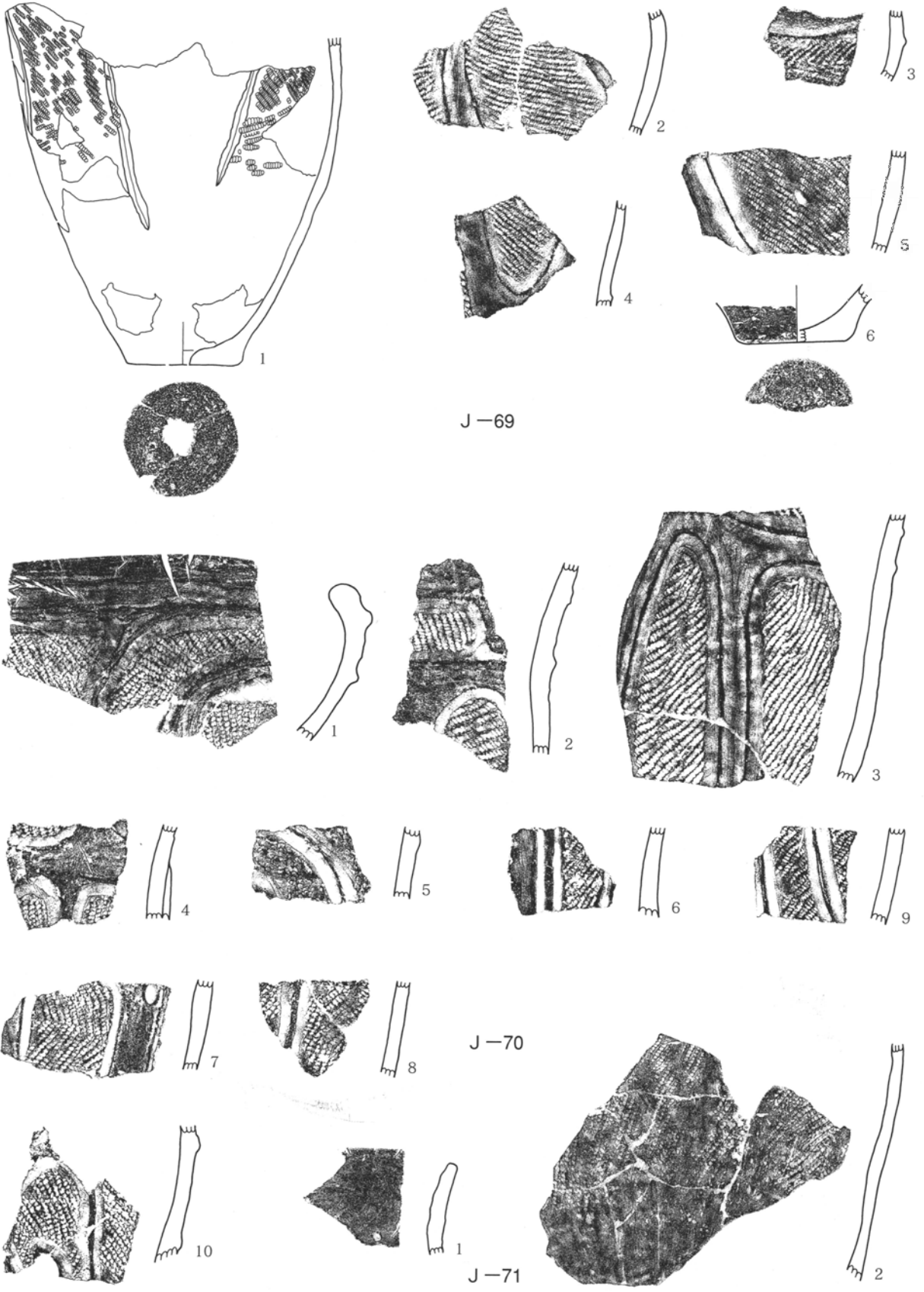
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	白色粒	不良	—		加曾利E	櫛状工具による条線。	
2	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	太さ5~6ミリの沈線で口縁部を区画。太さ1ミリの沈線による条線。	
3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	低い隆線上に幅6ミリの竹管による爪形文を施文。	

J-64出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部~底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	底部近くは、無文になり、縦位の整形で縄文を磨り消している。	

J-69出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの隆線による縦位の区画。	底部穿孔
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	LR	縦	VI群	断面三角の隆線による楕円区画。	
3	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒多い	良	LR	縦	VI群	口縁部に隆起線が巡り無文部を作る。	
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	LR	縦	VI群	断面三角の隆線による楕円区画。刻みのある隆線が縦位に貼付。	
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦	VI群	断面三角の隆線による文様区画。	
6	深鉢	底部	黒褐	10YR3/2	φ1~3ミリの白色粒	良	—		加曾利E	外面縦位の整形。	

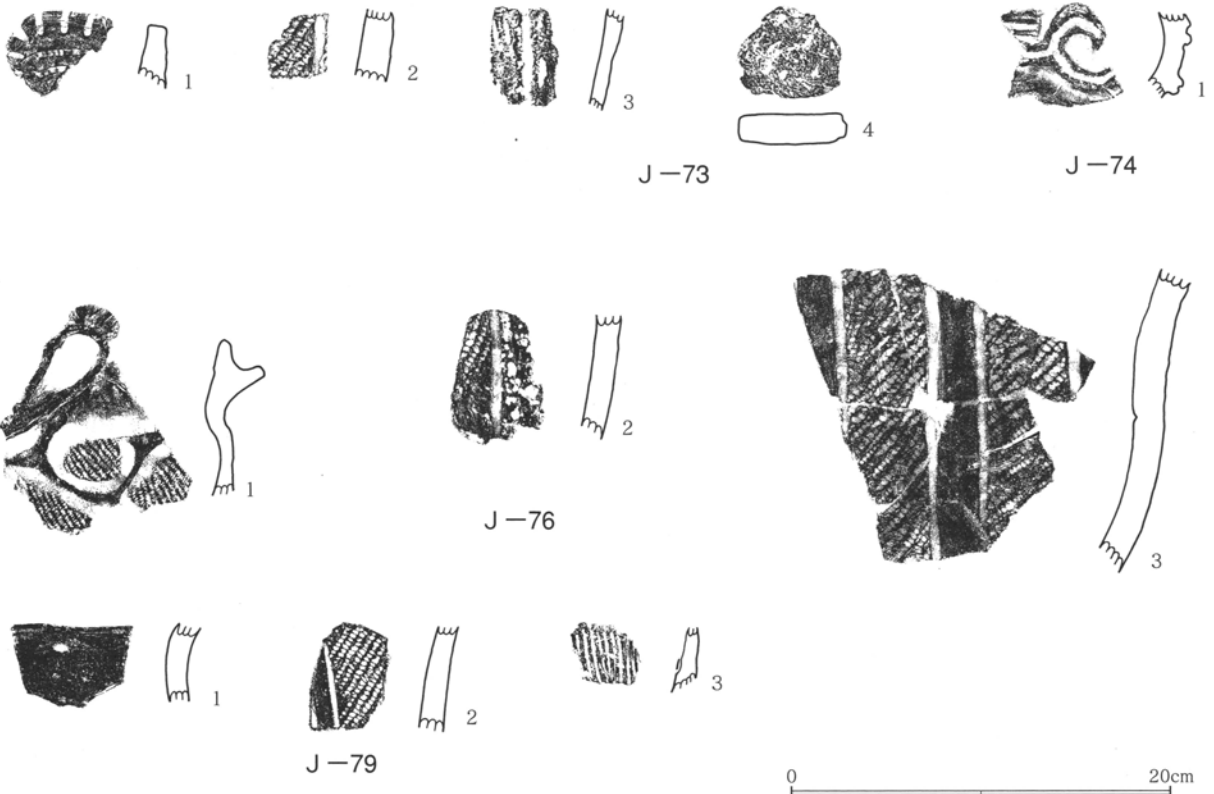


第150图 J-69~71出土土器

0 20cm

J-70出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	太い断面三角の隆線により楕円の文様が描かれる。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~5ミリの小石、黄色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	低い隆線による横位の楕円区画。太さ7ミリの沈線による縦位の楕円区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの断面三角の隆線で楕円区画を作る。	
4	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL		Ⅵ群	隆線による楕円区画。	
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	良	RL		Ⅵ群	断面三角の隆線で弧を描く。	
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線による縦位区画で縄文帯と磨り消し縄文による無文帯を作る。	
7	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線により縦位区画。無文帯、磨り消し縄文帯を作る。磨り消し縄文部には、涙滴形の刺突を加える。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	断面三角の隆線による縦位の区画。	
9	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ4~6ミリの断面三角の隆線で縦位の区画。	
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	良	RL	横	Ⅵ群	隆線による渦巻文様。	



第151図 J-73・74・76・79出土土器

第4章 出土遺物

J-71出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	良	—		加曾利E	横位の整形。	
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	上半に縄文施文。底部近くは、縦位の整形。	

J-73出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒	良	—		阿玉台	口縁部「Π」状突起で上面に刻みを施す。外面半截竹管による押し引き文。	
2	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	不良	—		勝坂	胴部太さ5ミリの隆起線を縦位に施文する。幅12ミリの爪形文を2列施文。	
4	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、石英	普通					

J-74出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	良			勝坂	口縁部横位の連続する渦巻を隆線で施文。隆線には太さ2ミリの沈線が施文される。	

J-76出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	I群	口縁部波状を呈し、頂部円柱状の突起になる。沈線による渦巻・楕円区画。	舌状突起
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部下半に太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	

J-79出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	浅鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、白色粒	不良	—		加曾利E	横位のナデ整形。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
3	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL		加曾利E	間隔を開けた撚糸文で条線状に施文。	

J-81出土土器観察表

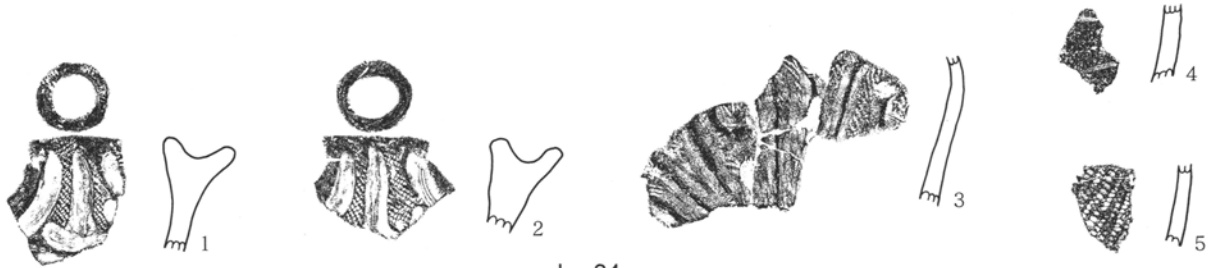
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通			VI群	太さ5ミリの楕円区画。	
2	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による弧状区画。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、雲母	不良	—		阿玉台	隆線による突起と刺突。	
4	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良			加曾利E		
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	白色粒多い	良	LR		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	



J-81



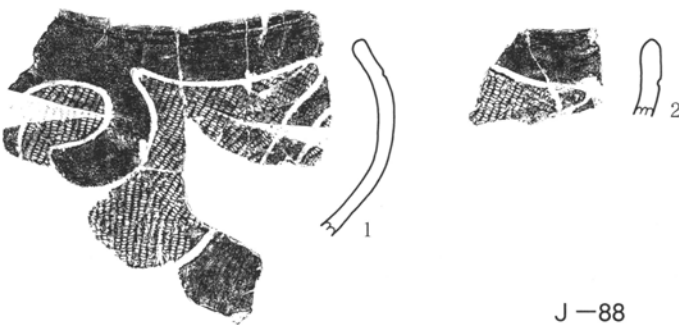
J-82



J-84



J-85



J-88

0 20cm

第152図 J-81・82・84・85・88出土土器

J-82出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	有孔罎付土器	口縁	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	横位のナテ整形。	
2	深鉢	胴部	褐	10YR4/4	細かい砂粒	良	LR RL	横	諸磯b	羽状縄文。	
3	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石、雲母	良			阿玉台	無文。	

第4章 出土遺物

J-84出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群	波状口縁突起。突起は、カップ状になる。太い沈線による文様施文。	突起 2と同一個体
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群	波状口縁突起。突起は、カップ状になる。太い沈線による文様施文。	突起 1と同一個体
3	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒	不良	LR	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの隆線による縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	不良	—		加曾利E		
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E		

J-85出土土器観察表

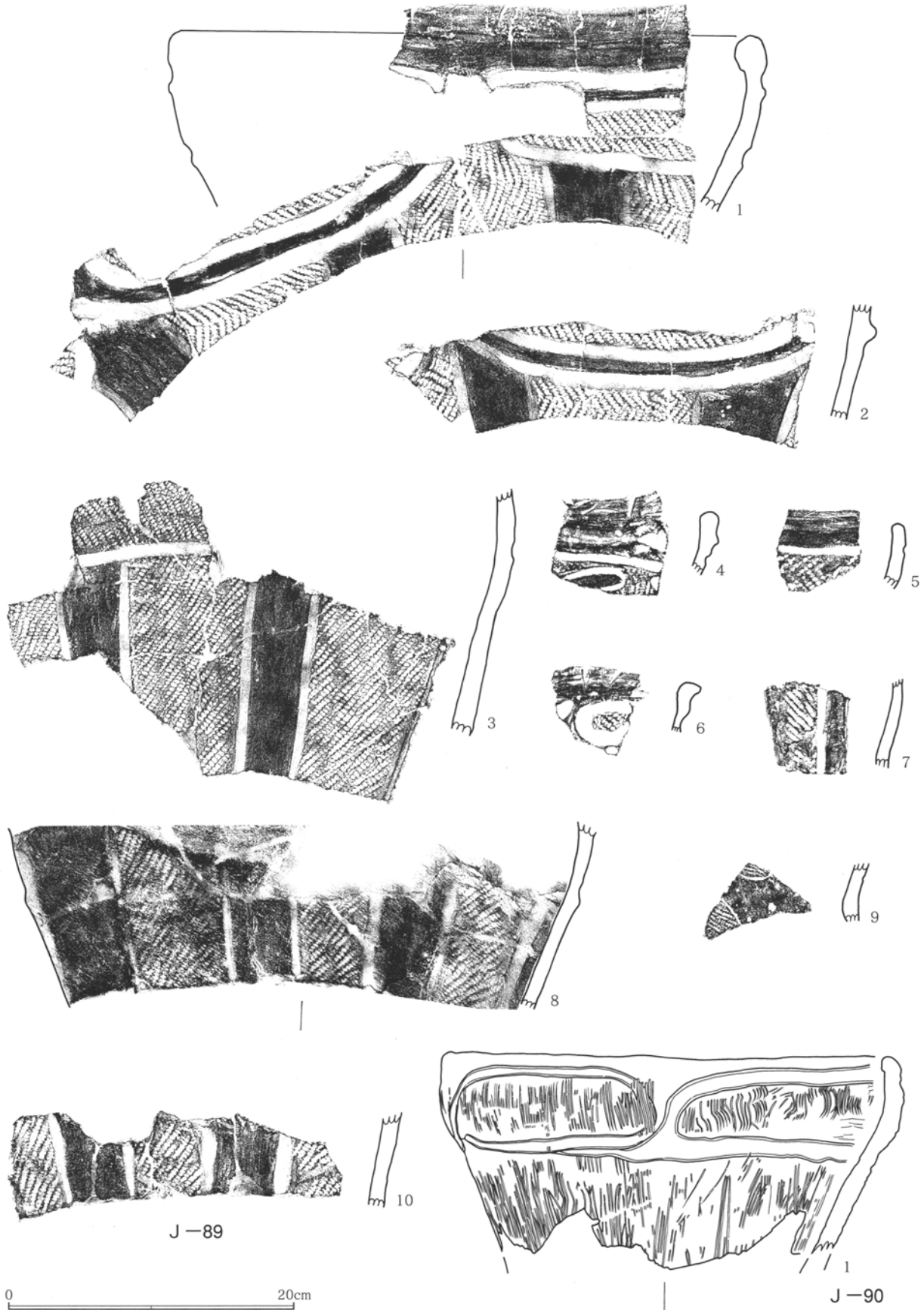
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	黒	7.5YR2/1	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	隆・沈線による楕円区画。	
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの隆帯による文様区画。	
3	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい白色粒	良	LR		勝坂	擦糸。	
4	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/4	細かい砂粒	良	—		諸磯c	幅2~3ミリの平行沈線を集合させて縦位の区画と矢羽状施文。	
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	不良	—		加曾利E	条線が浅く施文される。	

J-88出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~胴部	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字の文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	2と同一個体
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字の文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	1と同一個体

J-89出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~胴部	暗赤褐	2.5YR3/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦横	Ⅲ群2類	太さ10ミリの沈線で楕円文様を口縁部に描く。胴部は、太さ6~8ミリの沈線により縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	2と同一個体
2	深鉢	口縁~胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦横	Ⅲ群2類	太さ10ミリの沈線で楕円文様を口縁部に描く。胴部は、太さ6~8ミリの沈線により縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	1と同一個体
3	深鉢	口縁~胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ10ミリの沈線で口縁部文様帯を区画する。胴部は、太さ6ミリの沈線が縦位に施文される。磨り消し縄文による無文帯。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、白色粒多い	不良	RL		Ⅵ群	太さ5ミリの沈線が口縁に巡る。小波状口縁頂部に突起。口縁部は、楕円の区画文。	舌状突起
5	深鉢	口縁	黒褐	10YR2/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡る。	
6	深鉢	口縁	黒褐	10YR2/2	白色粒	良	RL	横	Ⅲ群	太さ9ミリの沈線による渦巻文様。	
7	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/6	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
8	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい黄色粒	不良	RL	縦	加曾利E	口縁部は太い隆・沈線で楕円区画の文様を描く。胴部は、太さ6~7ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
9	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	LR		Ⅵ群	太さ1ミリの沈線による楕円文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
10	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6~12ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	



第153圖 J-89·90出土土器

第4章 出土遺物

J-90出土土器観察表

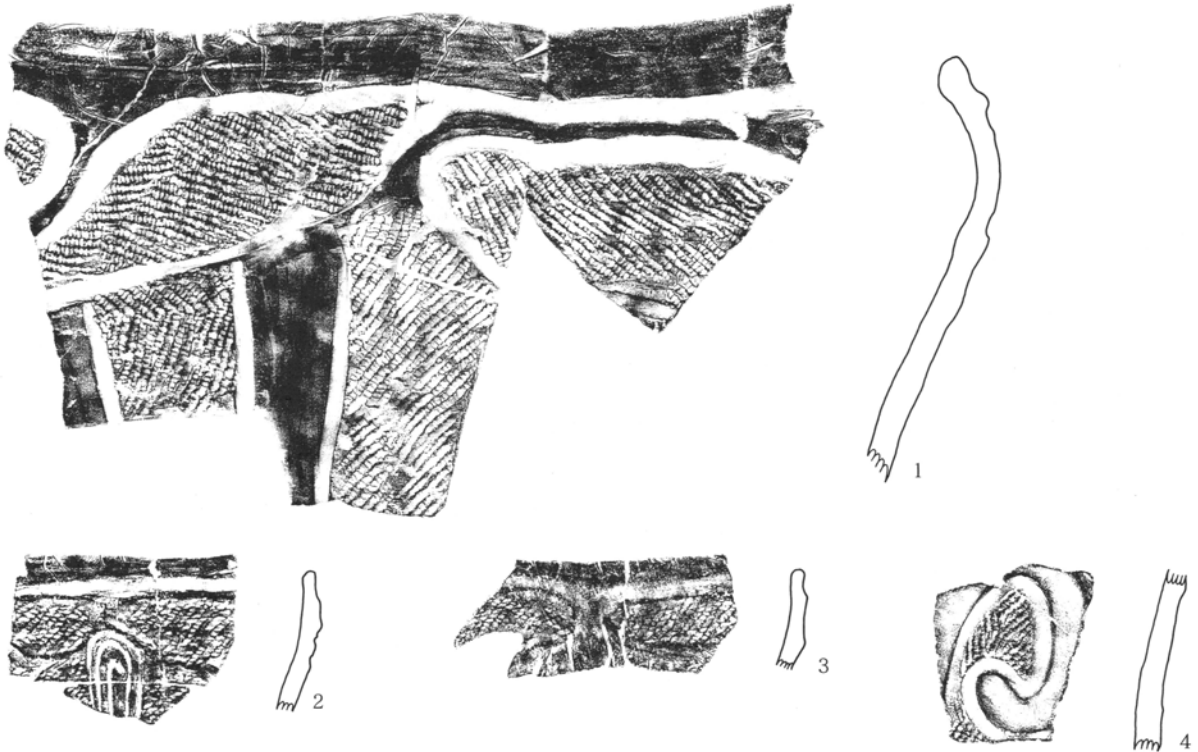
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	灰白	5YR8/2	φ1～3ミリの砂粒、雲母	不良	—		Ⅷ群1類	口縁部浅い沈線による楕円区画。地文は、櫛状工具による条線。	

J-94出土土器観察表

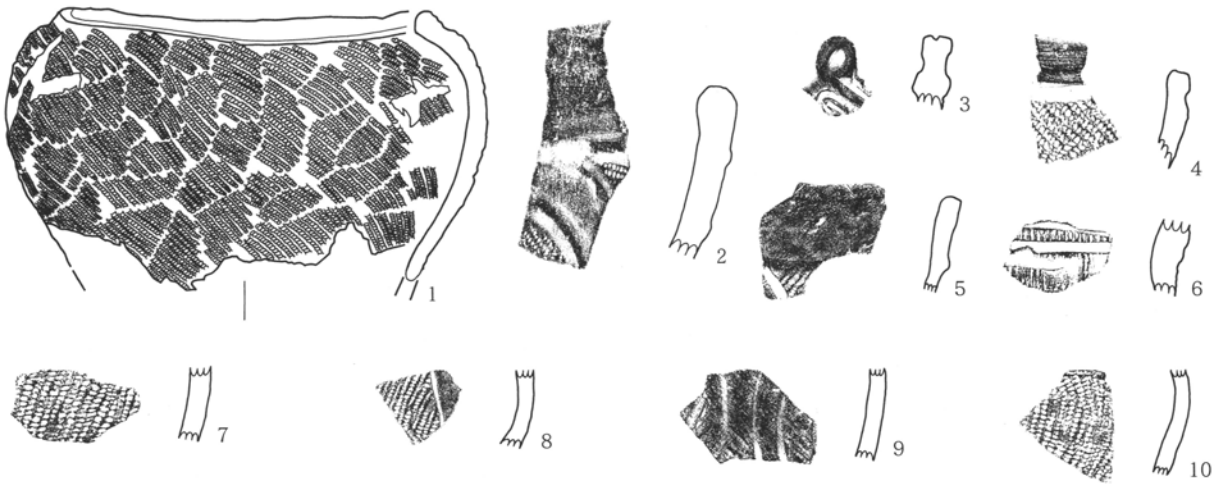
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅳ群1類	口縁部横位の整形。太さ7ミリの沈線と隆帯により横位の区画と楕円区画。頸部から胴部にかけて2条対の沈線で縦位の区画。磨り消し縄文。	
2	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群1類	口縁部半截竹管で横位の整形を行い太さ6ミリの沈線による横位区画。口縁部文様帯は、太さ4ミリの隆起線による横位楕円区画を連続させる。頸部から胴部は、太さ2ミリの沈線を垂下させる。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部太さ3ミリの隆起線により横位楕円区画を連続させる。頸部には、太さ2ミリの沈線を2条対にして垂下させ縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	Ⅵ群	胴部太さ6ミリの沈線とそれに沿う隆起線により渦巻状区画を施文する。	

J-95出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅵ群3類	口縁部に2単位の突起。隆起線が巡り無文帯を作る。胴部には、縄文原体を向きを変えて施文。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部無文帯横位の整形。頸部太さ6ミリの隆起線による横位区画。胴部は、隆起線による弧線文。文様部は、磨り消し縄文。	
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	口縁部円形突起が付き、上面に沈線と2列の刻み列が加えられる。突起から延長するように太さ5ミリの隆起線が斜位に施文される。その両側に半截竹管による結節浮線と平行沈線を巡らす。	突起
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部太さ10ミリの沈線を横位に巡らす。無文部は横位の整形。	
5	深鉢	口縁～胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅵ群	口縁部無文帯。横位の整形。頸部太さ3ミリの隆起線による区画。胴部は、太さ3ミリの沈線による弧状の文様。	
6	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	L		勝坂	胴部横位隆帯とそこから垂下する隆起線貼り付け文。横位に太さ5ミリの沈線を巡らす。地文撚糸文。	
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	胴部に縄文施文。	
8	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	太さ2ミリの2条1組の沈線による弧状区画。磨り消し縄文。	
10	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	縦横	加曾利E	胴部縄文施文。	



J-94



J-95

0 20cm

第154圖 J-94·95出土土器

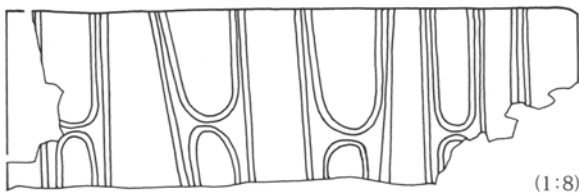
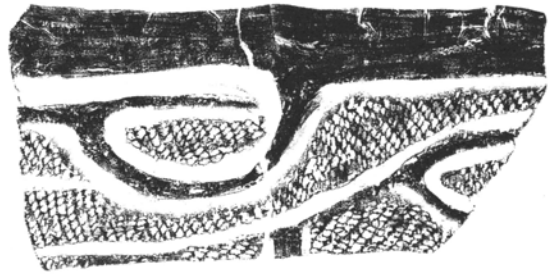
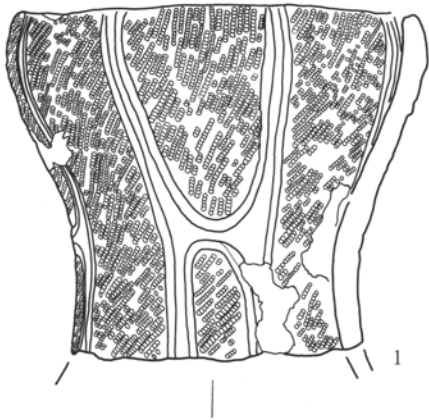
第4章 出土遺物

J-96出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。「U」「∩」状の文様。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅳ群2類	口縁部隆帯による横位渦巻状区画。頸部から胴部は太さ6ミリの沈線による区画。	
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	口縁部山形状突起になる波状口縁。太さ6ミリの沈線による横位区画。さらに、2列の刺突文が巡る。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、角閃石	普通	LRL	縦横	加曾利E	頸部隆線による弧線区画。胴部太さ4ミリの沈線による縦位楕円区画。	
5	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ11ミリの沈線による横位区画。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、石英粒	普通	RL	縦	加曾利E	豆瘤状の突起とそれに沿う太さ5ミリの縦位沈線と弧線。摩滅多い。	
7	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線2条対にした縦位区画。磨り消し縄文。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による2条対になる縦位区画。磨り消し縄文。	
9	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	LR		加曾利E	撚糸。	
10	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ1ミリの沈線による条線文。	

J-97出土土器観察表

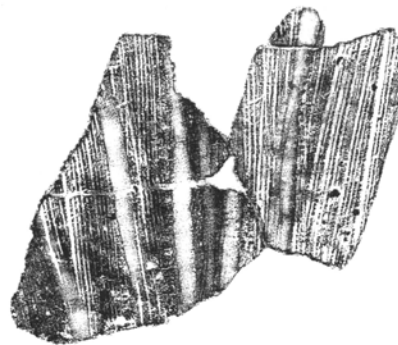
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—		Ⅷ群4類	口縁部横位の整形。太さ10ミリの沈線による方形区画と蕨手状文様。	2～4と同一個体
2	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—		Ⅷ群4類	口縁部横位の整形。太さ10ミリの沈線による方形区画と蕨手状文様。	1・3・4と同一個体
3	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—		Ⅷ群4類	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	1・2・4と同一個体
4	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—		Ⅷ群4類	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	1～3と同一個体



(1:8)



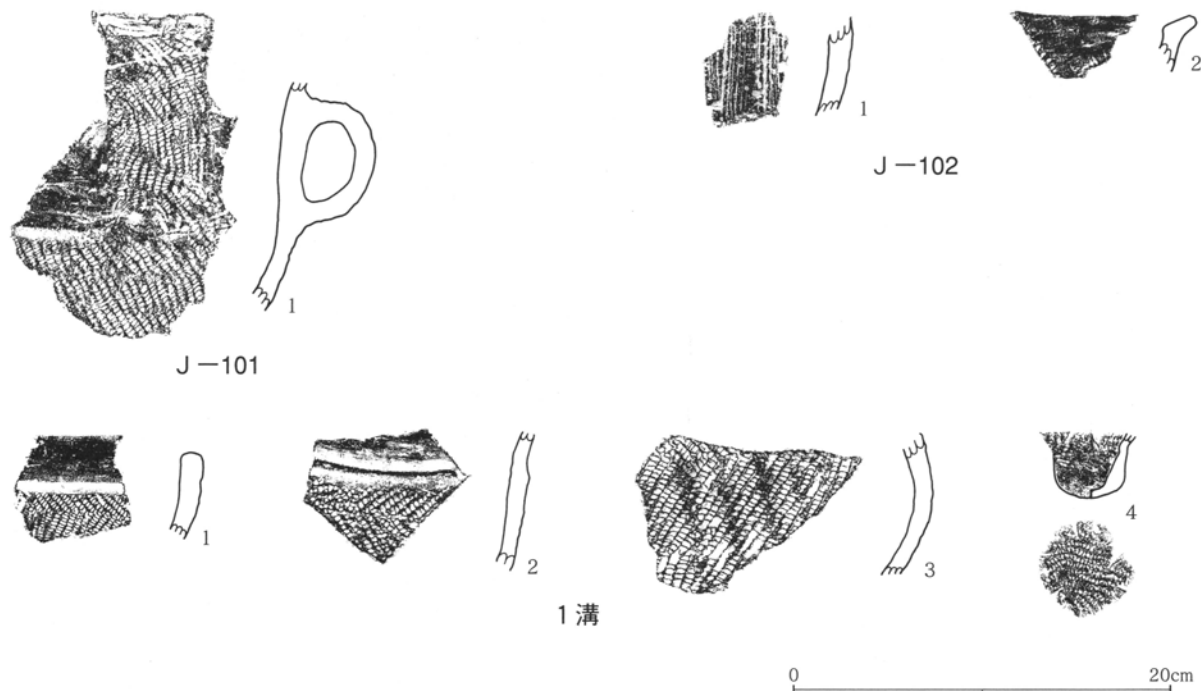
J-96



J-97

0 20cm

第155圖 J-96·97出土土器



第156図 J-101・102・1号溝出土土器

J-101出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	両耳壺	把手	灰白	2.5Y8/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅶ群2類	口縁部無文帯。横位の整形。幅50ミリの橋状把手になる。	橋状把手

J-102出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの砂粒	やや不良	—	—	加曾利E	櫛状工具による条線文。	
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	阿玉台	半截竹管による爪形文施文。	

1号溝出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい白色粒	良	RL	縦横	加曾利E	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡る。縄文は、施文方向を変えて羽状縄文にしている。	
2	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部に断面三角形の微隆線が巡る。	
3	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	白色粒多い	良	RL	縦横	加曾利E	縄文が帯状に施文される。	
4	鉢	胴部~底部	橙	7.5YR7/6	細かい白色粒	良	RL	—		縄文施文。把手の可能性もある。	ミニチュア土器

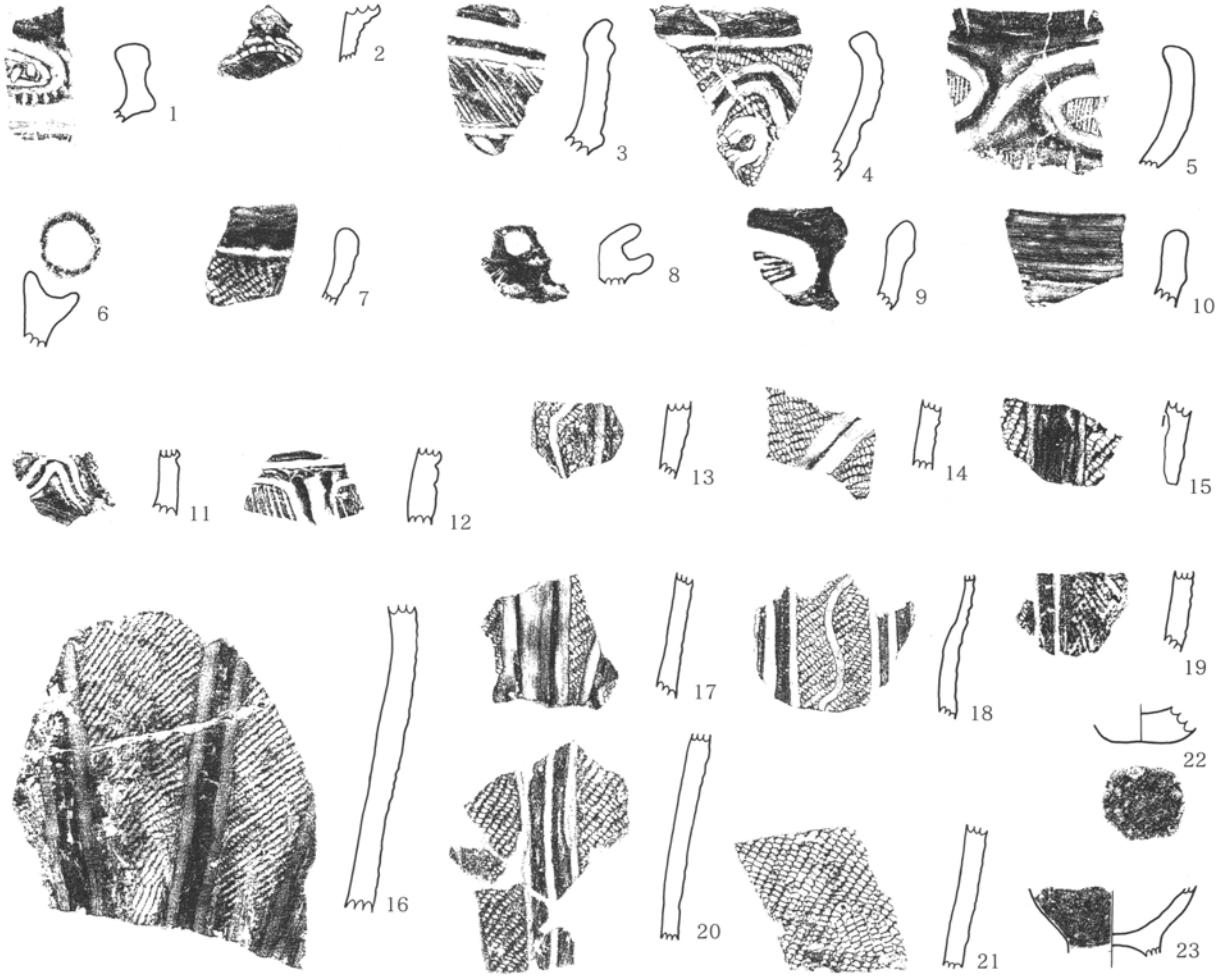
畑1出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	口唇部内側に折り返し。口縁部に隆線とそれに沿う沈線による区画。	
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	弧状の隆線とその両側2列ずつの押し引き文。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	—	—	加曾利E	口縁部太さ10ミリの隆線による横位槽区画。区画内条線充填。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	Ⅲ群	口縁部波状を呈し、それに沿う太さ4ミリの沈線が施文され、下部に渦巻文様。	
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリ前後の砂粒	普通	—	—	Ⅳ群	口縁部やや波状になる。隆・沈線による入り組の槽区画。区画内条線施文。	
6	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	不良	—	—	加曾利E	口縁部に付く嘴状突起。頂部より口縁に沿って沈線を施文する。	
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	波状口縁。頸部に太さ5ミリの沈線により、口縁部を無文帯に区画。	
8	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	口唇部外反して厚みを持つ。φ10ミリの孔が穿孔により開けられる。	
9	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部波状を呈する。太さ8ミリの沈線と隆線により槽区画。区画内を縄文で充填。	
10	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	良	—	—	加曾利E	波状口縁。頸部に太さ3ミリの隆起線により、口縁部を無文帯に区画。	
11	深鉢	口縁	暗赤褐	2.5YR3/6	φ1ミリ前後の砂粒	良	—	—	加曾利E	口縁部小形突起、それに沿うように2条の沈線を施文。	
12	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1ミリの砂粒	良	L	—	Ⅱ群	口縁部太さ5ミリの2条の横位隆線とそこから垂下する2条の隆線とそれに沿う太さ3ミリの沈線による区画。撚糸。	
13	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線により縦位区画。沈線による波状文。	
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部に太さ5ミリの隆線による弧状の文様。	
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
16	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部に太さ6ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
17	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、角閃石	良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ6ミリの沈線と隆起線による文様施文。	
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの沈線による縦位区画。区画間に波状の沈線。磨り消し縄文。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
20	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの3条の沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E		
22	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E		
23	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	底部上げ底になる。	

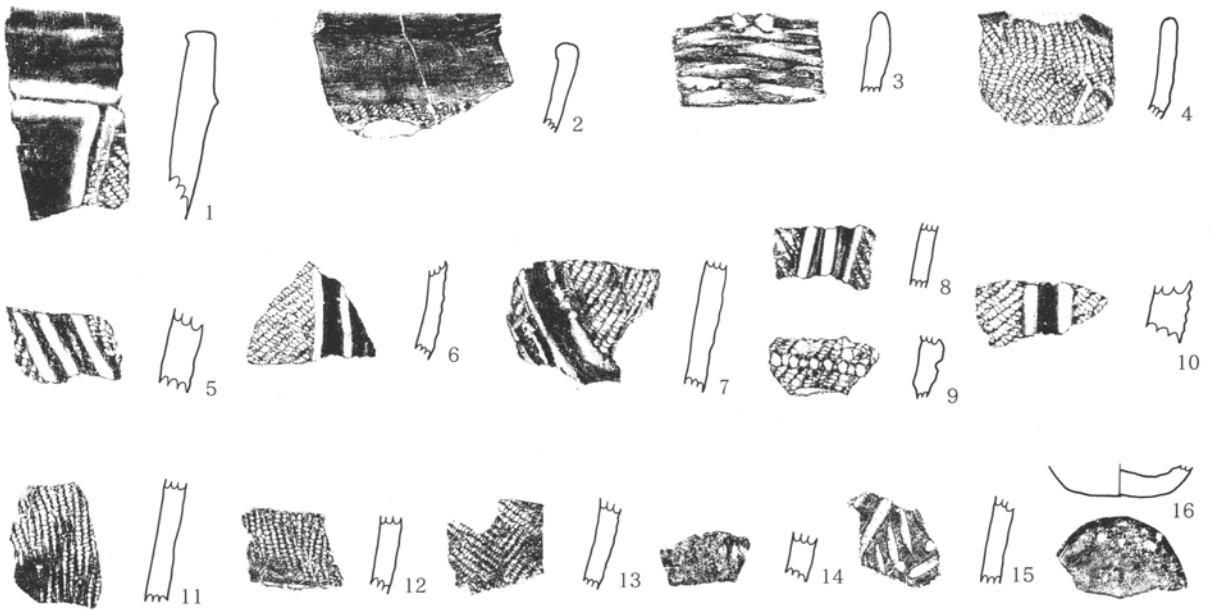
第4章 出土遺物

畑2出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	白色粒多い	良	LR	縦	VI群3類	太さ5ミリの断面三角になる隆線により口縁部無文帯を区画。胴部は縦位に区画。磨り消し縄文。	
2	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒多い	良	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線が巡り、無文帯と区画する。	
3	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい白色粒	普通	—		加曾利E	横位の整形により微隆起線上の整形痕が見える。	
4	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒多い	普通	RL	横	加曾利E	太さ2ミリの沈線による楕円区画。	
5	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線で縦位の区画。	
6	深鉢	胴部	灰白	10YR7/1	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
7	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線による弧状の文様。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4~6ミリの沈線による縦位の区画。	
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	φ3ミリの刺突列。	
10	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線2条を対にして縦位の区画を作る。	
11	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	LR	斜	加曾利E	縄文施文。	
12	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	斜	加曾利E	細い沈線による文様区画。	
13	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利E	原体の施文方向を変え羽状縄文にしている。	
14	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通			加曾利E	無文。	
15	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	黒色粒	良			加曾利E	太さ4~6ミリの沈線による縦位の区画と区画内に矢羽状の文様。	
16	深鉢	底部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良			加曾利E		



畑1



畑2

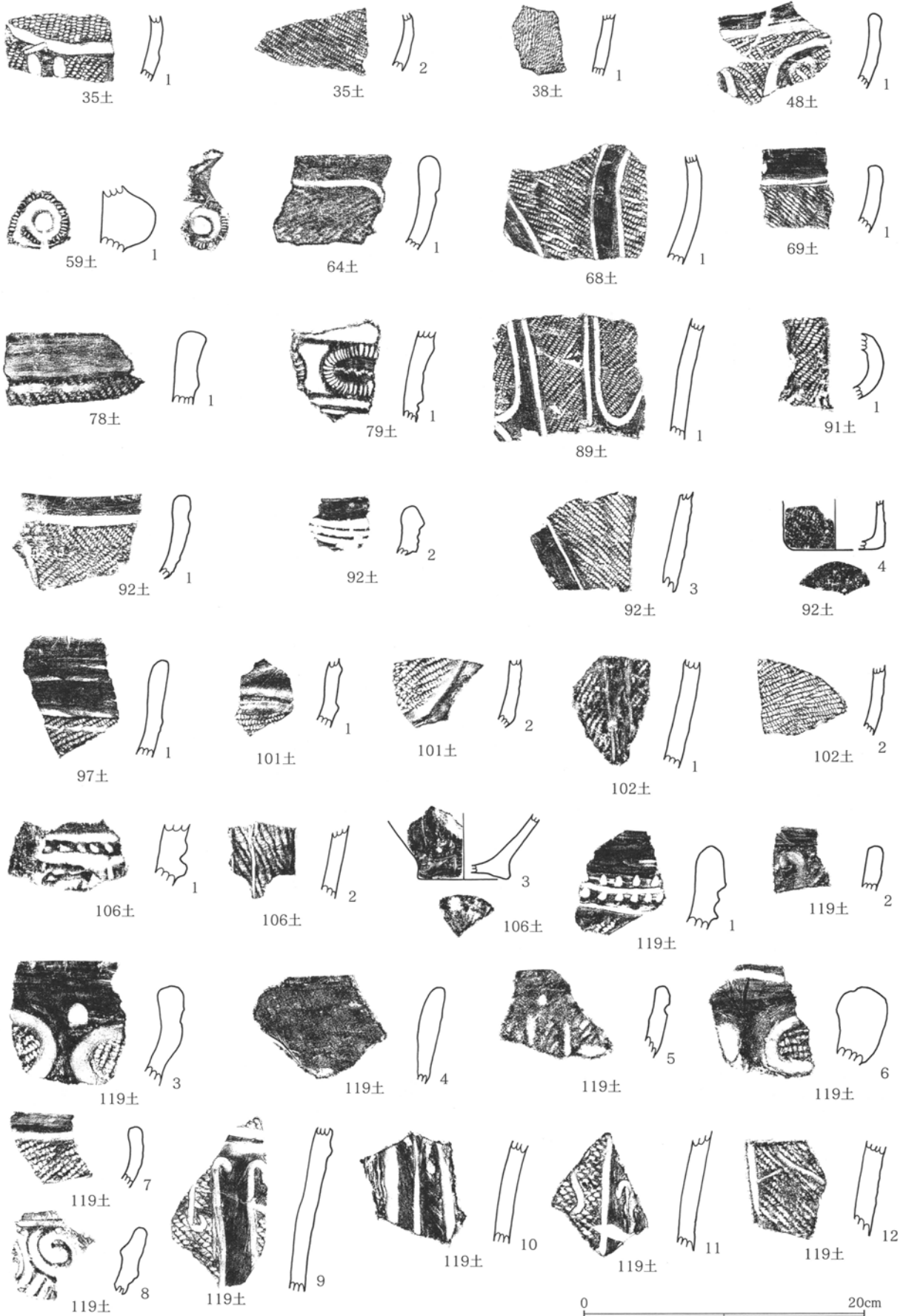
0 20cm

第157図 畑1・2出土土器

第4章 出土遺物

中・近世土坑出土土器観察表

土坑名	図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴
35号	1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	横縦	Ⅲ群	太さ7ミリの沈線による口縁部楕円区画と胴部縦位の区画。
35号	2	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	白色粒多い	普通	RL		加曽利E	
38号	1	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR		加曽利E	撚糸。
48号	1	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	LR	縦横	加曽利E	波状口縁。太さ7ミリの沈線による渦巻文。
59号	1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	器面側面に付けられる双円状の突起。縁辺に刻みが付けられる。
64号	1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	不良	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線による楕円区画。表面摩滅多い。
68号	1	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線2条で文様を描く。磨り消し縄文。
69号	1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅵ群	太さ3~4ミリの沈線が口縁を巡り無文帯と区画する。
78号	1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL		Ⅵ群	口縁部に断面三角の隆線が巡り無文帯と区画する。
79号	1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、雲母	普通	—		勝坂	太さ5ミリの隆線と沈線で文様帯を横位区画。区画内に隆線に沿って幅8ミリの爪形文による楕円区画。
89号	1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	勝坂	太さ4ミリの沈線で「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文。
91号	1	深鉢	把手	黒褐	10YR3/2	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	橋状把手。
92号	1	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良	RL	横縦	Ⅶ群2類	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。
92号	2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	—		Ⅵ群	幅5~6ミリの平行沈線横位施文。
92号	3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒多い	普通			加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。
92号	4	深鉢	胴部~底部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良			加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。
97号	1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E	口縁部に太さ3~4ミリの隆線が巡り、無文帯と区画する。
101号	1	深鉢	胴部	褐灰	10YR6/1	細かい砂粒、白色粒	良	LR	横	加曽利E	断面三角の隆線による楕円区画。区画内縄文施文。
101号	2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、白色粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ2~3ミリの隆線による楕円区画。
102号	1	深鉢	胴部	黄橙	10YR7/8	細かい砂粒多い	不良	RL	縦	加曽利E	太さ1ミリの沈線による縦位の区画。
102号	2	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E	
106号	1	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	白色粒	普通	—		加曽利E	太さ10ミリの隆線による区画。隆線上に刻みが入る。
106号	2	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	縦	加曽利E	太さ1ミリの沈線による縦位の区画。
106号	3	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	普通	—		加曽利E	底部が高台状になる。
119号	1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	普通	RL	横	加曽利E	断面三角の隆線2条が口縁部に巡る。隆線には、三角の刺突が巡る。
119号	2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒多い	普通			加曽利E	太さ7~8ミリの浅い沈線による施文。
119号	3	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、小石	良	RL	横	Ⅱ群	太さ7~12ミリの沈線による楕円区画。



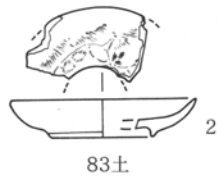
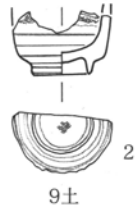
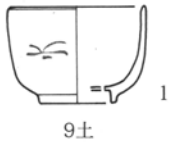
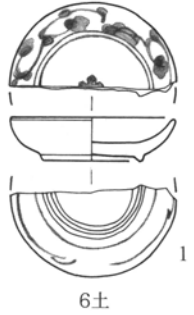
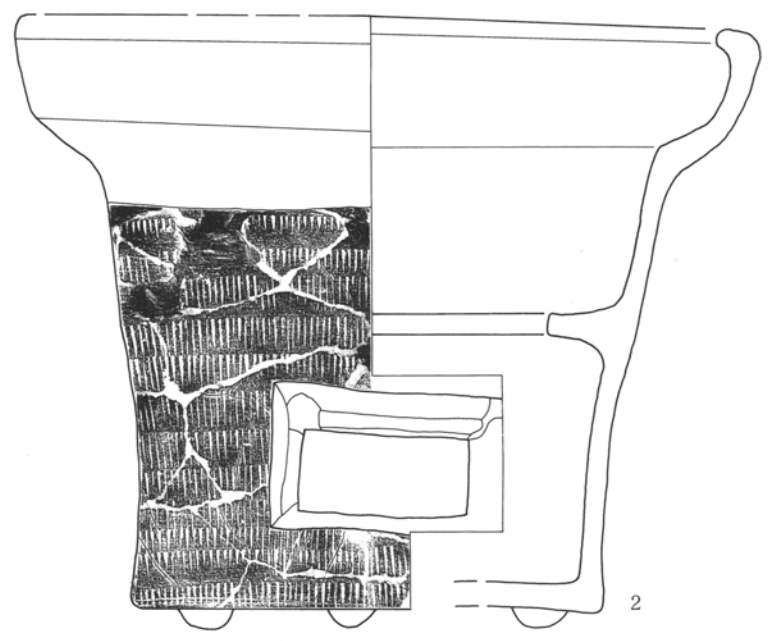
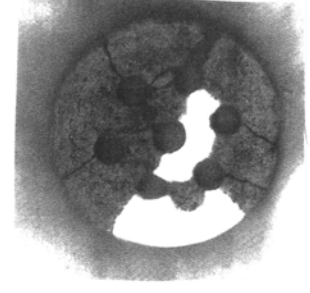
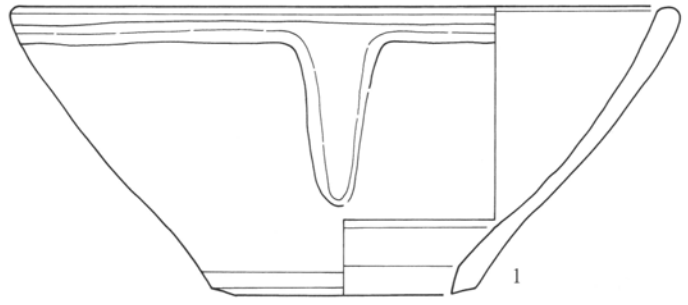
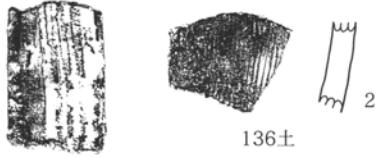
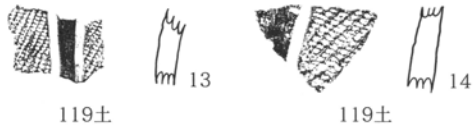
第158図 中・近世土坑出土土器 (1)

第4章 出土遺物

中・近世土坑出土土器観察表

土坑名	図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴
119号	4	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	砂粒多い	普通	—		加曾利E	横位の整形痕。
119号	5	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒多い	不良			加曾利E	太さ4ミリの沈線2条が対になり縦位の区画。
119号	6	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	白色粒多い	普通			加曾利E	隆・沈線による楕円区画。
119号	7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡る。
119号	8	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	—		加曾利E	隆線による渦巻文。
119号	9	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	LR		Ⅲ群	口縁部は、隆線による文様区画。胴部は、太さ4ミリの沈線による磨手文。
119号	10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒多い	良	—		加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
119号	11	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
119号	12	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	砂粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
119号	13	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
119号	14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。

土坑名	図版No	器種	製作地	特徴
136号	1	軒丸瓦		
136号	2	甕		須恵器片
6号	1	磁器皿	肥前(波佐見系)	見込み5弁花コンニャク判。18世紀中頃から後半。
9号	1	磁器碗	肥前?	腰部が丸く、体部が筒状を呈する碗。19世紀前半から中頃。
9号	2	磁器小坏	瀬戸・美濃	体部外面と高台内部銘は銅板転写。近代から昭和。
83号	1	磁器小碗	肥前	腰部は緩く開き、器高に比して口径が大きい。
83号	2	磁器皿	瀬戸・美濃	高台内を除きクロム青磁釉。内面に緑色絵の具による型紙摺りで団扇と植物文を描く。近代から昭和。
139号	1	磁器碗	肥前?	腰部が丸く、体部が筒状を呈する碗。焼成不良。高台端部幅広い。19世紀前半から。
159号	1	コンロ	不詳	コンロの内側で、鉢形を呈する。外面や口縁部外面に接合痕が認められず、組み合わせ型であろう。内面下半は被熱により変色と剥離が認められる。体部には、1ヶ所堅く地上の張り出しを設ける。片面が著しく被熱した火皿も伴うと考えられる。近代から。
159号	2	コンロ	不詳	外面廻転施文具による施文。風口1ヶ所。江戸から近代。



第159図 中・近世土坑出土土器 (2)

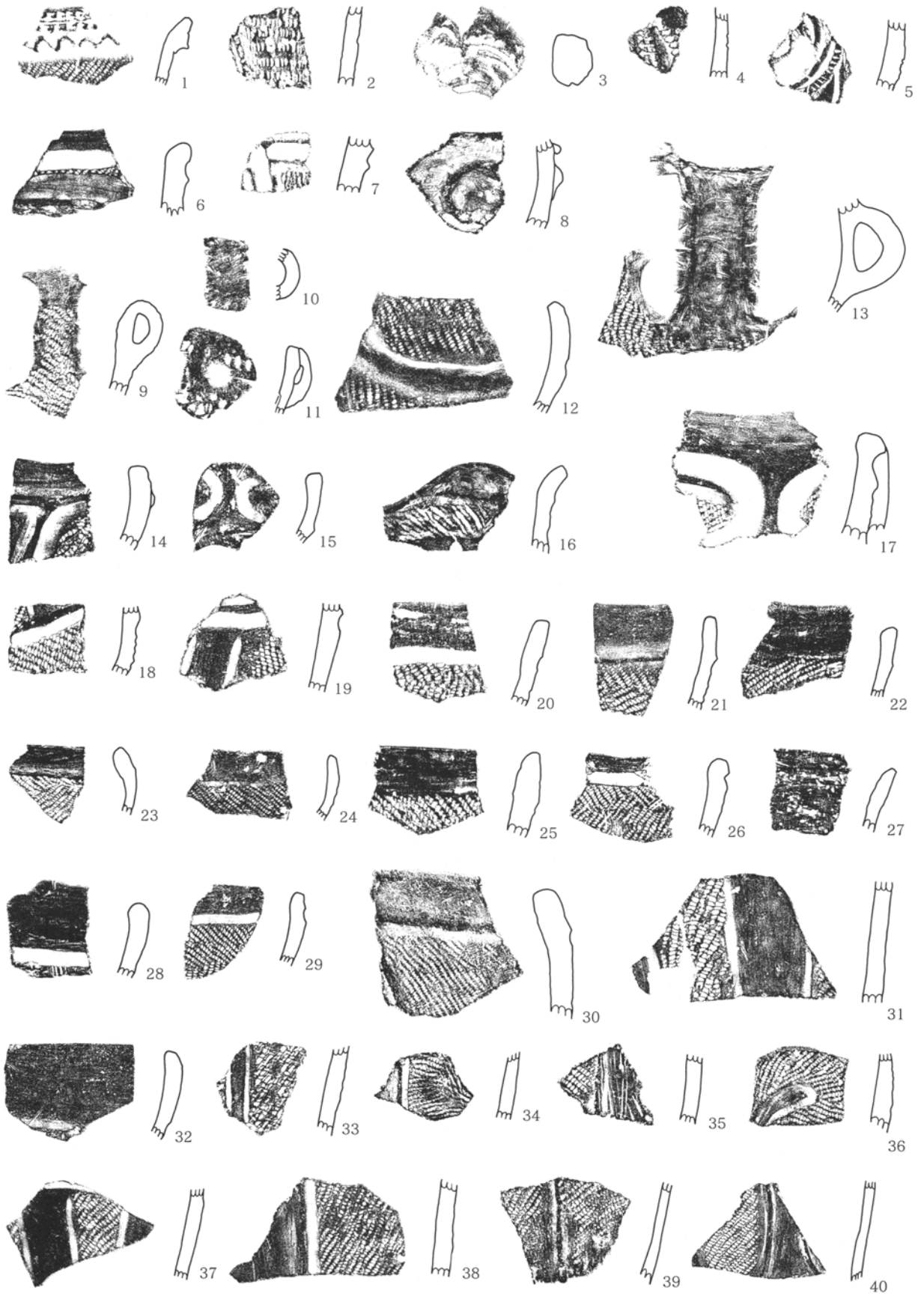
第4章 出土遺物

II区910・915グリッド出土土器観察表

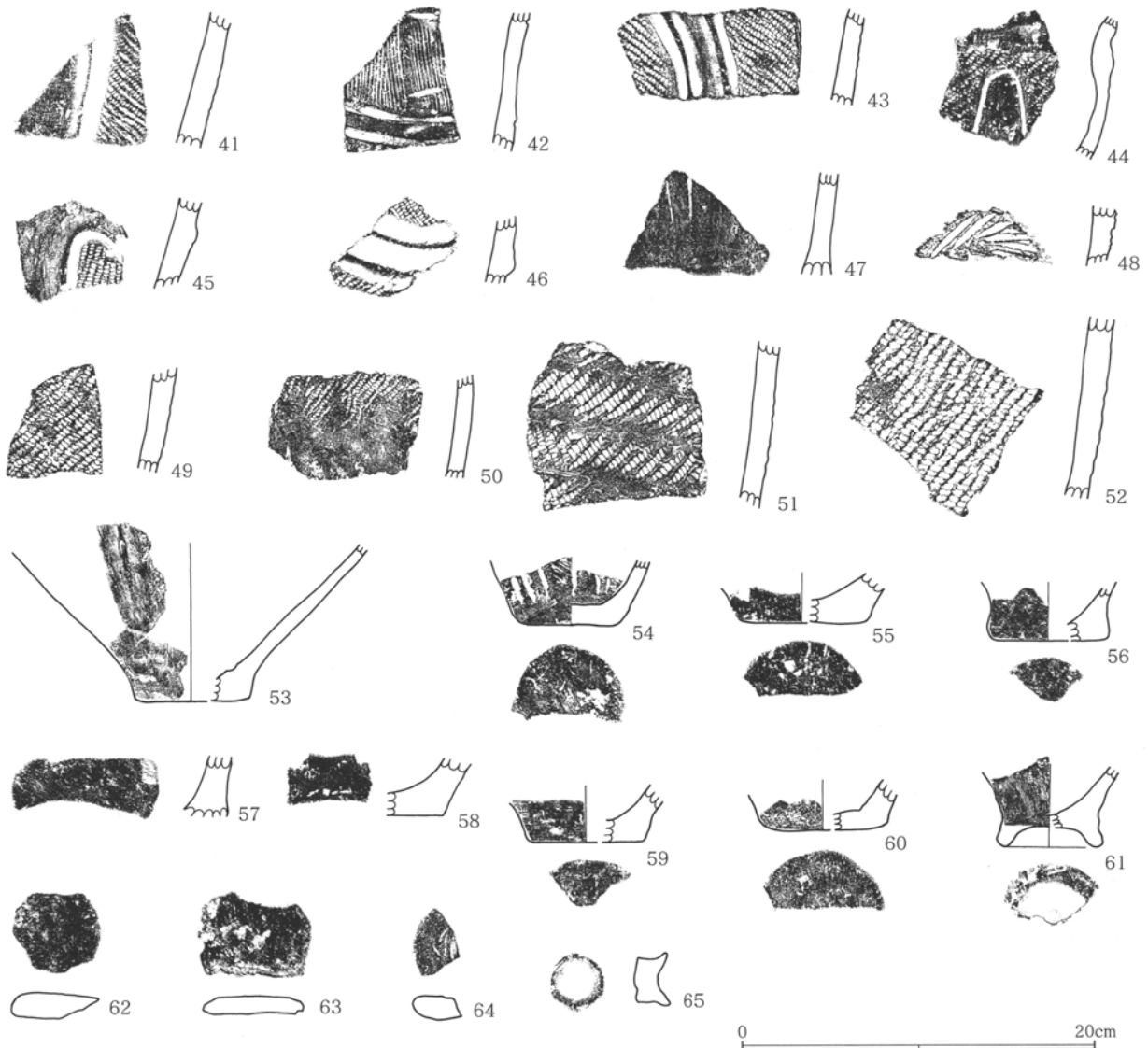
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	諸磯c	口縁に粘土紐を2条貼り付け結節の爪形文。その下部に鋸歯状に粘土紐を貼り付ける。	910-980
2	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	太さ6ミリの隆線が縦位に施文区画。幅6ミリの爪形文が横位に施文。	915-975
3	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	太さ3ミリの沈線による重弧状の文様。	915-995 環状把手
4	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	—	—	勝坂	太さ7ミリの2条の刻みを持つ隆線による区画。	915-985
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの白色粒	不良	—	—	勝坂	太さ5ミリの隆線で渦巻を作る。隆線には刻みが付けられる。	915-980
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利E	口縁部幅10ミリの沈線による横位区画。頸部から胴部隆起線による弧線状区画。	915-985
7	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	LR	—	加曾利E	太さ8ミリの隆線による文様が描かれる。燃糸。	915-980
8	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	—	—	加曾利E	口縁部幅6ミリの隆線による横位区画。渦巻状の施文。	915-985
9	両耳壺	把手	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅶ群2類	縄文施文。	915-995 橋状把手
10	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	不良	—	—	Ⅶ群2類	無文。全体に摩滅している。	915-975
11	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、角閃石	普通	—	—	Ⅵ群2類	口縁部幅16ミリの縦位筒状把手。半截竹管による刺突列を施文する。	915-985 把手
12	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅳ群2類	太さ12ミリの隆線とそれに沿う沈線による弧線状区画。	915-985
13	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	Ⅶ群2類	把手部は、無文。上下に縄文施文。	910-980 橋状把手
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅲ群2類	口縁部無文帯横位の整形。その下部太さ5ミリの隆線による方形・弧線状区画を施文する。	915-985
15	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅲ群2類	太さ7ミリの隆線と太さ5ミリの沈線による弧線状の区画。	915-985
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅲ群2類	波状口縁。頂部はやや外反する。沈線による横位楕円区画。	915-985 舌状突起
17	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅱ群	太さ10ミリの隆線による横位楕円渦巻状区画。	915-995
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	白色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの沈線で縦位の区画。	915-980
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	Ⅲ群	太さ10ミリの沈線による横位区画と太さ6ミリの沈線による縦位区画。	915-985
20	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの黄色粒多い	普通	R	横	Ⅲ群	太さ10ミリの沈線が口縁を巡り文様帯を区画する。	910-980
21	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、石英粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	口縁部波状を呈す。太さ3ミリの隆線により無文帯を区画する。	915-985
22	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁に微隆起線が巡り無文帯と区画する。	915-980
23	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい白色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	口縁に沿って微隆起線が巡り無文帯と区画する。	915-975
24	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	不良	LR	縦	Ⅵ群	口縁部やや波状を呈し隆線による横位区画。	915-985
25	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	RLR	横	Ⅵ群	複節の縄文。口縁部に微隆起線が巡り、無文帯と区画。	915-980
26	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/6	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群	口縁部太さ7ミリの沈線による横位区画。	915-985

II区910・915グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
27	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	不良	—	—	Ⅵ群	表面に細かい剥落。	915-975
28	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	白色粒多い	普通	—	—	Ⅲ群	口縁部に微隆起線が巡る。地文に条線。	915-980
29	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	口縁部無文帯を持ち太さ7ミリの沈線による横位区画。	915-985
30	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい白色粒	不良	RL	横	Ⅵ群	太さ8ミリの隆線による文様区画。	915-975
31	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの隆起線による縦位区画。	915-985
32	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部無文帯横位の整形。	915-985
33	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	不良	RLR	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの沈線による縦位区画。縄文前々段合摺り。	915-985
34	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦斜	加曾利E	胴部太さ4ミリの隆線による区画。	915-985
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの隆起線による縦位の区画。	915-985
36	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦斜	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線による文様区画と磨り消し縄文。	915-985
37	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	915-995
38	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ7ミリの隆線による縦位区画。	915-985
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石多い	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの断面三角の隆線が縦位に貼付される。	915-975
40	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	Ⅵ群	胴部太さ4ミリの隆起線による「U」「∩」状の区画文と磨り消し縄文。	915-985
41	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	LR	横	Ⅵ群	断面三角の隆線による文様区画。	910-980
42	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	Ⅷ群4類	太さ3ミリの沈線による楕円状区画を呈し、条線を充填する。煤付着。	915-985
43	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	胴部太さ4ミリの隆線による重弧状の文様。	915-985
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による楕円区画。区画内は磨り消し縄文。口縁部は隆線で区画する。	915-980
45	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの隆線が楕円区画を作る。	910-980
46	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、砂粒多い	不良	RL	縦横	Ⅵ群	隆・沈線で渦巻の文様を描く。	915-980
47	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅵ群	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画。	915-995
48	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による大きな連続する矢羽状の刻み。	915-985
49	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	915-985
50	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	帯状に縄文を施文。	915-985
51	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E	帯状に縄文を施文。	915-985
52	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒多い	普通	RL	斜	加曾利E		915-975
53	深鉢	胴部~底部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	隆線による縦位の区画。	915-975
54	深鉢	胴部~底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E	胴下部太さ2ミリの沈線による縦位区画。	915-985
55	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	加曾利E	無文。	915-975
56	深鉢	底部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—		無文。	915-995



第160図 910・915グリッド出土土器(1) 0 20cm



第161図 910・915グリッド出土土器 (2)

II区910・915グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置考
57	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—		無文。	915-995
58	深鉢	胴部～底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの黄色粒	良	—	—	加曾利E	外面横位の整形。	915-980
59	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	—	—		無文。	915-995
60	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曾利E	外面整形。	915-980
61	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの白色粒	普通	RL	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線よる縦位区画。	915-975
62	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—		無文。	915-995
63	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—		表面剥落が多い。	915-995
64	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—		無文。波状口縁波頂部を転用して土製円盤にしている。	915-985
65	耳飾り		浅黄橙	10YR8/3	白色粒多い	普通	—	—	中期		915-975

第4章 出土遺物

II区920グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL		五領ヶ台	太さ2ミリの沈線による文様区画。φ6ミリの円形刺突。	920-990
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	口縁部横位の整形痕。太さ6ミリの隆線を縦位に貼り付ける。	920-995
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	隆線による口縁楕円区画。区画内に幅3~4ミリの爪形文が隆線に沿って施文される。	920-980
4	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		I群	太さ7~10ミリの隆線による渦巻文様。	920-980
5	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	太さ8ミリの隆線とそれに沿う幅6ミリの半截竹管の結節文による区画。	920-995
6	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの小石	良	—		勝坂	隆帯部に太さ4ミリの沈線による渦巻文。外側に半截竹管による刻み目を施す。	920-000
7	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	太さ8ミリの隆線で渦巻状の文様を描く。隆線には、刻みを持つ。	920-990
8	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの小石	不良	—		勝坂	幅7ミリの爪形文が隆線に沿って巡る。	920-975
9	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		I群	太さ2ミリの沈線による横位文様。2条の沈線を上下交互にペン先状の工具で刺突する。交互刺突文間には、大きめの爪形文施文。	920-000
10	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒多い	普通	LR		II群	太さ7ミリの平行沈線による文様施文。区画内に縄文が充填する。	920-980
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR		I群	太さ5ミリの沈線で口縁を区画。燃糸。	920-980
12	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	良	LR		I群	太さ7ミリの刻みを持つ隆線で文様帯を分ける。燃糸。	920-990
13	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	LR		加曽利E	燃糸。	920-980
14	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL		III群	口縁部に沈線が巡り、楕円区画文様を作る。	920-990
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	III群	太さ3ミリの隆起線による横位区画と斜めの区画線。	920-000
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	III群1類	波状口縁。太さ6ミリの沈線による横位区画。太さ7ミリの隆線とそれに沿う沈線による区画。	920-000 舌状突起
17	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	III群	太さ6ミリの沈線による横位楕円区画。	920-000
18	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR	縦	III群1類	波状口縁。波頂部には、渦巻・楕円区画。胴部に縦位の区画線が施文される。	920-990 舌状突起
19	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL		VI群1類	口縁部に太さ8ミリの沈線で楕円区画を作る。	920-980
20	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL		III群1類	太さ10ミリの沈線による横位の楕円区画。	920-995
21	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			III群	口縁部太さ10ミリの隆線と沈線による横位の楕円渦巻状区画。	920-995
22	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	III群	太さ10~15ミリの沈線2条が口縁部を巡る。	920-985
23	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	横	III群	口縁部は、折り返し口縁になり肥厚する。楕円区画文。	920-990
24	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL		III群	太い隆線による文様。口縁区画の隆線と楕円区画の隆線が合わさり突起を作る。	920-980
25	両耳壺	把手	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		VII群1類	幅50ミリの橋状把手。	920-000 橋状把手
26	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒多い	不良	LR		III群1類	太い隆・沈線で楕円区画文様を描く。	920-975 舌状突起

II区920グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
27	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ7ミリの沈線による横位区画。	920-995
28	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅲ群	口縁部太さ2ミリの沈線による横位区画。	920-000
29	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅲ群	太さ6ミリの隆起線の横位区画。	920-995
30	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	RL	斜	Ⅲ群	太さ10ミリの沈線による楕円区画。	920-985
31	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	Ⅲ群	隆帯貼り付け後太さ3ミリの横位楕円区画と縦位区画を施文し、φ6ミリの刺突文を施す。	920-995
32	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ9ミリの沈線による楕円区画。	920-995 舌状突起
33	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—		加曽利E	φ5ミリの刺突が口縁に巡る。	920-980
34	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	LR		加曽利E	波状口縁頂部から弧状に太さ3ミリの沈線が施文される。	920-980
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	LR		加曽利E	太さ8ミリの沈線による楕円区画。	920-990
36	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	白色粒	不良	—		加曽利E	隆線による口縁部文様区画。	920-980
37	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による横位区画。	920-995
38	深鉢	把手	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ10~15ミリの隆線による区画。隆線部欠損。	920-995
39	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリ小石	良	RL		加曽利E	太さ6ミリの沈線による楕円区画。	920-985
40	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ10~15ミリの隆線とそれに沿う7ミリの沈線による文様区画。	920-995
41	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ3~5ミリの隆線に弧を描く。	920-980
42	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	斜	加曽利E	口縁部に太い沈線で横位の区画。	920-985
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曽利E	太さ3ミリの隆起線による横位区画と斜めの区画線。	920-000
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリ小石	良	LR		加曽利E	口縁部に微隆起線が巡る。	920-980
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通			加曽利E	口縁に太さ12ミリの沈線が巡る。	920-990
46	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒、黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群3類	口縁に横位の微隆起線が巡る。	920-985
47	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		Ⅵ群3類	口縁部無文帯横位の整形。太さ3ミリの隆起線による横位区画。	920-000
48	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリ小石	普通	LR		Ⅵ群3類	口縁に沿って隆線が巡る。	920-980
49	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒多い	良	LR		Ⅵ群3類	口縁部に微隆起線が巡る。	920-975
50	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	—		Ⅵ群3類	隆起線で口縁を区画し、胴部に垂線が降りる。	920-975
51	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	Ⅵ群3類	太さ6ミリの沈線が口縁に巡る。	920-985
52	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL		Ⅵ群3類	口縁部に微隆起線による区画線。橋状把手が付くが剥落している。	920-975
53	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	口縁部無文帯横位の整形とミガキ。	920-000
54	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒	不良	—		加曽利E		920-975
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	LR		Ⅵ群3類	口縁部に隆線が巡り区画する。沈線により文様を描く。	920-980
56	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	不良			加曽利E	太さ5ミリの沈線が横位に巡る。	920-985
57	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡る。口縁部に彩色。	920-975 赤色塗彩
58	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群3類	太さ7ミリの沈線が口縁に巡る。	920-985
59	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	横	Ⅵ群3類	太さ4ミリの沈線が口縁に巡る。	920-980
60	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	白色粒	普通	RL		Ⅵ群	太さ3ミリの沈線が口縁部に巡る。	920-975
61	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい黒色粒	良	—		Ⅵ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	920-990
62	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	良	RL		Ⅵ群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡る。	920-975
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅵ群	口縁部無文帯。横位の整形。太さ2ミリの隆起線による横位区画。	920-995

第4章 出土遺物

II区920グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
64	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒	良	LR		VI群	太さ4ミリの沈線が口縁に巡る。	920-980
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ4ミリの沈線による横位楕円区画。	920-995
66	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの白色粒	良	LR	斜	VI群	太さ2ミリの沈線が口縁部を区画する。	920-985
67	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	横	VI群	太さ7ミリの沈線で横位の区画。	920-985
68	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒多い	普通	-		VII群4類	太さ8ミリの隆線が口縁を巡る。	920-975
69	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒	普通	-		VI群	口縁部に太さ10ミリの隆線が巡る。地文に条線。	920-975
70	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの白色粒	良			VI群	隆起線で口縁部を区画。太さ4ミリの沈線で弧線を描く。	920-980
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL		VI群	太さ4ミリの沈線で弧線を描く。	920-980
72	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦横	VI群	太さ4ミリの沈線が口縁を巡る。	920-975
73	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦	VI群	太さ8ミリの沈線による文様区画。区画内に縄文が施文される。	920-990
74	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい白色粒	良	RL	縦横	VI群	太さ6ミリの沈線による文様施文。	920-980
75	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	太さ4ミリの沈線で方形に区画。焼成後φ6ミリの孔を開ける。	920-990
76	両耳壺	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR		VI群2類	波状口縁頂部に把手が付く。口縁部は微隆起線で区画される。	920-980 橋状把手
77	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	横斜	VI群	口縁波状になり、横長の楕円区画。口縁文様下に太さ3ミリの沈線による文様区画。	920-995
78	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太さ4ミリの隆線で口縁部を区画し、胴部文様も縦に区画する。	920-975
79	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	口縁部を太い沈線で区画する。	920-980
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。無文部は、磨り消し縄文。	920-985
81	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	920-980
82	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリ小石	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	920-975
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	920-995
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	砂粒多い	不良	LR		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	920-975
85	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ8ミリの沈線2条を対にして縦位の区画を作る。	920-990
86	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ10ミリの沈線が2条施文される。	920-980
87	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	920-980
88	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	白色粒	普通	LR		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	920-980
89	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリ黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの隆線による縦位区画。	920-985
90	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	920-995
91	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による垂線で縦位区画。	920-985
92	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの黒色粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの断面三角形の隆線による縦位区画。	920-990
93	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR		VI群	太さ3ミリの断面三角形の隆線で弧線を描く。	920-980
94	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1~3ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ12ミリの沈線による縦位区画。無文部は、縦位のミガキによる磨り消し縄文。	920-990
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	普通	RL		VI群	太さ5ミリの隆線による縦位区画。無文部は、磨り消し縄文。	920-985

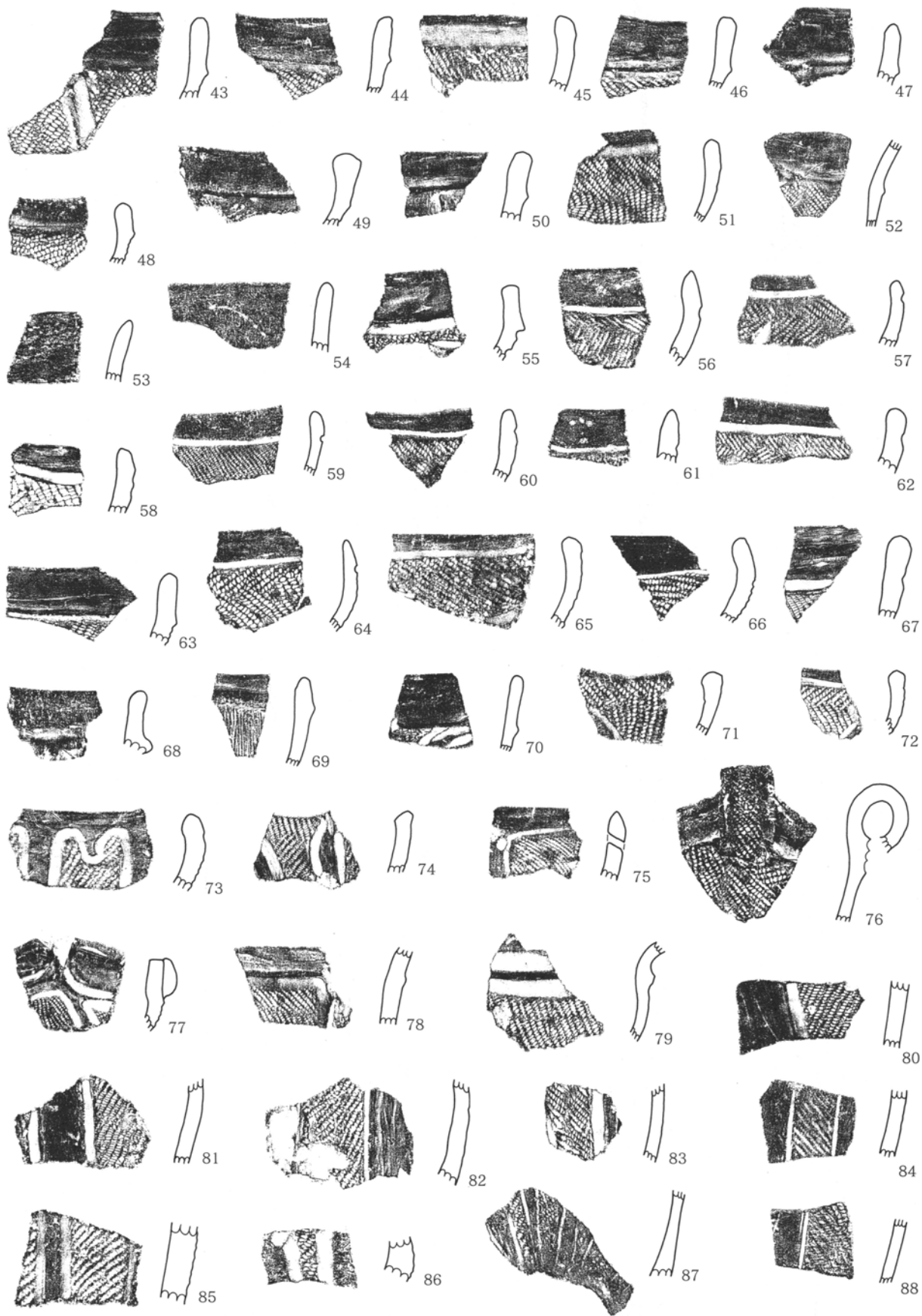
II区920グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
96	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ7ミリの隆線による縦位区画。	920-985
97	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦斜	VI群	太さ3ミリの沈線による重弧状の区画。	920-995
98	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL		VI群	太さ3～5ミリの沈線で文様を区画する。	920-975
99	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR		VI群	太さ2ミリの沈線が弧状に文様を描く。無文部磨り消し縄文。	920-980
100	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	細かい砂粒	普通	LR		VI群	太さ2ミリの沈線による弧線で文様を描く。	920-990
101	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL		VI群	太さ3ミリの沈線で文様を描く。	920-980
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR		VI群	太さ3ミリの沈線による文様施文。無文部磨り消し縄文。	920-975
103	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による楕円区画。	920-975
104	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	白色粒	普通	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線が縦位に施文される。	920-985
105	浅鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—		VII群3類	太さ1ミリ以下の沈線による縦位の条線。	920-990
106	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		VII群2類	3ミリ間隔の櫛状工具による波状沈線。	920-990
107	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL		加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	920-975
108	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの白色粒	普通	RL		加曽利E		920-980
109	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリ小石	普通	RL		加曽利E		920-975
110	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1～2ミリ砂粒	普通	RL		前期～中期	爪形文が横位に施文される。	920-975
111	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線が縦位方向に施文される。	920-985
112	深鉢	口縁	にぶい橙	2.5YR6/3	φ1～2ミリ小石	普通	—		後期	太さ1ミリの沈線で弧線を描く。	920-990
113	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による文様施文。	920-980
114	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	幅10ミリの平行沈線が横位に施文される。	920-980
115	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		加曽利E	外面縦位方向のミガキ。	920-975
116	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曽利E		920-995
117	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良			加曽利E	無文。	920-985
118	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	—		加曽利E	外面縦位方向の整形痕。縦位の沈線による区画。	920-990
119	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	920-995
120	深鉢	胴部～底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの白色粒	良	—		加曽利E	縦位の沈線による区画。	920-990
121	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	砂粒	普通	—		加曽利E	外面縦位方向の整形。	920-980
122	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	普通	—		加曽利E	外面縦位方向のミガキ。上げ底。	920-975
123	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの白色粒	普通	—		加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。上げ底。	920-975
124	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	LR		加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	920-980
125	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通				表面剥離が多い。	920-995
126	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—			無文。縁辺を打ち欠いて成形。	920-980
127	土製円盤		明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横斜		太さ4ミリの隆線による弧線状区画。	920-000
128	土製円盤		淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	—			無文。	920-985
129	土製円盤		褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横			920-000



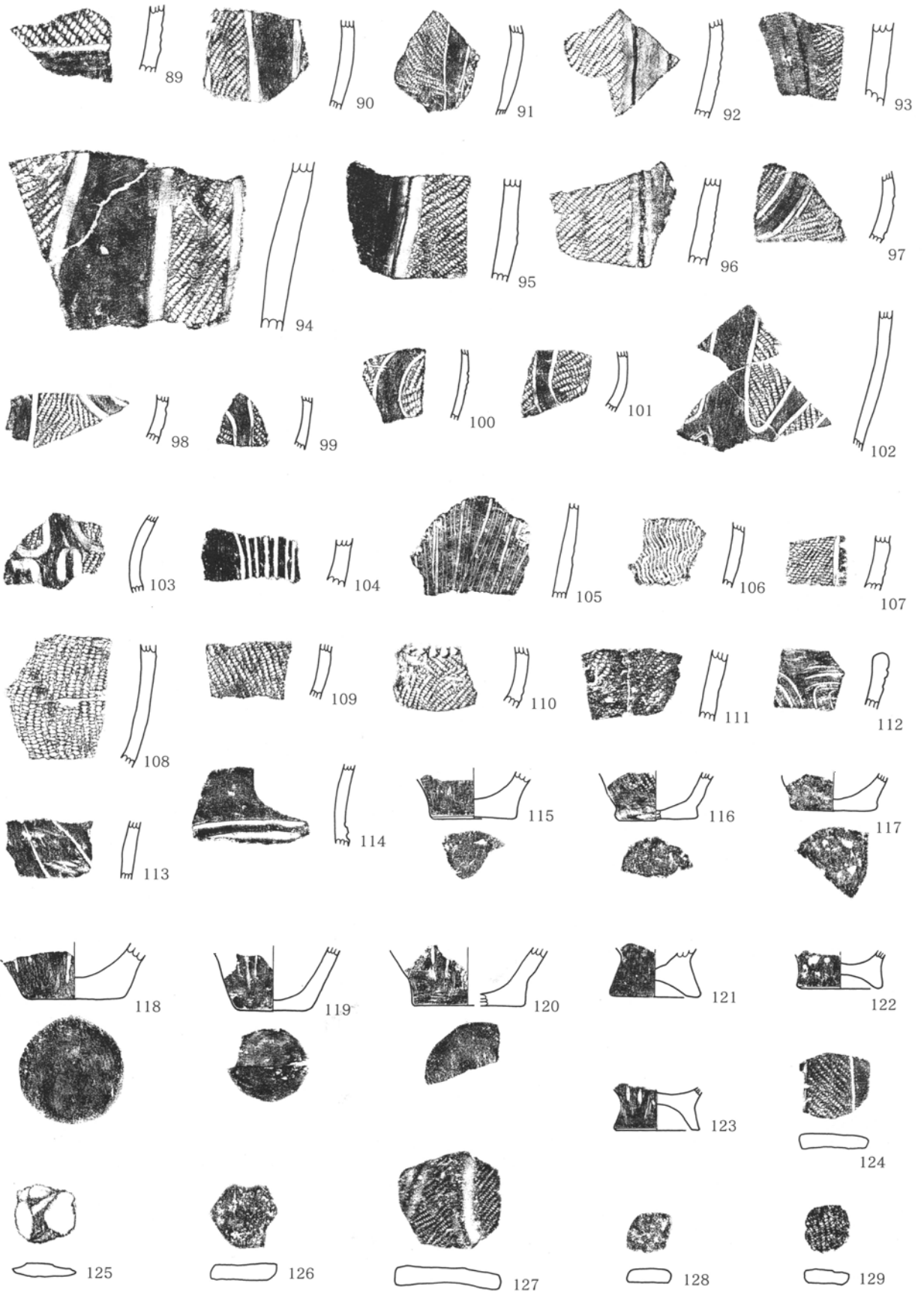
第162図 920グリッド出土土器 (1)

0 20cm



第163図 920グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第164図 920グリッド出土土器 (3)

0 20cm

II区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~5ミリの小石	良	—	—	阿玉台	太さ10ミリの断面三角形の弧線と幅10ミリの結節沈線文。	925-980
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリ小石	良	—	—	勝坂	横位連続爪形列。	925-995
3	浅鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	I群	太さ7ミリの隆線2本による重弧状の区画文。	925-005 赤色塗彩
4	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	やや不良	—	—	勝坂	太さ4ミリと7ミリの隆線による横位区画と、斜位の区画文。	925-985
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	隆帯による突起。	925-995
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁から隆線が「Y」字状に垂下する。	925-975
7	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅6ミリの平行沈線で文様を描く。太さ8ミリの隆線が垂下する。	925-995
8	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	太さ5ミリの隆起線による突起。刻みが入る。	925-985
9	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	I群	幅7ミリの隆帯。太さ3ミリの沈線文。	925-990
10	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	I群	太さ4ミリの沈線2本を横位に、その間に太さ8ミリの隆線を施文。竹管により斜位に沈線を施す。	925-990
11	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	—	—	I群	太さ5~6ミリの沈線で口縁部文様帯を区画し、中に縦位の沈線が充填される。	925-980
12	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの砂粒、石英	普通	—	—	阿玉台	口縁部幅3ミリの縦の刻み目。三角錐状モチーフの隆帯。内面にも竹管の刺突と爪形文を施文。	925-990
13	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、小石、軽石粒	普通	RL	縦横	I群	口縁部太さ2ミリの沈線2本による区画。	925-000
14	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	I群	半截竹管により沈線を横位に施文。半截竹管をねじるように刺突する。口縁部、胴部には平行沈線を斜位に施文。	925-990
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	—	—	勝坂	半截竹管による平行沈線。	925-000
16	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	無文波状口縁部に円形の刺突。	925-995
17	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅10ミリの刻みと隆線文。	925-975
18	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	勝坂	太さ8ミリの隆線による区画。上面に半截竹管による爪形文を施文する。太さ2ミリの沈線による三角状区画・印刻文。	925-985
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの砂粒、小石、軽石粒	普通	—	—	勝坂	太さ6ミリの隆帯文と沈線文、爪形文も巡る。	925-990
20	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	I群	太さ1~2ミリのヘラ状工具による横位の沈線。	925-005
21	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	勝坂	幅6ミリの爪形の刻み列。太さ3ミリの隆起線による横位区画。	925-985
22	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	五領ヶ台	半截竹管による横位、斜位の沈線文。	925-985
23	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	L	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による重弧文様。擦糸。	925-005
24	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	R	—	I群	沈線。棒状工具による刺突。擦糸。	925-990
25	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	太さ8ミリの隆線による渦巻文様。隆帯に刻みが施文される。	925-975
26	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	I群	太さ8ミリの隆線による貼り付け。	925-995
27	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリ前後の砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	隆起線とそれに沿う半截竹管による押し引き文。	925-010
28	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~5ミリの砂粒、小石	良	RL	横	Ⅲ群1類	幅10ミリの隆帯による楕円区画。突起部内面にも沈線文を持つ。	925-000

第4章 出土遺物

II区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、雲母	普通	RL	横	III群	幅10ミリの隆帯を横位に巡らす。隆帯上下を沈線状に施文。	925-990
30	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの砂粒、石英	普通	RL	横	III群	太さ8ミリの沈線2本とそれに挟まれる太さ2ミリの浮線文による斜位の区画。	925-990
31	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LRL	横	III群	口縁部隆線と沈線による渦巻状文様。	925-000
32	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、砂粒	良	RL	斜	III群	太さ8ミリの沈線による渦巻文。	925-995
33	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	III群	太さ6ミリの沈線による横位の楕円区画。	925-990
34	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	III群	太さ8ミリの沈線による区画。	925-000 赤色塗彩
35	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	縦	III群	口縁部に楕円、渦巻の文様を隆帯で描く。	925-995
36	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	縦	IV群	原体0段多条。太さ6ミリの沈線による横位渦巻状区画。	925-985
37	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	RL	横	IV群	幅8ミリの隆帯による横位区画。太さ3ミリの浮線による楕円区画。	925-000
38	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦横	加曽利E	太さ5ミリの隆起線による横位区画と楕円状区画。	925-985
39	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、角閃石	普通	-	-	加曽利E	太さ9ミリの沈線2条による横位区画。	925-005
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	不良	RL	斜	VI群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	925-995
41	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	III群	太さ5ミリの沈線による横位区画と楕円状区画。	925-985
42	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	RL	縦	III群	太さ8ミリの沈線による区画。	925-000
43	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	III群	口縁部横位のヘラナデ。太さ3ミリの隆線を横位に巡らす。	925-000
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ8ミリの沈線による弧線文。	925-985
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの砂粒	良	-	-	加曽利E	太さ5ミリの隆線による楕円区画。	925-985
46	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	-	V群	太さ7ミリの沈線による波状文。	925-975
47	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LRL	縦	V群	口縁部太さ4ミリの沈線による縦位区画。	925-985
48	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL LR	横	V群	太さ6ミリの沈線2本による楕円区画。羽状縄文。	925-990
49	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	V群	口縁部に半截竹管による刺突列。太さ6ミリの沈線による波状区画。	925-985
50	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、雲母	普通	RL LR	-	V群	太さ4ミリの沈線2本の楕円区画。	925-990
51	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL LR	横	VI群	羽状縄文。	925-000
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	-	VI群	口縁部波状。太さ3ミリの沈線を横位に巡らす。	925-990
53	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL LR	横	VI群	太さ5ミリの沈線による横位区画。羽状縄文。	925-000
54	深鉢	口縁	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	口縁部ヘラ横ナデ。太さ4ミリの沈線を横位に施文。	925-990
55	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒	普通	LR	縦	VI群	口縁部に太さ5ミリの沈線が巡る。	925-975
56	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL LR	横	VI群	太さ4ミリの沈線による横位施文。羽状縄文。	925-990
57	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	-	-	VI群	口縁部ヘラ横ナデ。太さ3ミリの浮線文による縦・横位区画。	925-000
58	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	VI群	口縁部横位の整形。太さ4ミリの隆起線による横位区画。	925-985
59	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群	口縁部無文。太さ6ミリの隆線による横位の区画。	925-985
60	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	VI群	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	925-005
61	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒多い	普通	LR	-	VI群	口縁部に微隆起線が巡る。	925-980

II区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
62	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	口縁部無文帯横位の整形。頸部隆起線による横位区画。	925-010
63	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	やや不良	RL	縦横	VI群	太さ2ミリの沈線による「U」「∩」状の文様区画。	925-985
64	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL LR	横	VI群	口縁部横ナデ。沈線と突起。羽状縄文。	925-000
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	VI群	口縁部隆線による横位区画。太さ2ミリの沈線区画。口縁部ペン先状工具による刺突。	925-000
66	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	VI群	口縁部太さ2ミリの沈線による区画と刺突。	925-000
67	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	VI群	口縁部ペン先状工具による2列の刺突文。下部に太さ3ミリの隆起線による横位区画と沈線区画。	925-985 100と同一個体
68	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	不良	RL		VI群	太さ5～6ミリの沈線による文様区画。無文部に磨り消し縄文。	925-980
69	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
70	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	口縁部に横位の刺突文。太さ7ミリの沈線による区画。	925-995
71	深鉢	突起	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	表面剥離多い。	925-985
72	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通			加曾利E		925-985
73	深鉢	突起	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺	円柱状突起。外側に刺突文。	925-005
74	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦斜	堀之内	口縁部太さ3ミリの隆起線による横位区画。太さ2ミリの沈線による重弧文と磨り消し縄文。	925-985
75	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	V群	太さ8ミリの隆線による横位区画。太さ6ミリの沈線による楕円区画。	925-985
76	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通	—		V群4類	幅12ミリに6条の櫛状工具により波状に条線が引かれる。	925-975
77	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y6/1	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通			V群1類	幅12ミリの渦巻状の隆帯。	925-990
78	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	不良	—		V群4類	口縁部ヘラ状工具による斜位の条線文。	925-010
79	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1～3ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	925-985
80	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦斜	加曾利E	太さ8ミリの沈線による横位区画と縦位区画。	925-985
81	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
82	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	R			外面縦位のヘラ削り。太さ2ミリの沈線による縦位区画。撚糸。	925-000
83	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	黒色粒	普通	RL		加曾利E	太さ5ミリの断面三角形になる隆線による文様区画。	925-980
84	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良	R		I群	幅15ミリの隆帯による横位区画。撚糸。	925-000
85	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線で縦位区画。	925-980
86	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	925-000
87	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	925-985
88	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	925-990
89	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
90	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	925-005
91	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	925-985
92	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	925-985
93	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による垂線。	925-995
94	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	原体0段多条。太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985

第4章 出土遺物

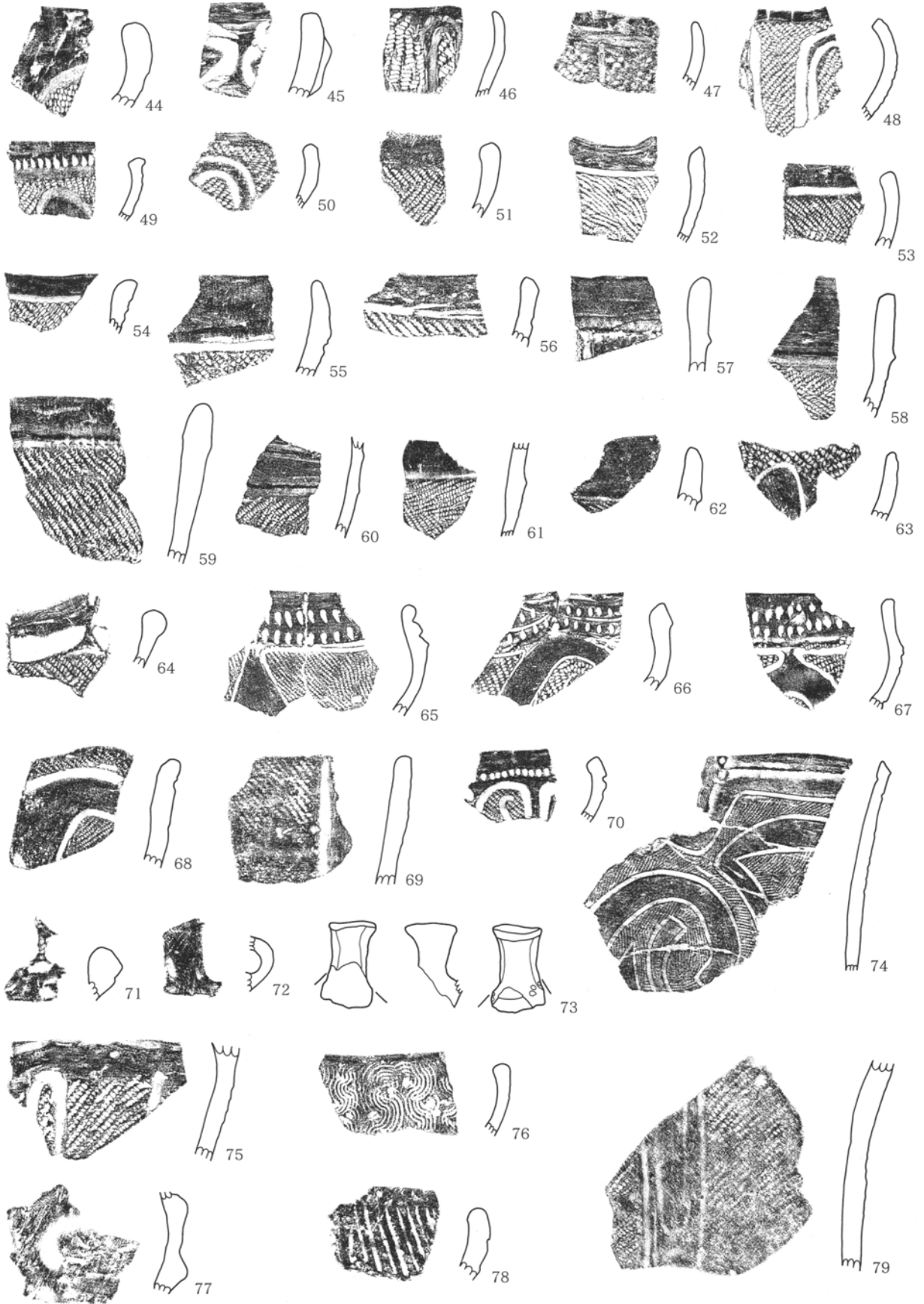
II区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	縦位の整形とミガキ。	925-985
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ5ミリの沈線が垂下する。沈線間は、上下方向に擦痕。	925-995
97	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	VII群4類	太さ6ミリの沈線による縦位区画。条線が施文される。	925-975
98	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-990
99	深鉢	胴部	明黄褐	2.5Y7/6	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	LR	横斜	VI群1類	太さ4ミリの沈線による楕円状区画。	925-000
100	深鉢	口縁~胴部	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	VI群1類	太さ3ミリの沈線による楕円状区画。	925-990 67と同一個体
101	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	黒色の細粒	普通	RL	横	VI群1類	太さ3ミリの沈線による楕円状区画。	925-995
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群1類	太さ2ミリの沈線による楕円状区画。	925-990
103	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ3~5ミリの沈線による縦位区画。	925-975
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による波状区画。	925-985
105	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの隆線による楕円状区画。	925-985
106	深鉢	胴部	褐	10YR4/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による楕円状区画。一部隆帯。	925-000
107	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による重弧文。	925-985
108	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線と太さ7ミリの沈線による楕円状区画。	925-000
109	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	—	加曾利E	幅5ミリの断面三角形になる隆帯。	925-980
110	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの砂粒、小石、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E	太さ5ミリの隆線（浮線文）による横・縦位区画。羽状縄文。	925-000
111	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
112	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	925-985
113	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E		925-990
114	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	竹管による沈線。太さ3ミリの隆線による縦位区画。	925-000
115	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E		925-010
116	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	やや不良	RL	横	加曾利E		925-985
117	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	—	—	VII群4類	条痕文。	925-000
118	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	VII群4類	櫛状工具による条線文。	925-985 長野系
119	深鉢	胴部~底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E		925-000
120	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E		925-000
121	深鉢	胴部~底部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	—	—	加曾利E	外面横方向の整形。上げ底になる。	925-980
122	深鉢	胴部~底部	橙	5YR7/8	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	—	—	加曾利E		925-000
123	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による楕円状区画。底面ヘラナデ。	925-000
124	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E		925-985
125	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	白色粒	良	—	—	加曾利E	外面横方向の整形。	925-980
126	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	ヘラナデ。	925-990
127	深鉢	胴部~底部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良	—	—	加曾利E		925-000
128	深鉢	底部	外面 灰白 内面 黒褐	10YR8/2 10YR3/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	無文。	925-995
129	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリ小石	良	—	—	加曾利E	上げ底。	925-980



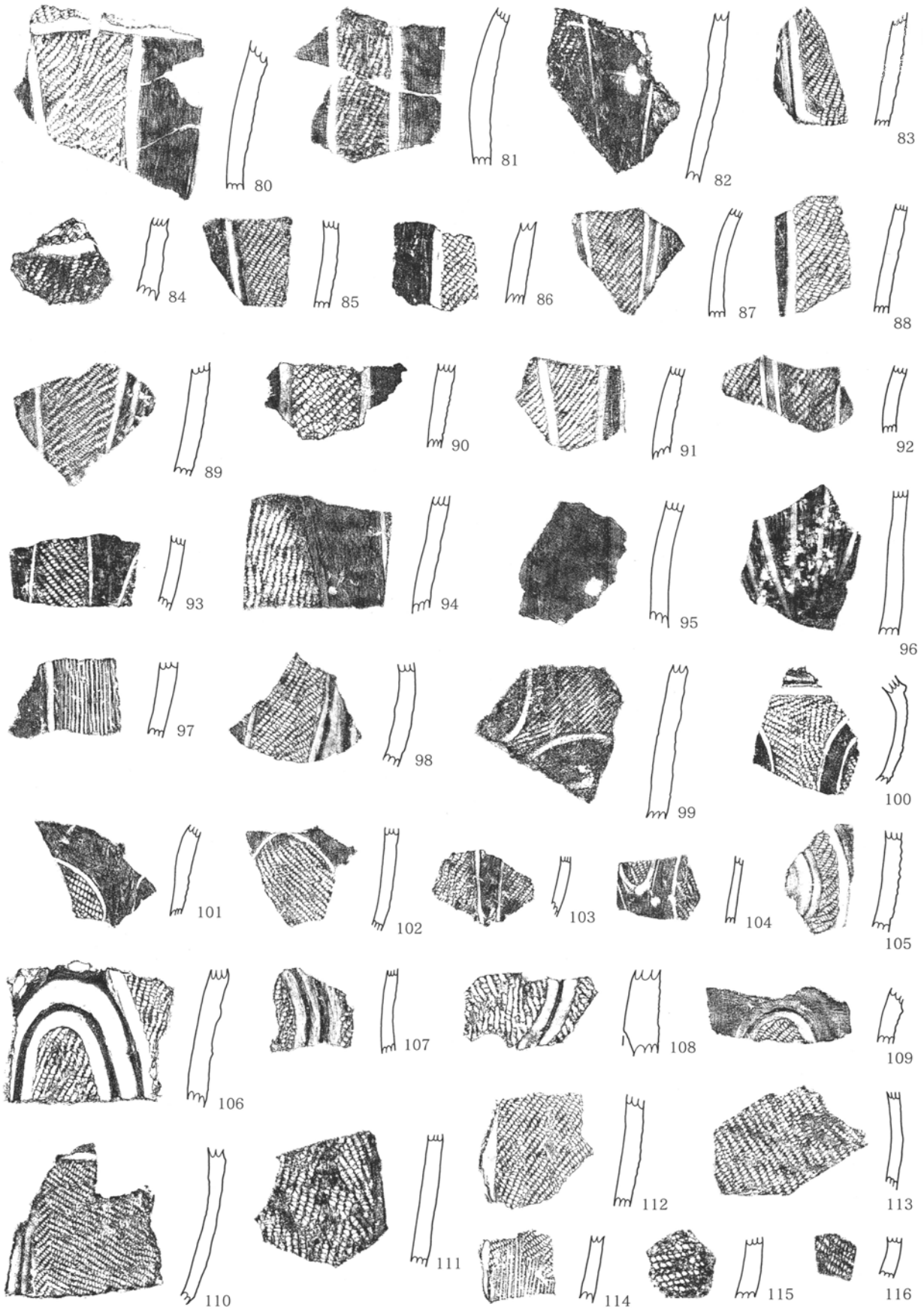
第165図 925グリッド出土土器 (1)

0 20cm



第166図 925グリッド出土土器 (2)

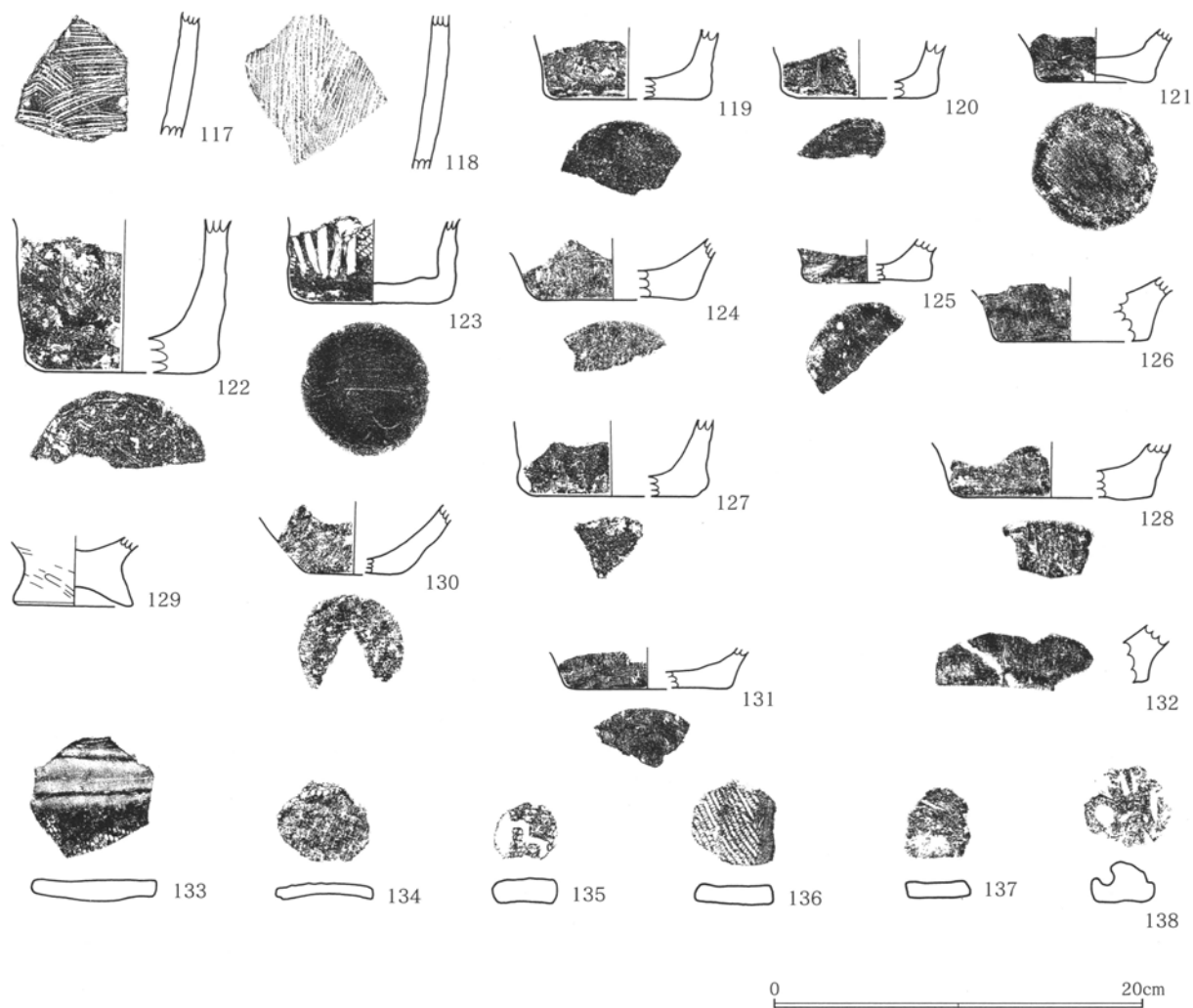
0 20cm



第167図 925グリッド出土土器 (3)

0 20cm

第4章 出土遺物



第168図 925グリッド出土土器 (4)

II区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
130	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良			加曾利E	無文。	925-995
131	深鉢	底部	明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの砂粒多い	不良			加曾利E	無文。	925-995
132	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E		925-985
133	土製円盤		橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦		微隆起線で縦位の区画。	925-995
134	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	半截竹管による結節沈線文。	925-985
135	土製円盤		褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	普通				竹管による山形の沈線。	925-000
136	土製円盤		淡黄	2.5Y8/3	白色粒	普通	LR			縦区画の沈線が施文される。	925-975
137	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒	良	—			無文。	925-975
138	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良				突起部、円状に隆帯を貼り、内側凹みにペン先状工具による刺突を施す。ヘラ状工具による沈線。	925-000

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	諸機c	幅3ミリの平行沈線を集合化させた縦線と斜線を描く。ボタン状、棒状の粘土貼り付け。	930-990
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	前期末	太さ3ミリの沈線を集合させて横位の区画線と弧線を描く。	930-990
3	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	中期前半	幅14ミリの橋状把手。その下部に沈線による逆三角状の文様。	930-980 橋状把手
4	深鉢	突起	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	太さ4ミリの隆線が渦巻状に貼り付けられる。	930-995
5	深鉢	突起	橙	5YR6/8	φ1ミリの砂粒	良	—	—	勝坂	口縁部突起。太さ2ミリの沈線による渦巻文。	930-985
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	幅5ミリの爪形文。	930-980
7	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリ以下の砂粒	良	—	—	勝坂	口縁に横位の沈線。無文、外面丁寧なミカキ。	930-995
8	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	口縁波状を呈し、頂部口唇部棒状工具による刺突列を施す。頂部より縦位に半円状の突起を貼り付け上面に半截竹管による押し引き文。隆帯に沿って2列の角押文。	930-005
9	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	太さ12ミリの隆線とペン先状刺突列が施文される。	930-015
10	深鉢	突起	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	阿玉台		930-970
11	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、石英	普通	—	—	勝坂	口縁部波状を呈し頂部に隆帯を貼り付ける。口唇部には、棒状工具による刺突。	930-980
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石多い	不良	—	—	阿玉台	幅5ミリの平行沈線と結節沈線による楕円文様。	930-010
13	深鉢	口縁	灰褐	5YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	勝坂	半截竹管による横位の爪形文。ペン先状工具による2列横位の刻み列。	930-985
14	深鉢	突起	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	環状の突起を2つ重ね合わせる形で縦位に貼り付けられる。ペン先状工具による刻み列、片面には棒状工具による刺突が施文される。	930-005
15	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	突起は、橋状に貼り付けられる。片面に刻みを持つ。	930-990
16	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—	—	勝坂	太さ7ミリの隆線と刻み列による文様区画。	930-970
17	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	太さ7ミリの隆線と刻み列による文様区画。	930-970
18	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	幅6~7ミリの平行沈線と隆線を楕円形に施文し、区画内に鋸歯状の文様を施文する。	930-005
19	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの白色粒、小石	普通	—	—	I群	太さ5ミリの沈線による渦巻文。	930-000
20	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	太さ10ミリの隆帯が横位に巡る。横位の爪形列。	930-995
21	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	幅6ミリの平行沈線を横位に施文。ペン先状刺突や三角印刻文。	930-000
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	勝坂	太さ5ミリの隆線による弧線状の区画。それにペン先状工具による刺突列。	930-985
23	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	細かい砂粒	良	LR	横	I群	太さ8ミリの隆線と2ミリの沈線文。	930-995
24	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒、軽石粒	良	L	—	I群	太さ6ミリの隆線による斜位施文。太さ2ミリの沈線3条による重弧文区画。燃糸。	930-985

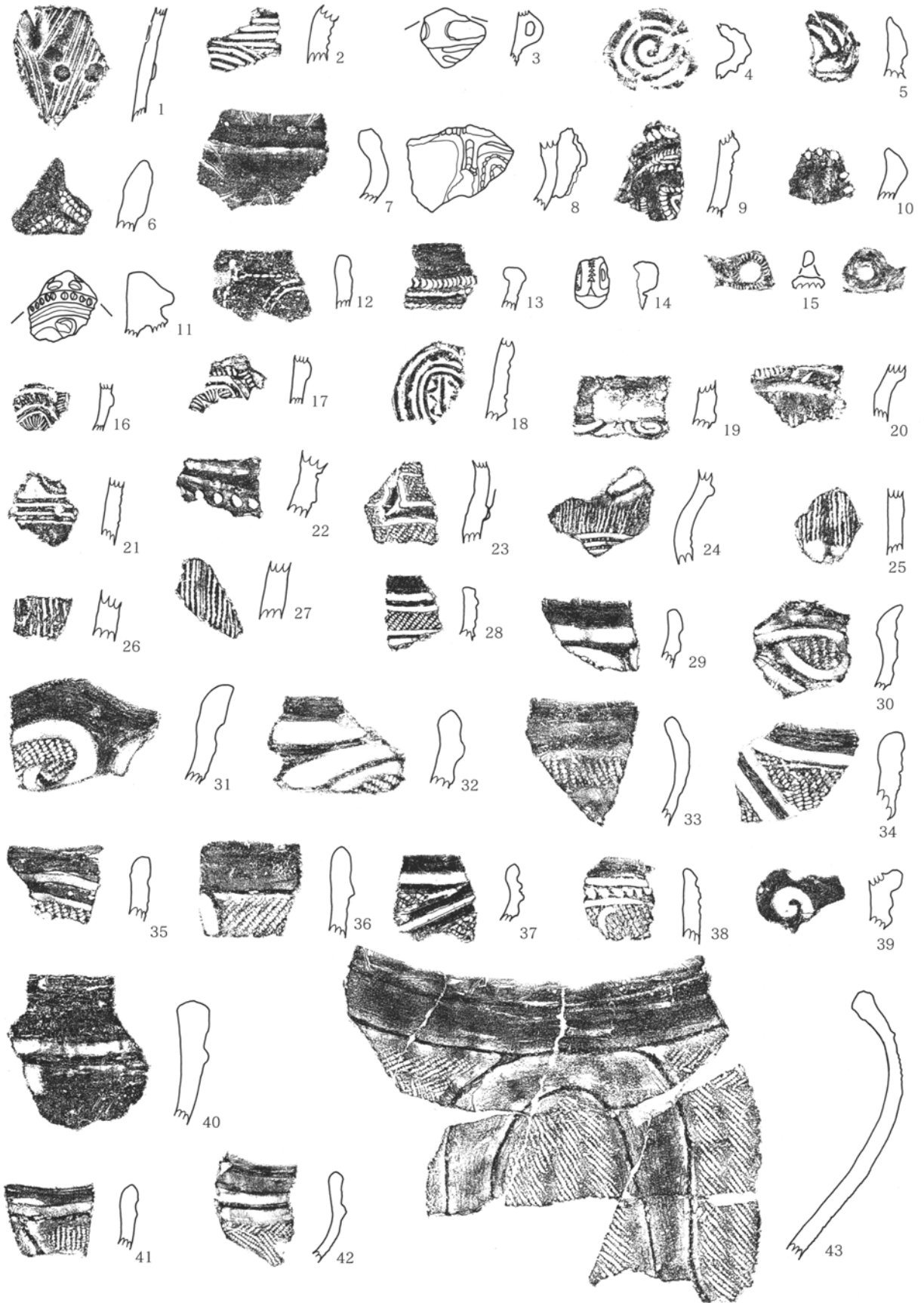
第4章 出土遺物

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
25	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリ小石	良	L		I群	燃糸。	930-985
26	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリ小石	普通	LR		I群	燃糸。	930-035
27	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR		I群	燃糸。	930-035
28	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい白色粒	良	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの隆・沈線による文様区画。区画内に縄文が充填される。	930-030
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	—		加曽利E	口縁に太さ10ミリの沈線が巡る。隆線で楕円文。	930-020
30	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、雲母	普通	RL	斜	加曽利E	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	930-990 舌状突起
31	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい黒色粒	普通	RL	縦横	Ⅲ群1類	口縁部に太さ10~12ミリの沈線で渦巻文様を描く。	930-000
32	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E	太い沈線による口縁部楕円区画。	930-990
33	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒多い	やや不良	RL	斜	加曽利E	隆帯による口縁部楕円区画。全体に磨りつぶし。	930-995
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	RL		加曽利E	太さ10ミリの隆・沈線による文様区画。	930-015
35	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曽利E	太さ5~7ミリの沈線による区画。区画下を縄文施文。	930-995
36	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒、小石	不良	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの断面三角形の隆線で口縁部文様帯を区画する。横位の隆線から縦位区画の垂線が施文。	930-000
37	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曽利E	太さ5ミリの隆線による文様区画。	930-025
38	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	RLR	横	加曽利E	太さ5ミリの沈線で口縁を横位に区画している。区画内は太さ4ミリの沈線で弧線を描く。口縁にはφ5ミリの刺突が巡る。	930-995
39	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの砂粒、小石	良	—		加曽利E	楕円状の隆帯に太さ5ミリの沈線で渦巻状の文様を施文。	930-985
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリ小石	普通	—		加曽利E	太い隆・沈線が口縁部に巡る。	930-975
41	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ8ミリの沈線が口縁部に巡る。小波状口縁の頂部から縦位に隆線が付けられる。	930-000
42	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR	縦横	Ⅵ群1類	口縁部に断面三角形の隆線が巡り、無文部と区別する。	930-990
43	深鉢	口縁~胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群1類	隆起線による口縁区画。胴部に大波状の区画。胴部区画内磨り消し縄文。	930-995
44	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	φ1~3ミリの砂粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部隆起線による区画。0段多条。	930-995
45	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群3類	太さ3ミリの沈線による横位区画。	930-985
46	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	LR	横	Ⅵ群3類	口縁部に断面三角形、太さ4ミリの隆線が巡る。	930-990
47	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	—		Ⅵ群3類	口縁部を隆線が巡る。	930-015
48	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群	口縁隆起線で区画。以下を縄文施文。	930-995
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリ小石	不良	LR		Ⅵ群	口縁部に浅い沈線が巡る。	930-990
50	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	不良	LR	横	Ⅵ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	930-995
51	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL		Ⅵ群	太さ4ミリの沈線が口縁を巡る。	930-990
52	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	細かい砂粒	普通	LR RL	横	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線で口縁部区画する。	930-995
53	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡る。太さ2ミリの沈線による柳葉形の文様。	930-975
54	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		Ⅵ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	930-010

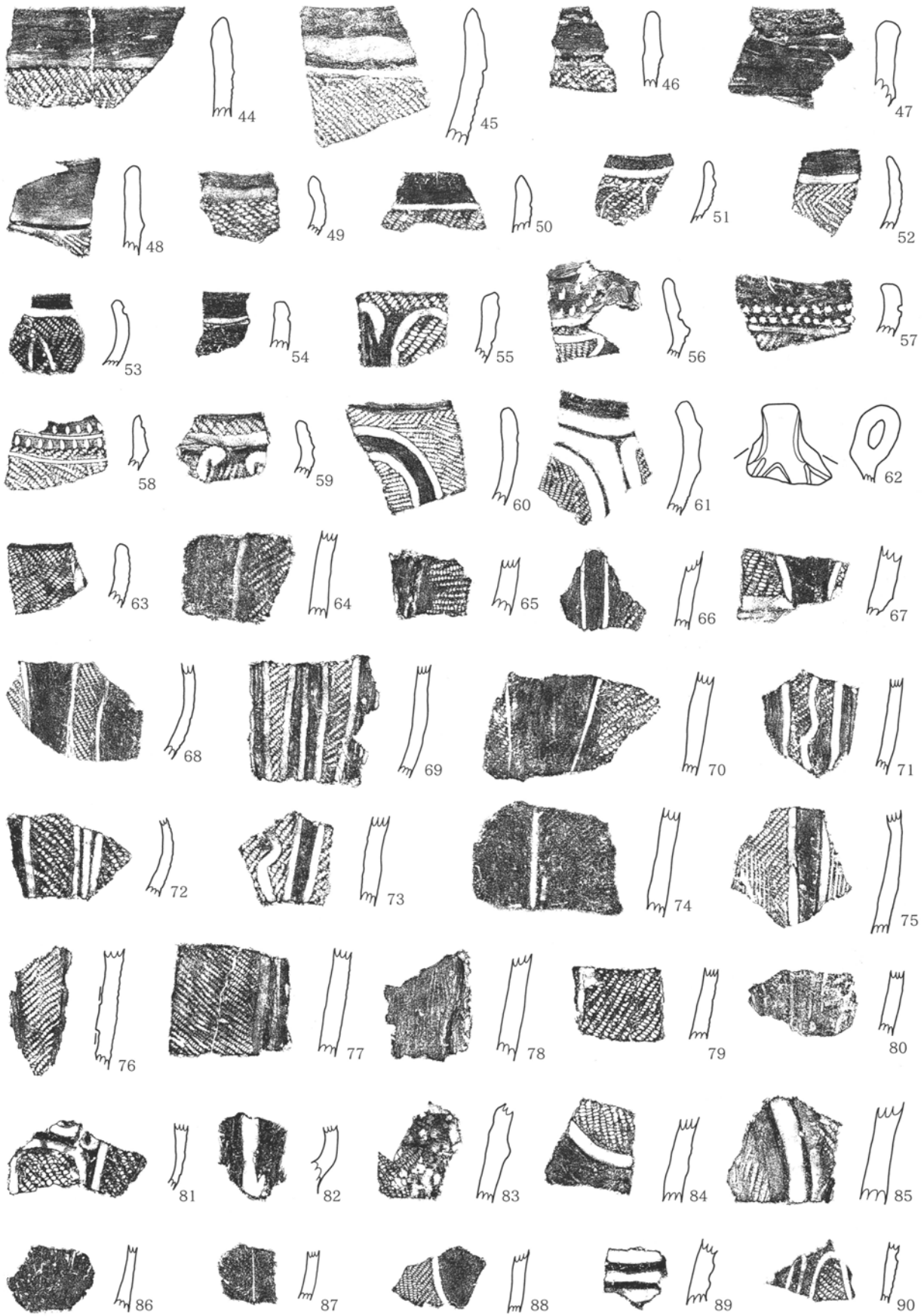
II区930グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
55	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	V群1類	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	930-985
56	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	LR		VI群	波状口縁。頂部に突起。隆線で口縁部文様帯を区画する。口縁部には刺突が加えられる。	930-990
57	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒	不良	LR		V群2類	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡り、文様帯を区画。口縁は、幅3ミリの半截竹管による2列の刺突列。	930-990
58	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	微細な黒色粒含む	良	RL	横	V群2類	口縁部に2段の刺突。以下を縄文施文。	930-995
59	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1ミリの白色粒	良	RL		VI群1類	太さ10ミリの沈線で口縁部文様帯を区画。下位には、「J」文。	930-990
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	縦横	V群	太さ4~5ミリの浅い沈線を2本対にして弧線を描く。	930-000
61	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~5ミリの小石	普通	RL		V群	断面三角の隆線による口縁部弧状の文様施文。	930-015
62	深鉢	把手	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	普通	—		VI群2類	口縁部環状把手。その下部に沈線による文様。	930-985 環状把手
63	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦横	加曾利E	太さ7ミリの沈線が縦位に施文される。	930-005
64	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの白色粒、小石	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	930-000
65	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~3ミリの小石多い	良	LR	斜	加曾利E	断面三角形の隆線による縦位区画。	930-020
66	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒	良	LR	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	930-980
67	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。無文部は磨り消し縄文。	930-975
68	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	930-985
69	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	930-000
70	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。無文部を広くとる。	930-990
71	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。区画内には同じ沈線による波状文。	930-000
72	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ4~6ミリの沈線が縦位に施文。	930-975
73	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線が2本対になる縦位区画の線と波状の沈線が施文される。	930-995
74	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	砂粒多い	不良	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	930-980
75	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線2本対になり、垂下する。下半部には縄文に代わり条線が施文される。	930-995
76	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	930-990
77	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	断面三角の低い隆線で縦位に施文。	930-005
78	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの黄色粒、小石	普通			加曾利E	低い隆線による縦位区画。無文部は、縦位方向の整形。	930-000
79	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	930-025
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、砂粒	普通	—		加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	930-990
81	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1~3ミリの白色粒	良	LR	縦	V群	太さ4ミリの沈線による縦位の区画と楕円区画。区画内には、縄文が充填される。	930-975
82	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ8ミリの沈線が「J」状に施文される。	930-975



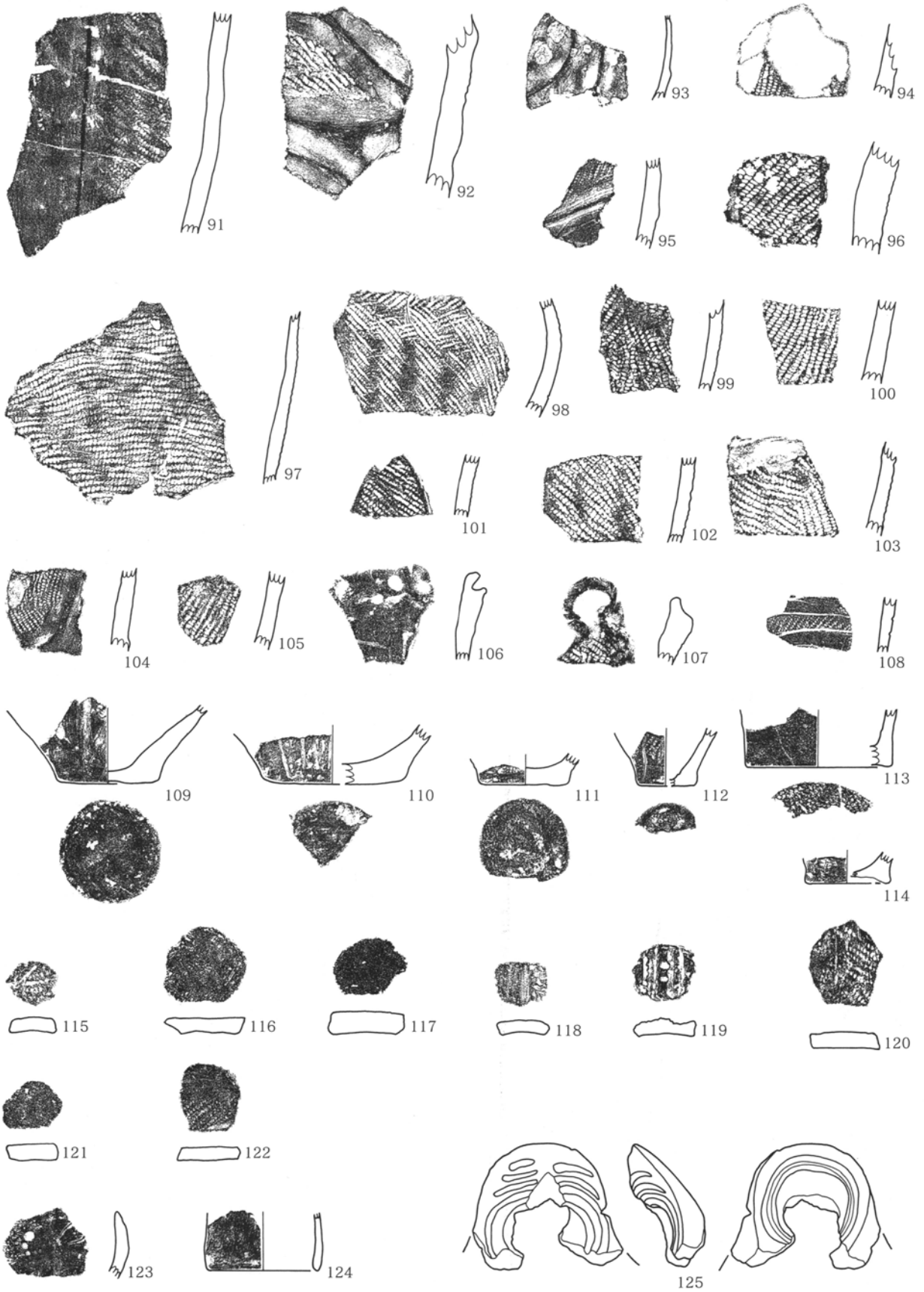
第169図 930グリッド出土土器(1)

0 20cm



第170図 930グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第171図 930グリッド出土土器 (3)

0 20cm

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
83	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦横	加曾利E	断面三角形の隆線が口縁部に巡る。	930-980
84	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による弧線状区画。	930-985
85	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒	良	RL	縦横	加曾利E	太さ10ミリの2本対になる隆線で弧線を描く。	930-995
86	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	縦位の整形。	930-980
87	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	太さ1ミリの沈線が施文される。	930-980
88	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	930-980
89	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリ小石	良	—		加曾利E	隆・沈線が横位に施文される。	930-025
90	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	930-980
91	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1ミリの白色粒	良	RL		VI群	断面三角形の隆線による縦位区画。	930-020
92	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	RL	横	VI群	幅10ミリの隆帯で文様帯をなす。	930-995
93	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの小石多い	良			VI群	薄手の土器。7ミリの隆線で曲線を描く。	930-995
94	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	表面剥落多い。	930-980
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL		VI群	断面三角の隆線による縦位の区画。	930-000
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリ小石	普通	RL	縦	加曾利E	沈線による縦位区画。	930-005
97	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリ小石	普通	RL	斜	加曾利E	縄文施文。	930-000
98	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	縄文を間隔をあけて施文。	930-995
99	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL		加曾利E		930-015
100	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~2ミリ小石	普通	RL		加曾利E		930-990
101	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による楕円区画。	930-010
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい白色粒	普通	LR	縦	加曾利E		930-000
103	深鉢	胴部	黒	2.5Y2/1	φ1ミリの白色粒多い	良	LR	横	加曾利E	縄文原体を変えて羽状縄文を作る。0段多条。	930-995
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL		加曾利E	断面三角形の隆線で楕円区画を作る。	930-980
105	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリ小石	不良	RL		加曾利E		930-990
106	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリ小石	良	—		堀之内	口縁部が緩やかな波状になる。頂部に2つの刺突。他に貫通した孔。頂部の刺突文の下に孔が有るか粘土により埋められている。	930-980
107	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	後期	口縁部楕円柱状の突起。頂部ややかさ状に広がる。	930-005
108	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	細かい砂粒	良	LR		堀之内	太さ1ミリの沈線による横帯区画。無文部は磨り消し縄文。	930-990
109	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		加曾利E	太さ8ミリの浅い沈線が縦位に施文。	930-980
110	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線で縦位の区画を作る。	930-990
111	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒、小石	普通	—		不明		930-000
112	深鉢	胴部~底部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	930-985
113	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石多い	良	—		後期	底面に網代痕。外面縦位に整形。	930-980
114	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	良	—		不明	上げ底。	930-980
115	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良				縄文が施文されるが原体ははっきりしない。	930-995
116	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—			底部片を転用している。	930-005

第4章 出土遺物

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
117	土製円盤		褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリ小石	良	-			無文。	930-975
118	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	-			浅い沈線による縦位の区画線。緑辺を打ち欠いて成形。	930-990
119	土製円盤		淡黄	2.5YR8/3	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通			阿玉台	太さ6ミリの隆線による2条の横位区画。隆線には刻み列を施文する。隆線に沿ってペン先状工具と半截竹管による沈線を施文。	930-985
120	土製円盤		淡黄	2.5YR8/3	φ1ミリの小石、白色粒	不良	RL		加曾利E		930-990
121	土製円盤		浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	-			無文。緑辺を打ち欠いて成形。	930-005
122	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	磨り消し縄文で縦位の区画。	930-980
123	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	不良	-			外面に整形痕。	930-020 ミニチュア土器
124	甌	底面	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	-		土師器	内外面ともミガキ整形。	930-000
125	深鉢	把手	黒褐	7.5YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	-		勝坂	太い沈線が弧を描く。口縁上端に付き、橋状になる。	930-990 橋状把手

II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	-		諸磯c	口縁部に棒状の粘土貼り付け。地文は、幅4ミリの平行沈線を条線状に施文。	935-990
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	-		勝坂	幅6ミリの刻み列が横位に施文される。頸部との区画には、太さ2ミリの沈線が巡る。	935-005
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	-		前期末	幅3ミリの結節沈線が縦位に施文される。	935-040
4	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	口縁部に隆線による横位区画。区画内には、2列のペン先状刺突。	935-990
5	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	-		阿玉台	太さ2ミリの押し引き沈線で口縁部文様を区画。区画内を3条の押し引き沈線が鋸歯状に施文。	935-030
6	深鉢	口縁	橙	5YR7/6	φ1~2ミリの砂粒、雲母	普通			勝坂	太さ8ミリの隆線に刻みと刺突を施す。	935-995
7	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	-		阿玉台	幅5ミリの平行沈線による押し引き沈線による文様。	935-005
8	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	-		阿玉台	太さ5ミリの隆線による口縁部文様とペン先状工具による2条2組の押し引き刻み列。	935-970
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、金雲母	良			阿玉台	隆帯上面に竹管による押し引き。竹管による沈線。口縁部上面には、ヘラ状工具による刻みを入れる。	935-980
10	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリ小石	良	-		勝坂	口縁部にペン先状の刺突列。	935-020
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通			勝坂	太さ10ミリの隆線に爪形文。	935-995
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	-		I群	太さ6ミリの隆線による横位区画と楕円区画。	935-975
13	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通			阿玉台	隆帯に竹管による爪形文を施す。	935-995
14	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリ小石	良	-		勝坂	無文。口縁に突帯。	935-005
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリ白色粒	良	-		勝坂	横位の整形。	935-005
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通			阿玉台	口縁に半截竹管による押し引き文。	935-995
17	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリ以下の砂粒	良	-		I群	口縁に交互刺突列と隆線刻みが付けられる。	935-020
18	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小石	不良	-		勝坂	太さ7~8ミリの断面蒲鉾状の隆線で文様帯を区画する。区画内を幅4ミリの平行沈線と隆線が施文。	935-030

II区935グリッド出土土器観察表

図録 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
19	深鉢	胴縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、金雲母	普通			阿玉台	竹管による押し引きと刺突。	935-000
20	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		勝坂	太さ5ミリの隆線による縦位・斜位区画。それに沿うように幅8ミリの爪形の刻み列。	935-975
21	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの砂粒、金雲母	普通			阿玉台	隆帯貼り付け後平行沈線。	935-000
22	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒、小石	良			勝坂	横位の平行沈線。ヘラ先による刺突の刻み。	935-980
23	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			勝坂	幅5ミリの隆帯。絡条帯。	935-995
24	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒	良	RL		I群	太さ4ミリの沈線による方形区画。	935-015
25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR		I群		935-020
26	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、石英	普通	R		勝坂	捺糸。	935-985
27	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—		Ⅲ群1類	太さ6ミリの隆線による渦巻状施文とそれに沿うヘラ状工具による渦巻状沈線。縦位の沈線。	935-010
28	深鉢	口縁	灰オリーブ	5Y6/2	φ1~3ミリの小石	普通	—		Ⅲ群	太さ15ミリの沈線による横位区画。	935-970
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、雲母	普通			Ⅲ群1類	太さ5ミリの沈線、突起を持つ。	935-995
30	両耳壺	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	LR RL	横	Ⅶ群2類	口縁部に浮線を回し、突起がつく。羽状縄文。	935-995 橋状把手
31	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅲ群	幅12ミリの隆帯による区画。	935-000
32	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリ砂粒	普通	LR	縦	Ⅲ群	口縁に浮線を回す。	935-995
33	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅲ群	口縁部幅7ミリの隆帯による横位の突起。	935-010
34	深鉢	口縁	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅲ群	口縁に太さ3ミリの沈線を回す。	935-995
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部波状を呈し、太さ6ミリの沈線による区画を施文する。	935-975
36	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、白色粒	良	—		Ⅲ群	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡り無文帯と区画する。	935-990
37	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	RLR	縦	加曾利E	口縁に太さ8ミリの沈線による区画。	935-000
38	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	口縁に太さ9ミリの沈線を回す。太さ10ミリの隆線による区画。	935-995
39	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	口縁部無文、横ナデ。頸部太さ6ミリの沈線による横位区画。	935-980
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。	935-010
41	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	太さ5ミリの沈線による横位区画。14ミリの隆線による斜位の区画。	935-975
42	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/5	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	太さ10ミリの沈線。	935-995
43	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	把手。上面はナデ。	935-995
44	深鉢	胴部	暗赤灰	2.5YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線区画。条痕。	935-995 橋状把手
45	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	LR	横	加曾利E	口縁部波状。口縁に沿って2条の沈線を巡らす。	935-975
46	両耳壺	把手	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒	良	—		加曾利E		935-975 橋状把手
47	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	隆線による楕円区画。	935-990
48	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL LR	横	加曾利E	口縁に太さ9ミリの沈線を巡らす。太さ4ミリの沈線で区画。羽状縄文。	935-995
49	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR		Ⅵ群1類	太さ10ミリの沈線が口縁部に巡る。口縁部には曲線文様を描く。	935-005

第4章 出土遺物

II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
50	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL		VI群	太さ7ミリの浅い沈線で弧線を描く。	935-030
51	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい白色粒多い	普通	RL		VI群	太さ7~8ミリの隆線による文様。	935-005
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、雲母	普通	LR	縦横	V群	太さ6ミリの沈線。	935-995
53	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	VI群	口縁部環状突起。口縁部ペン先状工具による刺突。	935-985
54	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、雲母	良	RL	横	VI群	口縁部に突起を持ち、ペン先状の刺突。太さ5ミリの沈線。	935-995
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	VI群	口縁にφ4ミリの竹管による刺突を回す。同竹管により沈線文。	935-000
56	深鉢	口縁	褐灰	5YR4/1	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	口縁に太さ7ミリの沈線を回し、ヘラ状刺突。	935-995
57	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒	良	LR RL	縦横	VI群	太さ8ミリの沈線で区画する。	935-995
58	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、雲母	やや不良	LR	縦横	VI群	口縁に浮線を回す。	935-995
59	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	LR RL	横	VI群	羽状縄文。	935-000
60	深鉢	口縁	赤黒	10R2/1	φ1ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦横	VI群	口縁幅3ミリの浮線。	935-995
61	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの白色粒多い	普通	RL		VI群	口縁部に断面三角形の隆線による無文帯との区画。	935-020
62	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	VI群	口縁に浮線を回す。	935-995
63	深鉢	口縁	淡橙	5YR8/3	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群	口縁に太さ5ミリの浮線を回す。	935-995
64	深鉢	口縁	灰	5Y4/1	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群	口縁に太さ3ミリの浮線。	935-995
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦横	VI群	太さ4ミリの低い隆線が口縁部に巡る。	935-030
66	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	口縁部横位の浮線文、横ナデ。	935-985
67	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	φ1ミリの砂粒、角閃石	普通	RL	横斜	VI群	太さ4ミリの隆起線による横位区画。	935-010
68	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR RL	横	VI群	口縁部太さ3ミリの沈線。羽状縄文。	935-000
69	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	LR		VI群	太さ10ミリの沈線が巡る。	935-005
70	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	口縁部沈線を巡らす。	935-000
71	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	良	LR RL	横	VI群	口縁部ヘラ状工具による沈線を回す。羽状縄文。	935-000
72	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	縄文原体0段多条。太さ3ミリの隆起線による楕円区画。	935-010
73	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	やや不良	-		加曽利E	口縁部無文帯。横位の整形。	935-010
74	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL		加曽利E	太さ5ミリの沈線2条で縦位の無文帯区画。	935-005
75	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線区画(懸垂文)。	935-995
76	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの浮線と幅5ミリの竹管による沈線の縦位区画。	935-980
77	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画とヘラナデ。	935-985
78	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線。	935-995
79	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ10ミリの沈線。	935-995
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線2条で縦位の無文帯区画を作る。	935-005
81	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	935-010
82	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画(懸垂文)。	935-000
83	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	935-985

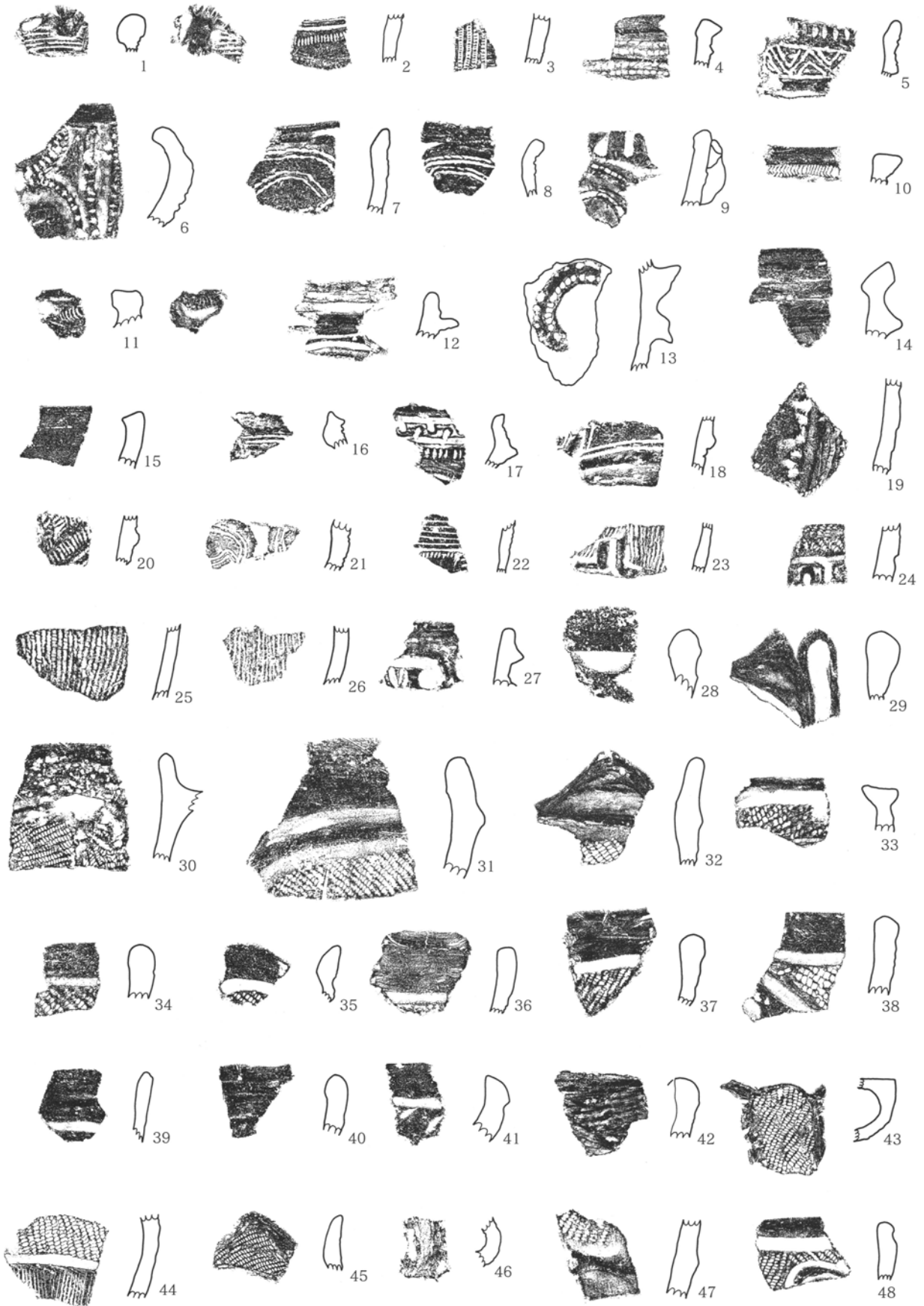
II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
84	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR5/1	φ1~5ミリの小石、白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ沈線が横位に施文される。	935-990
85	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの浮線区画。	935-995
86	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	935-000
87	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	R		加曾利E	太さ2ミリの縦位の浮線文。縦位のヘラナデ。撚糸。	935-985
88	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの浮線区画。	935-995
89	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	935-980
90	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ6ミリの沈線を縦位に施文。	935-005
91	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線(懸垂文)。	935-995
92	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	φ1ミリの白色粒	不良	RL		加曾利E	太さ3ミリの隆線による縦位区画。	935-990
93	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	935-985
94	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線区画。付加状2種。	935-995
95	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	RL	縦	VI群	縦位のヘラナデ。竹管による沈線区画。	935-980
96	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による区画。	935-000
97	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線で区画。	935-995
98	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	ペン先状工具による縦沈線。	935-995
99	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1ミリの白色粒	普通	RL		VI群		935-005
100	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	良	LR		加曾利E	太さ6ミリの浅い沈線による縦位の区画。	935-035
101	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	-		加曾利E	縦位の整形。	935-005
102	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線で区画。	935-995
103	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良			加曾利E	ヘラナデ。	935-985
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	935-015
105	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	935-000
106	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒	良	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。	935-990
107	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線(懸垂文)。	935-995
108	深鉢	胴部	灰白	10YR8/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	VI群	太さ9ミリの沈線区画。	935-995
109	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	RL		加曾利E	太さ3ミリの浅い沈線による文様区画。区画内は磨り消し縄文。	935-035
110	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	細かい砂粒	良	RLR		加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。縄文原体前々段合撚り。	935-990
111	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ2ミリの沈線で区画。	935-995
112	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	VI群	太さ3ミリの沈線区画。	935-000
113	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	VI群	太さ2ミリの沈線による区画。	935-995
114	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	良			VI群	太さ2ミリの沈線。	935-000
115	深鉢	胴部	淡橙	5YR8/4	細かい砂粒	普通			VI群	太さ5ミリの沈線で区画。	935-995
116	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	VI群	太さ8ミリの隆起線による横位区画と太さ5ミリの隆起線による楕円区画。	935-010
117	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良	RL	縦	V群2類	口縁部刺突。太さ5ミリの沈線による楕円区画。	935-980
118	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	やや不良	LR	横	VI群	浮線による区画。	935-995
119	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	-		加曾利E	太さ3ミリの隆起線による弧線状区画。	935-010
120	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	不良	LR		加曾利E	隆線による「Y」字状の文様。	935-990
121	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	太さ1ミリの沈線による柳葉形の区画。	935-015
122	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良			加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位・斜位の区画。	935-985
123	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	935-985
124	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	不良	RL		加曾利E	太さ6ミリの隆線による文様施文。	935-990

第4章 出土遺物

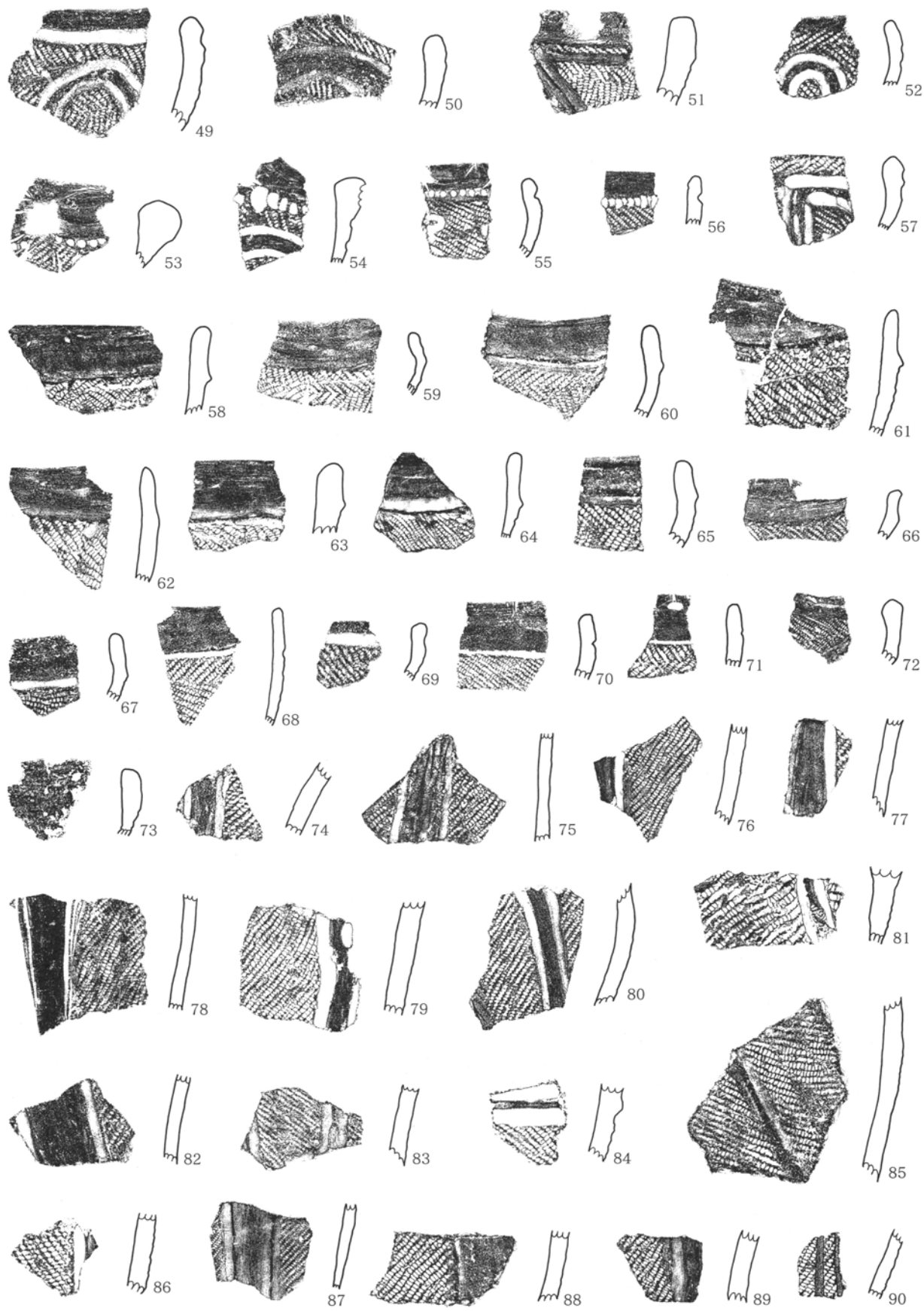
II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
125	浅鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石多い	良	—		I群	屈曲部上部に太さ3ミリの沈線が波状に施文される。	935-005
126	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	LR RL	横	加曾利E	太さ6ミリの浮線。羽状縄文。	935-995
127	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	横	VI群	太さ3ミリの隆起線による横位区画。	935-975
128	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ5ミリの沈線による横位区画。棒状工具によりφ6ミリの刺突列。	935-010
129	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線による区画。縦方向のナデ。	935-995
130	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横斜	加曾利E	太さ5ミリの沈線による区画。	935-010
131	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、黒色粒	良	RL		称名寺	口縁部に太さ6ミリの低い隆線が巡り無文帯を作る。胴部は太さ2ミリの沈線で曲線を描き「J」字文。無文部は、磨り消し縄文。	935-005
132	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	口縁部嘴状の突起。外面ペン先状工具による2列ずつの刺突列。	935-010
133	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	良	LR		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。	935-015
134	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通			堀之内	太さ3ミリの浮線による横位区画。	935-000
135	深鉢	胴部	灰褐	5YR6/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL		加曾利E		935-990
136	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E		935-995
137	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリ小石	普通	RL	横	加曾利E	縄文を帯状に施文。	935-005
138	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		935-995
139	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	加曾利E		935-980
140	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒	普通	LR	縦斜	加曾利E		935-985
141	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリ小石	不良	LR		加曾利E	太さ15ミリの沈線が横位に巡る。	935-990
142	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	下半部に波状の条線。	935-990
143	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒多い	良	LR		加曾利E	縄文を帯状に施文。	935-990
144	両耳壺	把手	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E		935-000
145	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦横	後期	太さ3ミリの沈線による区画。	935-995
146	深鉢	胴部	黄褐	10YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E		935-975
147	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石多い	良	LR		加曾利E		935-035
148	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E		935-045
149	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	細かい条線が縦位に施文される。	935-990
150	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	条線。	935-045
151	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E	撚糸。	935-975
152	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリ砂粒	普通	—		加曾利E	条痕文。	935-000
153	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	935-045
154	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	無文。	935-010
155	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリ砂粒	普通	—		加曾利E	外面縦位の整形。	935-030
156	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	縦位方向の整形。	935-020
157	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通			加曾利E		935-985
158	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒	良	—		加曾利E	無文。縦位の整形。	935-990
159	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	不良	—		加曾利E		935-990
160	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	縦位方向の整形。	935-020
161	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通			中期後半		935-995
162	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通			加曾利E	ヘラによる横位、縦位のミガキ。	935-980
163	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリ小石	不良	—		加曾利E	外面縦位の整形。	935-030
164	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良			加曾利E		935-000



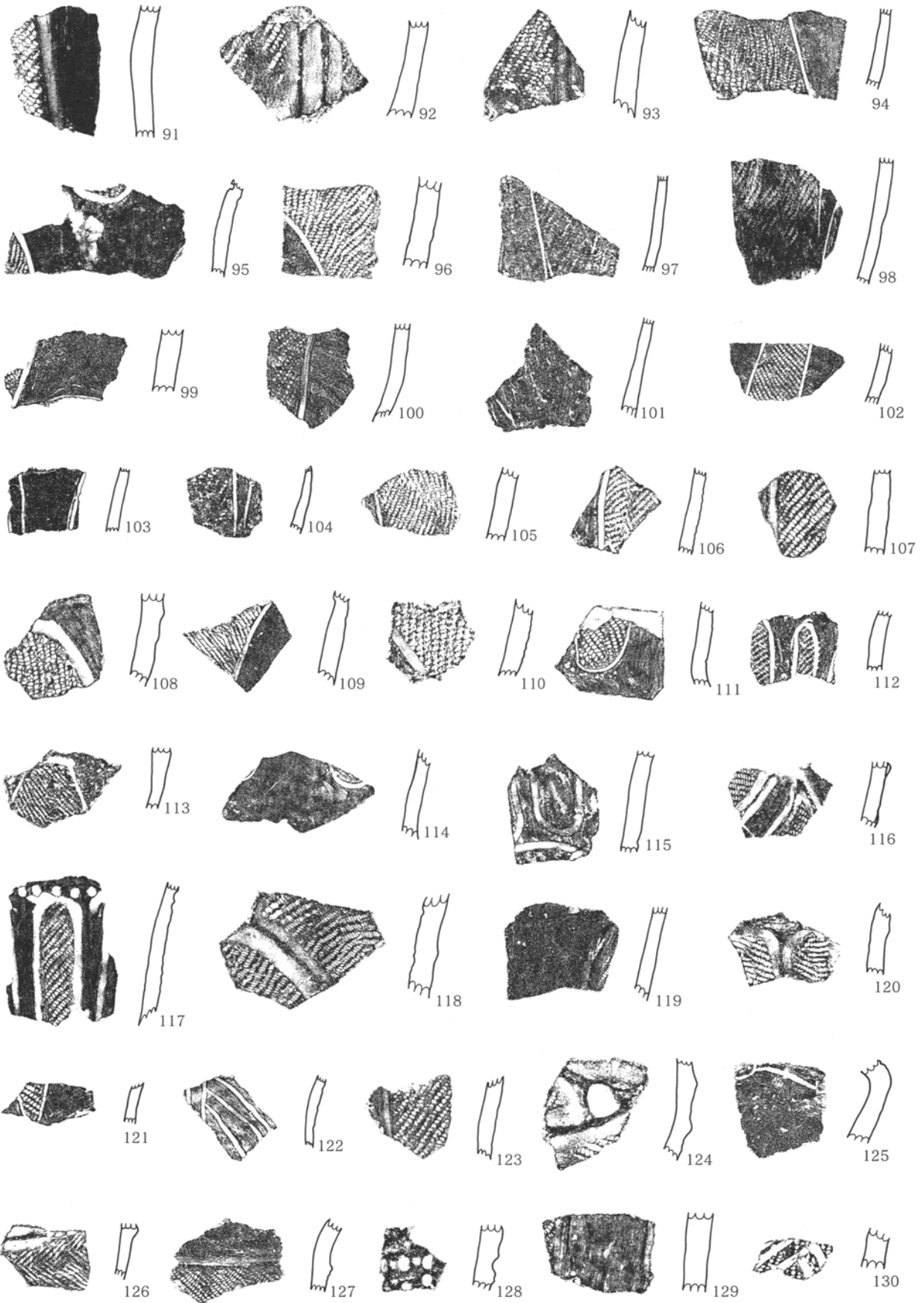
第172図 935グリッド出土土器 (1)

0 20cm



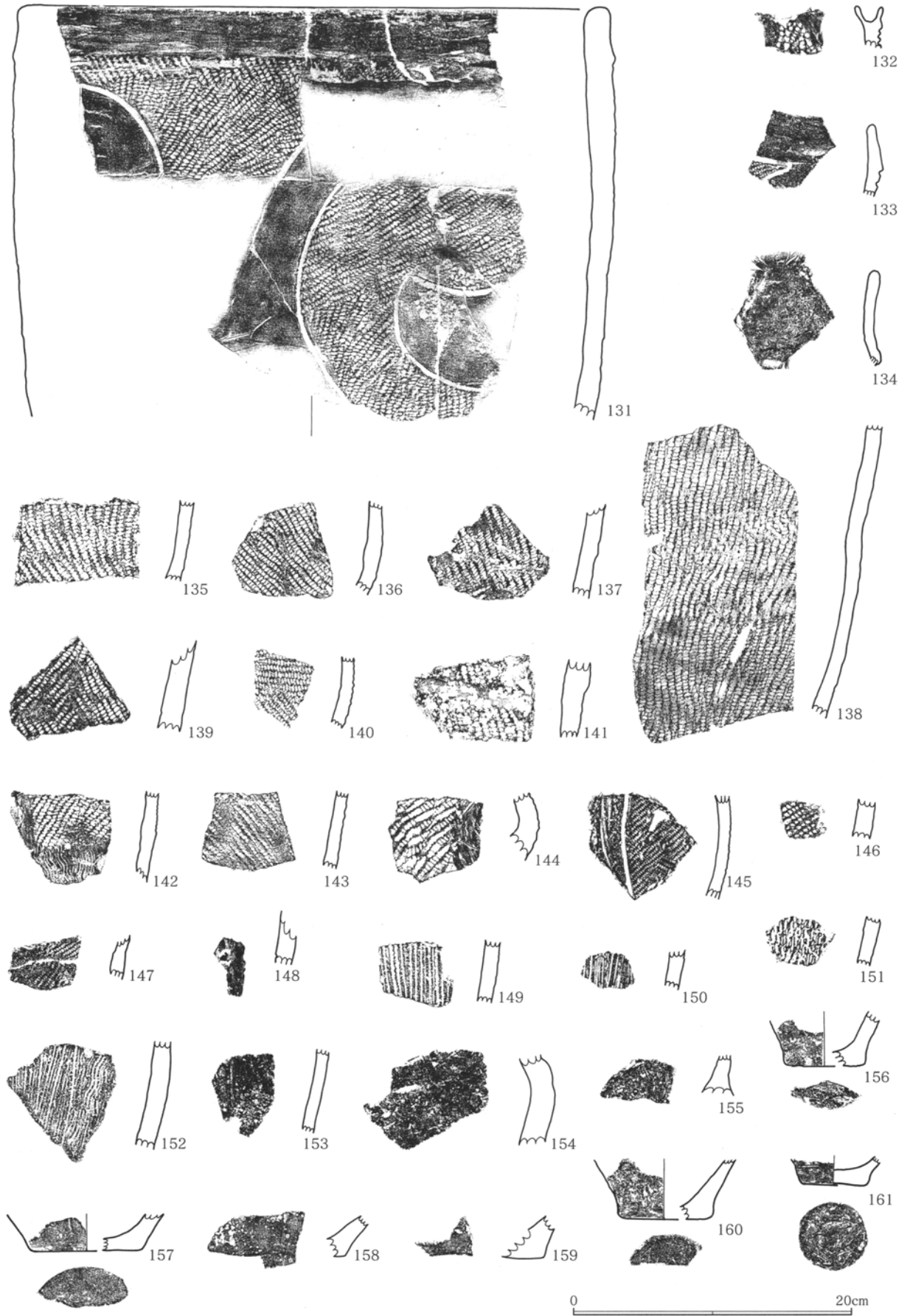
第173図 935グリッド出土土器 (2)

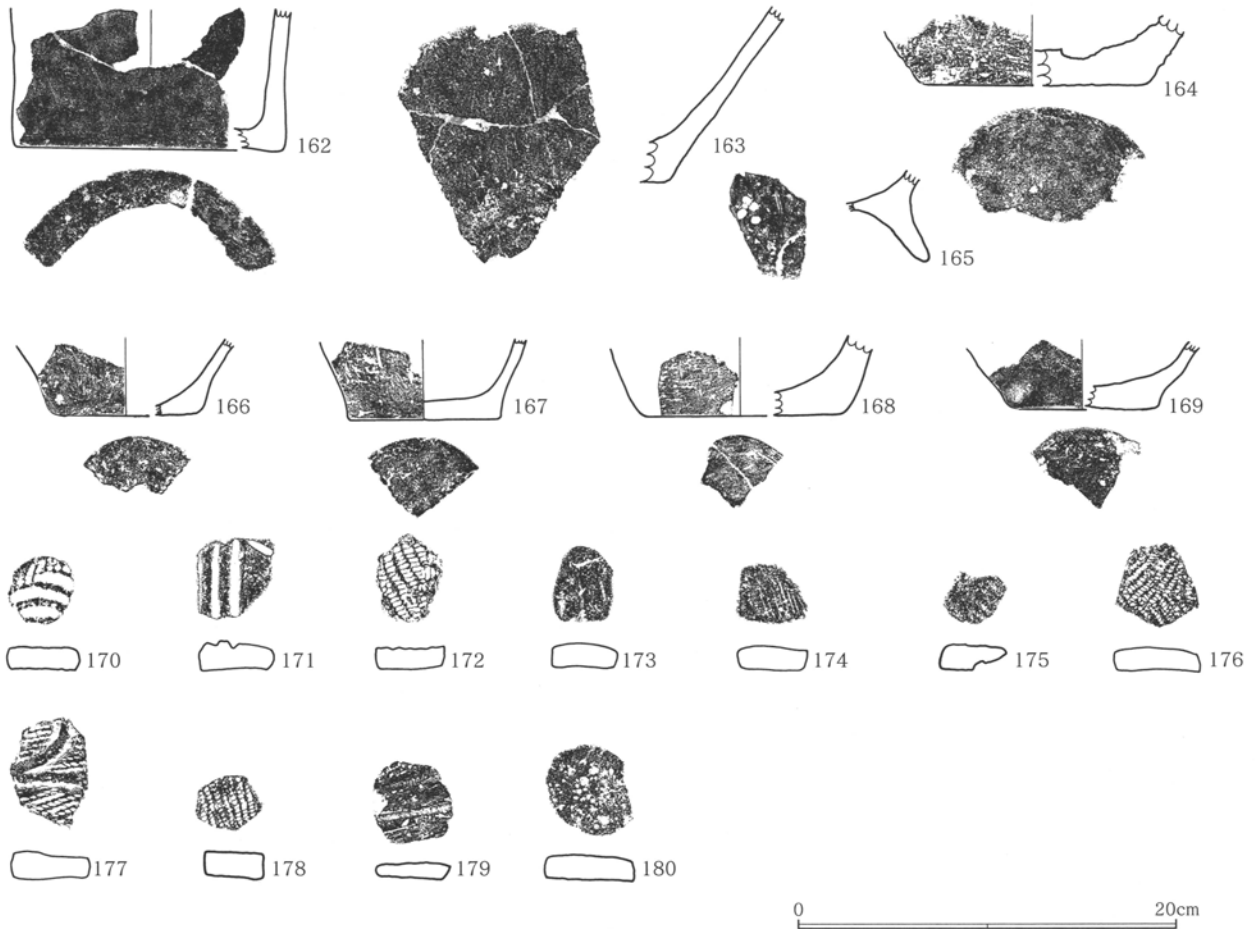
0 20cm



第174図 935グリッド出土土器 (3)

0 20cm





第176図 935グリッド出土土器 (5)

II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
165	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通				高台になる。	935-995
166	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通			中期後半		935-995
167	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E		935-990
168	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒	普通			加曾利E	底部ヘラナデ。	935-985
169	深鉢	底部	にぶい橙	5YR7/3	細かい砂粒	普通			中期後半	底面ナデ。	935-995
170	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	RL			外縁を良く磨いて成形している。	935-025
171	土製円盤		明赤褐	5YR5/8	φ1~2ミリ砂粒	普通			勝坂	太さ5ミリの浮線。沈線区画。	935-995
172	土製円盤		にぶい黄	2.5Y6/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	935-005
173	土製円盤		灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	普通				摩滅が激しく不明。沈線か。	935-995
174	土製円盤		灰褐	5YR6/2	細かい砂粒	普通				条痕文。	935-995
175	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリ砂粒	不良			中期	摩滅が激しく不明。	935-000
176	土製円盤		浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	普通	LR RL	横	加曾利E	羽状縄文。	935-995
177	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			勝坂	幅4ミリの隆帯による区画。絡条帯。	935-995
178	土製円盤		にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	RL		中期		935-000
179	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリ砂粒	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	935-010
180	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—			外縁を打ち欠き成形している。	935-025

第4章 出土遺物

II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	突起	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	—		勝坂	大波状口縁の把手部。波頂部から隆線が垂下する。隆線と口縁に沿って竹管による刺突列。	940-010
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	太さ5ミリの隆線による三角状区画とそれに沿う半截竹管による結節沈線。区画内を竹管による刺突。	940-015
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	—		阿玉台	押し引きの爪形文で渦巻文。	940-985
4	深鉢	突起	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	ヘラ状工具による刻み。竹管による刺突。ペン先状工具による刺突。	940-990
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	太さ8ミリの沈線による横位区画。爪形文により太さ2ミリの沈線を横位に施文。	940-990
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	不良	—		勝坂	太さ10ミリの隆線を弧状に貼り付ける。	940-005
7	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	口縁部無文。口縁部内側に幅14ミリの折り返し。	940-025
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	隆線で弧を描くが剥離している。	940-015
9	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	—		勝坂	幅10ミリの隆帯による横位施文。ヘラ状工具による刺突文。	940-980
10	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの金雲母	良	—		阿玉台	隆帯に刻み。	940-000
11	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	幅10ミリの爪形文による横位の刻み列。太さ2ミリの沈線による縦位区画。	940-970
12	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	太さ6ミリの隆線による三角状区画とその上面に刻み列が入る。	940-975
13	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		勝坂	太さ10ミリの隆線による横位区画。その上面に刻み列その下部にも同様の隆線による区画。	940-025
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	—		勝坂	ヘラ状工具による刻み列。	940-970
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリ白色小石	不良	—		阿玉台	隆線と押し引きの沈線文。	940-985
16	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	砂粒多い	良	—		勝坂	横位の連続爪形列。	940-985
17	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	連続する爪形列とペン先状刺突。	940-995
18	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曽利E	太さ3ミリの沈線による区画。	940-975
19	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良			I群	太さ8ミリの隆線による文様区画。	940-995
20	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	I群	口縁は大きく外反。幅2~3ミリの隆帯による区画。	940-990
21	深鉢	突起	橙	5YR6/6	φ1ミリ前後の金雲母	普通	—		勝坂		940-985
22	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	口縁部は内斜する。口縁上面、内面は指ナデ。	940-990
23	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曽利E	無文。	940-995
24	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	ヘラナデ。	940-980
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの砂粒	普通	—		加曽利E	口縁を隆線で楕円区画する。	940-000
26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線により縦位区画され、横位の沈線が充填される。	940-985
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		勝坂	太さ8ミリの隆線で文様区画し、太さ4ミリの沈線が充填される。	940-985
28	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	不良	—		加曽利E	幅15ミリの隆帯と沈線。	940-980
29	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	太さ5ミリの沈線による渦巻状・放射状文様。	940-030
30	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—		加曽利E	太さ14ミリの隆線で施文。	940-985
31	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	太さ4ミリの沈線による横位・斜位の区画。	940-970
32	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—		勝坂	幅6ミリで4本の櫛状工具で波状文を描く。	940-010
33	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	加曽利E	隆・沈線を波状に施文。	940-000

II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの黒色粒	不良	—		加曽利E	太い沈線による横位区画と楕円区画文様。	940-020
35	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曽利E	口縁部太さ15ミリの沈線による横位区画。	940-990
36	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	普通	RL	横	加曽利E	隆帯の沈線による口縁部の区画。	940-995
37	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ10ミリの隆線による区画。	940-025
38	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1ミリ以下の小石	普通	不明	不明	加曽利E	太さ10ミリの沈線で口縁部に楕円の区画を作る。	940-995
39	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ10ミリの隆線とそれに沿う太さ8ミリの沈線による楕円区画。	940-975
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	太さ7ミリの沈線による横位区画。	940-975
41	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—		加曽利E	口縁部に太さ5ミリの隆線により無文帯を区画。	940-025
42	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~5ミリの小石	良	LR		加曽利E	太い隆線と沈線で口縁部文様を区画する。	940-005
43	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—		加曽利E	口縁部に太さ5ミリの隆線により無文帯を区画。	940-025
44	浅鉢	口縁	橙	2.5YR6/8	細かい砂粒	良			加曽利E		940-990
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良			加曽利E	幅6ミリの櫛状工具による波状線。	940-985
46	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E	隆線に楕円形の区画。	940-000
47	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒、白色の小石	普通	LR	横	加曽利E	隆線と太さ5ミリの沈線が横位区画。	940-000
48	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ15ミリの沈線が横位に巡る。	940-985
49	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ8ミリの隆線と太さ5ミリの沈線による横位区画。縦位の条線が胴部に施文される。	940-015
50	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦横	VI群	断面三角形の太さ5~8ミリの隆線が口縁部に巡り無文帯と区画。	940-010
51	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線による横位の区画線。	940-000
52	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの黄色粒多い	不良	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線が巡り、無文帯と区画。	940-005
53	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y6/1	細かい砂粒	普通	LR	横	VI群	口縁部に微隆起線による横位区画。	940-000
54	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの小石	普通	LR	横	VI群	口縁に沿って隆線で横位の区画。	940-995
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線で横位の区画。	940-000
56	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの小石多い	普通	LR	横	VI群	口縁部に微隆起線が横位に巡る。	940-995
57	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~3ミリの白色粒多い	良	LR	縦	VI群	太さ2ミリの隆線が口縁部に巡り無文帯を区別する。	940-005
58	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通			VI群	口縁部に太さ7ミリの沈線が横位に巡る。口縁を折り返している。	940-000
59	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	白色粒	良	—		VI群	太さ5ミリの断面三角の隆線が口縁部に巡り無文帯と区画する。	940-005
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	VI群	口縁部無文帯。太さ5ミリの隆起線による横位区画。	940-030
61	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ以下の小石	普通	RL	縦横	VI群	太さ5ミリの沈線が口縁部下に巡る。	940-995
62	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	VI群	口縁部に太さ4ミリの横位区画。	940-000
63	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	縦	VI群	太さ3~4ミリの隆線が口縁部に巡り無文帯と区画する。胴部には、同じ隆線で文様を描く。	940-005
64	深鉢	口縁	褐	10YR4/4	細かい砂粒	普通	RL		VI群	口縁部上端に横方向の整形。	940-020
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	V群	太さ7ミリの沈線による波状区画。	940-975
66	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦横	V群	太さ6ミリの沈線による波状区画。	940-975

第4章 出土遺物

II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
67	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL LR	横	V群	太さ4ミリの沈線。羽状縄文。	940-990
68	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	VI群	太さ3ミリの沈線による横位区画と楕円の区画。	940-015
69	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線による弧状の文様。無文部は、磨り消し縄文。	940-005
70	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/8	φ1ミリの砂粒	良	RL	横斜	VI群	口縁部無文帯横位のミガキ整形。太さ3ミリの隆起線による楕円区画。	940-030
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線が口縁に沿って巡る。口縁部には曲線の文様。	940-010
72	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			VI群	ペン先状工具による2列の刺突列。太さ1ミリの横位2条の沈線。	940-015
73	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの砂粒	不良			VI群	太さ5ミリの沈線。	940-000
74	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	VI群	波状口縁。太さ2ミリの沈線による区画。	940-030
75	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL		VII群2類		940-020 橋状把手
76	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	不明		VI群	太さ3ミリの沈線による楕円状区画。	940-015
77	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y6/1	細かい砂粒	良	LR		VI群	断面三角形の低い隆線による文様施文。	940-005
78	両耳壺	口縁~胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	VII群1類	太さ5ミリの隆線による口縁部楕円区画文様。胴部は条線施文。	940-975
79	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	普通	LRL RL	縦横	加曽利E	太さ5~7ミリの沈線区画。撚糸文。0段多条。	940-990
80	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-015
81	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。半截竹管による縦ナデ。	940-980
82	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-000
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-000
84	深鉢	胴部	黄褐	2.5Y5/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの隆線による縦位区画。	940-030
85	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-980
86	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。ヘラによる縦削り。	940-980
87	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ10ミリの沈線と隆線による垂線。	940-000
88	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの砂粒、石英、雲母	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	940-980
89	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの浮線文による縦位区画。0段多条。	940-980
90	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR5/1	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの隆線による縦位区画。	940-985
91	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-000
92	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	940-980
93	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位の区画。	940-985
94	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	III群2類	太さ14ミリの沈線、その間に太さ8ミリの浮線による横位区画。	940-990
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線で文様を描く。	940-005
96	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	隆線と沈線による楕円区画。	940-000
97	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。	940-015
98	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	940-000
99	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E	断面三角形の隆線による文様施文。	940-005
100	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	940-985
101	深鉢	胴部	淡黄	5Y8/3	φ1ミリの白色粒、砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-000

II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
102	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			VII群4類	縦位の平行沈線文。半截竹管による太さ4ミリの沈線文。	940-980
103	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。半截竹管による縦位のナデ。	940-980
104	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR		加曽利E	隆・沈線による楕円区画文様。	940-010
105	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曽利E	太さ6ミリの沈線による楕円区画。棒状工具による横位の刺突文。	940-980
106	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1~3ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E	太さ4ミリの隆線が垂下。隆線間は磨り消し縄文。	940-000
107	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通			加曽利E	太さ4ミリの縦位の沈線と縦位のナデ。	940-980
108	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの浮線による縦位区画。	940-990
109	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線が2本対になり縦位区画。区画間に太さ4ミリの波状沈線が垂下する。	940-995
110	深鉢	胴部	灰白	10YR2/8	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの浮線文による縦位区画。	940-980
111	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-030
112	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曽利E	太さ1ミリの沈線が垂下する。	940-995
113	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	横	加曽利E	太さ2ミリの隆起線による縦位区画。	940-030
114	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y3/7	細かい白色粒多い	不良	RL		加曽利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。無文部磨り消し縄文。	940-020
115	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良			加曽利E	太さ2ミリの沈線。	940-000
116	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	940-980
117	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石多い	普通	RL		加曽利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文され、無文帯を作る。	940-020
118	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-990
119	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの隆線による縦位区画。	940-000
120	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曽利E	太さ5ミリの隆起線による縦位区画。	940-025
121	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通			加曽利E	太さ4ミリの沈線で文様を描く。	940-000
122	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曽利E	太さ11ミリの沈線による楕円区画。	940-980
123	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/2	φ1ミリの白色粒	良	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの隆線による楕円文様。	940-000
124	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E	太い隆線2本で縦位の区画を作る。	940-020
125	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	斜	加曽利E	太さ6ミリの隆線による楕円区画。	940-980
126	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線が口縁文様帯を区画する。	940-000
127	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	幅8ミリの隆帯による縦位区画。太さ2ミリの浮線による縦位区画。	940-990
128	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	940-000
129	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E	断面三角の太さ3ミリの隆線と曲線文様を作る。	940-010
130	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	不良	RL		加曽利E	断面三角形の太さ3ミリの隆線と曲線文様を作る。	940-010
131	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。	940-000
132	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ12ミリの隆線と沈線による縦位の区画。区画内に渦巻の沈線文。	940-985
133	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの砂粒	不良	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの隆線と弧線を描く。	940-985
134	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	加曽利E	太さ5ミリの浮線文による楕円区画。	940-980
135	深鉢	胴部	暗オリーブ灰	5GY4/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL		加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	940-010
136	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒	普通	LR	斜	VI群	太さ4ミリの隆線と沈線で楕円の区画。	940-995

第4章 出土遺物

II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
137	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黄色粒	不良	LR		VI群	太さ3ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。	940-005
138	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリ小石	良	LR	横	VI群	太さ5ミリの沈線の楕円区画文様。	940-975
139	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ2~3ミリの沈線による文様区画。無文部は磨り消し縄文。	940-005
140	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL		VI群	太さ2~3ミリの沈線による弧状の文様区画。無文部は磨り消し縄文。	940-005
141	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR5/1	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	VI群	太さ4ミリの浮線文による楕円区画。	940-980
142	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	やや不良	RL	斜	VI群	太さ4ミリの沈線による楕円区画。	940-000
143	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL		VI群	太さ2ミリの沈線による文様区画。	940-005
144	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	やや不良	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線による長楕円区画。	940-000
145	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LR	横	VI群	太さ7ミリの沈線による楕円区画。	940-010
146	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			VI群	太さ2ミリの沈線による縦位区画、菱形区画。	940-980
147	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	940-015
148	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	良	RL		VI群	太さ2ミリの沈線による楕円区画。無文部磨り消し縄文。	940-010
149	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による楕円区画。	940-980
150	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR		VI群	太さ1ミリの沈線で文様を区画する。無文部は、縦位方向の整形による磨り消し縄文。	940-010
151	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	LR	縦	VI群	太さ5ミリの浮線文による縦位区画。	940-980
152	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	940-985
153	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR4/7	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E		940-030
154	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E		940-980
155	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横	加曽利E		940-000
156	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E		940-995
157	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	斜	加曽利E		940-030
158	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曽利E		940-995
159	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	砂粒、雲母	普通	LR		加曽利E		940-020
160	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR8/8	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	LR	縦横	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	940-990
161	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-990
162	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	繊維含む	普通	RL	横	加曽利E		940-995
163	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E		940-995
164	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E		940-985
165	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E		940-985
166	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	RLR	縦	加曽利E		940-980
167	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曽利E	縄文を斜めに施文。	940-000
168	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E		940-990
169	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E		940-995
170	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの隆線2条で横位施文。	940-985
171	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒多い	不良	RL		加曽利E		940-020
172	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1ミリの白色粒	良	LR	縦	加曽利E		940-000
173	両耳壺	把手	灰黄	2.5Y6/2	白色粒多い	良	RL	縦横	加曽利E		940-005 橋状把手
174	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曽利E	太さ6ミリの沈線による楕円区画。	940-985
175	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良	-		加曽利E	半截竹管による平行沈線。	940-980

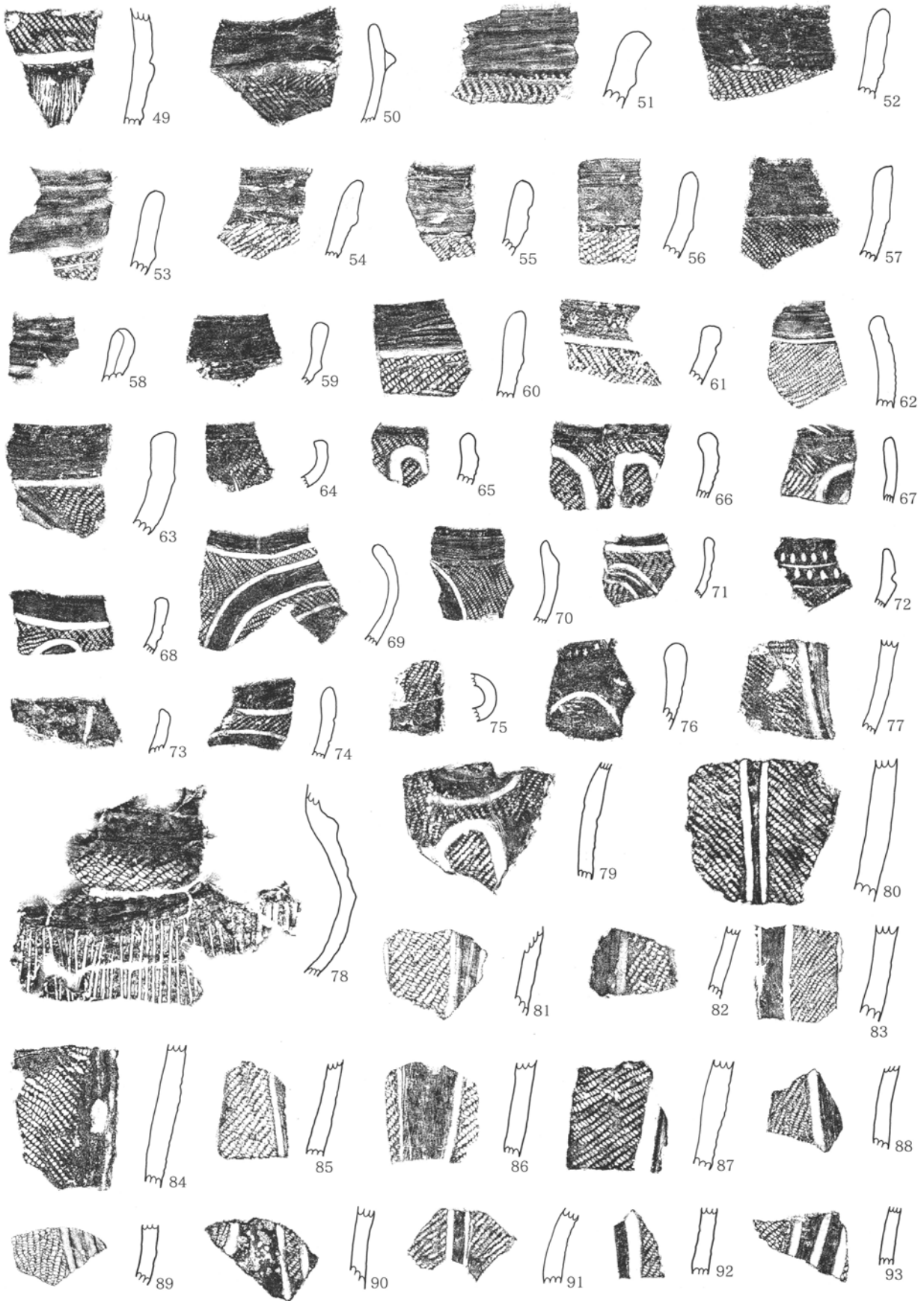
II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
176	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	R		加曾利E	撚糸。	940-015
177	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	R		加曾利E	撚糸。	940-980
178	深鉢	胴部	黒褐	7.5YR3/2	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	条痕文。	940-980
179	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		VII群2類	条痕文。	940-990
180	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		VII群4類	条痕文。	940-980
181	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	—		VII群4類	幅12ミリの櫛状の工具で波状沈線を垂下させる。	940-995
182	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		VII群4類	幅12~13ミリの櫛状工具による条線。	940-005
183	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—		VII群4類	櫛状工具による条線。	940-975
184	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	良			加曾利E	条痕文。	940-980
185	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	5本単位の櫛状工具による縦位の波状条文。	940-025
186	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y4/2	φ1~3ミリの小石	良	LR		称名寺	小波状口縁頂部に突起を持ち、ここを基点として沈線による文様が施文される。	940-020
187	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	良			後期	太さ2ミリの隆線文。半截竹管による結節沈線文。撚糸。	940-980
188	深鉢	底部	淡黄橙	7.5YR8/6	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	外面横位の整形。	940-020
189	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通			加曾利E	無文。	940-995
190	深鉢	胴部~底部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良			加曾利E		940-980
191	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	外面横位のミガキ整形。	940-020
192	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	940-020
193	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒、砂粒	良			加曾利E	無文。	940-000
194	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石多い、雲母	不良	—		加曾利E		940-005
195	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			加曾利E		940-980
196	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通			加曾利E	無文。	940-000
197	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良			加曾利E		940-990
198	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	—		加曾利E		940-015
199	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	底面がやや丸みを帯びる。外面は、縦位のミガキ整形。	940-010
200	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	940-015
201	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	外面は縦位のミガキ整形。	940-010
202	深鉢	底部	灰白	10Y7/1	φ1ミリの白色粒、軽石粒	不良				無文。	940-000
203	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通				無文。	940-995
204	碗	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—			口縁近くにφ3ミリの孔が2つ開けられる。土製品。	940-010
205	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良				無文。	940-995
206	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦			940-995
207	土製円盤		赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、金雲母	普通	—				940-975
208	土製円盤		にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通				無文。	940-995
209	土製円盤		黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	普通			加曾利E	縄文施文。摩滅多く不明。	940-000



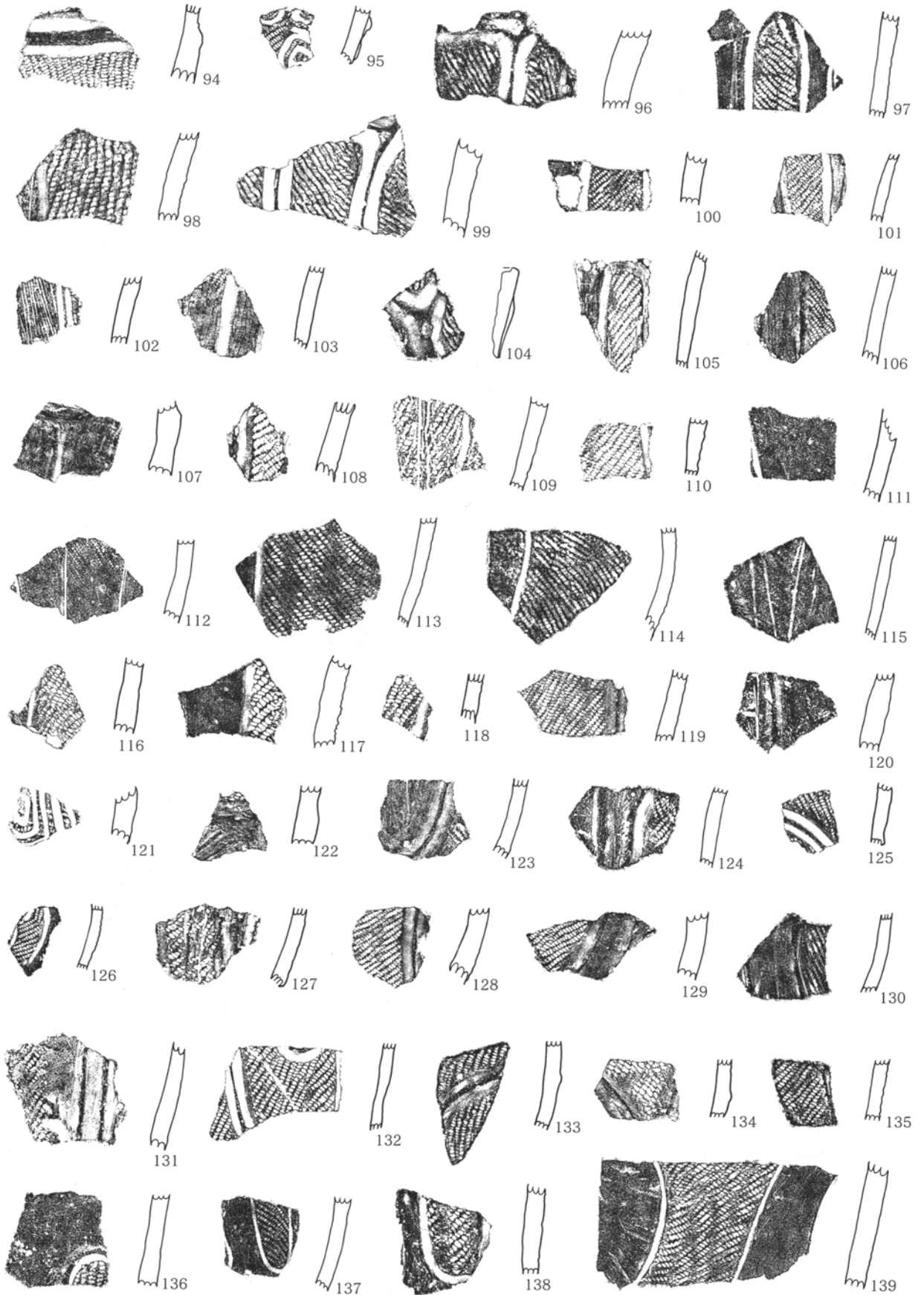
第177図 940グリッド出土土器 (1)

0 20cm



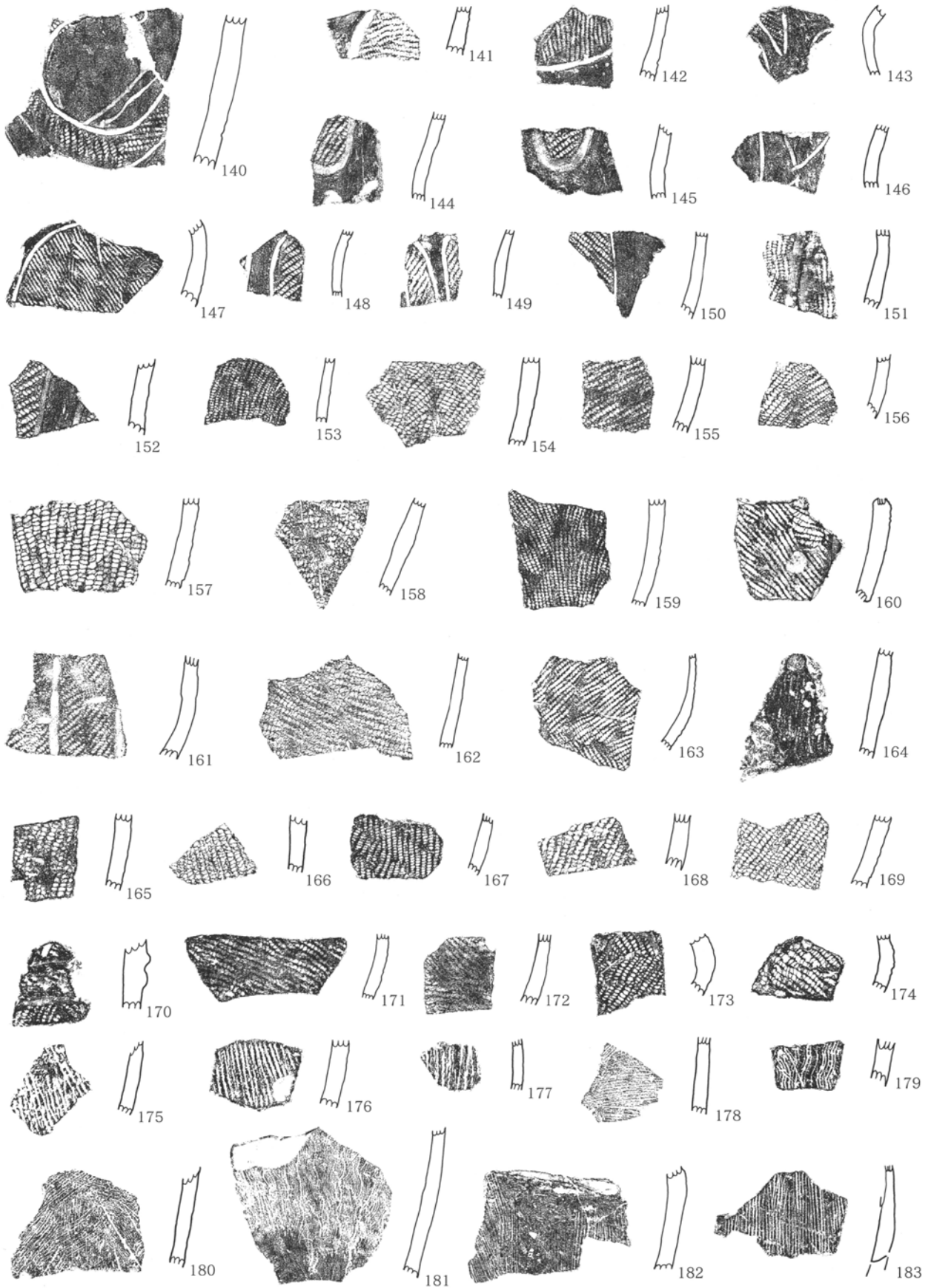
第178図 940グリッド出土土器 (2)

0 20cm



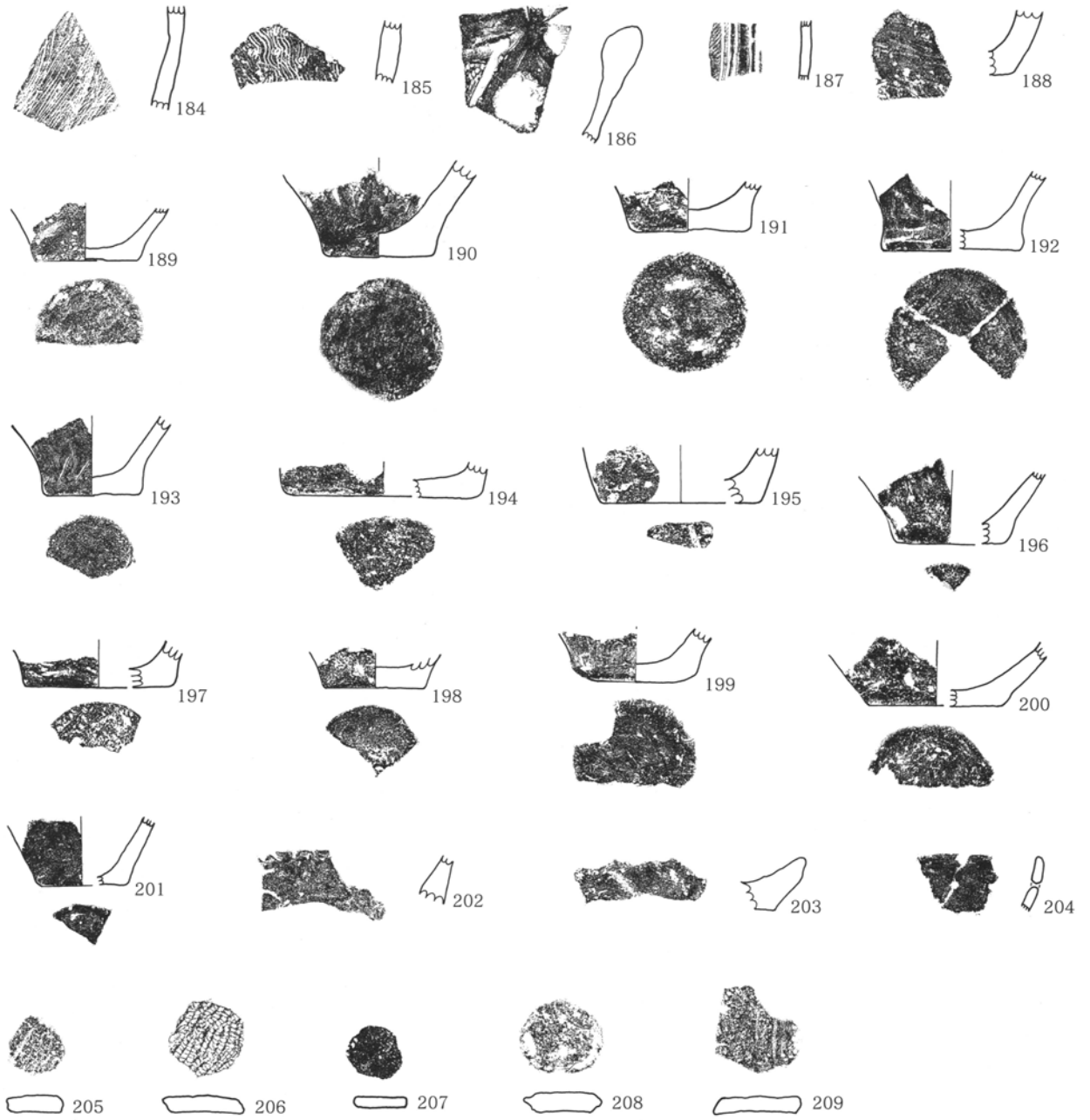
第179図 940グリッド出土土器 (3)

0 20cm



第180図 940グリッド出土土器 (4)

0 20cm



0 20cm

第181図 940グリッド出土土器 (5)

II区945グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通			勝坂	隆帯による楕円区画、竹管による結節沈線。	945-985
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良			阿玉台	2本対にして交互刺突。	945-990
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL		I群	太さ20ミリの隆線が横位に施文される。	945-020
4	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	—		勝坂	幅7ミリの平行沈線による隆線に刻み。文様区画内には太さ1ミリの沈線が斜めに引かれる。	945-975
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR		I群	太さ5~8ミリの隆線で渦巻状の文様を描く。燃糸。	945-975
6	深鉢	胴部	極暗赤褐	2.5YR2/2	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	良			勝坂	太さ3ミリの沈線区画。爪形文。	945-985
7	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通			勝坂		945-985
8	深鉢	胴部	赤褐	10R4/4	φ1~2ミリの砂粒、小石	良			勝坂	太さ2ミリの沈線区画、厚さ10ミリの突起、爪形文と矢羽状の刺突。	945-985
9	深鉢	口縁~ 胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	頸部に太さ5~8ミリの隆線と幅6ミリの平行沈線が横位に施文され、文様帯を区画する。	945-970
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	良	—		加曾利E	太さ5~6ミリの隆線で文様を描く。	945-015
11	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通			阿玉台	無文。	945-990
12	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの白色粒、小石	良			勝坂	口縁と胴部に区画する太さ4ミリの沈線、胴部に弧状の沈線が施文。	945-990
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	良	R		I群	横位の沈線、ペン先状工具による矢羽状刺突。燃糸。	945-985
14	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良			I群	口縁部ミガキ。太さ4ミリの隆線を2本横位施文。	945-980
15	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	I群	竹管による沈線区画。	945-985
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/3	細かい砂粒、小石	良	RL	横	I群	ヘラ状工具による沈線。爪形文、ペン先状工具による刺突。	945-985
17	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの砂粒	良			I群	横位に連続交互刺突文。	945-990
18	深鉢	口縁	赤灰	2.5YR5/1	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	縦	I群	太さ6ミリの隆帯。	945-985
19	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1ミリの白色粒	良			加曾利E	沈線による楕円区画横位に連続交互刺突。	945-990
20	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	白色粒多い	普通	—		I群	隆線による楕円区画文様。太さ5ミリの浅い沈線が縦位に施文。	945-025
21	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			I群	太さ7ミリの隆線による横位区画。竹管による沈線。	945-985
22	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	I群	太さ7ミリの沈線で口縁横位区画。	945-995
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの黄色粒多い	不良	—		II群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	945-010
24	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RLR	縦	II群	幅5ミリの隆帯による楕円区画。太さ4ミリの沈線による縦位区画。	945-980
25	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリ小石	普通	RL	横	III群	太い隆線による楕円区画。	945-975
26	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	III群	太い隆線による口縁部区画と楕円区画文様。	945-970
27	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	III群	太さ15ミリの沈線による楕円区画。	945-975
28	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	III群	太さ10ミリの沈線による楕円区画。	945-975
29	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ10ミリの沈線が口縁に巡る。	945-015
30	深鉢	把手	灰黄	2.5Y7/2	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	太い沈線で弧状の文様を描く。	945-970

第4章 出土遺物

II区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
31	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	不良	LR	横	加曽利E	太さ12ミリの沈線が口縁に巡る。	945-020
32	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR7/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横	加曽利E	浅い沈線と低い隆線により口縁部に楕円区画が作られる。	945-975
33	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	横	加曽利E	隆線により、口縁部文様と胴部文様を区画する。	945-000
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曽利E	横位のヘラナデ。	945-985
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通			加曽利E	隆線による口縁部区画、太さ5ミリの沈線による楕円文。	945-990
36	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい黒色粒	不良	RL	斜	加曽利E	隆線による楕円区画文様。	945-025
37	深鉢	口縁~胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	不良	LR	横	Ⅲ群	隆線により、口縁部文様に楕円区画、渦巻文様が描かれる。	945-975
38	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒多い	普通	LR	横	加曽利E	幅5ミリの平行沈線による文様施文。	945-020
39	両耳壺	口縁~胴部	明黄褐	2.5Y7/6	φ1~3ミリの小石多い	良	RL	横	Ⅶ群1類	口縁部は隆線によって無文部が区画される。その下に楕円の区画。縄文が充填される。胴部には、太さ2ミリの沈線による条線文。	945-975
40	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	口縁部に太さ8ミリの隆線が巡る。隆線の上は無文帯になる。	945-975
41	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ10ミリの隆線が横位に巡る。	945-995
42	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒多い	良	LR	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線が巡り無文部と区画する。	945-025
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	不良	RL	横 縦	Ⅵ群	太さ5ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	945-025
44	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	横	Ⅵ群	太さ4ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	945-025
45	深鉢	口縁	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒多い	不良	RL	横 縦	Ⅵ群	太さ4ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	945-025
46	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリの白色粒、砂粒	普通			Ⅵ群	隆起線により横位の施文。	945-995
47	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	白色粒多い	良	RL	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線が巡り無文部と区画する。	945-025
48	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	白色粒多い	普通	LR RL	横	Ⅵ群	口縁下に太さ5ミリの沈線が横位に巡る。	945-990
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、黄色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ8ミリの沈線による弧線が引かれる。	945-975
50	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	Ⅵ群	太さ5ミリの隆線による区画。区画内には、縄文が充填される。	945-015
51	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	口縁部に断面三角の隆線を巡らす。沈線で「∩」状の文様を描く。	945-000
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	普通	—		Ⅷ群2類	太さ1ミリの沈線による条線で波状に施文。口縁部は無文帯を持つ。	945-025
53	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL LR	横	Ⅵ群3類	口縁部幅5ミリの横位区画と斜位区画。ヘラナデ。	945-985
54	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部に細い隆線が巡り無文部と文様部を区画する。隆線で文様部は楕円区画を作る。	945-025
55	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	Ⅶ群1類	把手上端部が舌状に突起となる。	945-020 舌状突起
56	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒	良	RL		加曽利E		945-010
57	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線で縦位の区画。	945-995
58	深鉢	胴部	灰褐	5YR6/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線と隆線による縦位の区画。	945-995
59	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ15ミリの沈・隆線による縦位区画。	945-995
60	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石多い	普通	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線3条が対になり縦位の区画を作る。	945-010

II区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
61	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による垂線。	945-990
62	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	不良	LR	縦	加曽利E	爪形文(キャタピラ文)。竹管による結節沈線。	945-985
63	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL LR	横	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	945-980
64	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	細い沈線による縦位の区画により無文帯を作る。	945-010
65	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	945-995
66	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	945-995
67	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの浅い沈線で縦位の無文帯区画を作る。	945-975
68	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの小石	普通			加曽利E	太さ2ミリの縦位の条線が施文される。	945-990
69	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による区画。	945-010
70	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線が横位に施文。	945-020
71	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ7ミリの断面三角形の隆線が縦位に施文される。隆線に沿って太さ4ミリの沈線施文。無文部は、縦方向の整形痕。	945-975
72	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	良	—		加曽利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。無文部縦位のミガキ整形による磨り消し縄文。	945-006
73	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	VI群	微隆起線による縦位の区画。	945-000
74	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	横 縦	VI群	太さ4ミリの隆線で横位区画。胴部は、沈線による縦位区画。	945-002
75	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3ミリの微隆起線による楕円区画。無文部はミガキによる磨り消し縄文。	945-025
76	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1ミリの白色粒、砂粒	良	RL	横	VI群	太さ3ミリの沈線による横位区画。無文部はへら状のミガキ痕が残る。	945-995
77	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	VI群	太さ3ミリの微隆起線による楕円区画。無文部は磨り消し縄文。	945-025
78	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ3ミリの低い隆線による縦位の区画線で無文帯を作る。	945-025
79	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	黒色粒	不良	LR	横	VI群	隆・沈線による楕円区画内を縄文充填。無文部は磨り消し縄文。	945-025
80	深鉢	胴部	淡橙	5YR8/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	VI群	磨り消し縄文で縦位の無文帯を作る。	945-025
81	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	VI群	太さ5ミリの断面三角形の隆線で縦位区画を作る。	945-015
82	深鉢	胴部	灰赤	2.5YR6/2	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線による上半波状、下半逆「U」状になる区画。	945-985
83	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	隆・沈線による楕円区画。磨り消し縄文。	945-025
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による楕円文様。無文部は磨り消し縄文。	945-020
85	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LR	斜	VI群	太さ1ミリの沈線による文様区画。	945-025
86	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦	VI群		945-020
87	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1ミリの小石	良	LR	縦	VI群	太さ4ミリの沈線が垂下する。	945-990
88	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	945-990
89	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	945-990
90	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による文様区画。	945-020
91	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	VI群	沈線による縦位区画。	945-995
92	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1~2ミリの白色粒、砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4~6ミリの隆線による弧線文。	945-995

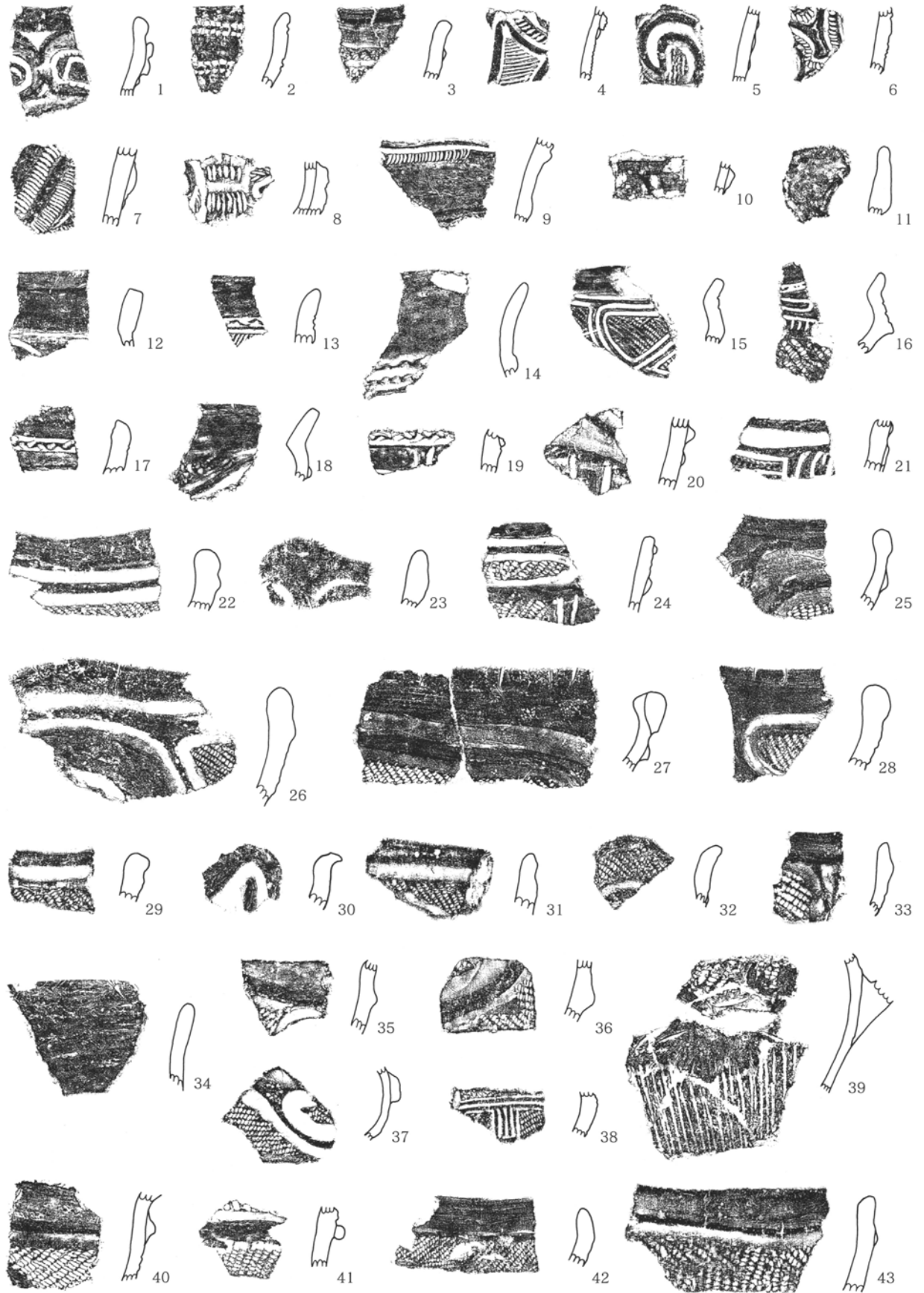
第4章 出土遺物

II区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
93	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5~6ミリの沈線による楕円区画。	945-005
94	深鉢	胴部	オリーブ褐	2.5Y4/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E	ヘラ状工具による斜位の沈線。斜位のヘラ削り。	945-985
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦斜	加曾利E	太さ2ミリの沈線による区画。	945-980
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線が縦位に施文される。無文部縦位方向のミガキ。	945-015
97	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの隆線による縦位の区画により無文帯を作る。	945-025
98	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	断面三角形の太さ3~4ミリの隆線で縦位に施文。	945-000
99	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	VII群1類	地文条線。太さ6ミリの沈線で弧線を描く。	945-015
100	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ4~5ミリの沈線で弧線を描く。地文条線。	945-020
101	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	不良	—	—	加曾利E	太さ6ミリの隆線による文様区画。	945-020
102	両耳壺	口縁~胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石多い	良	RL	縦	VII群1類	口縁部は隆線によって無文部が区画される。その下に楕円の区画。縄文が充填される。胴部には、太さ2ミリの沈線による条線が施文。	945-975
103	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線5~6本単位で条線状に施文。	945-975
104	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	後期	波状口縁。口縁に沿って太さ3ミリの隆線が無文帯を区画。口縁部文様は、太さ3ミリの沈線による文様区画。	945-010
105	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	横	称名寺	小波状口縁になる。頂部に突起が付けられ、そこから沈線で区画された縄文帯が作られる。無文部は磨り消し縄文。	945-025
106	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	LR	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。口縁部に無文帯を持つ。	945-025
107	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	後期	太さ3ミリの沈線による楕円区画。ヘラミガキ。	945-005
108	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	RL	横	称名寺	波状口縁頂部に小突起を持つ。頂部突起から太さ4ミリの沈線が弧状に施文され、無文部を区画する。	945-010
109	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	太さ1ミリ以下の沈線による文様施文。縄文原体も細い。口縁部内側に凹線が巡る。	945-970
110	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線で「J」字を描く。無文部は磨り消し縄文。	945-025
111	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	太さ2~4ミリの隆線で渦巻状の文様区画を作る。無文帯は、縦位方向に整形痕が見られる。	945-025
112	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E	幅10ミリの隆帯と太さ2ミリの沈線による区画。	945-985
113	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	細かい小石	良	RL	横	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による楕円区画。	945-025
114	両耳壺	把手	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E		945-970 橋状把手
115	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	縄文。	945-990
116	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E		945-025
117	深鉢	胴部	灰	5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	縄文。	945-990
118	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	斜	加曾利E		945-025
119	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	斜	加曾利E	縄文が带状に施文される。	945-020 長野系

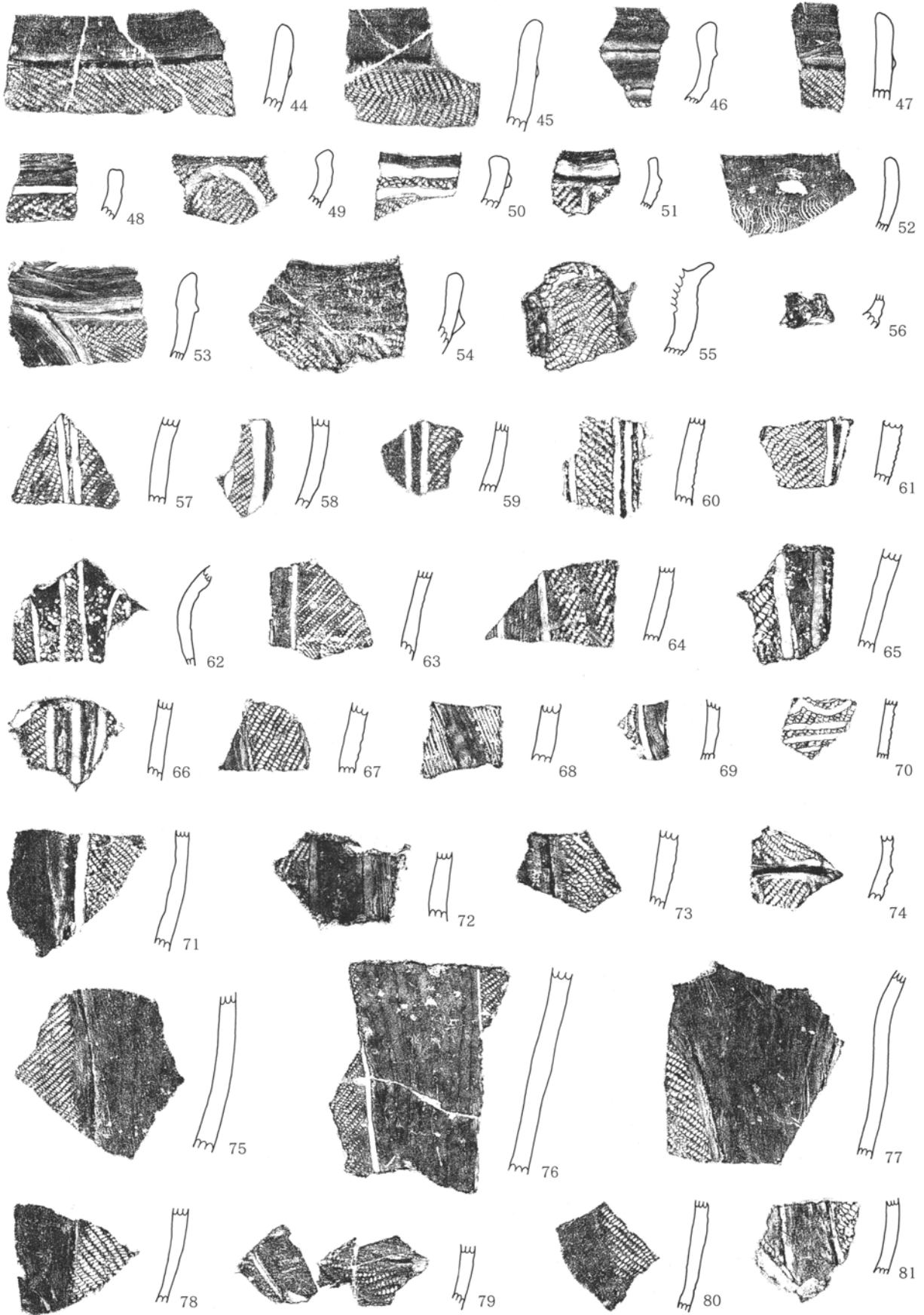
II区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
120	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E		945-005
121	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E		945-985
122	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E		945-980
123	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい白色粒	普通	LR	縦	加曾利E		945-995
124	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E		945-005
125	深鉢	胴部	赤黒	7.5R2/1	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	縄文。	945-995
126	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい白色粒	普通	RL	斜	加曾利E	縄文。	945-990
127	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリ小石	不良	RL	縦	加曾利E		945-970
128	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリ小石	不良	RL	横	加曾利E	微隆起線で楕円区画文様を作る。	945-020
129	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		945-020
130	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E		945-020
131	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		945-020
132	深鉢	胴部	灰白	10YR8/1	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	加曾利E		945-007
133	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリ小石	良	LR	縦	加曾利E		945-004
134	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通			加曾利E	幅2~3ミリの平行沈線による条線。	945-990
135	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	R		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。撚糸。	945-985
136	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	良	—		加曾利E	幅10ミリで7~8本の櫛状工具による条線。	945-000
137	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	太さ1ミリ以下の細い沈線5~6本単位で波状に施文。	945-025
138	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	不良	—		加曾利E	表面剥落多い。	945-975
139	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E		945-020
140	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒多い	良	—		加曾利E	上げ底で、丁寧なミガキ。	945-970
141	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通			加曾利E		945-985
142	深鉢	底部	淡橙	5YR8/3	白色粒	不良	—		加曾利E	底部穿孔。	945-025
143	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒	普通			加曾利E	底部無文。	945-990
144	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの白色粒多い	普通	—		加曾利E	表面荒れている。	945-005
145	深鉢	胴部~底部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	不良	—				945-010
146	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	不良			加曾利E	無文。	945-995
147	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	—		加曾利E	外面横位の整形。	945-025
148	深鉢	底部	橙	2.5YR6/8	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	外面横位のミガキによる丁寧な整形。	945-025
149	深鉢	底部	橙	2.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	LR		加曾利E	太さ2ミリの沈線が縦位に施文。	945-025
150	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通			加曾利E	外面縦位のミガキ。	945-015
151	器台		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良			加曾利E	台部に円形の透かしが見られる。	945-020
152	深鉢	底部	にぶい赤橙	2.5YR5/4	φ1~3ミリ小石	普通			加曾利E		945-985
153	蓋	摘み	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通			称名寺		945-025
154	土製円盤		赤褐	10R5/4	細かい砂粒	不良			加曾利E	幅6ミリの平行沈線で渦巻状の文様を描く。	945-995
155	土製円盤		灰黄褐	10YR4/2	白色粒	普通	—			無文。外縁を磨いて成形。	945-015
156	土製円盤		浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	良				無文。	945-990
157	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリ小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの隆線による斜位区画。	945-985
158	土製円盤		淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリ砂粒	普通					945-985
159	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒、石英	普通	RL LR				945-005
160	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—			無文。縁辺を打ち欠いて成形。	945-010
161	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	砂粒多い	普通	—			無文。縁辺を打ち欠いて成形。	945-010
162	土製円盤		にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、石英	普通			五領ヶ台	半截竹管による平行沈線と爪形文。	945-980



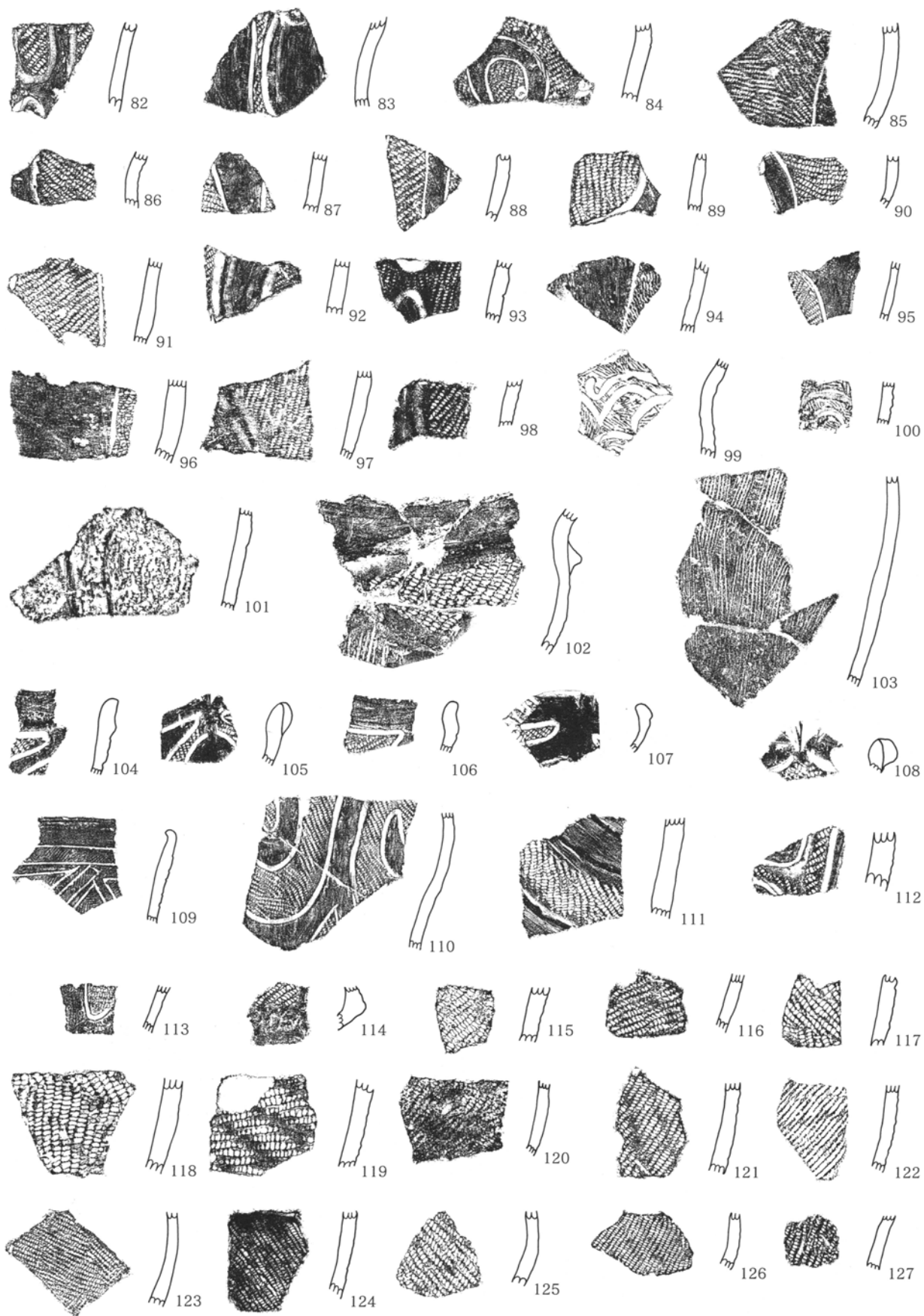
第182図 945グリッド出土土器(1)

0 20cm



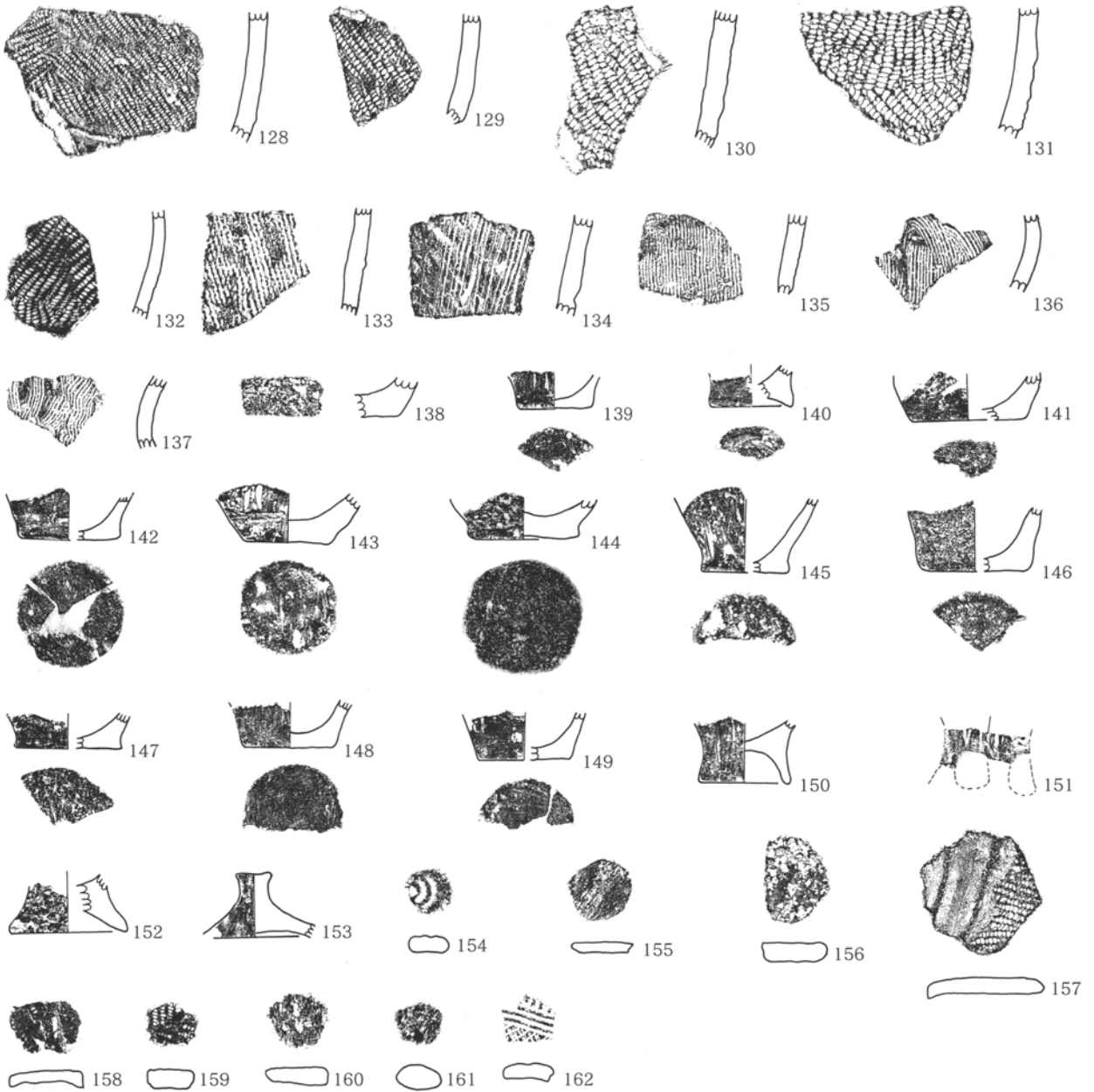
第183図 945グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第184図 945グリッド出土土器 (3)

0 20cm



0 20cm

第185図 945グリッド出土土器 (4)

第4章 出土遺物

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	諸磯b	幅4ミリの平行沈線を横位に施文。	950-970
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	前期~中期	半截竹管による爪形文を口縁に横位施文。	950-000
3	深鉢	突起	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	-		勝坂	太さ2ミリの沈線による弧線文。	950-980
4	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR8/3	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良			阿玉台	幅8ミリの刻み列と隆線で文様を描く。	950-995
5	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL		中期	太さ6~8ミリの隆線で文様を区画。隆線には縄文が施文される。	950-995
6	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	金雲母	良	-		勝坂	幅5ミリの平行沈線を連続させて縦位に施文。	950-015
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	隆線による文様区画と押し引きによる沈線。	950-990
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	不良	-		阿玉台	波状口縁頂部に突起が付けられる。	950-015
9	深鉢	突起	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの小石多い	普通	-		勝坂	口縁部装飾になる突起。	950-995
10	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	-		勝坂	隆線による楕円区画。隆線に沿って幅6ミリの爪形文が施文。	950-990
11	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	金雲母	良	-		阿玉台	無文。外面横方向の整形。	950-015
12	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR6/4	砂粒多い	普通	-		勝坂	隆線による口縁部文様区画。区画内は、交互刺突文が充填される。	950-990
13	深鉢	突起	赤褐	5YR4/8	φ1~3ミリの小石	良	RL		勝坂	口縁部突起。	950-015
14	深鉢	把手	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリ黄色粒	普通	-		中期	土器口縁の装飾把手。	950-995
15	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	白色粒多い	良	-		勝坂	ペン先状押し引き文。粘土紐の貼り付け文。	950-980
16	深鉢	把手	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石	良	-		中期	口縁部に付く把手。	950-990
17	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	隆線による区画と幅5ミリの並行沈線による文様区画。	950-980
18	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	-		勝坂	太さ6ミリの隆線と沈線刻みが平行する。	950-010
19	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	-		勝坂	太さ4ミリの沈線による押し引きの鋸歯文。	950-990
20	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	-		勝坂	太さ7~8ミリの隆線で横位に区画。隆線上は、刻みが付けられる。	950-995
21	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	爪形文が施文される。	950-970
22	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良			勝坂	隆線を縦位に施文。半截竹管による横位の施文。	950-980
23	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	-		勝坂	太さ10ミリの隆線と爪形文。	950-005
24	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	幅4ミリの平行沈線を波状に施文し押し引きの沈線を縦位に施文。	950-990
25	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	-		勝坂	太さ8ミリの隆線に刻みを持つ。	950-995
26	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	-		勝坂	隆線で文様を割り付け連続の刻み目を施文。	950-970
27	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~2ミリの白色粒	良	-		勝坂	太さ8ミリの隆線に刻みを施す。太さ3ミリの沈線による弧線。	950-970
28	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	金雲母	良	-		阿玉台	太さ10ミリの隆線による横位区画。幅6ミリの平行沈線による波状文。	950-990
29	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	-		阿玉台	隆線による胴部横位区画。隆線に沿って幅10ミリの刻み列。幅7ミリの平行沈線を鋸歯状に施文。	950-985
30	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	白色粒、金雲母	良	-		阿玉台	胴部隆線で区画する文様は、幅6ミリの平行沈線により波状文や結節沈線文が描かれる。	950-000

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
31	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	—	—	勝坂	隆線と沈線による文様施文。	950-995
32	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの 小石、白色粒	普通	LR	横	勝坂	幅8ミリの平行沈線と隆線で文様を作る。文様区画内に縄文充填。	950-000
33	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	黒色粒、金雲母	普通	—	—	勝坂	太い隆線による文様区画。	950-970
34	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリ小石	良	—	—	勝坂	幅11ミリの平行沈線による弧線。	950-000
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	幅6ミリの平行沈線を波状に施文。	950-015
36	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—	—	阿玉台	幅7ミリの平行沈線による波状文。	950-990
37	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒多い	良	—	—	勝坂	粘土隆線による「Y」字状の貼付。粘土には刻みが施文される。	950-980
38	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリ小石	良	—	—	阿玉台	太さ8ミリの隆線に刻みを施す。	950-970
39	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による文様区画。平行沈線を3本平行させて文様を描く。	950-990
40	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石	不良	RL	—	中期	幅4ミリの半截竹管による平行沈線と、隆線による横位区画。	950-000
41	深鉢	胴部	褐灰	5YR4/1	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	勝坂	太さ10ミリの隆線で渦巻状に施文。隆線に沿って連続する爪形文が施文される。	950-000
42	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1ミリの小石	良	—	—	阿玉台	隆線と沈線による文様区画。ペン先状刺突。	950-015
43	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	砂粒、雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ3~4ミリの隆線と押し引きの沈線による文様区画。区画内には幅17ミリの刻み列が施文される。	950-010
44	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	沈線による縦位区画文。	950-990
45	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	太さ2ミリの沈線による縦位区画。連続する刻みが付けられる。	950-015
46	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	沈線による区画内を斜線が充填する。区画に三角印刻が施文。	950-000
47	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	太さ7~8ミリの隆線が貼り付けられる。隆線上は、「ハ」の字状に刻みが付けられる。	950-995
48	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	太さ4ミリの沈線による文様施文に刻み列が加えられる。	950-020 長野系
49	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	阿玉台	太さ6ミリの沈・隆線による施文。	950-970
50	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	阿玉台	太さ10ミリの隆線による文様区画。区画内に太さ2ミリの押し引き沈線が施文される。	950-010
51	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリ砂粒	普通	RL	—	I群	隆線による横位の区画と渦巻。撚糸。	950-970
52	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリ小石	良	RL	縦	II群	太さ5ミリの隆線を渦巻状に施文。	950-995
53	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による円形、斜線などの文様施文。	950-000
54	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、土器碎片	良	—	—	I群	隆線で文様帯を区画。区画内を沈線が充填される。	950-985
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	II群	隆線による文様区画。	950-990
56	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ7ミリの太い隆線を鋸歯状に施文。	950-975
57	深鉢	胴部	褐灰	10YR5/1	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による施文。	950-000
58	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	加曾利E	地文は条線で太さ5ミリの隆線が「J」状に貼り付けられる。	950-005
59	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/4	φ1ミリ以下の白色粒多い	良	RL	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隆線を横位に施文。	950-000
60	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	白色粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	隆線による縦位区画。	950-025
61	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	LR	—	加曾利E	撚糸。	950-000
62	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	交互刺突文と沈線による横位区画。	950-990
63	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曾利E	交互刺突による「コ」の字文。	950-010
64	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曾利E	隆線による横位区画と縦位の条線。	950-025

第4章 出土遺物

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
65	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E	太さ4ミリの沈線3条で区画。撚糸。	950-970
66	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ4ミリの沈線を横位に施文。	950-970
67	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良			加曾利E	太さ5~6ミリの隆線で横位区画。並行して太さ4ミリの沈線施文。	950-010
68	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの小石	良	LR	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による文様施文。	950-970
69	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁に太さ17ミリの沈線による文様区画。	950-015
70	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部に沈線による楕円区画。	950-015
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群	隆・沈線で口縁部を横位に区画。	950-000
72	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリ白色粒	普通	RL	横	加曾利E	隆線による楕円区画。	950-980
73	深鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	太さ10ミリの隆線による横位区画。地文は条線。	950-975
74	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒多い	普通	LR	横	加曾利E	隆・沈線による口縁部楕円区画。	950-015
75	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい白色粒	良	RL	縦	加曾利E	口縁部を微隆起線で区画し、太さ8~10ミリの沈線で「J」状文を描く。	950-985
76	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	不良	—		加曾利E	太い隆・沈線で楕円区画の文様を描く。	950-015
77	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅲ群1類	太く浅い沈線による口縁楕円区画。内面には渦巻状の沈線を施文。	950-020 舌状突起
78	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒多い	良	RL	横	Ⅲ群1類	太さ7~8ミリの沈線による渦巻。	950-010 舌状突起
79	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	不良	—		Ⅲ群	太い沈線による楕円区画。	950-970
80	深鉢	口縁	灰白	5Y8/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群1類	口縁部に太さ7~8ミリの沈線で楕円区画を作る。	950-995 舌状突起
81	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	—		Ⅶ群1類	太い隆・沈線による楕円区画文様。地文は、条線。	950-990
82	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの黄色粒	良	RL	横 縦	V群1類	口縁部を横位の沈線で区画。「J」状や曲線文様を描く。	950-985 舌状突起
83	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横 斜	Ⅶ群1類	把手中央部に沈線による文様区画。	950-005 舌状突起
84	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	白色粒	普通			加曾利E	隆線で口縁部に楕円区画。	950-030
85	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	隆線による楕円区画。	950-980
86	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	普通	—		Ⅵ群2類	沈線により把手両脇に「∩」状の文様。	950-985 橋状把手
87	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	外面ミガキによる横位の整形。	950-995
88	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	黒色粒、白色粒	普通	RL	横 斜	加曾利E	太さ20ミリの隆線による口縁部楕円区画。	950-005
89	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	太さ7~8ミリの沈線による渦巻文様と縦位の区画線。	950-995
90	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	良	RL		Ⅶ群1類	幅6ミリの爪形文。波状口縁。把手には、太沈線で「J」状の文様。	950-985
91	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横 縦	V群2類	太さ5ミリの沈線による口縁部区画。口縁部文様区画内は、波状に沈線を磨り消し、「J」状文を配する。	950-995 舌状突起
92	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	—		Ⅷ群3類	太さ10ミリの沈線で口縁部無文帯を区画する。胴部は、条線が施文される。	950-995 93と同一 個体
93	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	普通	—		Ⅷ群3類	太さ10ミリの沈線で口縁部無文帯を区画する。胴部は、条線が施文される。	950-995 92と同一 個体
94	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		加曾利E	口縁部片。横位方向のミガキ整形。	950-995
95	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	Ⅵ群3類	隆起線で口縁部を横位に区画。	950-035

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
96	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		VI群3類	口縁部に段を持つ。外面縦位の整形痕。	950-995
97	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	横縦	VI群1類	口縁部にφ3~5ミリの楕円刺突列。太さ5ミリの沈線による「U」「∩」の連続する文様。無文部はミガキによる磨り消し縄文。	950-995
98	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	不良	RL	斜	VI群3類	太さ5ミリの隆線による口縁部区画と文様施文。	950-000
99	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの白色粒	良	LR	横	VI群3類	太さ5~8ミリの隆線による口縁部区画と渦巻文。	950-010
100	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	不良	RL	縦	VI群3類	口縁に太さ12ミリの沈線が巡る。	950-995
101	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの白色粒	良	—		VI群3類	口縁部無文帯。頸部との区画に沈線が巡る。	950-015
102	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい白色粒	普通	LR	縦	VI群3類	口縁に沿って太さ8ミリの浅い沈線が巡る。	950-015
103	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	砂粒	不良	RL	縦横	VI群3類	口縁部に太さ8ミリの沈線が巡る。	950-015
104	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		VI群3類	太さ2ミリの沈線が縦位に条線状に施文。	950-015
105	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	VI群3類	太さ6ミリの沈線による口縁区画。	950-010
106	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	白色粒多い	普通	LR	横	加曽利E	口縁に無文帯を持つ。	950-980
107	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	RL	横	加曽利E	口縁部に隆線が巡り無文帯を区画する。	950-980
108	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	V群2類	太さ5ミリの沈線による「J」状の文様。	950-010
109	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	良	LR	縦	V群2類	太さ5ミリの沈線による楕円区画と刺突。	950-990
110	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	白色粒	良	RL	縦	加曽利E	隆線による渦巻の文様区画。	950-975
111	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線で縦位の区画を作る。	950-985
112	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの黄色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線2本を対にして縦位の区画を作る。	950-995
113	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	φ1~5ミリの小石	不良	RL	縦	加曽利E	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。	950-995
114	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	LR	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線が2本対になり縦位の区画をする。	950-995
115	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの黄色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線を2本対にして縦位の区画。無文部磨り消し縄文。	950-995
116	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ9ミリの沈線で縦位の区画。	950-970
117	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線で縦位の区画。	950-010
118	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線を2本対にして縦位に区画する。	950-990
119	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR		加曽利E	太さ6ミリの沈線を縦位に施文。	950-990
120	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	白色粒多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。無文部磨り消し縄文。	950-025
121	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5~6ミリの沈線で縦位に施文。	950-010
122	深鉢	胴部	橙	2.5Y6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6~7ミリの隆線による縦位の区画。	950-980
123	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	黒色粒	良	RL	縦	加曽利E	隆線による縦位の区画。	950-990
124	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	砂粒多い	不良	RL	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	950-030
125	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	950-995
126	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	950-010
127	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ5~10ミリの沈線による方形区画。	950-995

第4章 出土遺物

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
128	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線で楕円区画を作る。	950-995
129	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ5ミリの隆・沈線による文様。	950-020
130	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線が垂下し、縦位の区画を作る。	950-000
131	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1ミリの小石	不良	RL	斜	加曾利E	太さ5ミリの隆線による楕円区画。	950-000
132	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隆・沈線による縦位区画。	950-010
133	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太い隆・沈線による胴部楕円区画。	950-030
134	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの縦位の沈線で文様区画。磨り消し縄文。	950-015
135	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	太さ4ミリの隆線による弧状文。	950-995
136	深鉢	口縁~胴部	明黄褐	10YR6/6	白色粒	不良	LR	横	IV群	隆・沈線による口縁部楕円区画。	950-015
137	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒多い	不良	RL	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。区画内に縄文を充填する。	950-995
138	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ5~8ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文。	950-010
139	深鉢	胴部	灰	5Y4/1	白色粒多い	良	LR	横	加曾利E	隆・沈線による楕円区画。	950-975
140	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通			加曾利E	太さ5ミリの沈線による弧線文。	950-000
141	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ4ミリの隆線を3条渦巻形に貼り付ける。	950-970
142	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	白色粒多い	普通			加曾利E	隆・沈線による口縁部楕円区画。	950-000
143	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。地文は細い条線。	950-980
144	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリ小石	普通	RL	斜	VI群	太さ4~10ミリの沈線で渦巻文。	950-985
145	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	隆線による文様区画。	950-015
146	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの小石	良	—		VI群	太さ3~5ミリの隆線で渦巻を描く。	950-030
147	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	良	—		加曾利E	口縁部に沈線による楕円区画。区画内円形の刺突文。	950-990
148	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通			加曾利E	隆線と楕円区画により文様が描かれる。	950-985
149	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	不良			加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	950-975
150	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒多い	不良	RL	横	VI群3類	太さ5ミリの隆線で縦位の区画を作る。	950-030
151	深鉢	胴部	灰白	2.5Y7/1	φ1~3ミリの白色粒	普通	—		VI群3類	太さ4ミリの沈線を縦位に施文。地文は、条線。	950-995
152	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL		VI群3類	太さ2~4ミリの沈線が縦位に施文され区画される。	950-985
153	両耳壺	口縁~胴部	褐灰	10YR6/1	φ1~2ミリの小石多い	普通	RL	横縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。橋状把手を持つ。	950-010 橋状把手
154	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒	不良	LR	縦横	称名寺	口縁部は、隆起線により区画される。隆起線から太さ2ミリの沈線で楕円区画が施文される。	950-025
155	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの白色粒	良	LR	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。口縁部波頂部に突起が付く。	950-015
156	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横	称名寺	太さ3~4ミリの沈線で口縁部文様を描く。	950-995
157	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	黒色粒	不良	—		称名寺	小波状口縁で波頂部に突起が付き、突起からは、沈線が口唇に沿って施文。口縁部には、太さ4ミリの沈線が鋸歯状に施文される。	950-015
158	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR	斜	称名寺	太さ5ミリの沈線で口縁部を横位区画。波状口縁頂部に突起が付く。	950-995
159	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦横	称名寺	太さ2ミリの沈線による文様区画。	950-980
160	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	黒色粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	950-980

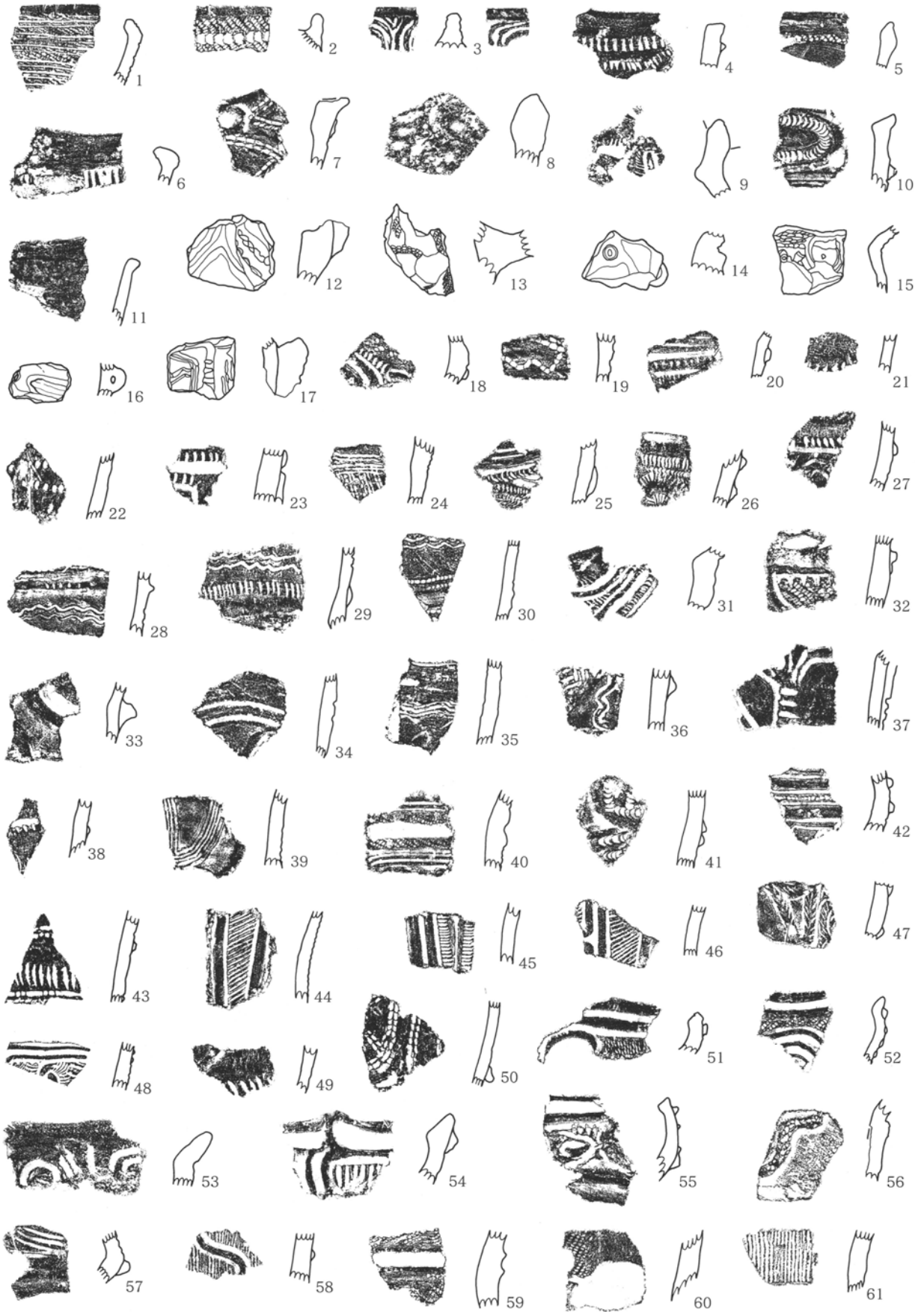
II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
161	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による区画文様。無文部は、丁寧に磨かれている。	950-995
162	深鉢	胴部	黒褐	7.5YR3/1	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦	称名寺	太さ5~6ミリの沈線による文様区画。無文部は丁寧に磨かれている。	950-995
163	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒多い	普通	RL	縦	称名寺	太さ6ミリの沈線による木葉形の文様。区画内に縄文が充填される。	950-995
164	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい白色粒	普通	LR		称名寺	太さ4~5ミリの沈線による文様区画。擦糸。	950-020
165	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線で「()」状の文様を描く。	950-025
166	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	斜	称名寺	太さ4ミリの沈線による楕円区画。	950-990
167	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		後期	太さ6ミリの沈線による文様施文。	950-000
168	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横 縦	称名寺	太さ4ミリの沈線で弧を描く。	950-985
169	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良			称名寺	太さ2ミリの沈線による楕円区画。	950-980
170	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	不良	LR	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による文様区画。	950-035
171	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	称名寺	太さ4~10ミリの沈線で渦巻を描く。	950-985
172	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒、黄色粒	普通	RL	横	加曾利E	1段2条の原体。0段の太さが異なる。	950-010
173	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太い沈線による縦位区画。	950-970
174	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい白色粒	良	RL	縦	加曾利E		950-970
175	両耳壺	突起	にぶい黄褐	10YR5/4	白色粒	普通	RL	縦	Ⅶ群1類	縄文施文。	950-975 橋状把手
176	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1~3ミリ小石	普通	RL	横	加曾利E	口縁部と隆起線による文様区画。	950-980
177	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E		950-980
178	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	黒色粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隆線で文様を描く。	950-000
179	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒	普通	LR	斜	加曾利E		950-015
180	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5Y6/4	φ1ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	まばらに縄文を施文。	950-030
181	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	六角形に縁辺を打ち欠いて成形。	950-010 土製円盤か
182	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	斜	加曾利E		950-000
183	両耳壺	把手	にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒	良	RL	横	Ⅶ群2類		950-980 橋状把手
184	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	良	L		加曾利E	擦糸。	950-980
185	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	L		加曾利E	擦糸を条線状に施文。	950-025
186	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	LR		加曾利E	擦糸。	950-980
187	深鉢	胴部	灰白	2.5Y7/1	φ1~2ミリの白色粒	不良	—		加曾利E	条線が縦位に施文。	950-995
188	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E	擦糸。	950-980
189	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの黒色粒	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。内面煤付着多い。	950-030
190	両耳壺	把手	浅黄橙	10YR8/4	白色粒	普通	—		Ⅶ群	無文。	950-000 橋状把手
191	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリ小石	普通	—		Ⅶ群4類		950-990
192	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	—		Ⅶ群2類	幅12ミリに5本の櫛状工具による波状の条線。	950-020
193	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	太さ1ミリの沈線が縦位に施文。縦位のミガキ整形。	950-985
194	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	950-025
195	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		Ⅶ群4類	条線が施文される。	950-000

第4章 出土遺物

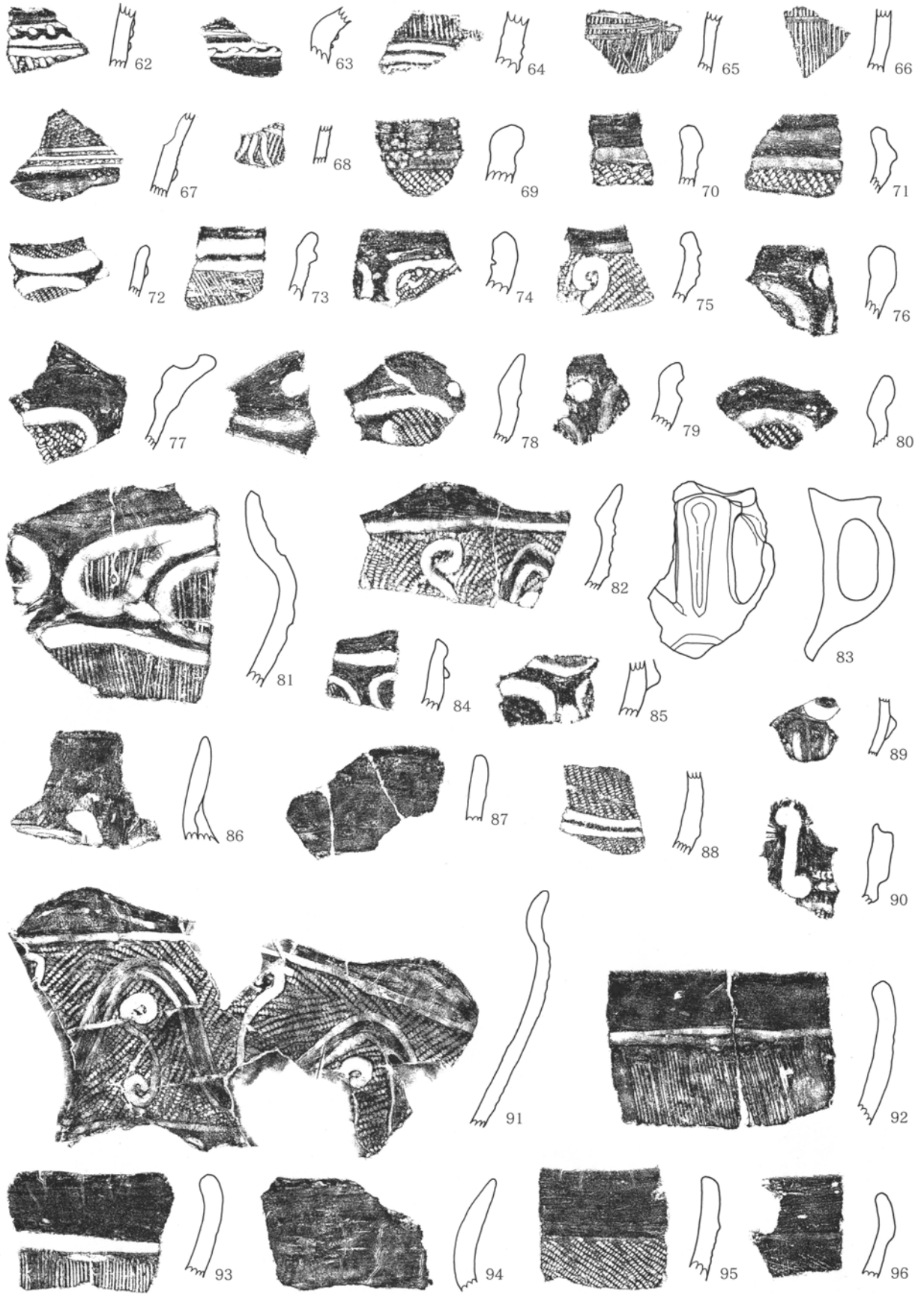
II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
196	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの黄色粒	普通	—		Ⅷ群4類	太さ3~4ミリの浅い沈線で縦位の区画。地文は条線が施文される。	950-995
197	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリ小石	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	950-995
198	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリ小石	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	950-980
199	浅鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	良			土師器		950-000
200	深鉢	胴部~底部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	細い沈線を条線状に引く。	950-065
201	深鉢	胴部~底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線を2本対にして縦位の区画を作る。無文部磨り消し縄文。	950-990
202	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E	外面ミガキ整形。高台状の底部。	950-030
203	深鉢	底部	橙	5YR7/6	白色粒多い	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	950-970
204	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線が縦位に施文される。	950-010
205	深鉢	底部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	不良	—		阿玉台	外面整形。	950-010
206	深鉢	胴部~底部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	950-990
207	深鉢	底部	橙	5YR6/8	細かい砂粒	普通	—		加曾利E		950-975
208	甕	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	砂粒	良	—		土師器	外面ミガキ整形。古墳時代。	950-030
209	深鉢	胴部~底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	950-980
210	深鉢	胴部~底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石	不良	—		加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	950-025
211	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	—		加曾利E	上げ底になる。外面ミガキ整形。	950-020
212	深鉢	底部	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石	良	—		加曾利E	全体に摩滅。	950-995
213	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	外面に乱雑な整形痕。	950-005
214	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E		950-995
215	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	砂粒	不良	—		加曾利E	条線が施文。	950-010
216	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E	縦位方向の沈線。	950-025
217	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ6ミリの沈線を縦位に施文。	950-970
218	深鉢	底部	灰白	7.5Y8/2	白色粒	不良	—		加曾利E	無文。	950-995
219	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線で縦位の区画。高台形の底部になる。	950-995
220	深鉢	突起	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	—		中期	土器に付けられた突起部。渦巻状の文様施文。	950-015
221	注口土器	注口部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	良	—		堀之内	注口土器の注口部。橋状になる把手が付く。	950-995
222	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	—			条線が施文される。	950-000
223	土製円盤		赤褐	5YR4/6	白色粒	普通	LR		加曾利E	撚糸。	950-990
224	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの黒色粒	不良				底部片転用の土製円盤。	950-000
225	土製円盤		にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	—			無文。底部片転用。	950-000
226	土製円盤		赤橙	10R6/8	φ1~3ミリの小石	普通	—			底部片転用。	950-015
227	土製円盤		褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E		950-985
228	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石	不良					950-990
229	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—			無文。	950-010



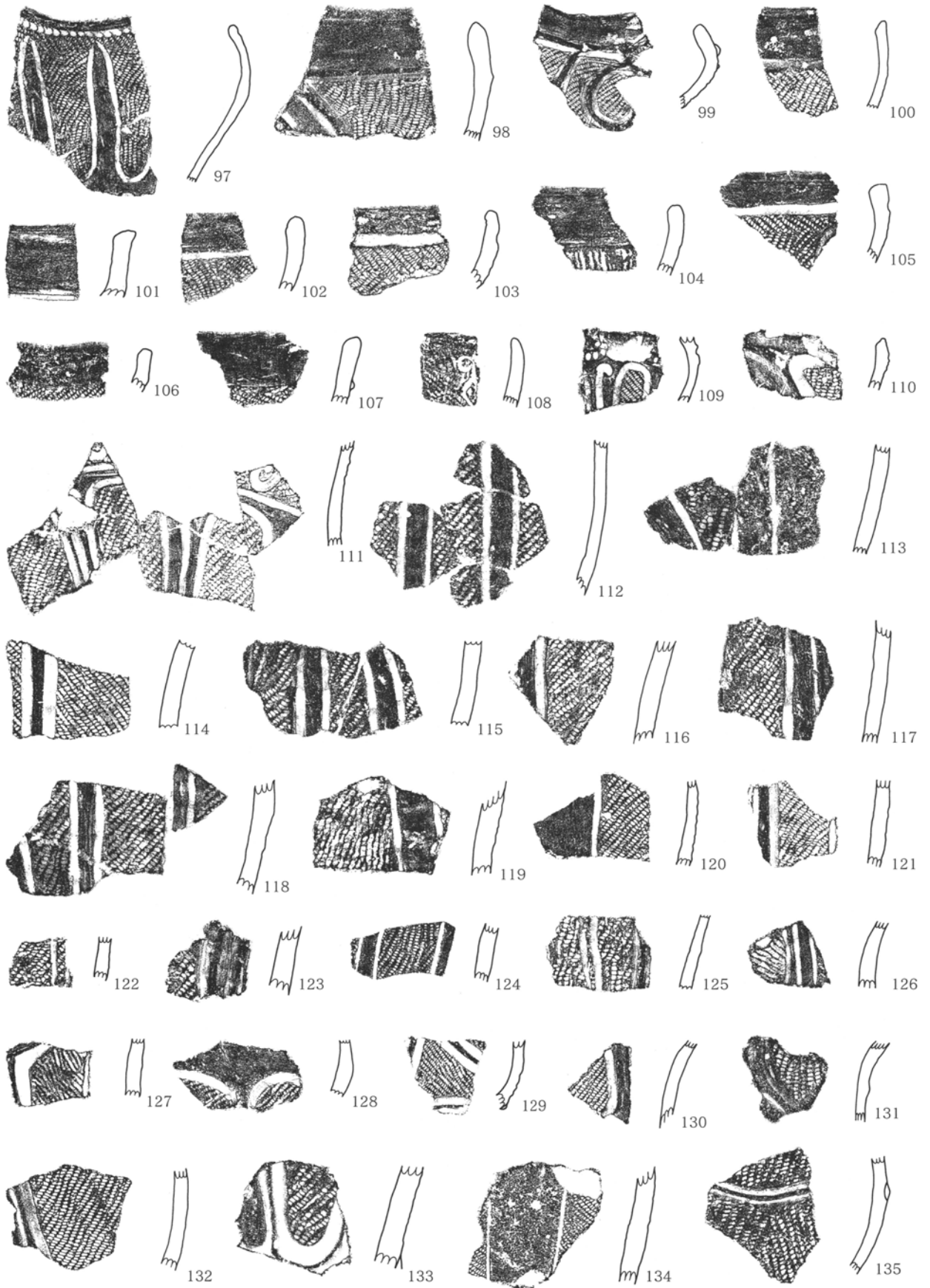
第186図 950グリッド出土土器 (1)

0 20cm



第187図 950グリッド出土土器 (2)

0 20cm



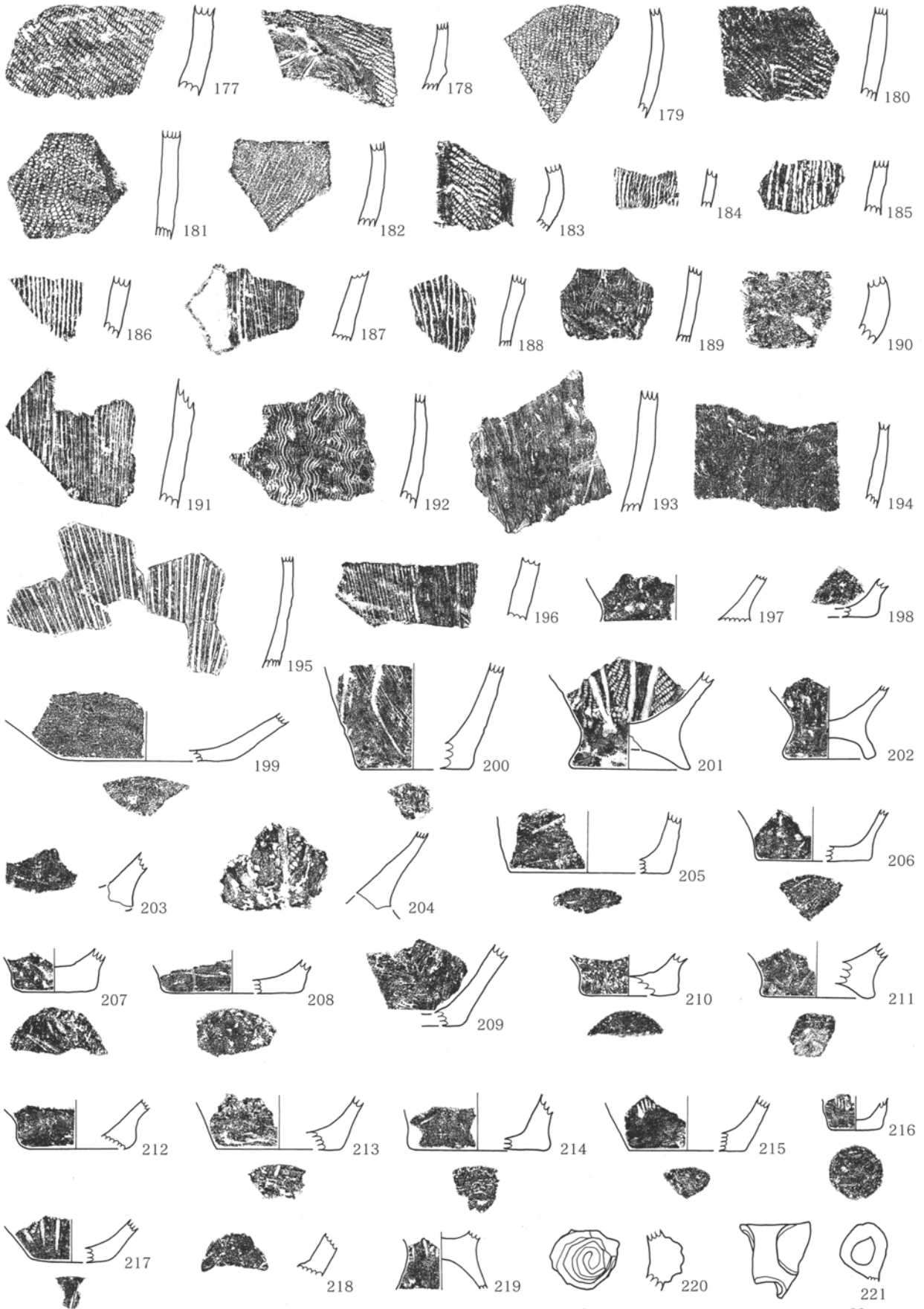
第188図 950グリッド出土土器 (3)

0 20cm



第189図 950グリッド出土土器 (4)

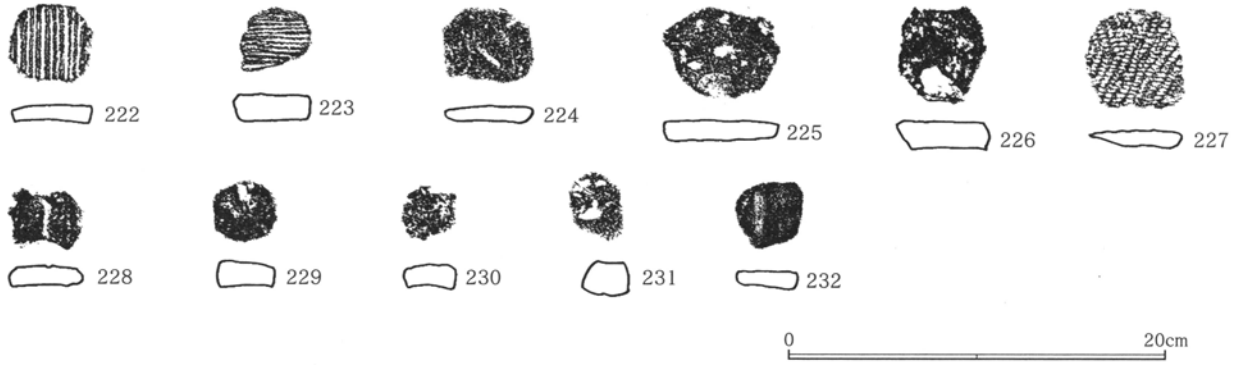
0 20cm



第190図 950グリッド出土土器 (5)

0 20cm

第4章 出土遺物



第191図 950グリッド出土土器 (6)

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
230	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	不良	-			無文。底部片転用。	950-000
231	土製円盤		赤褐	2.5YR4/6	白色粒多い	不良	-			口縁突起を転用。	950-000
232	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良				全体に摩滅。	950-995

II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/3	φ1ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による楕円区画。	955-000
2	深鉢	口縁	灰	7.5Y4/1	φ1~3ミリの小石多い	不良	—	—	勝坂	幅7~8ミリの爪形文が口縁に沿って施文される。	955-990
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	隆線により文様帯を区画。太さ1ミリの沈線と、印刻による文様。	955-015
4	深鉢	口縁突起	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	ペン先状の刺突列を2列並列させ文様を描く。	955-000
5	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部に突起。突起部から縦位に隆線が施文される。粘土の輪積み痕が残る。	955-030
6	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部から隆線が垂下する。	955-020
7	深鉢	突起	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	大波状口縁の突起部。縁に刻みを持つ。	955-980
8	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	阿玉台	幅5ミリの平行する押し引き文を横位に施文。	955-025
9	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	阿玉台	波状口縁把手。縁に刻みを持つ。幅3ミリの結節沈線が2条巡る。中央部に透かしが付けられる。	955-980
10	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	太さ4ミリの隆線で横位に区画し、楕円区画を作る。	955-025
11	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	隆線による楕円区画と、太さ2ミリの波状沈線が施文される。	955-025
12	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	勝坂	太さ6~8ミリの隆線による文様区画。隆線に刻み施文。区画内は、幅4ミリの平行沈線と爪形文。	955-015
13	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	斜	勝坂	太さ4ミリの沈線による文様施文。	955-020
14	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	隆線と押し引きの沈線。	955-010
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	不良	—	—	勝坂	幅18ミリの爪形文が横位に施文される。	955-995
16	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	—	太さ10ミリの隆線が縦位に施文される。隆線上には指頭圧痕。浅く太い沈線が縦位に施文される。	955-015
17	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ5ミリの隆線による文様帯区画。隆線に沿って連続する爪形文。横位と縦位では施文方向を変えている。隆線状の文様帯では、平行沈線による鋸歯状の文。	955-975
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	勝坂	太さ5ミリの断面三角形になる隆線とそれに沿って押し引きの沈線が施文される。	955-995
19	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	太さ10ミリの隆線で渦巻状に施文。隆線上に刻みを施す。	955-975
20	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	普通	—	—	—	太さ5ミリの隆線が垂下し、太さ1ミリの沈線が斜めに施文。	955-000
21	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	幅4ミリの平行沈線と幅7ミリの爪形文による文様施文。文様の交点には三角の印刻が施文される。	955-005
22	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石、白色粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線により口縁部文様帯を区画。隆線で口縁部に三角形の文様が作られる。隆線に沿って押し引きの沈線。胴部には、幅6ミリの平行沈線で波状文を施文。	955-990

第4章 出土遺物

II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
23	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの小石	良	RL		勝坂	太さ5~6ミリの隆線と平行沈線による文様施文。隆線上に縄文施文。	955-020
24	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒	不良	—		勝坂	幅10ミリの爪形列と太さ3ミリの押し引きの沈線2列を並行施文。	955-000
25	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	太さ5~6ミリの隆線と太さ3ミリの沈線による文様区画。	955-995
26	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	—		勝坂	幅5ミリの平行沈線による弧線と爪形文。	955-000
27	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	太さ5~6ミリの隆線による貼り付け文と爪形文。沈線が施文。	955-000
28	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	横方向のミガキ整形。	955-005
29	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	太さ10ミリの隆線が弧を描く。隆線に沿って2列の刺突。	955-975
30	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	隆線により口縁部文様帯と胴部を区画。口縁部文様には、楕円区画の隆線が施文。隆線に沿って押し引きの沈線。	955-045
31	深鉢	胴部	灰白	5Y8/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	阿玉台	隆起線と沈線による口縁部区画。	955-000
32	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	太さ10ミリの隆線を縦位に貼り付ける。幅5ミリの平行沈線で波状文を施文。	955-000
33	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	—		II群	沈線により口縁部に楕円区画文様を描く。	955-000
34	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	普通	—		I群	口縁に交互刺突。	955-005
35	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ6ミリの波状沈線が巡る。	955-990
36	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの小石	良				太さ6ミリの隆線による弧線。	955-980
37	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	LR		加曾利E	太さ15ミリの隆線と太さ3ミリの沈線で文様を描く。擦糸。	955-005
38	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、白色粒多い	普通	LR		I群	隆線による磨手状の文様。擦糸。	955-030
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	不良	RL	横	II群	太さ10ミリの隆線で文様施文。	955-010
40	深鉢	口縁~胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線3条で横位に区画。	955-970
41	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	LR		II群	太さ4~5ミリの隆・沈線が横位に施文。擦糸。	955-980
42	深鉢	口縁	灰	7.5Y5/1	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	II群	太さ4~6ミリの隆線を横位に貼り付ける。	955-020
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの黒色粒	良	RL	縦	III群	太い隆線が口縁部に巡る。口縁部文様は、楕円・円形の区画。	955-015
44	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ5~6ミリの隆線で楕円区画。隆線区画内に縄文が施文される。	955-010
45	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線で楕円区画を作る。口唇部は横方向の丁寧なナデ。	955-010
46	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯と区画する。	955-025
47	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	IV群	太さ10ミリの隆・沈線による口縁部楕円区画と縦位に沈線が施文される。	955-975
48	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太い隆・沈線で口縁部文様区画。	955-980
49	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ6ミリの隆・沈線による楕円区画と小渦巻文。口縁は、波状になり舌状突起。	955-975
50	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	普通	RL	斜	加曾利E	隆線による口縁部区画。	955-005
51	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	白色粒	普通	—		加曾利E	沈線による文様施文。	955-005

II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
52	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ2ミリの沈線による方形の区画。区画内には、太さ1ミリ以下の細い沈線が斜めに充填される。	955-980
53	深鉢	口縁～胴部	褐灰	10YR4/1	φ1～3ミリの小石	普通	RL	斜	加曽利E	隆・沈線による楕円区画と小渦巻文。	955-975
54	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	太さ12ミリの沈線が口縁部文様区画を作る。	955-000
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	良	—		加曽利E	口縁部に深い沈線で楕円文様が施文される。	955-015
56	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	良	—		加曽利E		955-020 橋状把手
57	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石	不良	—		加曽利E	隆・沈線による文様区画内。楕円区画には、条線が充填。	955-025
58	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	隆線と沈線による文様施文。	955-005
59	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5～8ミリの隆線による横位区画。隆線には指頭圧痕。	955-995
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	VI群	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。	955-035
61	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	VI群	太さ4ミリの隆線が口縁部に巡る。無文帯と区画する。太さ4ミリの沈線で楕円文を作り、縄文帯と磨り消し縄文帯を分ける。	955-030
62	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、白色粒	不良	RL	横縦	VI群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡り無文帯と区画する。	955-015
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	VI群1類	波状口縁で頂部から太さ5～6ミリの隆線が弧状に施文される。太さ3ミリの沈線で三角形の区画文。	955-015
64	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石多い	普通	RL	横	VI群	太さ3～4ミリの沈線で方形区画。	955-000
65	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横縦	VI群	太さ4ミリの隆線により口縁部を無文帯と区画。太さ3ミリの沈線で文様帯を区画。	955-995
66	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの白色粒	良	—		VI群	口縁部に隆起線が巡り、文様帯を区画する。	955-980
67	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	不良	RL	横縦	VI群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡り無文帯と区画する。	955-015
68	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	VI群1類	太さ4ミリの沈線による楕円文様。無文部は丁寧なミガキによる磨り消し縄文。	955-010
69	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	横縦	VI群	太さ4ミリの沈線による文様施文。無文部は、磨り消し縄文。	955-030
70	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	普通	RL	横	VI群	太さ5ミリの沈線による文様区画。	955-010
71	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1ミリの黄色粒	普通	LR R	斜	加曽利E	太さ6ミリの沈線による文様施文。	955-010 舌状突起
72	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	不良	—		VI群4類	内面に折り返して口縁を作っている。外面には、条線が引かれる。	955-005
73	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	砂粒多い	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの沈線を2本対にして縦位の区画。	955-010
74	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	不良				無文。	955-990
75	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	不良	—		加曽利E	口縁部を沈線で区画。	955-975
76	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線による区画。	955-055
77	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	普通	RL	横	VI群	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡る。	955-000
78	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	黒色粒多い	普通	LR	横縦	VI群	太さ3ミリの沈線が口縁部に巡る。胴部には木葉状の文様。	955-975

第4章 出土遺物

II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
79	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	黒色粒多い	普通	—		加曾利E	指頭による押圧で弧を描く。内面に横位の整形痕。	955-005
80	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	LR		VI群	口縁部に浅い沈線が巡る。	955-030
81	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリ小石	普通	RL	横	VI群	口縁に太さ10ミリの沈線が巡る。	955-010
82	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	白色粒多い	不良	RL	横	VI群	口縁部に隆線による区画線。	955-035
83	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	白色粒多い	良	LR	縦	VI群	口縁部に隆起線が巡り無文部と区画する。	955-980
84	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	不良	LR	縦	VI群	口縁部外側をわずかに凹ませ、口唇を肥厚させる。太さ3ミリの沈線が弧を描く。	955-005
85	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	砂粒多い	普通	RL	斜	V群	口縁に1列にφ8ミリの円形刺突。太さ3ミリの楕円区画が施文。	955-005
86	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	砂粒	普通	RL	斜	V群	φ5~6ミリの楕円形の刺突を口唇に沿って施文。	955-010
87	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒多い	良	RL	横縦	V群	口縁に2×5ミリの刺突列。太さ3ミリの沈線による楕円区画。	955-005
88	深鉢	口縁	灰白	5Y7/2	φ1~3ミリの小石	不良	LR	横	V群	口縁下に爪形の刺突列。	955-000
89	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口縁部に刺突列。	955-000
90	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	砂粒多い	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの押し引きによる沈線。	955-010
91	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ8ミリの隆・沈線で渦巻を描く。	955-025
92	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL	縦横	III群	隆線による口縁部楕円区画。それにつながり胴部へ太さ18ミリの沈線が垂下する。	955-975
93	深鉢	突起	赤褐	5YR4/8	φ1~2ミリの小石	良	—		加曾利E	太い隆線を弧状に作る。口縁部突起。	955-970
94	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	横	VII群		955-025 橋状把手
95	両耳壺	口縁~胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VII群	口縁部を隆・沈線で区画する。区画内は、縄文が充填される。胴部は、平行沈線による条線が施文。	955-020
96	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	断面三角隆線による渦巻文。	955-025
97	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線で文様区画と波状の垂線。	955-010
98	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線を波状に垂下させる。	955-975
99	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	加曾利E	断面三角の低い隆線による楕円文区画。区画にない縄文が充填される。	955-025
100	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒、黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	隆・沈線による口縁部楕円区画。	955-995
101	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	不良	—		加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	955-025
102	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石	不良	RL	縦	VI群	幅広の隆線と沈線による口縁部楕円区画。	955-000
103	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	白色粒	普通	RL	斜	VI群	太さ3ミリの沈線で楕円区画文様を作る。	955-980
104	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの浅い沈線により楕円区画を作る。	955-010
105	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通			加曾利E	幅6ミリの平行沈線を縦位に施文。	955-975
106	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石	普通	LRL	横	VI群	太さ5ミリの沈線で縦位区画を作る。縄文は、複節。	955-990
107	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	縦	III群	太さ5ミリの沈線による縦位区画と「J」状の文様。	955-010
108	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/6	黒色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	955-035
109	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線により口縁部に横位区画と縦位の区画。	955-000

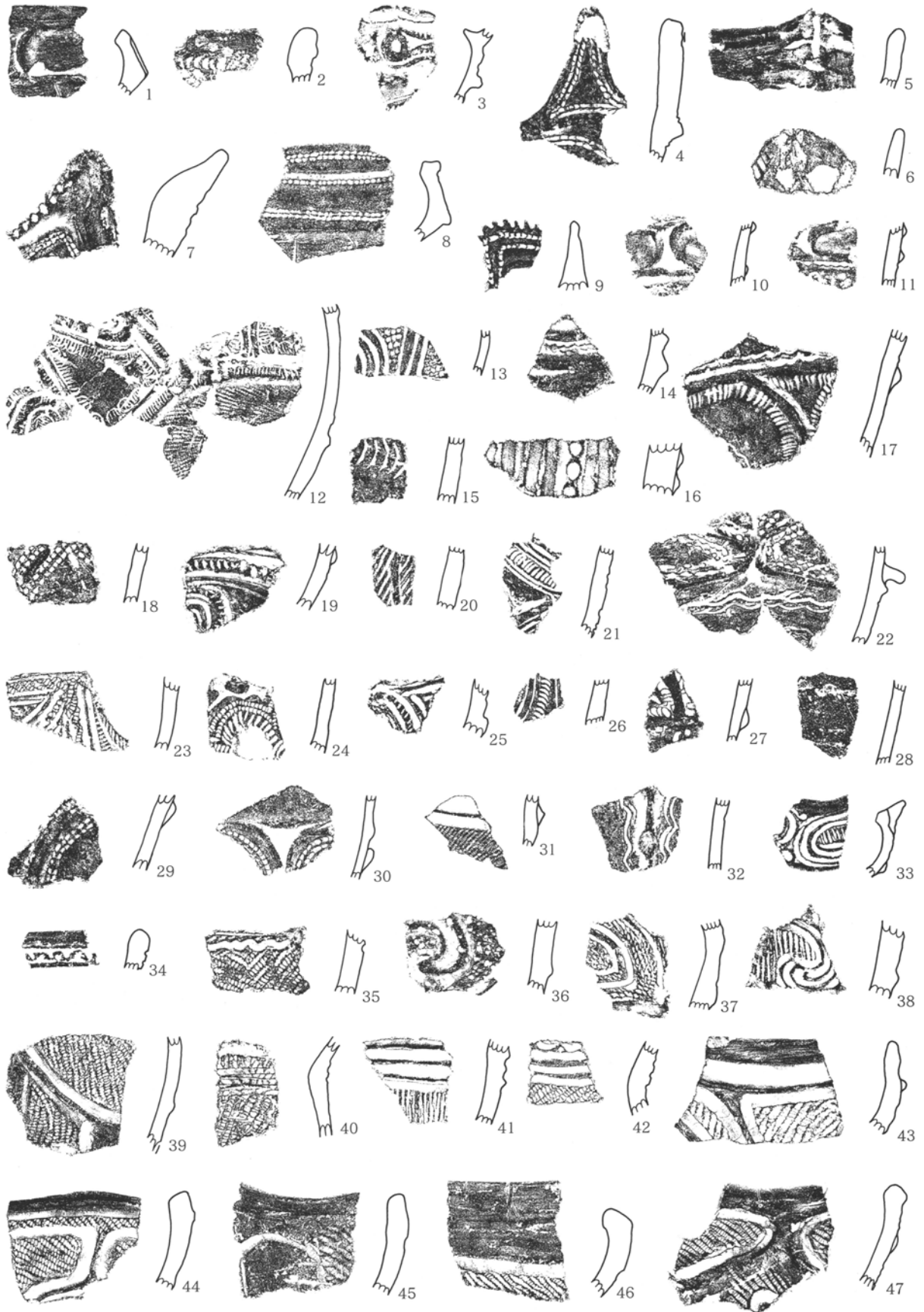
II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
110	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3~4ミリの隆線で「〇」状の区画。区画内は、磨り消し縄文。	955-015
111	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線2本が対になり縦位区画を作る。	955-990
112	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		加曽利E	幅7ミリの平行沈線による縦位区画。区画内に斜線が充填される。	955-985
113	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線が楕円区画を作る。	955-015
114	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	縄文原体は、0段多条。太さ6ミリの隆線が縦位に付けられる。	955-990
115	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	955-975
116	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5~8ミリの隆線2本が対になって縦位の区画。	955-010
117	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線が縦位に施文され無文帯区画を作る。	955-980
118	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線が縦位の区画。無文部は磨り消し縄文。	955-010
119	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5~6ミリの隆線で文様施文。	955-010
120	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線で楕円区画。	955-005
121	深鉢	胴部	オリーブ黒	10Y3/1	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	VI群	太さ15ミリの浅い沈線と細い隆線による弧線。	955-970
122	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	白色粒多い	不良	RL	縦	VI群	太さ5~6ミリの隆線による文様区画。	955-035
123	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	VI群	太さ6ミリの断面三角の隆線による文様区画。	955-030
124	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	不良	RL	縦	VI群	太さ5~8ミリの隆線で文様を描く。	955-010
125	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	VI群	太さ5ミリの沈線が渦巻状に施文。無文部は、丁寧なミガキによる磨り消し縄文。	955-020
126	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ2~4ミリの沈線が縦位に施文。	955-995
127	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~3ミリの小石	不良	RL	横	VI群	太さ7ミリの沈線による楕円区画。	955-985
128	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ3ミリの沈線で楕円区画を作る。	955-015
129	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線が「J」字文、波状の垂下する沈線文を描く。	955-000
130	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	不良	RL	縦	VI群	隆起線で弧を描く。	955-995
131	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	VI群	太さ6ミリの断面三角の隆線による文様区画。	955-030
132	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	955-005
133	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒、白色粒	良	RL	縦	VI群	5ミリの隆線で弧を描く。	955-975
134	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの黄色色粒	普通	LR	横	加曽利E	太さ1ミリの沈線による文様施文。	955-005
135	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	砂粒	良	RL			撚糸。	955-970
136	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	φ1~2ミリ小石	不良	LR			撚糸。	955-985
137	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの白色粒	不良				全体に摩滅が多く文様が見えない。	955-980
138	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	不良	LR	縦	加曽利E	隆・沈線による楕円区画。	955-035
139	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR			撚糸。	955-995
140	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	不良	LR		加曽利E	撚糸がまばらに施文される。	955-015

第4章 出土遺物

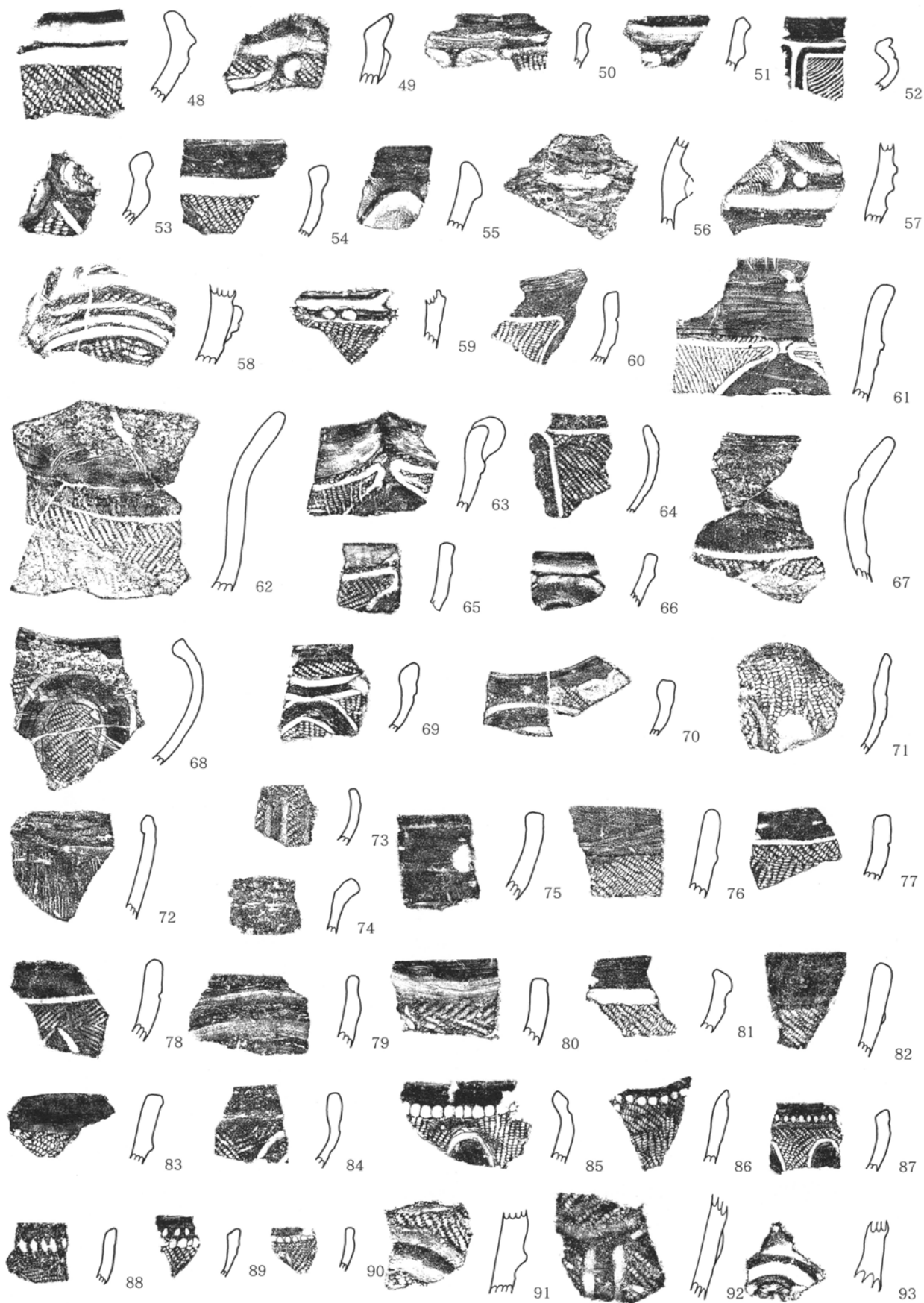
II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
141	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	良	—		加曾利E	条線が弧状に施文される。	955-975
142	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリ小石	良			VII群4類	櫛状工具で間隔を開けた弧線文。	955-995
143	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		VII群4類	太さ1~2ミリの沈線を縦位に施文。	955-000
144	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—		加曾利E	縦位方向のミガキ整形。	955-000
145	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	不良	—			無文。	955-015
146	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5Y5/4	φ1~3ミリ小石	普通	—		加曾利E	まばらな条線。	955-990
147	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E		955-000
148	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒多い	普通	RL	縦			955-980
149	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリ小石	普通	RL	縦横	加曾利E	隆起線による横位の区画。	955-975
150	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリ小石	普通	RL		加曾利E		955-030
151	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒多い	不良	LR		加曾利E		955-035
152	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒多い	不良	LR	縦	加曾利E		955-015
153	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E		955-010
154	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	不良				全体に摩滅しており文様が見えない。	955-015
155	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E		955-015
156	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線を縦位に施文し、区画する。	955-020
157	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	白色粒多い	良	RL	横	加曾利E		955-980
158	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E		955-035
159	深鉢	胴部~ 底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	LR		加曾利E	擦糸。	955-005
160	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	普通	—		加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	955-015
161	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの砂粒	良	—		加曾利E	外面横位のミガキ整形。	955-015
162	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	—			幅3ミリの平行沈線が縦位に施文される。横位方向のミガキ整形。	955-000
163	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	良	—				955-985
164	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	浅い沈線による縦位区画。区画内には細文施文。	955-015
165	深鉢	胴部~ 底部	にぶい褐	7.5YR6/3	白色粒多い	普通	—			外面縦位のミガキ整形。	955-000
166	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	黒色粒多い	良	—		加曾利E	縦方向の整形。	955-035
167	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	—		加曾利E		955-025
168	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリ小石	普通	—		加曾利E	沈線による縦位の区画。	955-010
169	深鉢	胴部~ 底部	橙	5YR7/6	白色粒多い	普通	—			縦位方向のミガキ整形。	955-980
170	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	—		加曾利E	外面縦位のミガキ整形。上げ底になる。	955-015
171	深鉢	底部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	普通	—		加曾利E		955-975
172	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。高台になる。	955-010
173	深鉢	胴部~ 底部	橙	2.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E		955-015
174	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	不良	—			縁辺を打ち欠いて成形。	955-005
175	土製円盤		赤	10R5/8	白色粒	普通	LR	横		太い隆線が弧状に施文される。	955-970
176	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—		称名寺	波状口縁の突起。	955-980
177	深鉢	口縁~ 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリ以下の黒色粒	良	LR	横	堀之内	口頸部に無文帯を持つ。胴部は、太さ3ミリの沈線が弧状に施文。	955-020
178	甕	底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリ小石	普通	—		土師器?		955-010
179	甕	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリ小石	普通	—			古式土師器底部。	955-005
180	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリ小石	普通	—		加曾利E	高台。蓋の摘み部の可能性もある。	955-010



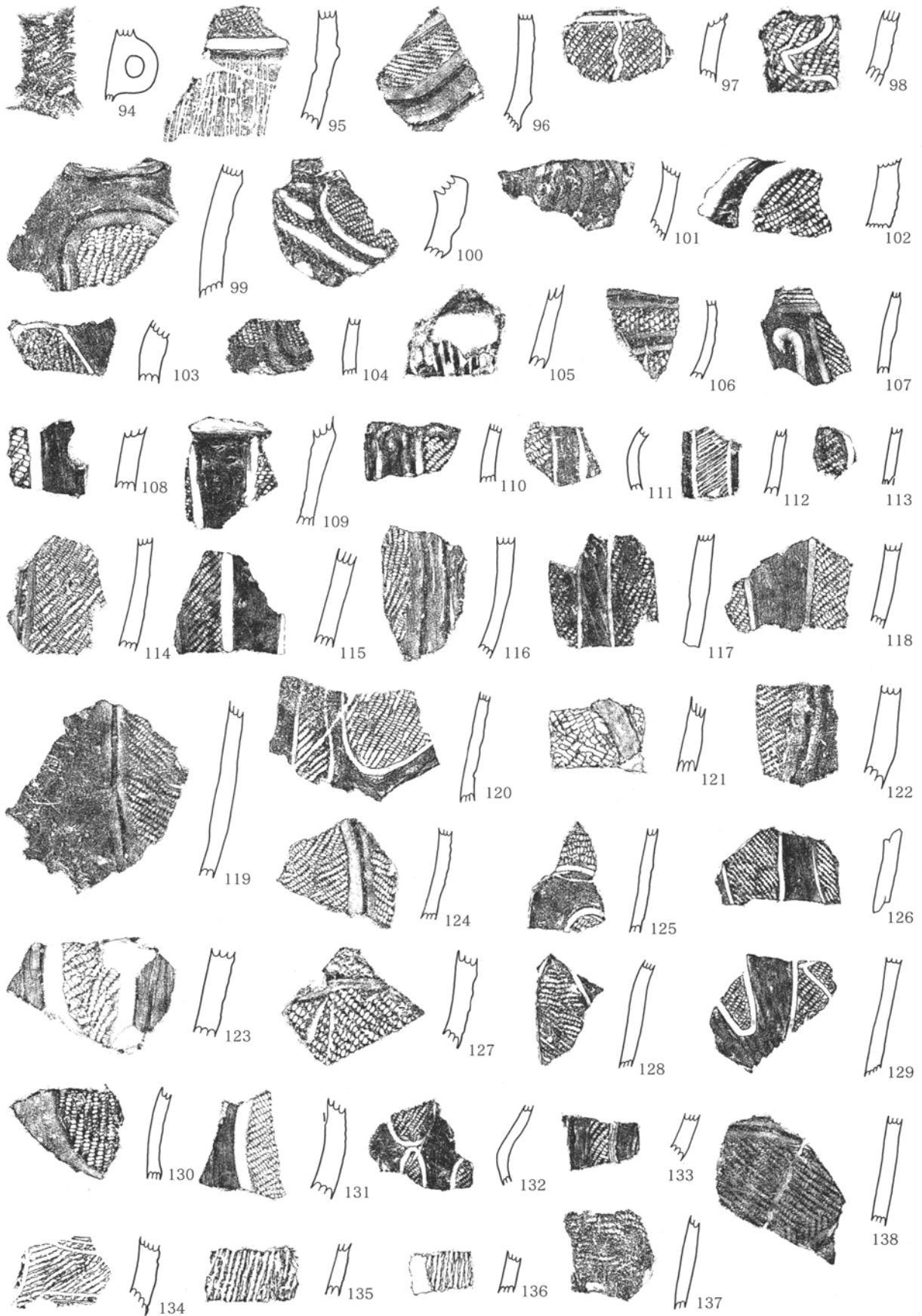
第192図 955グリッド出土土器 (1)

0 20cm



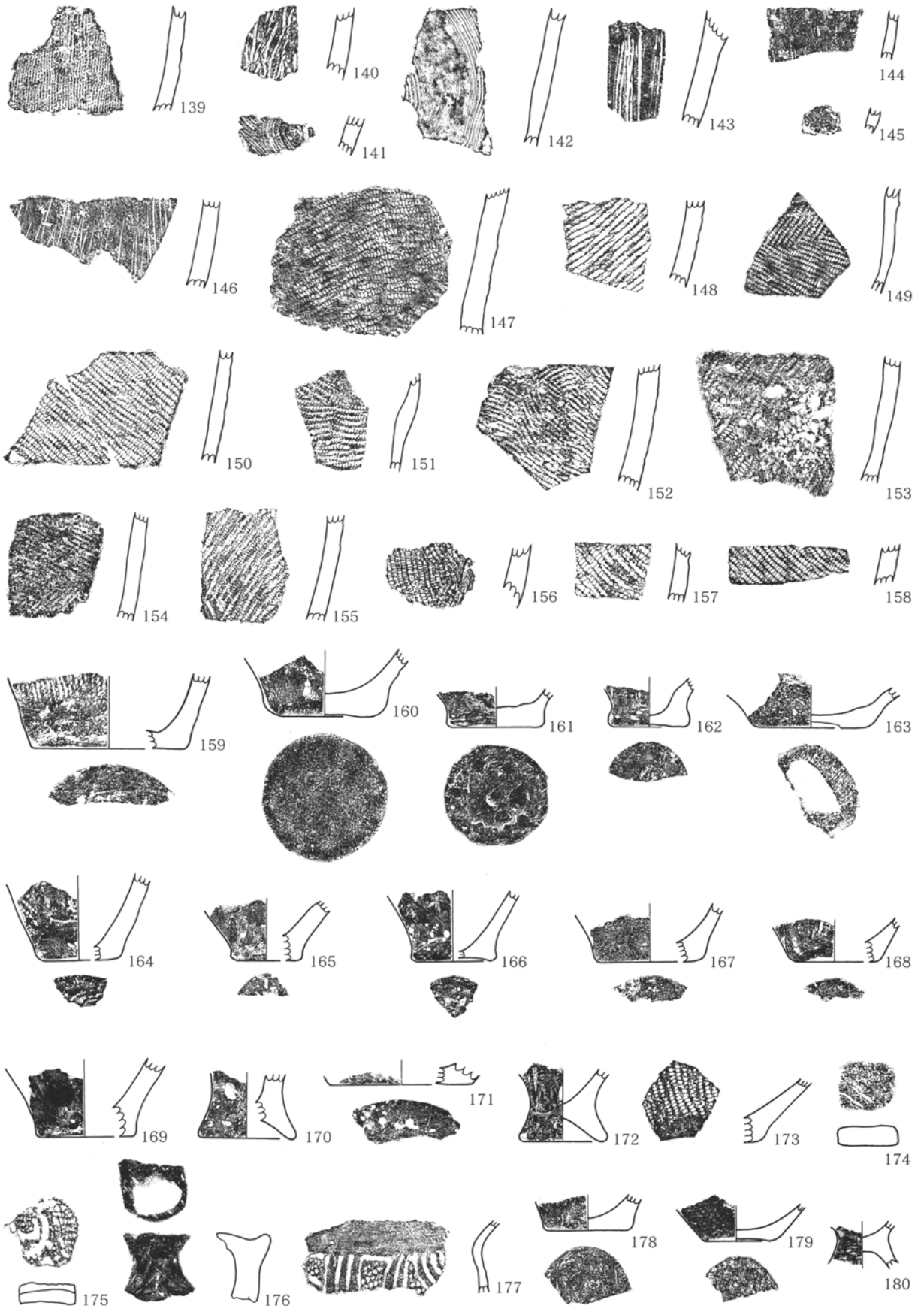
第193図 955グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第194図 955グリッド出土土器 (3)

0 20cm



第195図 955グリッド出土土器 (4)

0 20cm

II区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/6	細かい砂粒多い、雲母	良	—	—	勝坂	口縁部に交互刺突による「コ」の字文が施文される。口縁部には隆線が渦巻状に施文。	960-995
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	隆線で口縁部文様帯を方形に区画し、区画内には太さ3~4ミリの沈線が充填。	960-995
3	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	—	—	勝坂	無文外面横位のミガキ整形。	960-980
4	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	指頭圧痕を持つ隆線で口縁部文様を区画する。口縁部内には、楕円文や沈線による施文。	960-990
5	土製品		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	縁辺にベン先状の刺突列が2段施文される。	960-995
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの黄色粒	普通	—	—	勝坂	幅7ミリのベン先状刺突と隆線による文様施文。	960-025
7	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	断面三角の隆線に幅10ミリの刻みが並行して施文される。	960-980
8	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	勝坂	外面横位のミガキ整形。	960-995
9	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—	—	勝坂	幅8ミリの爪形文による施文。一部を印刻状に施文。	960-975
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	太い沈線による口縁部文様区画。	960-020
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅5ミリの平行沈線が横位に施文される。	960-015
12	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	幅11ミリの平行沈線が横位に施文される。沈線内には、矢羽状の刻み。	960-995
13	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒多い	良	—	—	勝坂	刻みの付いた隆線と沈線が弧状に施文される。	960-025
14	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒多い	良	—	—	勝坂	隆線で円形の文様を描く。	960-980
15	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、雲母	普通	—	—	勝坂	幅8ミリの隆線が垂下する。それに並行して幅5ミリの平行沈線が施文される。	960-975
16	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい白色粒	不良	—	—	勝坂	断面三角形の隆線と幅5ミリの刻み列で文様を作り、間にベン先状の刺突列が施文される。	960-000
17	深鉢	把手	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	大波状の把手、口唇部に刻みを持つ。	960-020
18	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	RL	—	加曾利E	木目状燃糸文。円筒下層?燃糸。	960-000
19	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁に沿って押し引きの沈線が2条施文。口縁部文様帯には、波状に施文。	960-995
20	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの白色粒	良	—	—	阿玉台	口唇に刻みを持つ。口縁部には、櫛状工具による連続刺突。	960-970
21	深鉢	口縁突起	にぶい褐	7.5YR5/4	金雲母多い	良	—	—	阿玉台	波状口縁突起部、口唇部に刻みが施される。口縁部に平行沈線が波状に施文。	960-985
22	深鉢	口縁	褐	10YR4/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ5ミリの沈線と隆線による文様区画。	960-990
23	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	—	—	阿玉台	太さ10ミリの隆線とそれに沿って押し引きの沈線が渦巻状に施文される。	960-005
24	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	幅13ミリの半截竹管による文様施文。	960-980
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ6ミリの隆線とそれに沿って押し引きの沈線が施文される。	960-995

第4章 出土遺物

II区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
26	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石、 金雲母	良	—		阿玉台	太さ7ミリの隆線による文様区画。 上部には、幅5ミリの平行沈線が 鋸歯状に施文される。	960-985
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの 小石、金雲母	良	—		阿玉台	太さ6ミリの隆線が横位に巡り、 文様帯を分ける。幅5ミリの平行 沈線を隆線に沿って押し引きして いる。上端には、連弧状の施文。	960-995
28	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの 小石、金雲母	良	—		阿玉台	外面横方向の整形。	960-985
29	深鉢	胴部～ 底部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～3ミリの 白色粒、金雲母	良	—		阿玉台	縦位に指頭圧痕を持つ。粘土紐を 貼り付けている。	960-995
30	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～2ミリの 白色粒多い	良	—		I群	太い隆線2条で口縁部に波状文を 施文。	960-020
31	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	黒色粒多い	普通	—		I群	隆線による円形の文様区画。	960-980
32	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの黄色 粒	普通	—		加曽利E	太さ3～4ミリの隆線による文様区 画。	960-975
33	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの 小石	良	—		阿玉台	幅10ミリの爪形文が施文される。	960-995
34	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR		加曽利E	隆線が横位に巡る。撚糸。	960-000
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの黄色 粒	普通	RL	縦	加曽利E	頸部を太さ2ミリの沈線で横位に 区画。	960-995
36	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～3ミリの 小石	普通	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線が弧線を描くよ うに施文される。	960-995
37	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの 小石	不良			加曽利E	太さ8ミリの隆線による楕円区画。	960-000
38	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～2ミリの 白色粒	良			加曽利E	太さ7ミリの沈線横位施文。沈線 内に刺突。	960-010
39	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの 小石	良	—		加曽利E	太さ12ミリの隆帯が横位に施文さ れる。隆帯区画に平行・直交する ように太さ2ミリの沈線が描かれる。	960-000
40	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	—		I群	幅5ミリの平行沈線による横位区画。 交互刺突による連続「コ」字文。	960-975
41	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	横	加曽利E	隆線による楕円区画。区画内を縄 文が充填する。	960-990
42	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/8	φ1ミリの白色 粒多い	普通	—		加曽利E	浅い沈線が口縁部に横位に巡る。 口縁部には弧線が施文される。	960-985
43	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの 小石	普通	RL	横	加曽利E	太い沈線で口縁部を区画。	960-980
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	普通	RL	横	Ⅲ群	太い隆・沈線による楕円区画。楕 円区画の間には、φ15～17ミ リの円形押圧による凹み。	960-995
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	普通	RL	横	加曽利E	口縁部に太さ8ミリの隆線を挟む ように沈線が横位に施文される。	960-000
46	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの 小石多い	普通	—		加曽利E	隆線により文様区画が施文される。	960-985
47	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの 小石、白色粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ5～6ミリの沈線2条による無 文帯。	960-980
48	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ4～6ミリの隆・沈線による楕 円文。	960-010
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	良	RL	横	加曽利E	浅く太い沈線による楕円区画。	960-005
50	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	横	加曽利E	太い沈線が横位に巡る。	960-010
51	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの 小石	普通	—		加曽利E	太い隆線で文様を区画し、文様の 交点は、突起状になる。	960-000
52	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの 白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3～4ミリの沈線2条による磨 り消し縄文の無文帯で縦位の区画。	960-020

II区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
53	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	不良	RL	横	加曽利E	口縁部に沿って太さ12ミリの沈線が巡る。	960-000
54	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	不良	RL	横	加曽利E	口縁部に沿って太さ12ミリの沈線が巡る。	960-000
55	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒多い	普通	LR	縦横	加曽利E	太さ8ミリの隆線による横位文様区画で無文帯を区画する。	960-975
56	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	不良	—		加曽利E	太さ2ミリの沈線で口縁部を区画する。	960-980
57	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	不良	LR	縦横	Ⅵ群	浅い沈線が口縁部を巡る。無文帯を区画する。	960-975
58	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒多い	良	LR	縦横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線が横位に巡り、口縁部無文帯を区画。	960-980
59	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部に隆線と沈線が巡り、無文帯と文様帯を区画する。文様帯は、より細い2ミリの沈線で弧状の文様を描く。文様内磨り消し縄文。	960-025
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横縦	Ⅵ群	口縁部に太さ5ミリの沈線が巡る。横位の沈線下には、「∩」状の文様施文。	960-000
61	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横斜	Ⅵ群	太さ9ミリの浅い沈線が口縁部に巡る。文様帯内は、弧状の文様を沈線で描く。磨り消し縄文。	960-975
62	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの小石	普通			Ⅵ群	断面三角の隆線による口縁部区画。無文帯を区画する。	960-015
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ8ミリの浅い沈線が口縁部に巡り無文帯を区画する。	960-975
64	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ3~4ミリの沈線と隆線が口縁部を巡り無文帯を作る。太さ3ミリの沈線が文様区画する。	960-980
65	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR		Ⅵ群	太さ4~6ミリの隆線で方形に区画。擦糸。	960-005
66	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太い隆・沈線による楕円区画。	960-015
67	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR	横	加曽利E	口縁部無文帯。	960-010
68	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		加曽利E	口縁部無文帯。	960-010
69	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい白色粒	普通	LR	横	Ⅵ群		960-990 橋状把手
70	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒		RL	縦横	V群	太さ2ミリの沈線による弧状の文様。口縁部には、交互刺突列が2段施文される。	960-995
71	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	口縁部にφ8ミリの円形の刺突列。口縁部には、太さ6ミリの沈線が「∩」状に施文される。	960-000
72	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	白色粒多い	不良	—		Ⅶ群4類	太さ2ミリの沈線をやや間隔を開けて条線状に施文。	960-985
73	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	不良	—		Ⅶ群4類	太さ2ミリの沈線をやや間隔を開けて条線状に施文。	960-985
74	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	普通	RL	斜	加曽利E	波状口縁、突起部。	960-015
75	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	波状口縁の突起。太い沈線。	960-980
76	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	960-975
77	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅶ群		960-985 橋状把手
78	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒	良	LR	横	加曽利E	細い隆線で文様施文。	960-980
79	深鉢	把手	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	LR	斜	Ⅵ群2類	口縁部は無文であるが、把手下部付近の器面には縄文が施文。	960-995 橋状把手

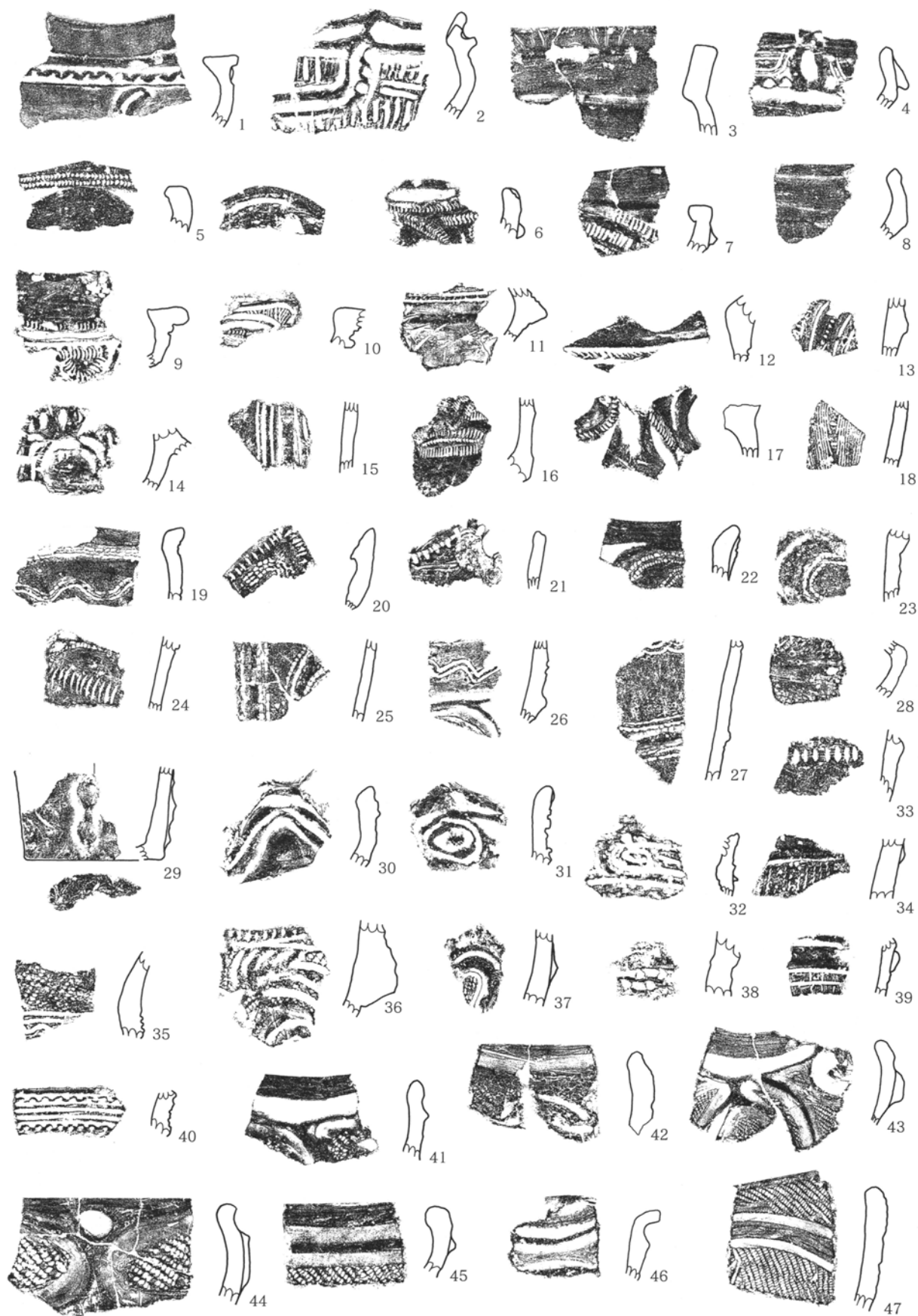
第4章 出土遺物

II区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	960-015
81	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太い隆・沈線で口縁部、胴部文様帯を区画する。	960-990
82	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。	960-020
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ7ミリの隆線による文様区画。	960-000
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦	加曾利E	隆線による文様施文。	960-980
85	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。	960-000
86	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線が縦位に施文。	960-985
87	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	LR	縦	加曾利E	断面三角の隆線による縦位区画。	960-035
88	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線2本による無文帯で縦位区画を作る。	960-990
89	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線が2本対になり縦位の区画を作る。	960-000
90	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線で縦位の区画を作る。磨り消し縄文による無文帯。	960-000
91	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線で縦位区画。	960-005
92	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの浅い沈線による縦位区画で無文帯を作る。	960-000
93	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。	960-000
94	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線が縦位に施文され、磨り消し縄文による無文帯を作る。	960-985
95	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線による縦位の施文と磨り消し縄文による無文帯。	960-040
96	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/4	φ1~3ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文され無文帯区画を作る。	960-995
97	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E		960-005
98	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文される。	960-005
99	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線2本による無文帯で縦位区画を作る。	960-990
100	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	隆線による縦位区画。	960-980
101	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線が縦位に施文され無文帯を作る。	960-025
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	960-000
103	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	断面三角の隆線による渦巻文様。	960-015
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR		VI群	太さ10ミリの隆線が縦位に施文。	960-030
105	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	斜	VI群	太さ6ミリの沈線で楕円を描く。	960-980
106	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	断面三角の隆線による縦位文様区画。	960-980
107	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	VI群	断面三角の隆線による文様区画。	960-015
108	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		VI群	断面三角の隆線による渦巻文。	960-015
109	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ5~6ミリの隆線による文様区画。	960-010
110	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの隆線による縦位の弧状になる文様が施文される。	960-055
111	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線で縦長の楕円区画を作る。	960-000
112	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、黄色粒	良	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線による文様区画。	960-980

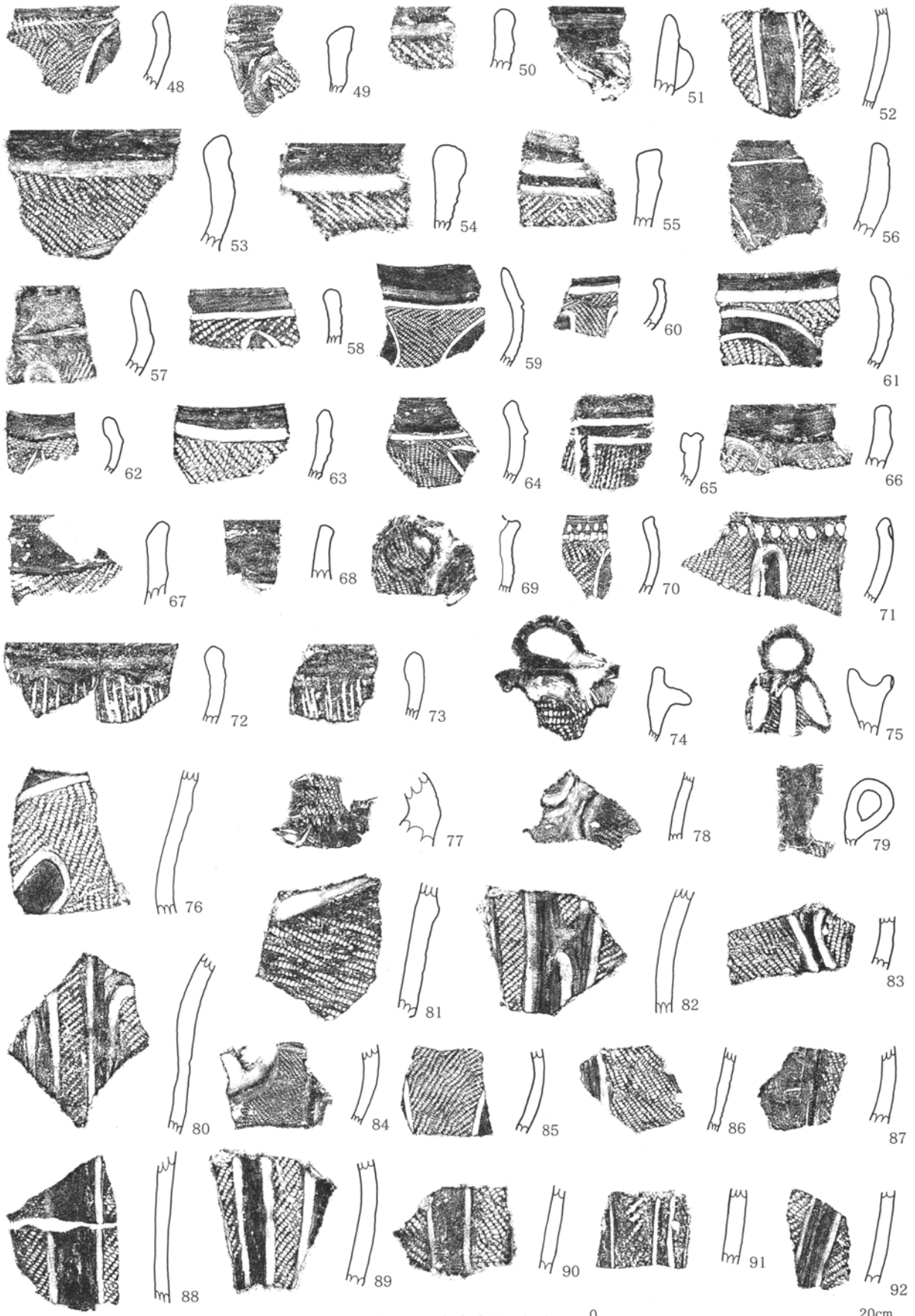
II区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
113	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	横	VI群	太さ5ミリの沈線による弧線文。	960-045
114	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	VI群	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。	960-970
115	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	VI群	隆・沈線で文様を描く。	960-010
116	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による文様施文。	960-985
117	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1~2ミリの小石	良	LR		加曾利E	燃糸。	960-985
118	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	LR		加曾利E	間隔を開けて燃糸文施文。	960-990
119	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	RL		加曾利E	燃糸。	960-035
120	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	-		VII群4類	細い条線が6~8本単位で縦位に施文される。	960-010
121	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	-		VII群4類	幅2~3ミリの平行沈線が条線状に施文される。	960-000
122	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	良	-		VII群4類	太さ1ミリ以下の細い沈線で条線を施文。	960-035
123	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	-		VII群4類	太さ1ミリ以下の沈線を密にして条線を引いている。	960-035
124	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦	加曾利E	縄文を带状に施文。	960-010
125	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦横	加曾利E		960-975
126	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦横	加曾利E		960-975
127	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E		960-980
128	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒	普通	LR	斜	加曾利E	縄文が带状に施文。隆帯圧痕文土器。	960-025
129	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	良	RL	斜	加曾利E	原体0段多条。	960-025
130	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい白色粒	良	RL	横	加曾利E	縦の隆線による文様区画。	960-990
131	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E		960-975
132	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		960-005
133	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	普通			加曾利E	太さ1ミリの細い沈線が縦位に施文。	960-985
134	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。燃糸。	960-055
135	深鉢	胴部~底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石	良	-		加曾利E	無文。表面にφ2~3ミリの剥離痕。	960-975
136	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	良	-		阿玉台	隆線と爪形文施文。	960-970
137	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	普通	-		加曾利E	底部を転用。	960-000
138	土製円盤		橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	-			表面剥離、底部片を利用。	960-030



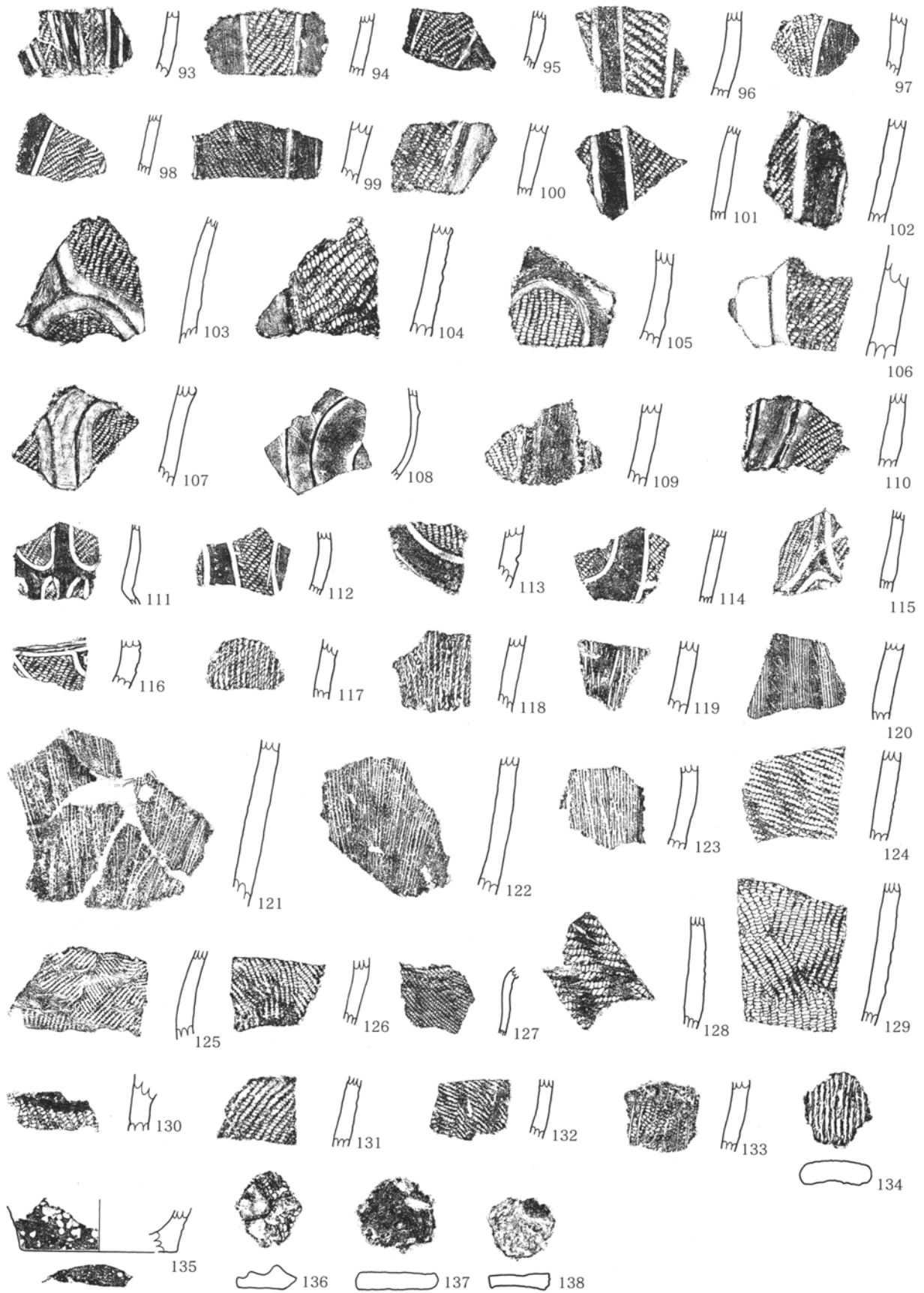
第196図 960グリッド出土土器 (1)

0 20cm



第197図 960グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第198図 960グリッド出土土器 (3) 0 20cm

II区965グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR		前期	撚糸文横位に施文。口縁部に刻み。	965-035
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良			前期	結節状文で結節部以外は押圧が弱く原体が見えない。	965-975
3	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	φ1ミリの小石	良	RL LR	横	前期末	結節状文による綾織り文。	965-010
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒	普通	LR RL	縦	前期末	綾織り縄文。	965-000
5	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	波状口縁把手。	965-030
6	深鉢	突起	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒、金雲母	普通			勝坂	口縁部双環状の突起。	965-970
7	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	砂粒多い	良			勝坂		965-980
8	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	黒色粒	普通	—		勝坂	太さ3ミリの沈線。	965-025
9	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—		勝坂	隆線による文様区画。	965-995
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	—		勝坂	隆線による横位区画。上部は、波状の沈線。	965-030
11	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	勝坂	幅10ミリの隆帯による横位区画。弧線状区画。さらに幅4ミリの隆起線による方形区画。	965-970
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	隆線の両側に連続する刺突列。	965-000
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒	不良	—		勝坂	太さ2ミリの沈線による方形区画。区画内には、斜線が施文される。	965-995
14	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1ミリの白色粒、雲母	良	—		阿玉台	隆線施文。地文に幅3ミリの平行沈線施文。	965-985
15	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	金雲母	普通	—		阿玉台	隆線による「Y」字文。半截竹管による爪形文が隆線に並行する。	965-000
16	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリ黒色粒	不良	—		阿玉台	隆線による「Y」字文様。	965-040
17	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	不良	—		阿玉台	波状口縁。隆線による突起。押し引きの沈線。	965-980
18	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	幅2ミリの平行沈線を集合化させ文様施文。	965-995
19	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの小石、雲母	良	—		阿玉台	隆線と押し引きによる沈線。	965-995
20	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	—		勝坂	太さ4~6ミリの隆線が横位に巡る。キャタピラー文が施文。	965-985
21	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	—		勝坂	隆・沈線で方形区画。区画内にキャタピラー文が施文。	965-990
22	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	良	—		勝坂	キャタピラー文とペン先状刺突による渦巻文。	965-990
23	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通			勝坂	幅6ミリの平行沈線。沈線に沿うようにペン先状の刺突を施文。	965-985
24	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		勝坂	太さ1ミリの沈線を3本にして波状に施文。	965-990
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	普通	—		勝坂	太さ2ミリの沈線と爪形による文様。	965-995
26	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—		阿玉台	幅4ミリの平行沈線が弧状に施文。	965-995
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、雲母	普通	—		阿玉台	幅7ミリの爪形列。	965-980
28	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	金雲母	良	—		阿玉台	隆線と押し引き沈線による文様。	965-995
29	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		阿玉台	キャタピラー文。	965-030
30	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石、雲母	普通	—		阿玉台	キャタピラー文による弧状の施文。鋸歯状になる平行沈線。	965-995
31	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	砂粒	良	—		I群	隆線による文様。	965-035
32	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/3	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	II群	太い隆線による楕円区画と渦巻文。	965-020

第4章 出土遺物

II区965グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
33	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	口縁部に隆起線が巡る。太く浅い沈線が弧を描く。	965-985
34	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—			外側に刻みを持つ隆線。	965-995
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群2類	太さ10ミリの隆線による口縁部文様楕円区画。	965-000
36	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR6/3	砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群1類	波状口縁。隆・沈線による文様。	965-035
37	深鉢	口縁	灰白	5Y8/2	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	Ⅲ群	太い隆線による楕円区画。	965-005
38	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			Ⅷ群4類	口縁部に幅8ミリの渦巻状沈線。ヘラ状工具による縦位の沈線。	965-965
39	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E	隆起線で口縁部無文帯を区画。口縁部には楕円区画を作る。	965-970
40	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦斜	加曾利E	幅6ミリの沈線による文様区画。	965-965
41	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	良	—		加曾利E	隆線による曲線。	965-995
42	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	斜	Ⅲ群	隆線による曲線。	965-995
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	RL	横斜	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	965-980
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通			加曾利E	太さ5ミリの隆線による弧円横位区画。	965-965
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太い隆線による楕円区画。	965-015
46	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1ミリの小石	良	RL	縦	Ⅲ群	隆線と沈線による楕円区画。	965-015
47	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	太い隆帯に刺突が付けられ横位区画する。区画下は、太さ4ミリの沈線による弧線。郷土式。	965-975
48	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒	不良			加曾利E	波状口縁の頂部、隆・沈線で文様を描く。	965-975
49	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太さ5ミリの隆線による文様施文。	965-985
50	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線で文様を区画。口縁部区画は、隆・沈線による。	965-990
51	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線で口縁を区画する。	965-035
52	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	965-025
53	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3~5ミリの沈線による文様。波状口縁。	965-015 舌状突起
54	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ7ミリの沈線による口縁部区画。	965-990
55	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	黒色粒多い	普通	LR	縦横	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線が口縁部に巡る。胴部は、沈線が2本対になり渦巻状になる。無文部は磨り消し縄文。	965-020
56	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線による文様区画と刺突。	965-975
57	深鉢	口縁	オリーブ黒	7.5Y3/1	φ1ミリの白色粒、黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太さ5~8ミリの沈線により、口縁部楕円文様に区画。	965-020
58	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの小石	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁に太さ2ミリの沈線が巡る。	965-040
59	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線が口縁に巡る。	965-975
60	深鉢	口縁	灰	7.5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横縦	Ⅵ群	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡る。	965-000
61	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	口縁に沈線が巡り無文帯と区画する。	965-995
62	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通			Ⅵ群	口縁部無文帯横位の整形。	965-965
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部横位の整形。幅16ミリの摘み状の突起。	965-965
64	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横	Ⅵ群	口縁部に隆起線が巡る。	965-000

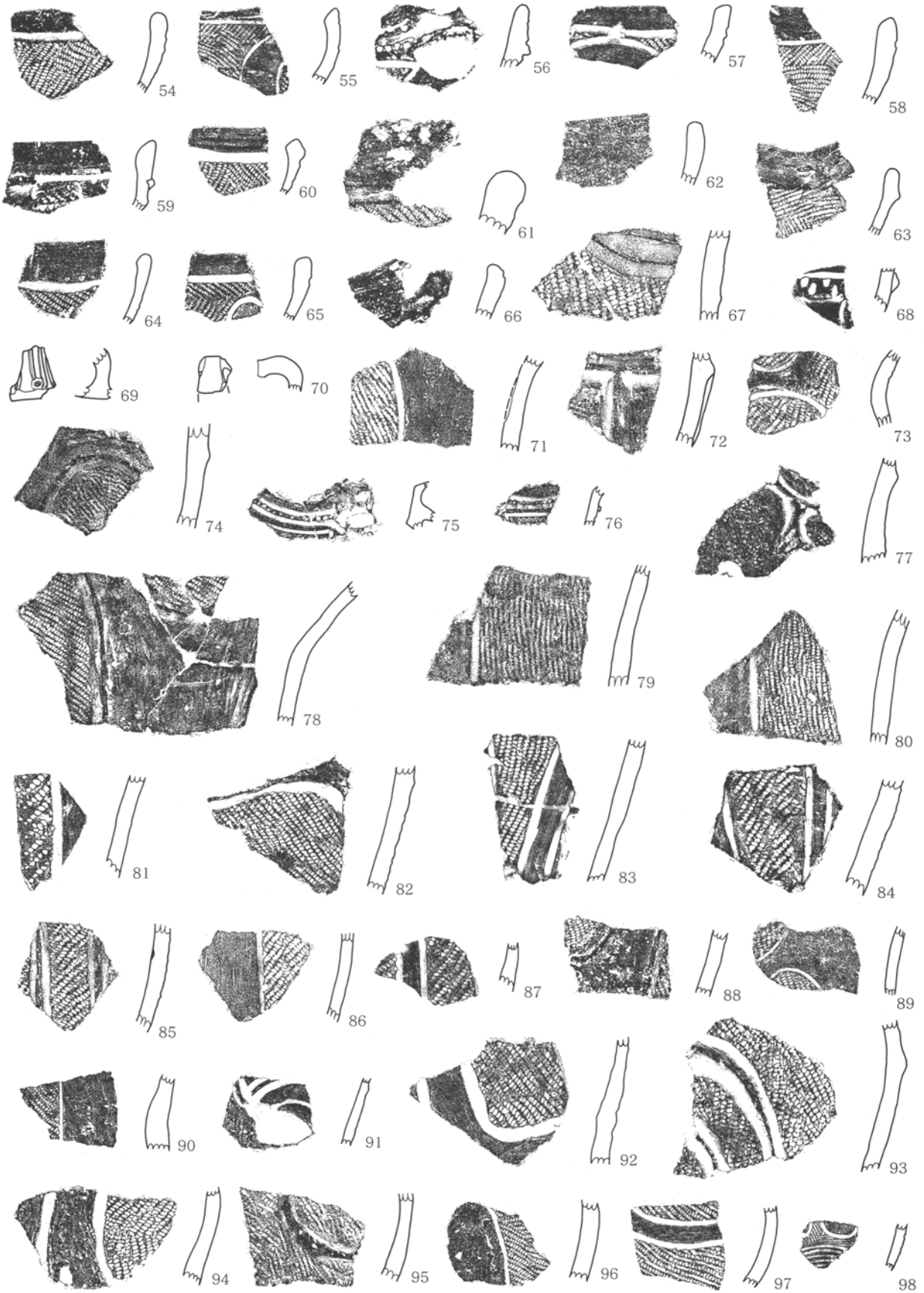
II区965グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
65	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	VI群	口縁部に5ミリの沈線が巡る。胴部は、太さ4ミリの沈線で文様帯を区画。	965-020
66	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—		加曽利E	横位の整形痕。	965-030
67	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの隆起線による弧線区画。	965-965
68	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ10ミリの隆起線による横位区画。隆起線には交互の刻み。	965-030
69	注口	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曽利E		965-995
70	両耳壺	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曽利E	無文。	965-995 橋状把手
71	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	細かい白色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ4ミリの沈線による楕円区画。無文部上下方向のミガキによる磨り消し縄文。	965-040
72	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ6ミリの隆起線による方形の区画。	965-970
73	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による弧線状区画。	965-965
74	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦斜	VI群	太さ3ミリの隆起線による楕円区画。	965-965
75	注口	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	—		加曽利E	刻みを持つ隆起線と沈線。把手が付く。	965-995
76	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	LR		加曽利E	太さ2~3ミリの沈線が横位に施文。	965-995
77	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	白色粒	普通	RL	横	加曽利E	隆起線による文様区画。	965-000
78	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの隆起線による楕円区画。	965-020
79	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ4ミリの隆起線による縦位区画。	965-965
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの隆起線による縦位区画。	965-965
81	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線で縦位の区画線。	965-980
82	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	隆・沈線による文様区画。	965-000
83	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線2本対になり弧を描く。	965-020
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線2本対になる縦位区画。	965-020
85	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリ2条の沈線による縦位区画。	965-970
86	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	965-970
87	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ3~4ミリの沈線を2本対にした縦位の区画。	965-005
88	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	白色粒多い	普通	RL		加曽利E	隆起線による渦巻文。	965-010
89	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による弧状の区画。無文部磨り消し縄文。	965-970
90	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	965-000
91	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	砂粒、金雲母	良	—		加曽利E	隆起線と魚鱗状に引かれる沈線。	965-000
92	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ10ミリの沈線による方形区画。	965-000
93	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの小石	普通	RL	横	VI群	太さ5~10ミリの隆起線による渦巻文。	965-000
94	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL		VI群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	965-000
95	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ6~7ミリの隆起線による楕円区画。	965-970
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	LR		加曽利E	太さ4ミリの沈線による楕円区画。無文部磨り消し縄文。	965-025
97	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	普通	RL	横	VI群	太さ3ミリの沈線を2本対にして文様を描く。	965-005
98	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群	太さ2~3ミリの沈線による弧線。	965-995
99	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石	不良	—		VIII群4類	極細の条線。	965-020
100	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	RLR	縦	加曽利E		965-970



第199図 965グリッド出土土器 (1)

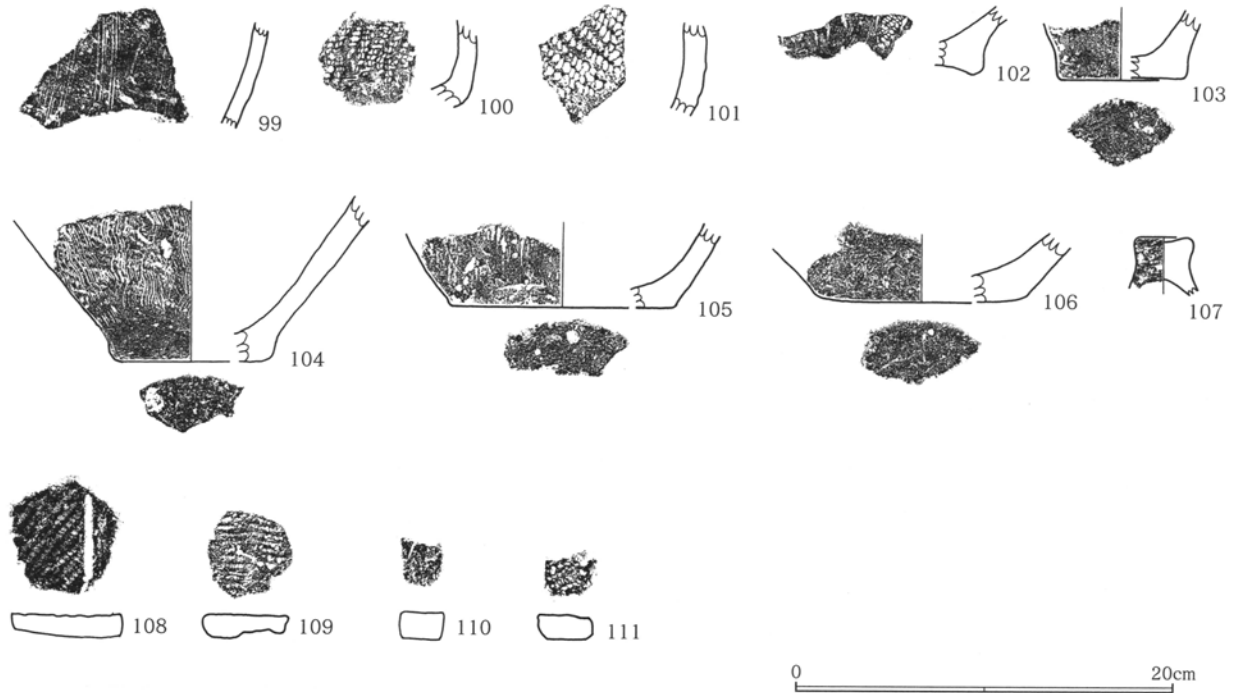
0 20cm



第200図 965グリッド出土土器 (2)

0 20cm

第4章 出土遺物



第201図 965グリッド出土土器 (3)

II区965グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
101	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E		965-970
102	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	底部。上げ底になる。	965-975
103	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通			加曾利E	底部側面ミガキによる整形。	965-965
104	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	-		VII群4類	幅9ミリの櫛状工具による縦位の波状沈線。	965-970
105	深鉢	胴部~ 底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	やや不良	-		加曾利E	縦位の条線。	965-970
106	深鉢	胴部~ 底部	橙	2.5YR6/8	細かい砂粒	普通			加曾利E		965-970
107	蓋	摘み	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石、 黒色粒	不良			加曾利E		965-005
108	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ3ミリの沈線が垂下する。	965-995
109	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	965-970
110	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通			加曾利E		965-970
111	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通			加曾利E		965-995

II区970グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリ小石	普通			勝坂	横位の整形。	970-010
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの砂粒	良			勝坂	太さ7ミリの沈線による渦巻状区画。	970-025
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、角閃石	普通			勝坂	太さ3ミリの横・縦位の沈線による方形区画。区画内を1ミリの沈線が斜位に充填される。	970-980
4	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良			勝坂	口縁部半截竹管による太さ1ミリの刻み列。下部に竹管による横・斜位の平行沈線。	970-980
5	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通			勝坂	太さ3ミリの丸い棒状工具による押し引き沈線。	970-980
6	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通			勝坂	口縁部太さ7ミリの隆線が横位に巡る。下部に半截竹管により長さ17~18ミリの鋸歯状の平行沈線と刻み列。	970-980
7	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		阿玉台	環状の把手で太さ5ミリの隆線と幅4ミリの刻み列による区画。	970-995
8	深鉢	突起	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒、金雲母	良			阿玉台	環状突起。ヘラ状工具による棒状の刺突文。	970-005
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、金雲母	普通			阿玉台	竹管による幅3ミリの刻み列。	970-980
10	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			阿玉台	太さ10ミリの隆線による横位区画。ペン先状工具による横位の2列の結節沈線。	970-995
11	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1~2ミリの軽石、金雲母	普通			阿玉台	幅6ミリの隆帯状突起を貼り付ける。半截竹管による結節浮線。	970-020
12	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	普通			阿玉台	半截竹管による結節沈線で渦巻を描く。	970-980
13	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		勝坂	幅2ミリの平行沈線による楕円区画。区画内に楕円状の突起を貼付。突起面にペン先状の刺突列。	970-980
14	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒、軽石粒	良			五領ヶ台	太さ3ミリの横位隆線区画。ヘラ状工具による縦位の連続沈線。	970-005
15	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	勝坂		970-000
16	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	口縁部幅7ミリの爪形の刻み列による三角モチーフの文様。内側をペン先状工具により連続刺突。	970-980
17	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	普通			勝坂	並行沈線による波状文。縦位に刻みを入れる。	970-975
18	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—		勝坂	幅3ミリの平行沈線2列の縦・横位の区画。内側を半截竹管で爪形の刻み列。	970-000
19	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの小石、軽石粒	良	—		勝坂	太さ1ミリの沈線3条による文様施文。沈線に沿って爪形文。	970-000
20	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、金雲母	普通	—		勝坂	太さ2ミリの縦位の沈線と太さ21ミリの横位の沈線列の中を幅1ミリの沈線が充填。	970-000
21	深鉢	突起	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	太さ10ミリの隆線に刻み列を施文し、環状の隆帯を貼り付ける。その外側は沈線を巡らす。	970-000
22	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通			勝坂		970-980
23	深鉢	突起	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	縦位のミガキ整形。環状隆帯に刻み列を施す。	970-990
24	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	普通			勝坂	平行沈線と太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-005

第4章 出土遺物

II区970グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
25	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		阿玉台	太さ6ミリの隆線による横位区画。ヘラ状工具による波状の押し引き文。ペン先状工具による弧状の押し引き文。	970-000
26	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒、金雲母	普通			阿玉台	半截竹管による結節浮線文。太さ7ミリの隆線による区画。	970-005
27	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通			阿玉台	幅2ミリの平行沈線施文による横位区画。	970-980
28	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	太さ5ミリの隆線による横・斜位の区画。	970-000
29	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—		阿玉台	口縁部太さ4ミリの隆線による横位波状区画。ヘラ状工具による2条の押し引き文。	970-000
30	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—		阿玉台	太さ12ミリの横・縦位の隆線と太さ7ミリの波状の隆線。	970-000
31	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅10ミリの爪形刻み列。	970-985
32	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	幅10ミリの爪形の刻み列。	970-980
33	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通			I群	口縁部ペン先状工具による連続した鋸歯状の刺突列。下部に2条の太さ2ミリの沈線が巡る。隆帯に爪形刻みを持つ。	970-980
34	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		I群	幅4ミリの結節の平行沈線と波状沈線。	970-980
35	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石	不良	—		I群	太さ10ミリの隆線による横位区画。太さ4ミリの隆線による横位の渦巻状文様と方形区画。	970-000
36	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—		I群	太さ5ミリの沈線による縦・横位区画。ヘラ状工具による沈線を充填。	970-995
37	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	斜	I群	太さ4ミリの沈線による弧線状区画。	970-985
38	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線と太さ5ミリの隆線による重弧文。	970-980
39	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群1類	口縁部波状を呈し太さ8ミリの沈線による楕円区画。口縁裏側にも沈線文様。	970-995
40	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通			加曾利E	太さ9ミリの沈線による横位区画。	970-015
41	深鉢	口縁	黄褐	10YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅲ群1類	口縁部太さ12ミリの隆線による横位楕円区画。隆線上にφ18ミリの指頭圧痕。	970-980
42	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅲ群2類	太さ10ミリの沈線による「∞」文様。	970-995
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—		Ⅲ群1類	太さ10ミリの沈線による楕円区画。口唇部上端に沈線による「∞」文。舌状突起	970-995
44	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による楕円区画。	970-985
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通			加曾利E	太さ10ミリの沈線2条による横位区画。	970-975
46	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅱ群	太さ5~10ミリの隆線による楕円、渦巻、「∞」文様。	970-995
47	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの沈線2条による横位区画。	970-995
48	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ6ミリの隆線による渦巻文。口縁部太さ4ミリの沈線による横位区画。	970-980

II区970グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部外側に折り返し状に粘土紐が重なる。太さ4ミリの沈線と太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-000
50	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	隆線とそれに沿う太さ6ミリの沈線による横位区画と方形区画。	970-015
51	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの横位の隆線と垂下する隆線による方形区画。	970-030
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ10ミリの沈線2条による横位区画。	970-010
53	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	Ⅲ群	太さ6ミリの隆線による横位・楕円区画。	970-015
54	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの隆線と太さ3ミリの沈線による楕円区画。	970-025
55	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	太さ4ミリの縦位波状の区画と刺突文。	970-995
56	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ10ミリの隆線による楕円区画。	970-025
57	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による横位区画。	970-995
58	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦斜	Ⅵ群	口縁部横位の整形。太さ3ミリの沈線による横位区画。	970-025
59	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅵ群	太さ6ミリの隆線による横位区画と弧線状区画。	970-015
60	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	Ⅴ群	口縁部φ6ミリの棒状工具による列状の刺突。沈線による渦巻文。	970-980
61	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	不良	LR	縦	Ⅵ群3類	太さ3ミリの横・縦位の隆起線による文様区画。無文部磨り消し細文。	970-000
62	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの小石	不良	—	—	Ⅴ群2類	太さ5ミリの沈線による横位区画と斜位区画。細口縁部には、円形の刺突列。細い沈線による条線。	970-995
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群3類	太さ1ミリの隆線による横位区画と太さ3ミリの隆起線による弧線状区画と三角状区画。	970-015
64	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	口縁部横位の整形。太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-985
65	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太さ4ミリの隆線による横位区画。	970-985
66	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線による横位区画。	970-000
67	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部横位の整形。	970-005
68	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ6ミリの隆線による横位区画と弧線状区画。	970-015
69	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線2条を波状口縁に沿って巡らす。	970-015
70	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による横位区画と弧状区画。口縁部横位の整形。	970-030
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR RL	横	Ⅵ群	口縁部太さ4ミリの沈線を横位に巡らす。羽状細文。	970-015
72	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	横位のミガキ整形。	970-985
73	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	口縁部無文帯。横位のミガキ整形。	970-995
74	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	Ⅵ群	口縁部横位のミガキ整形。	970-035
75	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅵ群	口縁部横位の整形。太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-985
76	深鉢	突起	灰オリーブ	5Y4/2	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	加曾利E	ラッパ状の突起。	970-985
77	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部嘴状突起。	970-000

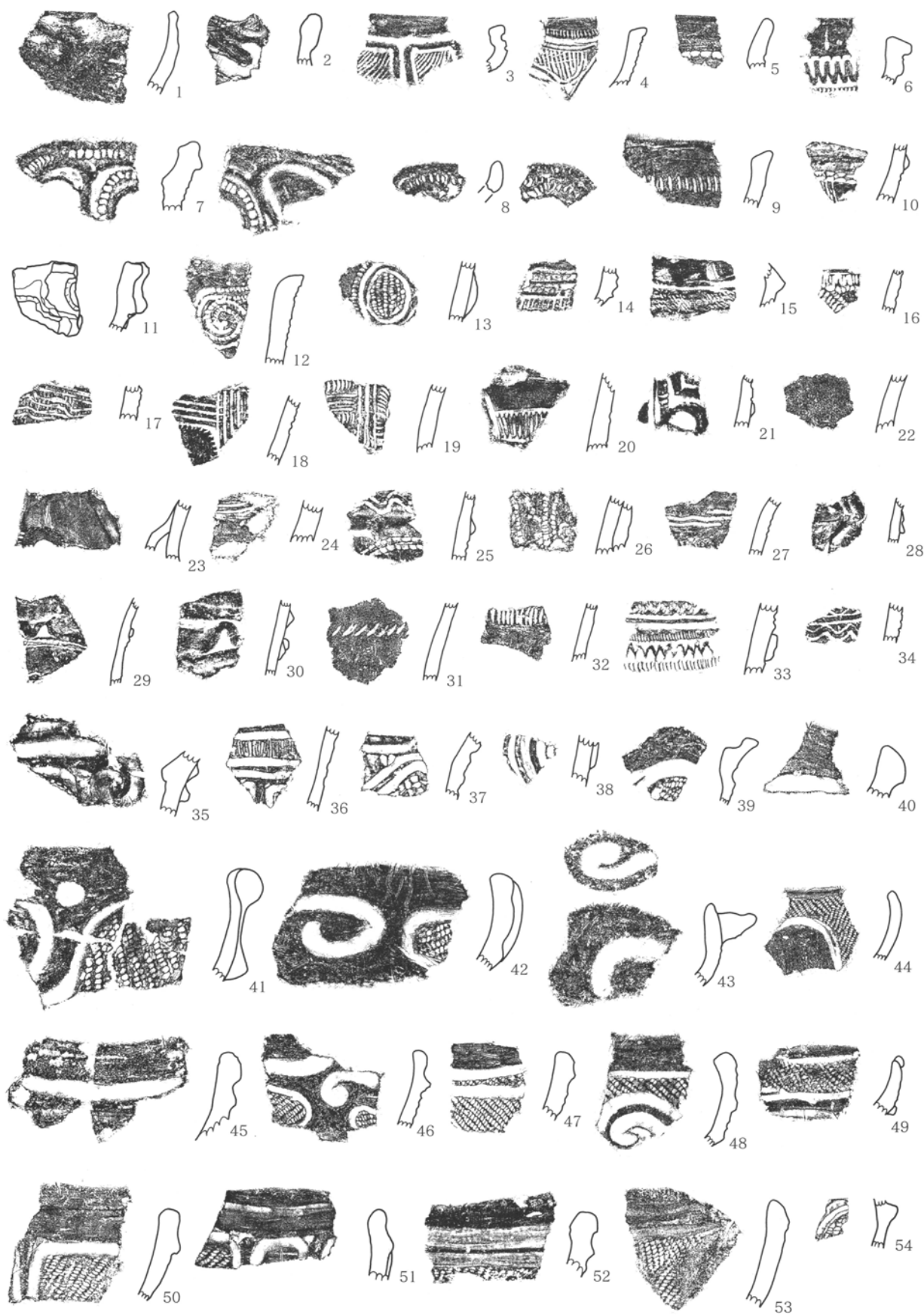
第4章 出土遺物

II区970グリッド出土土器観察表

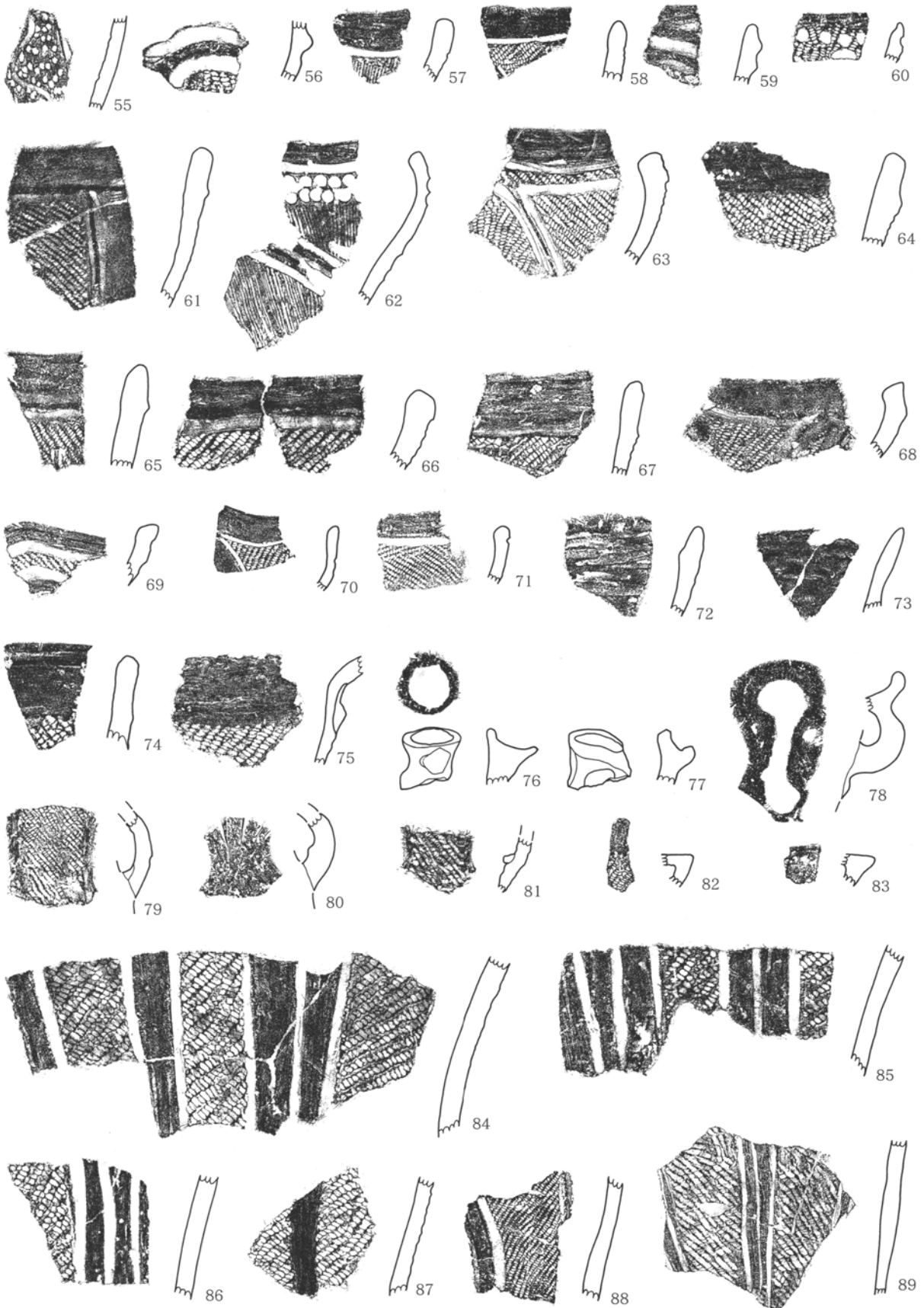
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
78	両耳壺	把手	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	—		Ⅶ群1類	把手中央部に太さ10ミリの沈線で「J」文と刺突。	970-985 橋状把手
79	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅶ群		970-005 橋状把手
80	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通			Ⅶ群	無文。	970-015 橋状把手
81	両耳壺	把手	灰	7.5Y5/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅶ群		970-985 橋状把手
82	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E		970-025
83	深鉢	把手	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E		970-025
84	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。無文部磨り消し縄文。	970-980
85	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。無文部磨り消し縄文。	970-980
86	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RLR	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	970-980
87	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ15ミリの沈線による縦位区画。	970-985
88	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	970-010
89	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線3条1組による縦位区画。	970-015
90	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	970-025
91	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	R		Ⅵ群	太さ3ミリの隆起線2条による縦位区画。燃糸。	970-015
92	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。原体0段多条。	970-015
93	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	970-035
94	深鉢	胴部	灰白	5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	970-985
95	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線2条による縦位区画。	970-040
96	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	970-030
97	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	970-040
98	深鉢	胴部	黄褐	2.5Y5/3	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ2ミリの沈線による弧線状の区画。	970-980
99	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線2条による縦位区画。	970-025
100	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	普通	RL LR	横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による二重の楕円区画。羽状縄文。	970-020
101	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。	970-015
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通			Ⅵ群	太さ3ミリの隆起線による楕円状区画。	970-020
103	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による文様。郷土式。	970-975
104	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	970-985
105	深鉢	胴部	灰白	5Y8/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による「O」文。	970-985
106	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通			Ⅷ群4類	6条1単位の櫛状工具による条線。	970-980
107	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E		970-035
108	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通			加曽利E	縦位の整形。	970-015
109	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による弧状の区画。	970-985
110	深鉢	胴部	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒、石英	普通	RL	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線による二重の楕円区画。	970-975

II区970グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
111	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曽利E		970-005
112	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	縄文を帯状に施文。	970-980
113	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E		970-985
114	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	970-995
115	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	普通	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	970-995
116	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通			加曽利E	ミガキによる整形。	970-975
117	深鉢	胴部～底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	胴下部縦位のミガキ整形。	970-000
118	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	良			堀之内	φ22ミリのボタン状の突起で太さ2ミリの隆線と沈線、ペン先状工具による刺突で文様を描く。外面には、隆線に刻みを連続して入れる。	970-005
119	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通			堀之内	縦位のミガキによる整形。	970-005
120	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通			加曽利E	横位のミガキ整形。	970-035
121	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通			加曽利E		970-015
122	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曽利E	縦位のミガキ整形。	970-980
123	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良			堀之内	底面網代痕。	970-005
124	土製円盤		赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	—		勝坂	ヘラ状工具による刻み列。幅2ミリの平行沈線。	970-980
125	土製円盤		赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの小石	不良			加曽利E		970-980
126	土製円盤		褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通					970-010
127	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—			六角形になる土製円盤。縁辺を打ち欠いている。	970-000

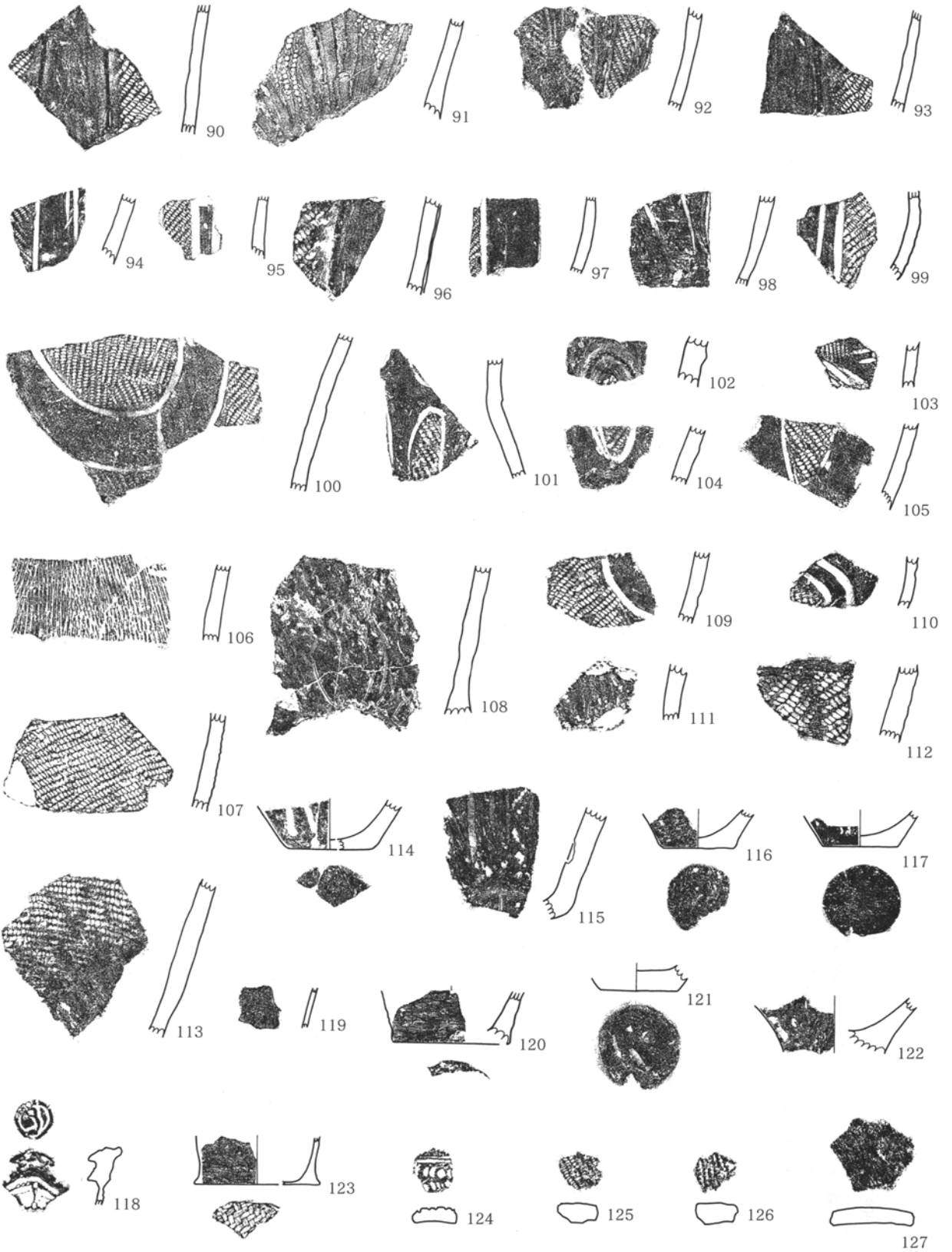


第202図 970グリッド出土土器 (1) 0 20cm



第203図 970グリッド出土土器 (2)

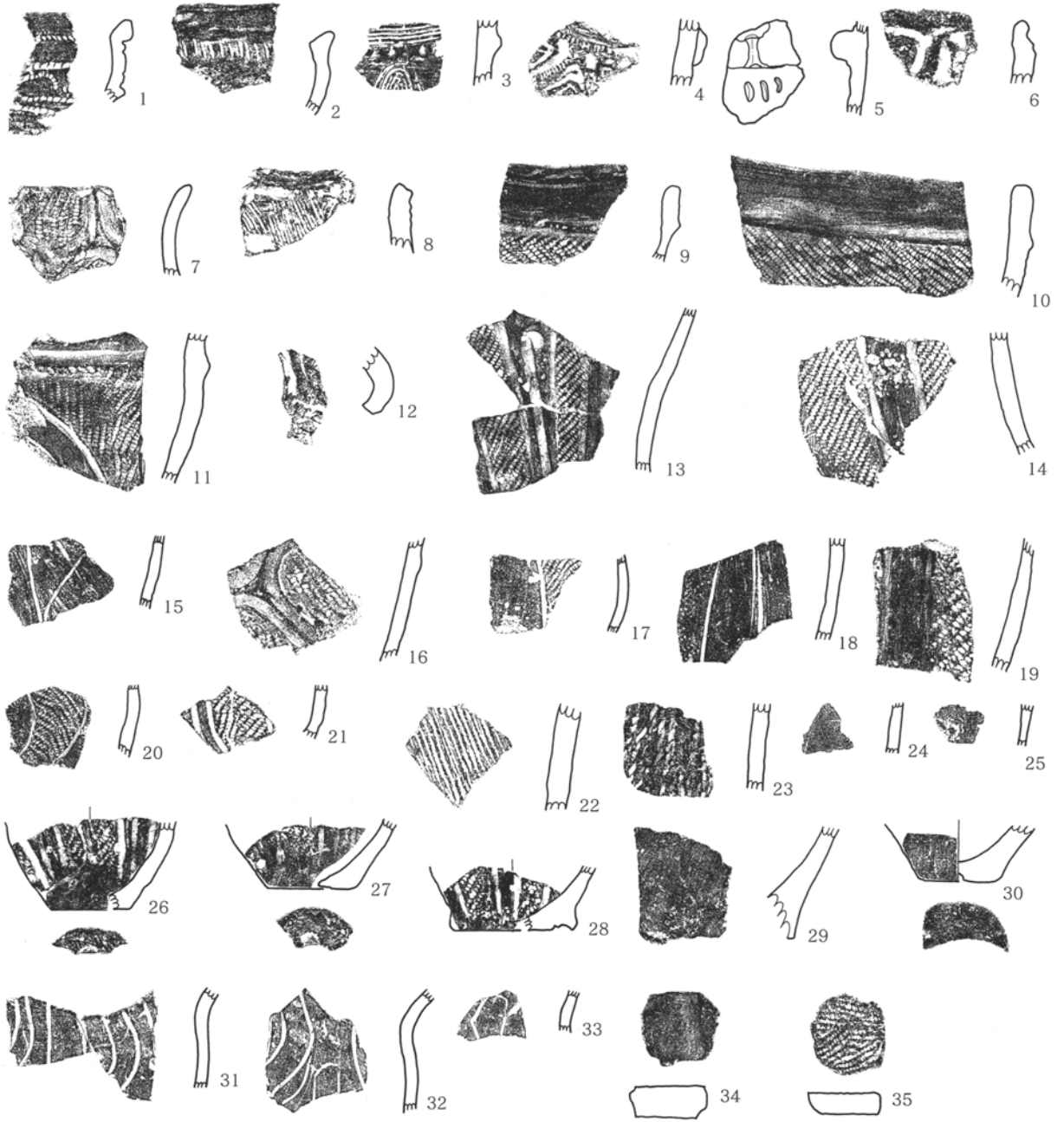
0 20cm



第204図 970グリッド出土土器 (3)

II区975グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	灰褐	5YR4/2	φ1ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	口縁部太さ10ミリの隆線による横位区画。太さ6ミリの隆線による区画と押し引き沈線による文様。	975-020
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、金雲母	普通			阿玉台	幅8ミリの刻み列。	975-015
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		五領ヶ台	太さ10ミリの隆線による横位区画。隆線には刻み列。沈線による波状文様。	975-025
4	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	太さ8ミリの隆線による三角形の区画。隆線には爪形の刻み列施文する。隆線に沿って2条の沈線。	975-015
5	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—		阿玉台	三角摘み上の突起、横位の爪形文。	975-025
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部太さ6ミリの隆線と太さ4ミリの沈線による方形区画。	975-015
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦斜	加曾利E	太さ3ミリの隆起線による弧線区画。	975-005
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1~2ミリ小石	不良	—		加曾利E	櫛状工具による条線。	975-015
9	深鉢	口縁	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒	良	RL	縦横	VI群	口縁部横位の整形。太さ4ミリの隆起線による横位区画。	975-030
10	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	VI群	口縁部横位の整形。太さ3ミリの断面三角の隆線による横位区画。	975-020
11	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	VI群	口縁部太さ10ミリの隆起線による横位区画。太さ3ミリの沈線による重弧状の区画。	975-005
12	深鉢	把手	灰褐	7.5YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			中期前半		975-030 橋状把手
13	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画と「J」文。	975-020
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	975-010
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	975-015
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの隆起線による楕円区画。	975-005
17	深鉢	胴部	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画と弧線区画。	975-005
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒	普通			加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	975-015
19	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	975-015
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横斜	VI群	太さ2ミリの沈線による弧線区画。	975-030
21	深鉢	胴部	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒	普通	RL	縦斜	VI群	太さ3ミリの沈線2条による楕円区画。	975-005
22	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/3	φ1ミリの砂粒	良	LR		加曾利E	撚糸。	975-010
23	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E	撚糸。	975-000
24	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	—		加曾利E	無文。	975-005
25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通			加曾利E	無文。	975-005
26	深鉢	胴部~底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	975-015
27	深鉢	胴部~底部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	975-020
28	深鉢	胴部~底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	975-015
29	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの小石	良	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	975-020
30	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	外面ミガキ整形。	975-020
31	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による縦位区画と弧線区画。	975-005
32	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による区画。	975-005
33	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による区画。	975-005
34	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	975-020
35	土製円盤		明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒	普通	LR	縦斜	加曾利E		975-015



0 20cm

第205図 975グリッド出土土器

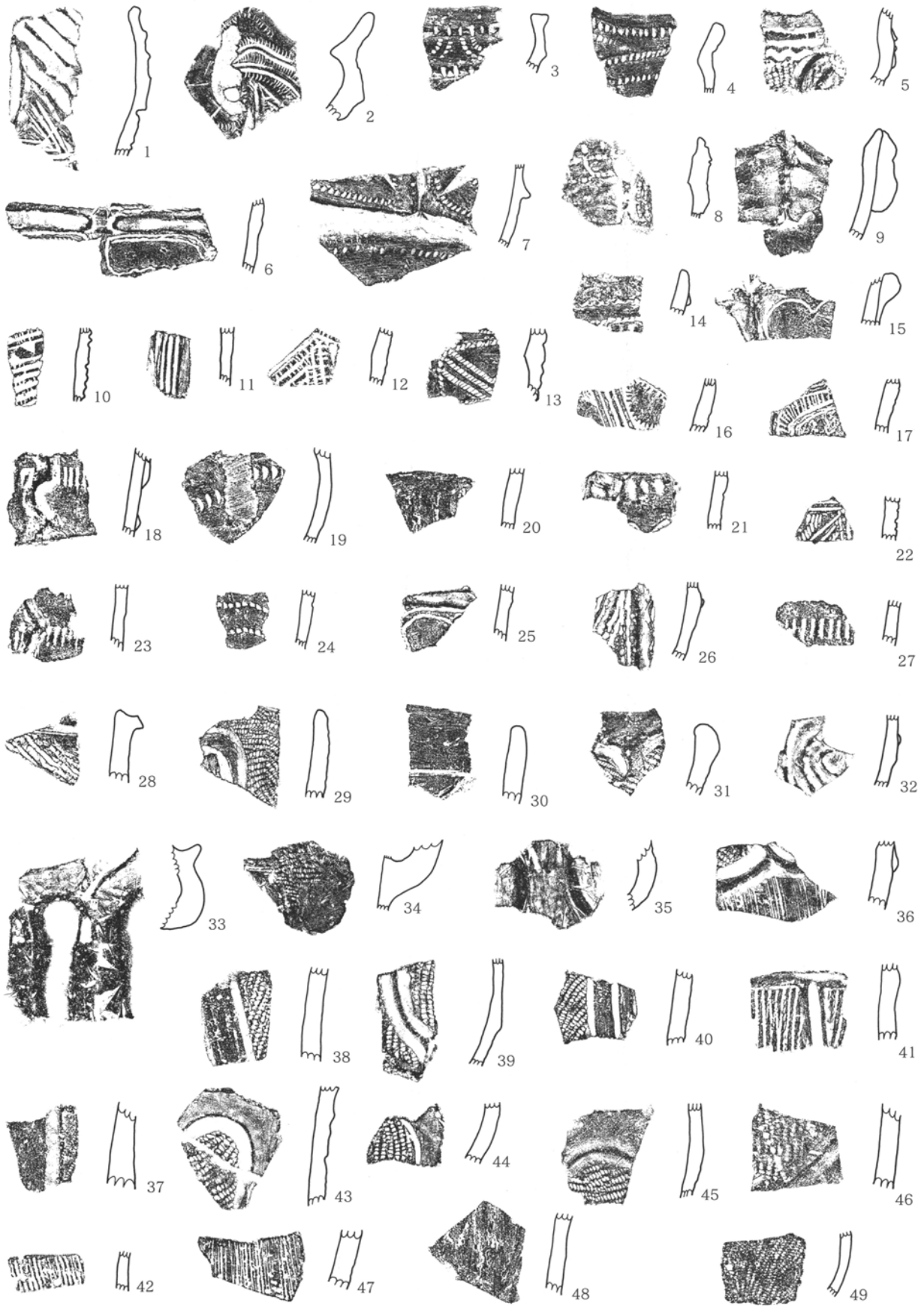
II区980・985グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	五領ヶ台	太さ4ミリの断面三角の隆線による斜線と弧線。幅4ミリの平行沈線による鋸歯状の沈線。	980-010
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	波状口縁。頂部から隆線による渦巻文が貼り付けられる。隆線には、刻みが施文。隆線間には、幅5ミリの平行沈線と刻み充填。	980-010
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	加首利E	口唇に刻み。口縁部文様帯に刻みを持つ。隆線で区画する。文様帯内は、φ5ミリの刺突列による曲線文。	980-980
4	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	勝坂	波状口縁。幅5ミリの爪形文による刻み列が施文される。	980-980
5	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの白色粒	良	RL	—	勝坂	太さ5~6ミリの隆線による弧状の文様。押し引きの沈線と波状の沈線が口縁部と胴部を区画する。	985-015
6	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線で横長の楕円区画。下部に太さ1ミリの沈線を施文。押し引きの隅丸方形区画。	985-015
7	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	太い隆線で胴部を区画。幅5ミリの刻み列が施文される。	980-980
8	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁。隆線による縦区画。太さ2ミリの押し引きによる沈線。	980-980
9	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石、白色粒、雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部から隆線が垂下する。隆線には、輪積み痕が残る。	985-015
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	十三菩提	幅5ミリの平行沈線と三角印刻。	980-010
11	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/3	細かい砂粒	良	—	—	五領ヶ台	幅5ミリの平行沈線が垂下する。	980-010
12	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	幅5ミリの平行沈線に直交する刻みを施文。	980-995
13	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	太さ4ミリの竹管による沈線と爪形文により隅丸方形の文様を描く。	980-010
14	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒、雲母	良	—	—	阿玉台	隆線が横位に巡り、波状の沈線。	980-995
15	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	阿玉台	「Y」字状に隆線が貼り付けられる。太さ1ミリの沈線が連弧状に施文。	985-015
16	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅5ミリの平行沈線と爪形文による刻み施文。	980-980
17	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	RL	—	勝坂	幅6ミリの平行沈線による弧線文と刻み列。	985-015
18	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	阿玉台	太さ8ミリの断面三角の隆線が波状に垂下する。幅13ミリの刻み列が横位に施文される。	985-015
19	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	隆線が剥落。幅10ミリの爪形文横位施文。	980-985
20	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、雲母	良	—	—	阿玉台	外面ミガキ整形。	985-015
21	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	阿玉台	幅8ミリの爪形文。	980-980
22	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい白色粒	良	—	—	勝坂	幅5ミリの半截竹管による文様区画。区画内を沈線が充填される。	980-980
23	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~5ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	太さ5~6ミリの隆線が鋸歯状に垂下。幅12ミリの刻み列が横位施文。	985-015
24	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	幅2ミリの半截竹管による押し引きの沈線で曲線を描く。	980-980
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	低い隆線が横位に施文される。太さ1ミリの沈線による押し引き文。	985-015

第4章 出土遺物

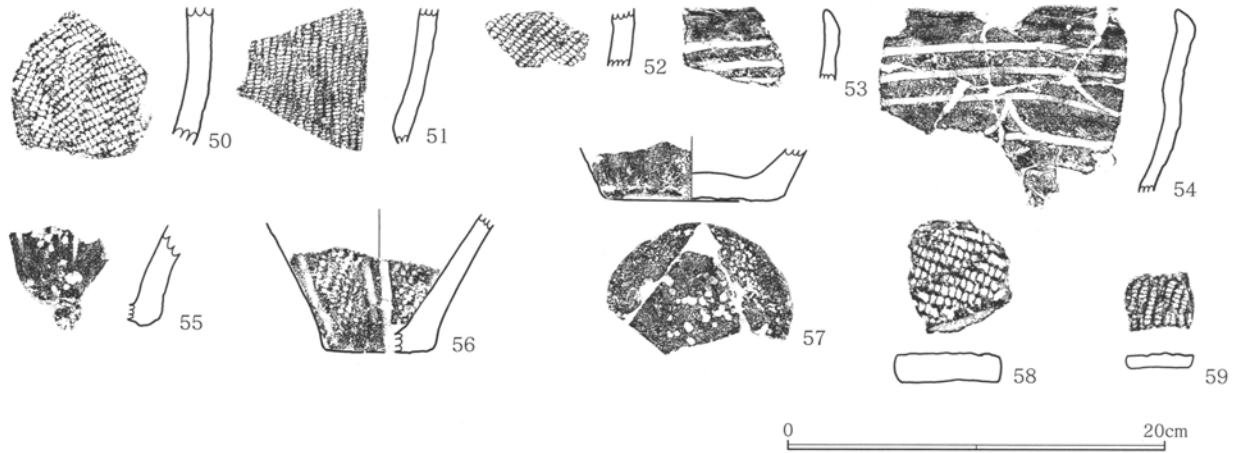
II区980・985グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
26	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による垂線と弧線、これらに竹管による刺突が加えられる。	980-010
27	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	幅10ミリの刻み列が横位に施文。	985-015
28	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	隆線横位区画。	980-985
29	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒、雲母	良	LR	—	V群2類	太さ5~10ミリの浅い沈線で弧を描く。	980-010
30	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	—	—	VI群	太さ4ミリの浅い沈線が口縁部に巡る。	980-985
31	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	—	加曾利E	口縁部を肥厚させ楕円区画を作る。	985-015
32	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	加曾利E	太さ4~6ミリの断面三角の隆線で渦巻文様施文。	980-010
33	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—	—	VII群1類	太い沈線で「J」状の文様を描く。	980-000 橋状把手
34	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	普通	LR	—	VII群2類	縄文施文。	980-980 橋状把手
35	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	VII群1類	無文。外面縦位の整形。	980-000 橋状把手
36	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E	太さ8ミリの隆線で楕円区画。区画内は縄文が充填。頸部以下は、幅12ミリの櫛状工具による条線。	980-005
37	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線による文様区画。	980-995
38	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	980-995
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	—	加曾利E	太さ5ミリの断面三角の隆線で弧を描く。	980-005
40	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文される。無文部磨り消し縄文。	980-005
41	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	—	加曾利E	太さ5ミリの隆線による横位の区画に太さ4ミリの隆線2条が垂下する。燃糸。	980-010
42	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	LR	—	加曾利E	燃糸。	980-995
43	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	不良	RL	—	VI群	太さ3ミリの断面三角の隆線による楕円区画。	980-010
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	—	VI群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	980-000
45	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい白色粒多い	不良	RL	—	VI群	隆線による楕円区画。区画内に縄文が充填される。	980-010
46	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	不良	LR	—	VI群	全体に摩滅している。隆線による区画。	980-995
47	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線が条線状に施文される。	980-000
48	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面に斜位のミガキ整形。	980-985
49	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	—	加曾利E		985-015
50	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E		980-985
51	深鉢	胴部	オリーブ褐	2.5Y4/3	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	—	加曾利E		980-010
52	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E		980-980
53	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの黄色粒多い	良	—	—	後期		980-000 54と同一個体
54	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの黄色粒多い	良	—	—	後期	太さ4ミリの沈線による横位の区画と三叉状の文様。	980-000 53と同一個体
55	深鉢	胴部~底部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	980-980



第206圖 980・985グリッド出土土器(1)

0 20cm



第207図 980・985グリッド出土土器（2）

II区980・985グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
56	深鉢	胴部～底部	にぶい黄	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	不良	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線2条で縦位の区画。	980-985
57	深鉢	胴部～底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E		980-995
58	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E		980-000
59	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	980-005

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR		十三菩提	太さ4ミリの結節浮線文。	
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		十三菩提	半截竹管による刺突と平行沈線。	
3	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	幅8ミリの平行沈線と爪形文。	
4	深鉢	口縁	赤褐	2.5Y4/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	内外面赤色塗彩。	
5	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		勝坂	太さ10ミリの隆線による刻み。	
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの白色粒多い	不良	—		勝坂	太さ2ミリの沈線による文様区画内に爪形文を充填する。	
7	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの白色粒	良	—		勝坂	口唇には浅い刻みが施文。口縁部には、押し引きの沈線が施文。	
8	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒	良	—		勝坂	深鉢把手、めがね状に把手が付けられる。角には、横位の刻み。	
9	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	—		勝坂	太さ4ミリの沈線と太さ10ミリの隆線で文様を描く。	
10	浅鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1ミリの小石	良	—		勝坂	外面に横位のミガキ整形。	
11	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの白色粒	良	—		勝坂	太さ10ミリの沈線による文様。	
12	深鉢	口縁	明褐灰	7.5YR7/2	黒色粒	良	—		阿玉台	幅5ミリの竹管状のもので押し引きの沈線。	
13	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	雲母	良	—		阿玉台	幅5ミリの平行沈線による押し引き文。	
14	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	横位に連続する爪形文。	
15	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—		阿玉台	押し引きの沈線。	
16	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	金雲母	普通	—		阿玉台	幅4ミリの竹管による押し引き文。	
17	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	太さ8ミリの隆線と押し引きの沈線。	
18	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	φ1ミリの白色粒	良	—		阿玉台	隆線による半円状の区画とそれに並行する押し引き沈線。隆線には刻みが入る。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による爪形文。押し引きの刺突文。	
20	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	黒色の砂粒	良	—		阿玉台	口縁部に刻みを持つ隆線と結節沈線で文様を描く。	
21	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅15ミリの連続する爪形列が弧状に施文。	
22	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		I群	太さ2ミリの沈線による文様区画と爪形文。	
23	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、金雲母	良	—		勝坂	太さ8ミリの隆線に刻みを持つ。太さ5ミリの沈線で縦位区画。	
24	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	ペン先状の刺突列と爪形文列が横位に施文。	
25	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	白色粒	良	—		勝坂	幅10ミリの連続する爪形文が横位に施文される。	
26	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	砂粒	良	—		勝坂	太さ2ミリの沈線を直交させて文様を描く。	
27	深鉢	口縁~胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい白色粒	良	—		勝坂	横位の区画と平行沈線による文様施文。	
28	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、雲母	不良	—		阿玉台	押し引きの沈線と隆線が垂下する。	
29	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		阿玉台	幅12ミリのヘラ状工具による刻み。	
30	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	横位の爪形文。	
31	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	金雲母	普通	—		阿玉台	幅12ミリの横位に連続する刻み列。	

第4章 出土遺物

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
32	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—		阿玉台	横方向の連続爪形文。	
33	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ2ミリの沈線による渦巻文。	
34	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	—		I群	幅5ミリの平行沈線横位施文。交互刺突による「コ」の字文。	
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		I群	交互刺突列による「コ」の字文。	
36	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2~4ミリの隆・沈線による方形の文様。	
37	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒	良	—		I群	粘土紐を鋸歯状に施文。	
38	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		加曾利E	幅7ミリの平行沈線と三角の印刻。	
39	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	—		加曾利E	口縁部に交互刺突列による「コ」の字文。	
40	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	RL	縦横	加曾利E	隆線による渦巻文様。	
41	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	口縁部に太さ5ミリの沈線が並行する。沈線間に竹管による交互刺突列。	
42	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ5ミリの隆線による重弧文。	
43	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	II群	隆線による渦巻。	
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通	—		加曾利E	隆線による文様区画。	
45	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	隆線による楕円の区画。	
46	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ20ミリの隆線と沈線による縦位区画。	
47	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	砂粒	不良	RL	横	加曾利E	太さ4ミリの隆線による渦巻。	
48	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	口縁部横位のミガキ整形。	
49	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E	太さ3~5ミリの隆・沈線による文様施文。	
50	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	太さ2ミリの沈線が胴部に巡る。燃糸。	
51	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	良	RL	縦	III群	太さ9ミリの沈線で口縁部を区画し、胴部に縦位の区画。	
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦横	IV群1類	太い隆線で口縁部文様帯に楕円の区画。胴部に太さ6ミリの沈線で縦位の区画。	舌状突起
53	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの隆線による渦巻文様。	
54	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	IV群1類	太さ8ミリの沈線による渦巻区画。舌状突起頂部突起。	舌状突起
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	普通	RL	縦	III群	幅広の隆線による楕円区画。	
56	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	—		III群	波状口縁突起。太い沈線で口縁部楕円区画。	舌状突起
57	深鉢	突起	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	口縁に沈線施文の波状口縁。波頂部に透し孔を持つ。	
58	深鉢	口縁突起	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E	波状口縁頂部内外面に「∞」文施文。	舌状突起
59	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ7~8ミリの隆・沈線による口縁部文様区画。波状口縁の端部には沈線による「∞」文。	舌状突起
60	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR6/4	黒色粒	良	—		加曾利E	波状口縁突起。太い沈線による「J」文。	舌状突起
61	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	隆線による口縁区画。	
62	深鉢	口縁突起	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい白色粒	不良	—		加曾利E	太い沈線による楕円区画。突起頂部に「∞」の文様。	舌状突起
63	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	RL	横	加曾利E	隆線による楕円の区画。	
64	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利E	太い隆線による楕円の区画。	

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	隆線による楕円の区画。	
66	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	白色粒	良	RL	横	加曾利E	φ10ミリの円形刺突。太い沈線による口縁部楕円区画。	
67	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒多い	普通	—		加曾利E	隆線による区画。	
68	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	白色粒多い	普通	—		加曾利E	口縁に文様区画線の隆線を貼り付ける。	
69	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群	太い隆線と沈線による口縁部楕円区画。	
70	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ10ミリの沈線による弧線。	
71	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	加曾利E	太い沈線で口縁を楕円区画。	
72	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	黒色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁と頸部の分割線に太さ10ミリの沈線。太さ4ミリの垂下する縦の沈線。	
73	深鉢	口縁突起	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒	良	—		加曾利E	波状口縁突起。外面ミガキ整形。口唇部には楕円区画文。	
74	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	太い隆線による楕円区画。	
75	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	縦横	Ⅲ群	太さ8~12ミリの沈線による口縁部楕円区画文様と縦位の区画。	
76	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒、白色粒	良	LR		加曾利E	太さ10ミリ以上の沈線と隆線による楕円区画。	
77	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	不良	RL	縦横	加曾利E	太さ4ミリの沈線で口縁部文様を描く。	
78	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による弧線。	
79	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ3ミリの沈線による弧線。	
80	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	太い沈線による文様区画。	舌状突起
81	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E	波状口縁。外面ミガキ整形。	舌状突起
82	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	隆線で口縁部文様帯を区画。	
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	隆線による楕円区画。	
84	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	太い沈線による楕円区画。	
85	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	普通	LR	横縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線で文様帯を区画する。	
86	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	口縁部に太い沈線で文様区画。	
87	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—		Ⅵ群	口縁下に幅の広い凹線。	
88	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	隆線で口縁を区画し、楕円文様を描く。	
89	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ7ミリの沈線で口縁部文様を区画する。	
90	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒多い	不良			加曾利E	太さ4ミリの沈線で縦位に区画。	
91	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群	太さ12ミリの太い沈線が口縁に巡る。	
92	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	口縁部に隆・沈線が巡る。	
93	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線で弧線を描く。	
94	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの小石、雲母	普通	RL	斜縦	Ⅵ群	太さ5~8ミリの隆線で方形区画。	
95	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/1	白色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	小波状の口縁。頂部には小突起。突起から弧状に沈線か2条施文される。口縁部に沈線で区画された磨り消し縄文。	
96	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		Ⅵ群	太さ1ミリの沈線で文様を描く。	
97	両耳壺	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅶ群	太い隆線による文様区画。胴下半には条線が施文される。	
98	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線による縦位区画。	
99	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による文様区画。	

第4章 出土遺物

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
100	深鉢	口縁突起	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	口縁部が波状になり突起を持つ。	
101	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	沈線で口縁部区画。	
102	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒多い	普通	LR	斜	加曾利E	太さ14ミリの隆線で口縁部文様帯を区画する。	舌状突起
103	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E	口縁部を隆線で横位に区画。	
104	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E	口縁部に隆線と沈線による区画。	
105	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	白色粒	普通	RL	斜	加曾利E	太さ4ミリの沈線で渦巻文。	
106	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部に微隆起線で文様を区画。	
107	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの隆線による口縁部文様帯区画。	
108	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E	外面に横位のミガキ整形。	
109	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	口縁に太さ12ミリの沈線が巡る。	
110	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ2ミリの沈線が巡る。内面には口縁直下に沈線。	
111	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒多い	不良	—		加曾利E		
112	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	太さ8ミリの沈線で口縁部文様帯を区画する。	
113	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦横	VI群	口縁部を横位に隆線で区画し、胴部に縦位の区画。	
114	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		VI群	口縁部に隆起線で横位に区画。	
115	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VI群	口縁部を太さ4ミリの隆線で区画。	
116	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	LR	横斜	VI群	波状口縁に並行するように隆線で無文帯を区画。	
117	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡る。	
118	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	VI群	口縁部に8ミリの沈線が巡る。	
119	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VI群	太さ20ミリの沈線が口縁部下に巡る。	
120	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1ミリの砂粒	良	—		VI群	無文。	
121	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ2ミリの沈線で口縁を区画。	
122	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線で横位の区画。	
123	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	良	RL	縦	VI群	口縁部を肥厚させる。	
124	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	金雲母	良	—		VI群	横位のミガキ整形。	
125	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	斜	VI群	太さ5ミリの隆線による口縁部横位区画。	
126	浅鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒多い	普通	—		VI群	横位のミガキ整形。	
127	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒	良	RL	横	VI群	口縁部に微隆起線による区画。	
128	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	不良	RL	横	VI群	口縁直下に7ミリの沈線が横位に巡る。	
129	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	口縁部を微隆起線で区画する。	
130	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VI群	太さ7ミリの沈線が口縁を巡る。羽状縄文。	
131	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	VI群	口縁部に8ミリの沈線が巡る。	
132	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの白色粒	良	—		加曾利E	無文。口縁波頂部。	舌状突起
133	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	白色粒多い	普通	RL	横	VI群	太さ2ミリの沈線が口縁を巡る。	
134	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	普通	RL	横	VI群		橋状把手
135	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	—		加曾利E	外面に横位のミガキ整形。	
136	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	LR	横	VI群	口縁部に微隆起線で横位の区画。	
137	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR	横	VI群	口縁部に太い沈線が巡る。	
138	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	横	VI群	口縁部に隆線が巡る。	
139	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	黒色粒多い	普通	RL	横	VI群	太さ5ミリの隆・沈線による口縁部横位区画。	

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
140	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	黒色粒多い	良	RL	縦	VI群	太さ7ミリの沈線で口縁部を横位に区画。太さ3ミリの隆線による縦位区画。	
141	器台	脚部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—		加曽利E	外面に縦のミガキ整形。内面に横のミガキ整形。	
142	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	普通	—		加曽利E	横位のミガキ整形。	
143	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	内外面にミガキ整形。	
144	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦	VI群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。補修孔あり。	
145	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	VI群	口縁部に微隆起線で横位の区画。	
146	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	斜	VI群	口縁部を隆線で区画。	
147	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの小石	普通	—		VI群	頸部に太さ3ミリの沈線が施文される。	
148	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ5ミリの隆線による口縁部横位区画と縦位の区画。	
149	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	隆線による口縁区画と縦の区画。	
150	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	VI群	口縁部隆線で区画し、胴部には沈線で渦巻を作る。	
151	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒	良	—		VI群	太さ3ミリの隆線で渦巻状の文様区画。	
152	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	LR	斜	VI群	太さ1ミリの沈線による文様施文。口縁部は、隆起線による区画。	
153	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VI群	太さ2ミリの沈線による弧線。	
154	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒多い	良	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
155	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦横	VI群	太さ6~8ミリの沈線で口縁部を巡らす。口縁部に弧線を施文。	
156	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	VI群	太さ2~4ミリの沈線による口縁部区画と楕円区画。	
157	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	横	VI群	太さ4~6ミリの沈線による渦巻文。	
158	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒多い	良	RL	横	VI群	太さ5ミリの隆線で口縁部を区画し、胴部へ続く。	
159	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ4ミリの隆線で口縁部を区画。胴部に区画線が続く。	
160	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい白色粒	良	LR	縦横	VI群	太さ3ミリの沈線による口縁部区画。太さ1ミリの沈線による曲線文。	
161	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線が口縁部を区画。胴部には「J」字文。無文部磨り消し縄文。	
162	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒多い	良	RL	縦横	VI群	太さ15ミリの沈線で横位区画。太さ4ミリの隆線で胴部文様を区画する。	
163	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	横	VI群	太さ1ミリの沈線による文様区画。内面口唇下に沈線。	
164	両耳壺	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	LR	横	VI群	口縁部は隆線により区画され無文帯を持つ。頸部に楕円区画と把手の接続痕。	
165	深鉢	口縁	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	良	RL	縦横	VI群	太さ4ミリの沈線で口縁部を区画し、弧を描く。	
166	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	砂粒	良	RL	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による文様。	
167	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦横	VI群	口縁部を区画する隆線に縄文を施文。頸部に沈線による文様施文。	
168	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	黒色粒多い	普通			加曽利E	幅9ミリの平行沈線で横位に施文。	

第4章 出土遺物

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
169	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。無文部は、磨り消し縄文。	
170	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	RL	横	VI群	隆起線による口縁部文様区画。	
171	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	砂粒多い	普通	RL	縦横	VI群	太さ3ミリの隆線による口縁区画と胴部文様。	
172	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦横	VI群	太さ4ミリの沈線が口縁部下に巡る。胴部に太さ2ミリの沈線で楕円区画。	
173	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	VI群	太さ6ミリの隆線による楕円区画。	
174	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	VI群	太さ7~9ミリの隆線の渦巻文様。	
175	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	VI群	太さ5ミリの沈線が口縁に巡り、胴部に曲線で文様が描かれた。	
176	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	φ7ミリの刺突。太さ7ミリの沈線による文様区画。	
177	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	縦	V群	横位に円形の刺突。胴部には太さ3ミリの沈線による文様施文。	
178	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	V群	太さ2ミリの沈線を2条口縁に並行させる。沈線間にφ3ミリの刺突。	
179	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	普通	RL	縦横	V群	太さ6ミリの沈線が口縁に施文。口縁に円形の刺突列。	
180	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	横	V群	太さ8ミリの沈線で口縁部を横位に区画。区画部分に縦位の沈線施文。	
181	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口唇部に列点文。	
182	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	V群	口縁部にφ6ミリの刺突。斜位の平行沈線。	
183	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線にφ3ミリの竹管による円形刺突。	
184	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの黒色粒	良	LR	縦横	V群	口縁部に幅10ミリの爪形文。	
185	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	V群	φ5ミリの円形刺突と沈線による弧線。	
186	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	V群	太さ5ミリの沈線による楕円区画とφ4~6ミリの刺突列。	
187	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒	普通	—	—	V群	太さ2ミリの沈線が口縁に二重に巡る。沈線間に竹管による交互刺突列。	
188	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—	—	V群	φ3~4ミリの刺突。	
189	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	—	—	V群	口縁にφ6ミリの円形刺突と沈線による縦位の区画。	
190	深鉢	口縁突起	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	—	加曽利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文。	
191	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	「J」状の文様が突起頂部に付く。	
192	深鉢	口縁突起	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	杯状になる突起。	
193	深鉢	突起	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曽利E	頂部は、杯状に凹む。	
194	両耳壺	把手	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	横	加曽利E		橋状把手
195	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E		橋状把手
196	両耳壺	把手	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E		橋状把手
197	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	口縁把手。	
198	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	普通	RL	横	VI群		橋状把手
199	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒	良	—	—	VII群1類		橋状把手
200	両耳壺	把手	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	VII群1類	沈線による楕円文。	橋状把手
201	両耳壺	把手	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	—	—	VII群1類		橋状把手
202	両耳壺	把手	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	—	—	VII群1類		橋状把手

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
203	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	—		Ⅶ群1類		橋状把手
204	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	良	—		Ⅶ群1類	沈線による楕円文。	橋状把手
205	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	良	RL	縦	Ⅶ群2類		橋状把手
206	両耳壺	把手	灰白	10YR8/2	白色粒多い	不良	—		Ⅶ群1類		橋状把手
207	両耳壺	把手	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅶ群2類		橋状把手
208	両耳壺	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		Ⅶ群	無文の把手。中央に焼成前の孔が開けられる。	
209	両耳壺	把手	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—		Ⅶ群1類	塗彩土器。	橋状把手
210	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒多い	良	RL	横	Ⅶ群2類		橋状把手
211	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—		加曽利E	太さ2ミリの沈線で文様を描く。	
212	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	縦位に沈線施文。	
213	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	LR		加曽利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。燃糸。	
214	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石	不良	—		加曽利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文。	
215	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	—		加曽利E	幅5ミリの平行沈線を集合化させ、縦位に施文。	
216	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	燃糸。	
217	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線が横位に巡る。	
218	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曽利E	太さ1ミリの沈線による条線。	
219	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの小石	普通	—		加曽利E	幅3~4ミリの平行沈線による条線。	
220	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	幅3~4ミリの間隔に沈線が条線状に引かれる。	
221	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの白色粒	良	—		加曽利E	縦位に沈線施文。	
222	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—		加曽利E	太さ4ミリの沈線を縦位に施文。	
223	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石、白色粒	良	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線による条線。	
224	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	LR		加曽利E	燃糸。	
225	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石	良	—		加曽利E	幅3ミリの平行沈線が縦位に施文。	
226	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/8	φ1~3ミリの白色粒	良	LR		加曽利E	燃糸。	
227	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/8	白色粒	普通	LR		加曽利E	細い沈線が横位施文。燃糸。	
228	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	—		加曽利E	横位の隆帯。	
229	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの小石	良	LR		加曽利E	燃糸。	
230	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石多い	普通	—		加曽利E	幅3ミリの間隔で条線状に施文。	
231	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	—			表面に擦痕。	
232	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—		加曽利E	条線による施文。	
233	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曽利E	幅12ミリの櫛状工具による条線。	
234	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曽利E	幅2ミリの平行沈線による条線。	
235	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	沈線による縦の区画。付加条。	
236	両耳壺	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	Ⅶ群	楕円区画内を縄文が充填。胴部は、太さ2ミリの沈線が施文される。	
237	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	良	—		加曽利E	幅2ミリの平行沈線で波状文を作る。	
238	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石	普通	—		加曽利E	幅2ミリの平行沈線を集合化させた波状文。	
239	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	良	LRL		加曽利E	太さ2ミリの沈線が垂下する。	
240	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	—		Ⅶ群4類	太さ8ミリの沈線による縦位区画。地文条線。	

第4章 出土遺物

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
241	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	VIII群4類	条線による施文。	
242	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—	—	VIII群2類	幅15ミリの櫛状工具による波状文。	
243	両耳壺	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	普通	LR	縦	VII群	上半に縄文施文し、胴部下半条線による施文。	
244	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	VII群2類	幅2ミリの平行沈線で曲線を描く。	
245	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。	
246	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線が垂下する。	
247	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画と波状線。	
248	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの隆線による縦の区画。	
249	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線が垂下する。	
250	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	幅4ミリの平行沈線による文様で弧を描く。	
251	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線で楕円区画と垂線。	
252	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの隆線による縦位区画。	
253	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	白色粒多い	普通	RL	斜	加曾利E	太さ4ミリの沈線で縦位の区画。	
254	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
255	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの隆線で縦位区画。	
256	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
257	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの隆線による縦位区画。	
258	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
259	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	不良	—	—	加曾利E	太さ1ミリの隆線を貼り付ける。	
260	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	良	LR	横	加曾利E	隆線による縦位区画。	
261	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E	太い隆線による文様施文。	
262	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
263	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ5ミリの隆線による縦位区画。	
264	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	隆起線による縦位区画。	
265	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線による縦位区画。	
266	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、φ3ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	
267	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線で縦位の区画。	
268	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの微隆起線による縦位区画。口縁とは沈線で区画される。	
269	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
270	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線で2本波状に施文。	
271	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線が波状に施文される。	
272	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの隆線が垂下する。	
273	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群	隆起線で縦位の区画。	
274	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
275	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
276	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
277	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線が垂下し縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
278	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線を縦位に施文。	
279	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利E	隆線による楕円区画。	
280	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	幅広の沈線と隆線による縦位の区画。	
281	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隆線で文様帯を区画する。	
282	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	砂粒多い	普通	RL	横	VI群	太さ1ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
283	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太い沈線で曲線文。磨り消し縄文による無文帯。	
284	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。縄文が帯状に施文される。	
285	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	横	VI群	太さ2ミリの沈線による弧線。磨り消し縄文。	
286	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石、黒色粒	良	RL	斜	VI群	太さ4ミリの沈線による曲線文様。	
287	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	良	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	
288	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ4ミリの沈線で曲線を描く。	
289	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	
290	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦	VI群	隆線による文様区画。	
291	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	RL	縦	VI群	隆線を2本対にして無文帯を作り、胴部文様を付ける。	
292	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒	普通	RL	縦横	VI群	隆線による渦巻文様。	
293	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
294	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	VI群	隆線による文様区画。	
295	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	LR	縦	VI群	隆線で楕円の区画。	
296	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VI群	太さ3ミリの隆線による楕円区画。	
297	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦	VI群	太さ8ミリの沈線による楕円区画と「f」状沈線文。	
298	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線による文様区画。	
299	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石、黒色粒	良	LR	横	VI群	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
300	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線で「U」「∩」状の文様。	
301	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	LR	横	VI群	太さ3ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
302	深鉢	胴部	灰	5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦横	VI群	隆・沈線で渦巻状の区画。	
303	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	良	RL	横	VI群	太さ2ミリの沈線で弧線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
304	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	LR	縦	VI群	太さ1ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
305	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒	普通	LR	縦	VI群	隆線による楕円の区画。	
306	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
307	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ2ミリの沈線で弧を描く。	
308	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	沈線が縦位に施文される。	
309	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E		

第4章 出土遺物

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
310	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦横	加曾利E		
311	両耳壺	把手	灰白	10YR8/2	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曾利E		橋状把手
312	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	普通			加曾利E		
313	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	良			加曾利E		
314	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	横	加曾利E	縄文が带状に施文。	
315	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		
316	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		
317	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E		
318	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	太さ3ミリの隆線による文様区画。	
319	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		
320	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒多い	普通	RL	横	加曾利E		
321	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	RL	斜	加曾利E		
322	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	砂粒	普通	RL	斜	加曾利E		
323	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		
324	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E		
325	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E		
326	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E		
327	深鉢	胴部	灰	N4/0	φ1ミリの砂粒	-	-		後期		
328	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	-			外面ミガキ整形。	
329	深鉢	胴部~ 底部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、白色粒多い	良	-				
330	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	-			外面横方向のミガキ整形。	
331	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	-		加曾利E	外面ミガキ整形。	
332	深鉢	胴部~ 底部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの小石	普通	-		加曾利E		
333	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	7.5YR8/4	黒色粒多い	良	-		加曾利E		
334	深鉢	胴部~ 底部	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの小石	普通	-		加曾利E	外面ミガキ整形。	
335	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	普通	-		加曾利E	上げ底になる。	
336	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E		
337	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1ミリの小石	普通	LR	縦		外面横方向のミガキ整形。	
338	深鉢	胴部~ 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	-			外面ミガキ整形。	
339	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	黒色粒多い	良	-		加曾利E	外面ミガキ整形。	
340	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	良	-		古墳時代	外面横位のミガキ。	土師器
341	深鉢	胴部~ 底部	淡黄橙	10YR8/3	φ1ミリの白色粒	良	-			外面縦位のミガキ整形。	
342	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒含む	普通	-		加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
343	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/3	砂粒多い	普通	LR	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
344	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	黒色粒多い	普通	-		加曾利E	底部穿孔。	
345	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	-			外面ミガキ整形。	
346	深鉢	胴部~ 底部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通			加曾利E		
347	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1ミリの小石	良	-		加曾利E	外面ミガキ整形。	
348	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	-			外面丁寧なミガキ整形。	

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
349	深鉢	胴部～底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曽利E	底面横位のミガキ整形。	
350	深鉢	胴部～底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石				加曽利E		
351	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	普通	—	—	加曽利E	沈線で縦の区画。	
352	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曽利E		
353	深鉢	胴部～底部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	不良	LR	斜	加曽利E		
354	深鉢	胴部～底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	—	—	加曽利E		
355	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曽利E		
356	土製品		にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒	良	—	—	加曽利E	環状になる土製品。	
357	深鉢	胴部～底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
358	深鉢	胴部～底部	灰白	10YR8/2	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
359	深鉢	胴部～底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	古墳時代	底部高台状になる。外面ミガキ。	土師器
360	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
361	深鉢	胴部～底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E		
362	深鉢	胴部～底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
363	深鉢	胴部～底部	浅黄橙	7.5YR8/4	白色粒	良	—	—	加曽利E		
364	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E		
365	深鉢	胴部～底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
366	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曽利E	縦位のミガキ整形。	
367	深鉢	胴部～底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
368	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曽利E		
369	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	砂粒多い	不良	—	—	加曽利E		
370	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	普通	—	—	加曽利E	縦位の沈線。	
371	深鉢	胴部～底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E		
372	深鉢	胴部～底部	オリーブ黒	7.5Y3/2	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曽利E		
373	深鉢	底部	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの白色粒多い	良	—	—	加曽利E	底部に横位の擦痕。	
374	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E		
375	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	加曽利E		
376	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	外面ミガキ整形。	
377	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	外面に塗彩。	塗彩土器
378	器台	脚	浅黄橙	7.5YR8/4	黒色粒多い	普通	—	—	加曽利E		
379	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	外面ミガキ整形。	
380	土製円盤		暗灰黄	2.5Y4/2	金雲母	良	—	—	阿玉台	幅6ミリの平行沈線が鋸歯状に施文される。	
381	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曽利E	底部内面を磨いている。底部片を転用。	
382	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	—	—		底部片を転用。	
383	七輪網		橙	5YR6/6							近代
384	土製円盤		にぶい黄橙	10YR4/3	φ1ミリの小石多い	普通	—	—	加曽利E	底部片を転用。	

第4章 出土遺物

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
385	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通			加曽利E		
386	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	—		加曽利E	幅2ミリの平行沈線を条線状にして波状に施文。	
387	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	—			縁辺打ち欠き成形。	
388	土製円盤		橙	7.5YR7/6	白色粒多い	普通	—				
389	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—				
390	土製円盤		にぶい橙	5YR6/3	細かい砂粒	不良				縁辺打ち欠き成形。	
391	土製円盤		灰白	10YR8/1	白色粒	不良	—			縁辺打ち欠き成形。	
392	土製円盤		にぶい赤褐	5YR4/3	φ1ミリの小石多い	良	LR		加曽利E		
393	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—				
394	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/3	φ1ミリの白色粒	普通	—		加曽利E		
395	土製円盤		浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	RL		加曽利E		
396	土製円盤		浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曽利E	太さ5ミリの沈線が縦位に施文。	
397	土製円盤		浅黄橙	10YR8/3	白色粒	良				縁辺打ち欠き成形。	
398	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E	太さ2ミリの沈線が垂下する。	
399	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL		加曽利E		
400	すり鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6							現代
401	土製円盤		黒褐	2.5Y3/1	細かい砂粒	良	RL		加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
402	耳飾り		黒褐	2.5Y3/1	細かい砂粒					細い沈線で渦巻。弧線を描く。	

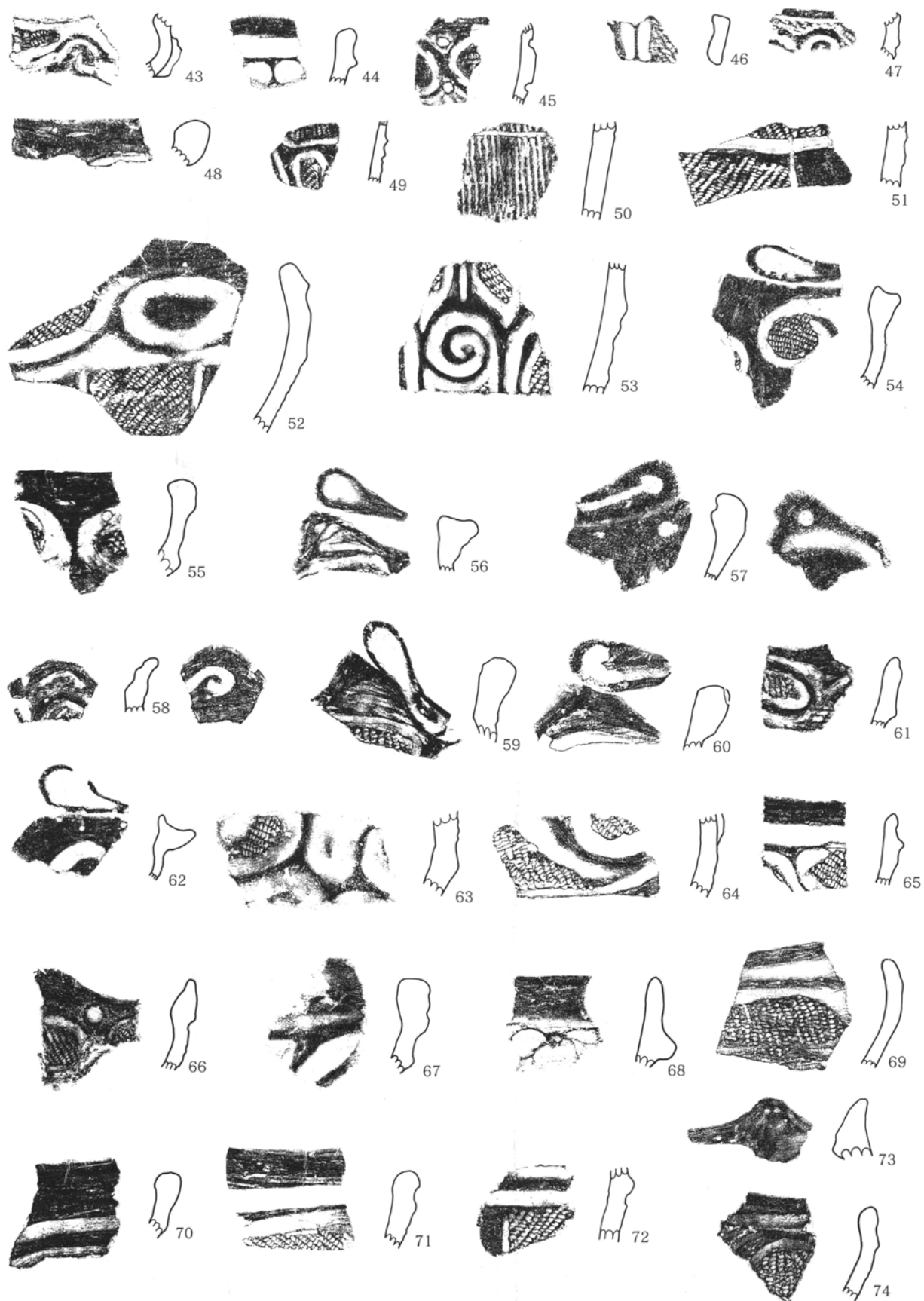
II区表土出土陶磁器観察表

図版No	器種	製作地	特徴
403	陶器 甕 (孫太)	瀬戸・美濃	錆釉を厚めに施す。口縁端部無釉。外面体部下位以下は鉄化粧。底部右回転系切り無調整。底部中央、内外面から穿孔し植木鉢に転用。18世紀頃以降。
404	陶器 灯明皿	瀬戸・美濃	口縁部から内面錆釉。口縁部外面から底部回転削り。19世紀。
405	磁器 碗	肥前?	焼成不良。外面の呉須は黒く発色。松葉状の文様は手描き、桐状の文様はコンニャク判。18世紀か。
406	磁器 猪口	肥前	外面に竹と松の染め付け。若干焼成不良で透明釉に貫入が入る。高台内不明銘。18世紀。
407	陶器 灯明皿	志戸呂	口縁部外面から内面錆釉。底部右回転系切り無調整。内外面に油付着。18世紀中頃から後半。
408	磁器 小杯	肥前(波佐美系)	口縁部外面に笹様の染め付け。江戸時代。



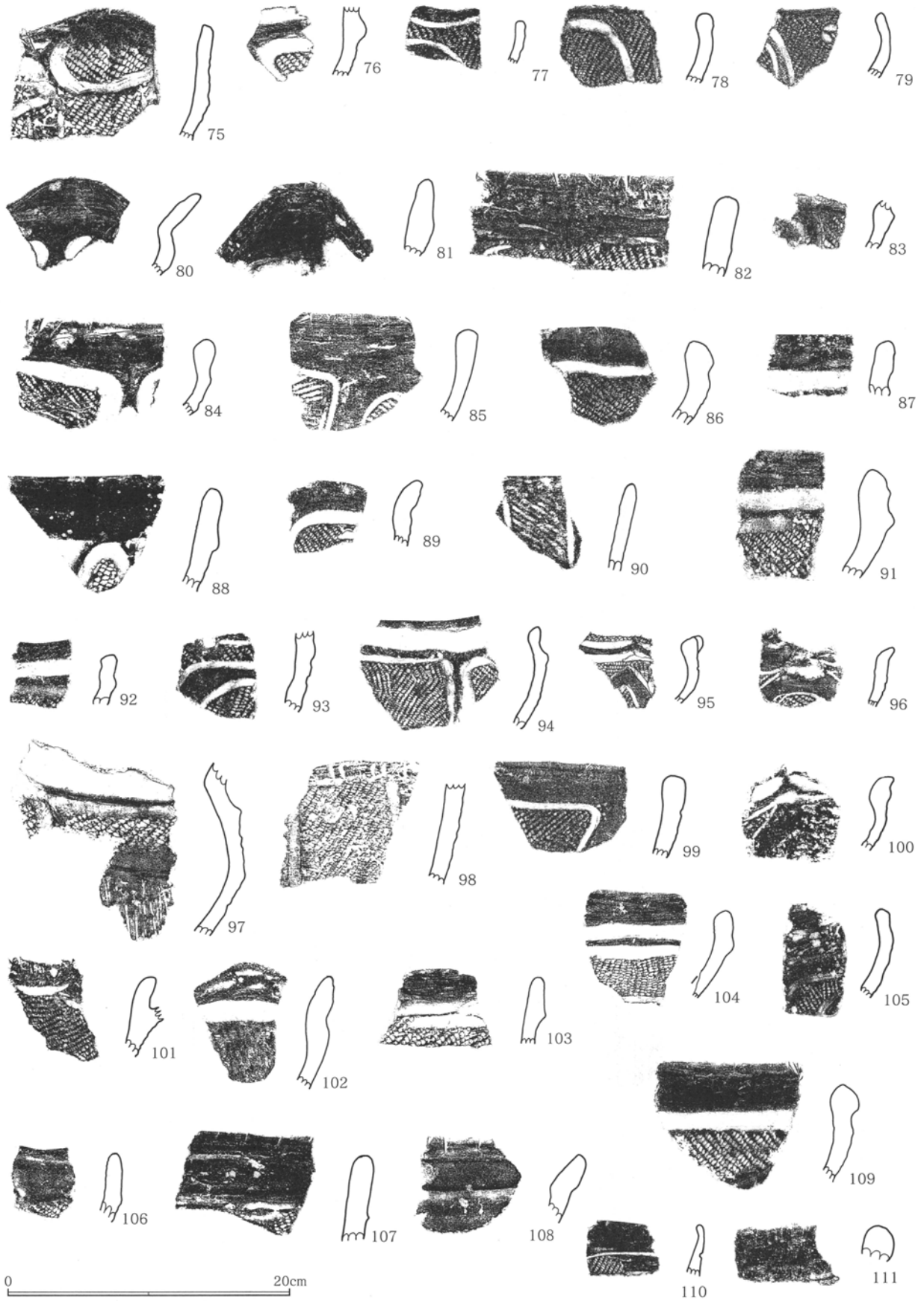
第208图 II区表土出土土器 (1)

0 20cm

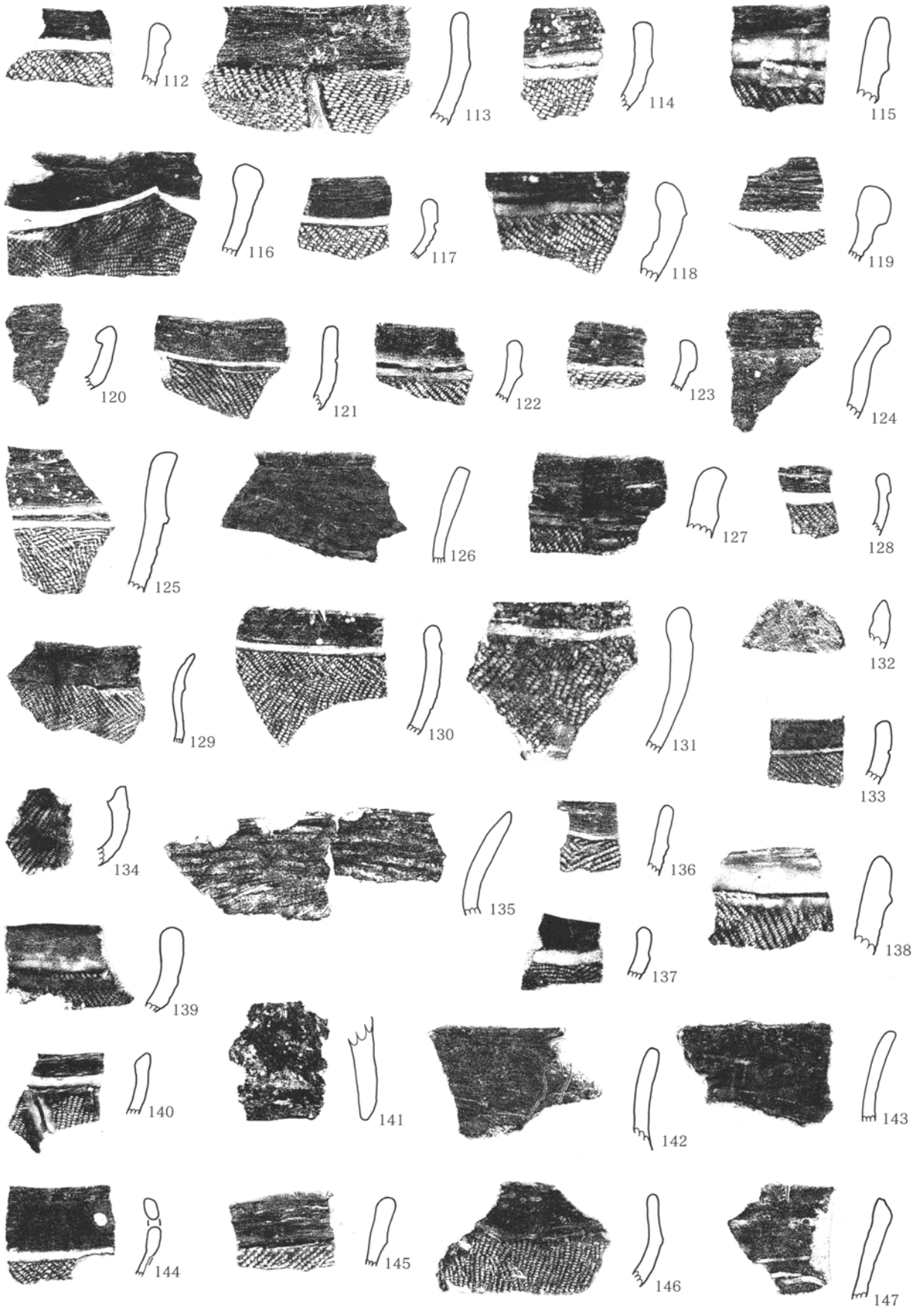


第209图 II区表土出土土器(2)

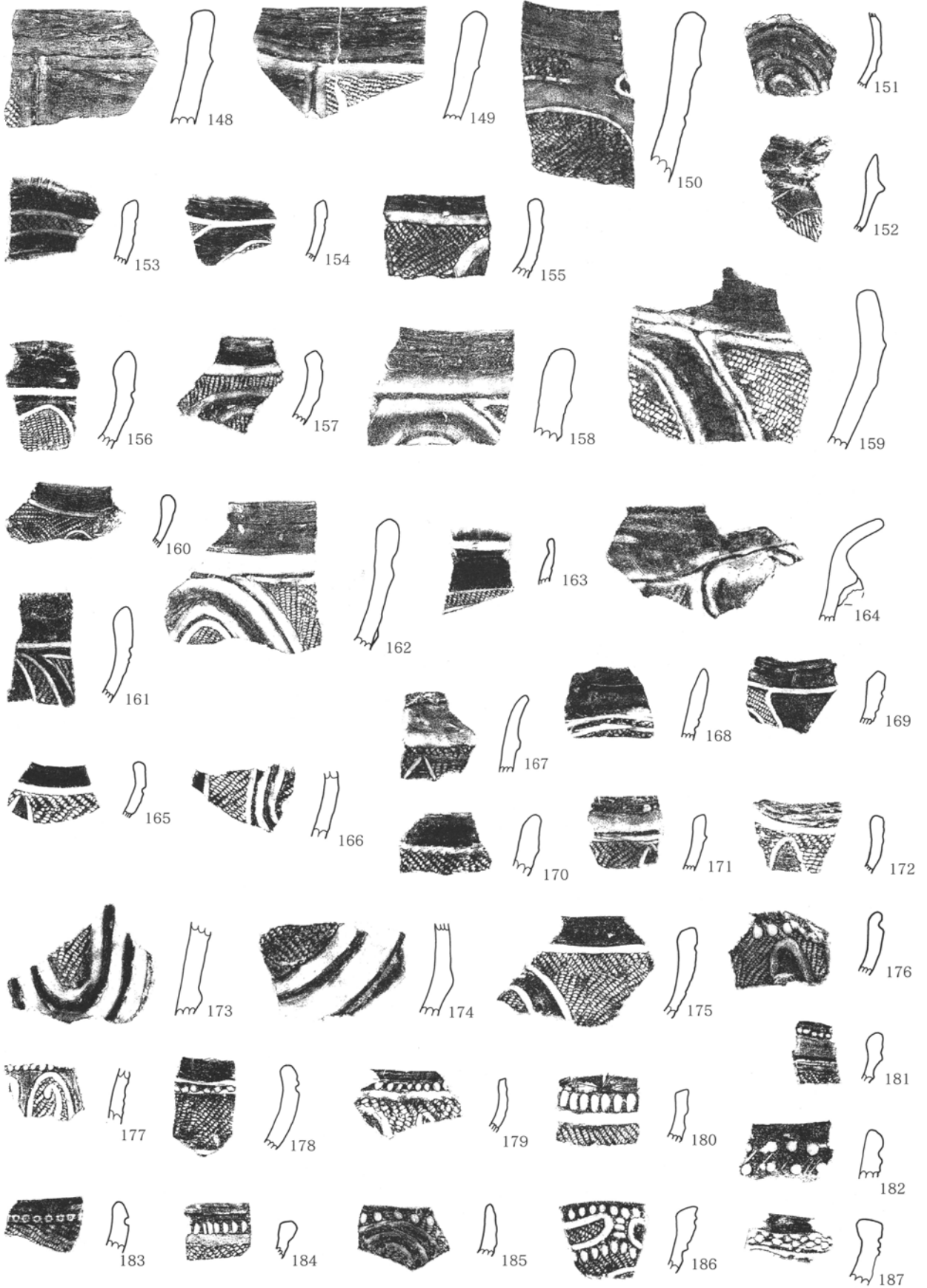
0 20cm



第210图 II区表土出土土器(3)



第211图 II区表土出土土器(4) 0 20cm

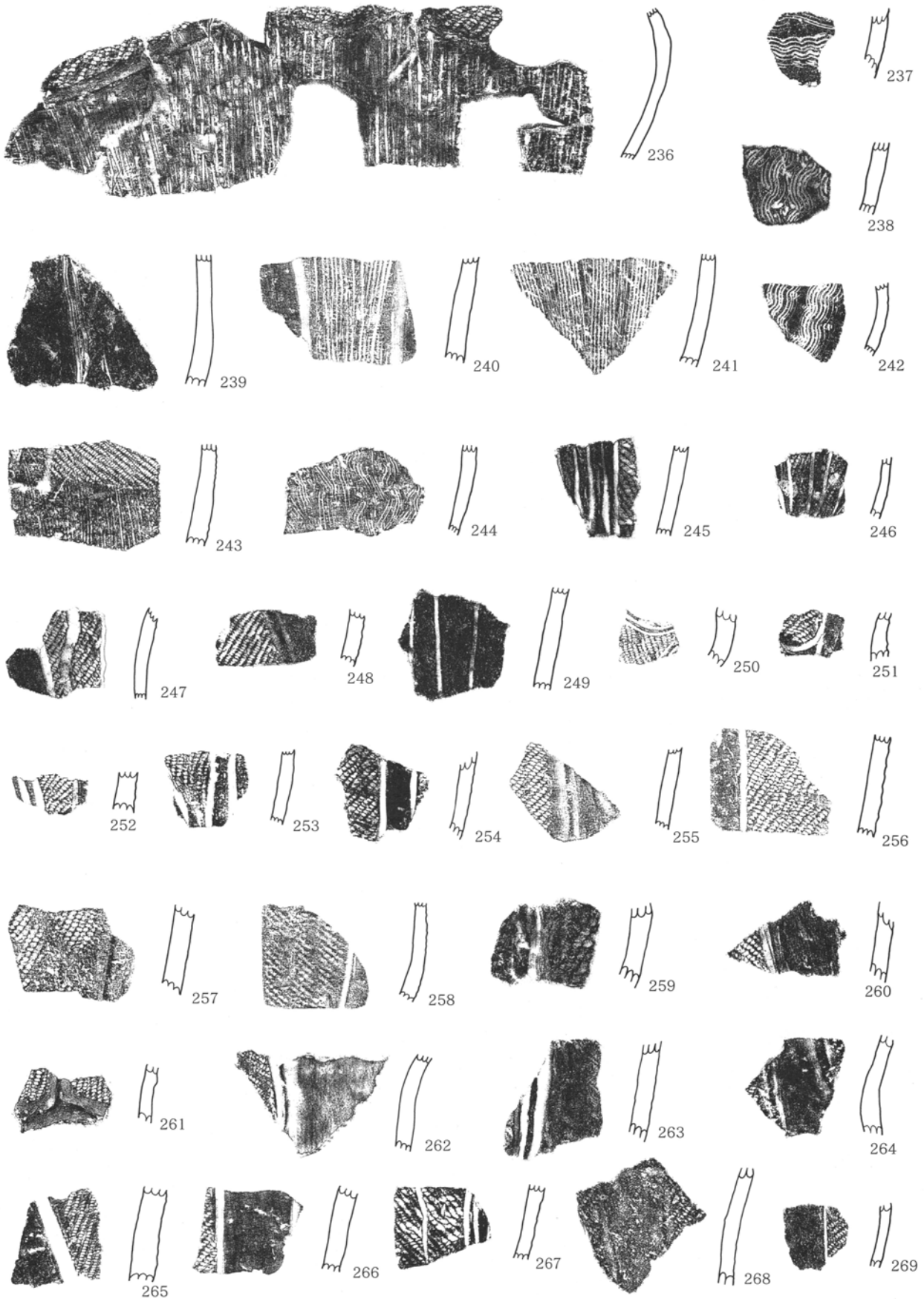


0 20cm 第212图 II区表土出土土器 (5)



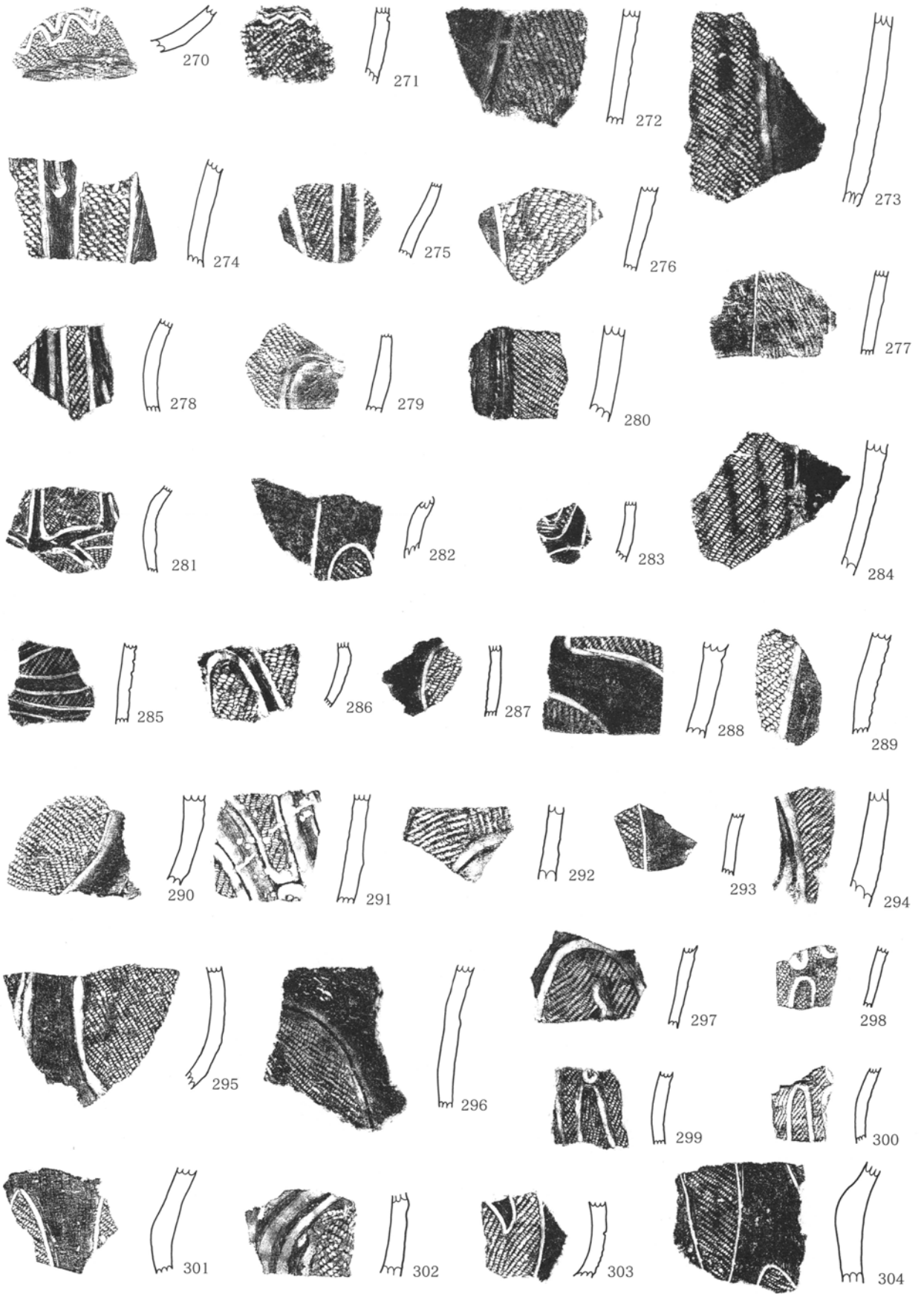
第213图 II区表土出土土器(6)

0 20cm

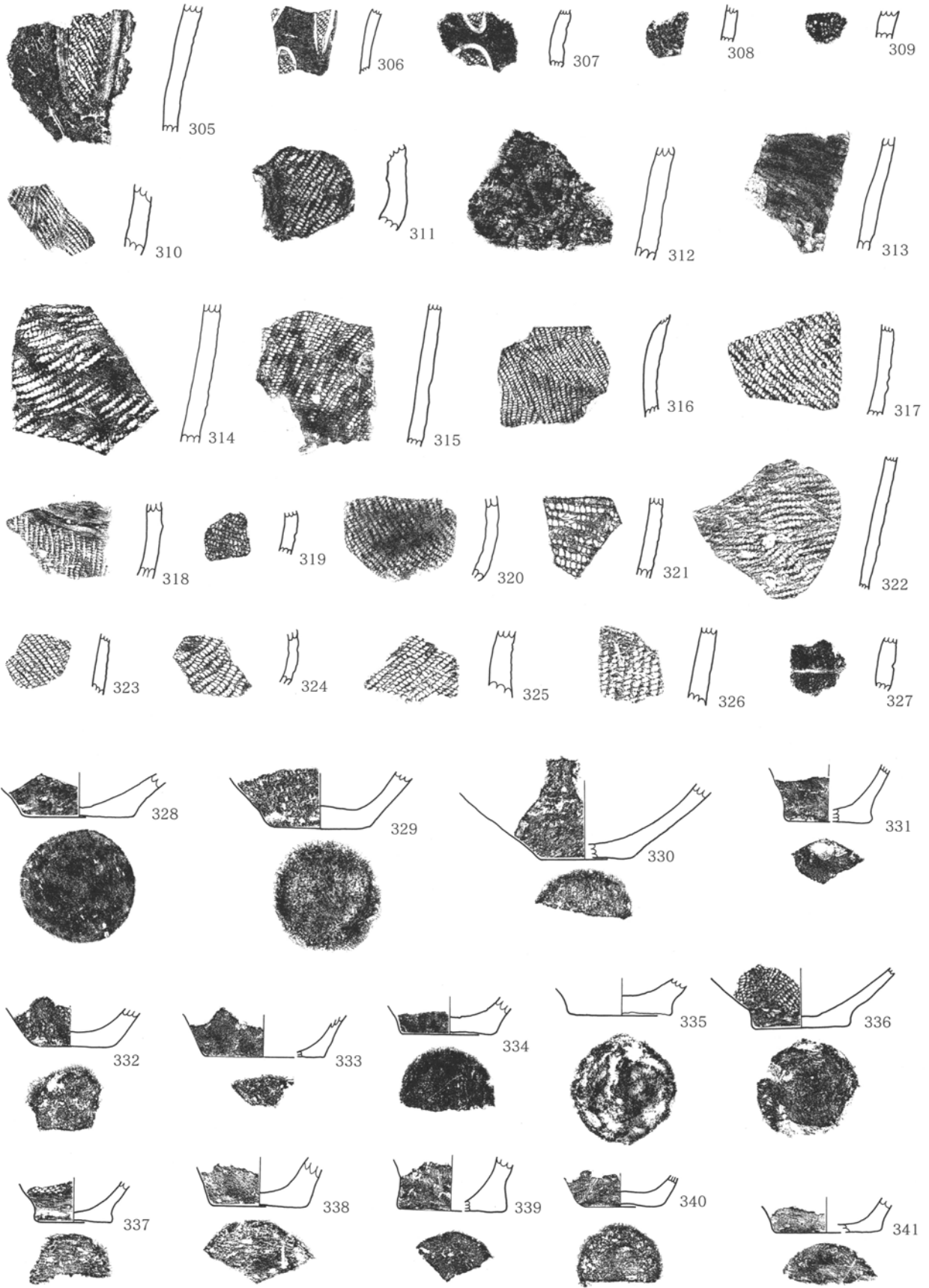


第214图 II区表土出土土器(7)

0 20cm

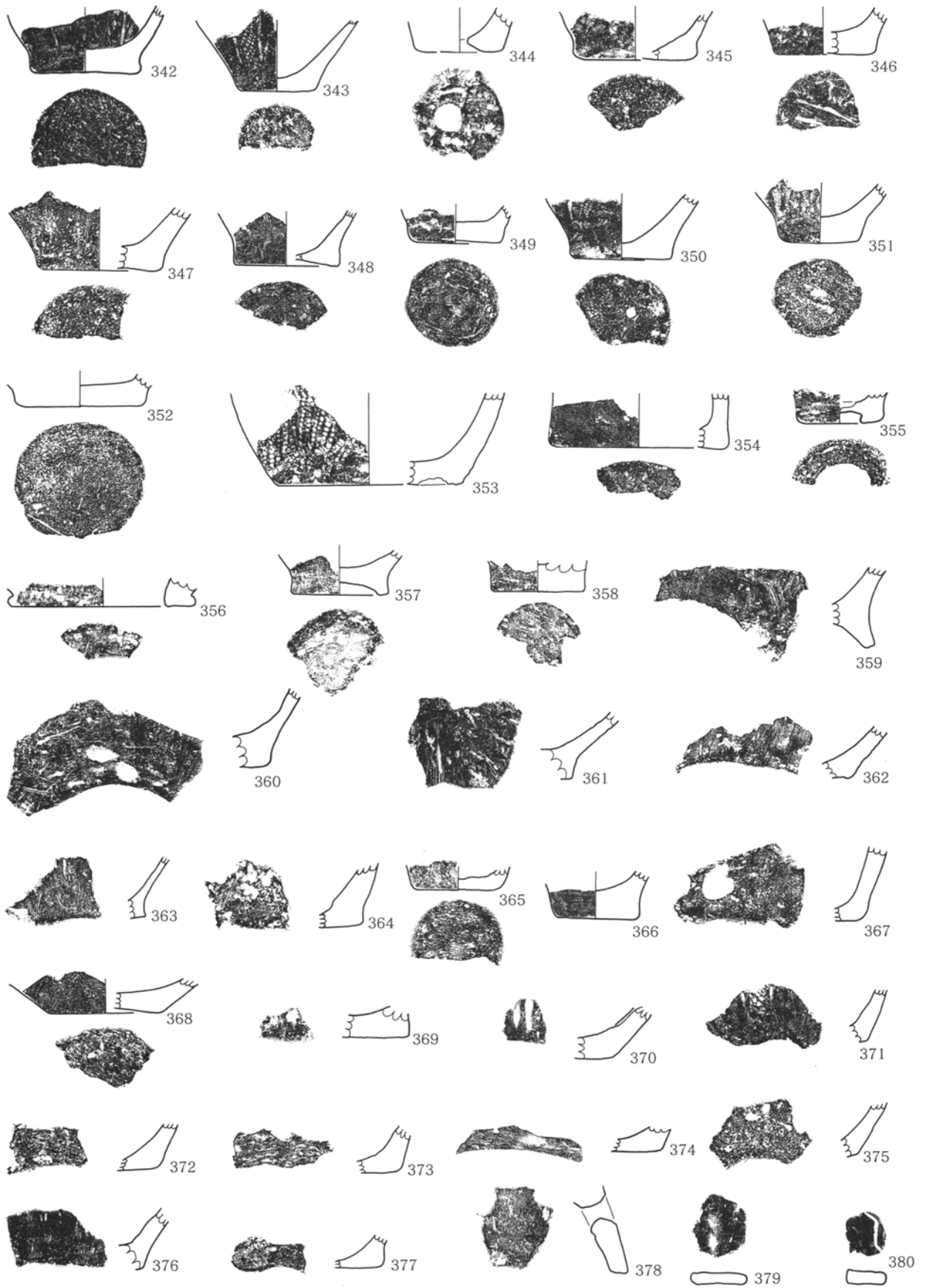


第215图 II区表土出土土器(8)



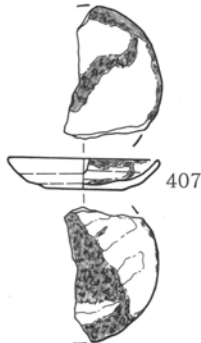
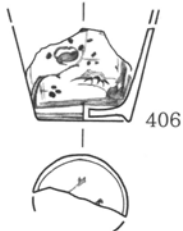
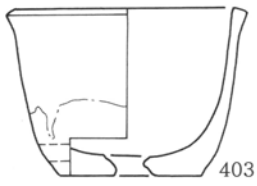
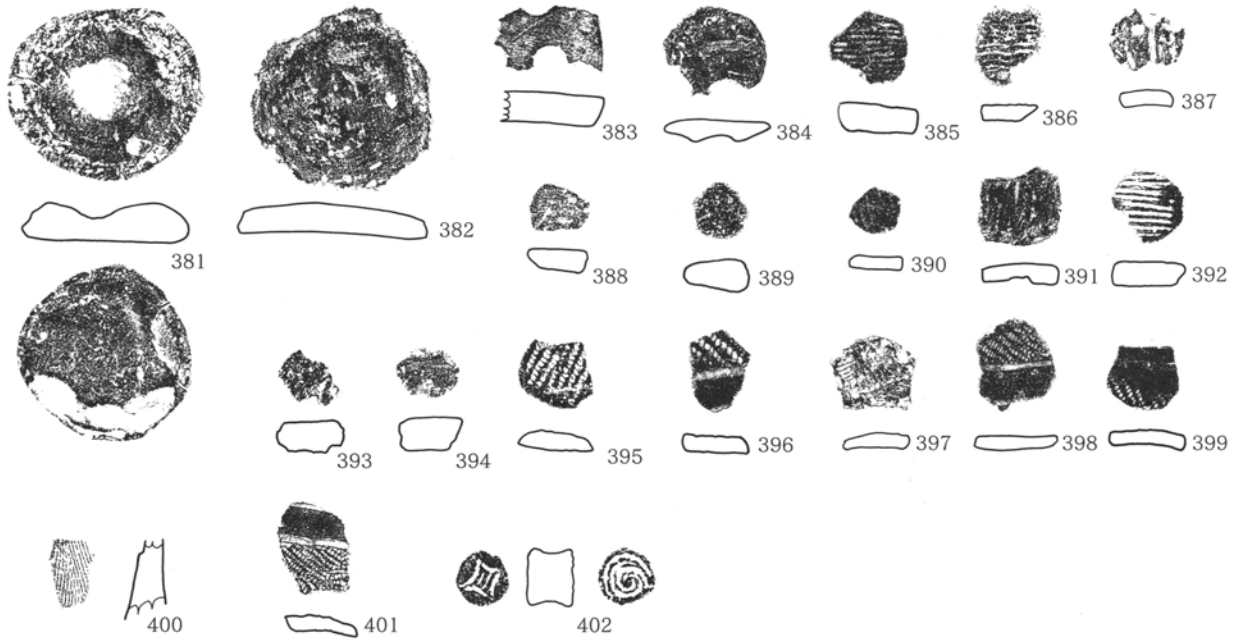
第216圖 II区表土出土土器 (9)

0 20cm



第217图 II区表土出土土器 (10)

0 20cm



第218図 II区表土出土土器 (11)

第2節 出土石器

1 石器の分類基準

剥片石器はその技術形態的特徴にもとづき分類した。石鏃、石錐、楔形石器、打製石斧は形態が多様であるため、さらに細分をおこなった。礫石器は表面の痕跡にもとづき分類した。なお、磨痕、凹痕、敲打痕のうち複数の痕跡が一個体に観察される場合は、複合石器として分類した。

石鏃 両面加工により尖頭部を作出した小型薄手のもの。有茎と無茎が存在し、無茎石鏃はその基部形状により凹基、凸基、平基に細分した。

尖頭器 石鏃同様に両面加工により尖頭部を作出するが、石鏃に比べてより大型厚手であり、加工の粗いもの。石鏃未製品の可能性があるが、本報告では尖頭器として区別した。

石錐 剥片の一端に錐部を作出するもの。錐部の両側縁に二次加工が施されるものと、一側縁に折れ面を残してもう一側縁にのみ二次加工が施されるものがある。後者はこれまで不定形石器に含めて理解されることがあったが、二次加工により作出される錐部形状を重視して石錐に含めた。錐部と基部の形態的特徴から、Ⅰ類：錐部と基部の境界が明瞭なもの、Ⅱ類：錐部と基部の境界が不明瞭なもの、Ⅲ類：錐部と基部に境界のない棒状加工のものに細分した。

楔形石器 剥片の両端に対向する剥離痕を有するもの。これまでに「剪断面」(岡村1983)と報告される特徴的な面や両極剥離痕、両端の潰れが伴う場合が多い。楔形石器は対向する剥離痕の組み合わせにより、Ⅰ類：上下端から対向する一対の剥離痕があるもの、Ⅱ類：上下端からの対向する一対の剥離痕とともに一側縁に剥離痕のあるもの、Ⅲ類：上下端、左右両側縁から対向する二対の剥離痕があるものに細分した。

スクレイパー 剥片の一端に連続する二次加工が施され、安定した角度の刃部が作出されるもの。刃部の角度や二次加工面の侵入度は個体により異なる。刃部の作出方法により、Ⅰ類：片面加工により作出されるもの、Ⅱ類：両面加工により作出されるものに細分した。

鋸歯縁石器 剥片の一端に鋸歯状の刃部を作出したものの。

打製石斧 剥片もしくは扁平な礫の二辺に連続的な二次加工を施して斧形に整形されたもの。刃部は二次加工によって作出される場合がほとんどであるが、素材剥片の縁辺を未加工のまま刃部に用いることがある。打製石斧は従来その平面形から短冊形、撥形、分銅形に細分されることが多いが、本遺跡から多数出土した打製石斧の形態差は連続的であり、さらに破損品を多く含むことから短冊形と撥形に細分することは必ずしも容易ではなかった。そのため、本報告では短冊・撥形と分銅形の二細分にとどめた。部位名称は、器体を長軸方向に三等分して上位より基部・胴部・刃部とした。刃部としてよりふさわしい形状をとどめている、より幅広である、あるいは摩滅や線状痕がより明瞭に観察されるほうの端部を刃部と判断した。